

大学図書館蔵書の貸出傾向: 経年変化の主題別比較

著者	西野 祐子
内容記述	筑波大学修士 (図書館情報学) 学位論文・平成27年3月25日授与 (34284号)
学位授与年度	2014
URL	http://hdl.handle.net/2241/00138388

大学図書館蔵書の貸出傾向:経年変化の主題別比較

筑波大学

図書館情報メディア研究科

2015 年 3 月

西野 祐子

目次

1 章 序論	1
1.1 研究背景.....	1
1.1.1 大学図書館における貸出分析	1
1.1.2 図書の貸出減少	1
1.1.3 主題による研究・学習活動における文献利用の違い.....	2
1.1.4 文献利用の差異と図書の貸出減少	3
1.2 先行研究.....	4
1.2.1 通時的観察法と共時的観察法	4
1.2.2 通時的観察法.....	5
1.2.3 共時的観察法.....	12
1.2.4 先行研究より明らかとなった点.....	15
1.3 研究目的.....	15
2 章 研究方法	16
2.1 分析対象.....	16
2.2 分析項目	17
2.3 X 大学図書館概要	18
2.4 分析対象データの記載項目.....	20
2.5 データの処理過程	20
2.6 分析対象データの特性.....	22
2.6.1 受入件数と対応する貸出回数	22
2.6.2 各館受入件数.....	23
2.6.3 受入年ごとの主題内訳	23
2.6.4 出版年の内訳.....	24
2.6.5 主題別受入図書に占めるシリーズもの・セットものの図書の割合	28
2.6.6 主題別改版の割合.....	32
3 章 分析結果と考察	36
3.1 累積貸出率推移.....	36
3.1.1 日本十進分類一次区分別比較	37
3.1.2 細区分主題別比較.....	43
3.1.3 細区分主題の推移の、同じ一次区分に所属する主題との差異の検討	52
3.1.4 累積貸出率まとめ.....	70
3.2 年度別貸出率推移	71
3.2.1 日本十進分類一次区分別比較	71

3.2.2 細区分主題別比較.....	78
3.3 受入後5年間貸出があった図書	87
3.4 連続貸出率の推移	89
3.4.1 日本十進分類一次区分別主題比較	90
3.4.2 細区分主題別比較.....	99
3.4.3 細区分主題の推移の、同じ一次区分に所属する主題との差異の検討	111
3.4.4 連続貸出率まとめ.....	143
4 章 考察	144
4.1 各指標推移	144
4.1.1 累積貸出率の推移.....	144
4.1.2 年度別貸出率推移.....	145
4.1.3 連続貸出率推移	146
4.1.4 主題ごとの類型化.....	147
4.2 各指標の複合分析	151
4.3 先行研究との比較	153
5 章 結論	156
5.1 貸出の減少	156
5.2 今後の課題	157
謝辞.....	158
参考文献一覧	159

図表目次（図）

図 1	日本十進分類一次区分別未貸出図書割合の経年変化（1982 年度受入図書） ...	8
図 2	A-B: First-circulation patterns at Notre Dame (2002) by broad subject area.	9
図 3	A-B: First-circulation patterns by broad subject area at Notre Dame and Cornell.	10
図 4	A-C: First-circulation patterns for humanities vs. STEM, years + 3 to + 10 following acquisition year.	10
図 5	A-C: Cumulative first-circulation patterns at year + 3 following acquisition year.	11
図 6	米国議会図書館分類別各貸出年度時点での累積貸出率	14
図 7	X 大学学部構成と学生数内訳比率（学部生）	19
図 8	X 大学学部構成と学生数内訳比率（大学院生）	19
図 9	各受入年度の出版年別内訳の比率	24
図 10	日本十進分類一次区分別出版年ごとの受入件数（2006 年度受入図書）	25
図 11	日本十進分類一次区分別出版年ごとの受入件数（2007 年度受入図書）	26
図 12	日本十進分類一次区分別出版年ごとの受入件数（2008 年度受入図書）	27
図 13	受入図書全体の累積貸出率推移	37
図 14	日本十進分類一次区分別累積貸出率推移（2006 年度受入図書）	38
図 15	日本十進分類一次区分別累積貸出率推移（2007 年度受入図書）	40
図 16	日本十進分類一次区分別累積貸出率推移（2008 年度受入図書）	42
図 17	細区分主題別累積貸出率推移（2006 年度受入図書）	45
図 18	細区分主題別累積貸出率推移（2007 年度受入図書）	48
図 19	細区分主題別累積貸出率推移（2008 年度受入図書）	51
図 20	累積貸出率推移人文科学分野内比較（2006 年度受入図書）	53
図 21	累積貸出率推移人文科学分野内比較（2007 年度受入図書）	55
図 22	累積貸出率推移人文科学分野内比較（2008 年度受入図書）	56
図 23	累積貸出率推移社会科学分野内比較（2006 年度受入図書）	58
図 24	累積貸出率推移社会科学分野内比較（2007 年度受入図書）	59
図 25	累積貸出率推移社会科学分野内比較（2008 年度受入図書）	60
図 26	累積貸出率推移自然科学分野内比較（2006 年度受入図書）	62
図 27	累積貸出率推移自然科学分野内比較（2007 年度受入図書）	64
図 28	累積貸出率推移自然科学分野内比較（2008 年度受入図書）	65
図 29	累積貸出率推移その他分野内比較（2006 年度受入図書）	67
図 30	累積貸出率推移その他分野内比較（2007 年度受入図書）	68
図 31	累積貸出率推移その他分野内比較（2008 年度受入図書）	69

図 32	年度別貸出率推移（2006 年度受入図書）	73
図 33	年度別貸出率推移（2006 年度受入図書、受入年度と 2011 年度を除外）	73
図 34	年度別貸出率推移（2007 年度受入図書）	75
図 35	年度別貸出率推移（2007 年度受入図書、受入年度と 2011 年度を除く）	75
図 36	年度別貸出率推移（2008 年度受入図書）	77
図 37	年度別貸出率推移（2008 年度受入図書、受入年度と 2011 年度を除く）	77
図 38	細区分主題別年度別貸出率推移（2006 年度受入図書）	80
図 39	細区分主題別年度別貸出率推移（2006 年度受入図書、受入年度と 2011 年度除 く）	80
図 40	細区分主題別年度別貸出率推移（2007 年度受入図書）	83
図 41	細区分主題別年度別貸出率推移（2007 年度受入図書、受入年度と 2011 年度除 く）	83
図 42	細区分主題別年度別貸出率推移（2008 年度受入図書）	86
図 43	細区分主題別年度別貸出率推移（2008 年度受入図書、受入年度と 2011 年度除 く）	86
図 44	連続貸出率推移（2006 年度受入図書）	92
図 45	2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書割合の推移（2006 年度受入図書）	92
図 46	連続貸出率推移（2007 年度受入図書）	95
図 47	2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書割合の推移（2007 年度受入図書）	95
図 48	連続貸出率推移（2008 年度受入図書）	98
図 49	2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書割合の推移（2008 年度受入図書）	98
図 50	連続貸出率推移（2006 年度受入図書）	102
図 51	2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合推移（2006 年度受入図書）	102
図 52	連続貸出率推移（2007 年度受入図書）	106
図 53	2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2007 年度受入図書）	106
図 54	連続貸出率推移（2008 年度受入図書）	110
図 55	2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2008 年度受入図書）	110
図 56	人文科学分野館比較連続貸出率推移（2006 年度受入図書）	113
図 57	2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2006 年度受入図書）	113

図 58	人文科学分野間比較連続貸出率推移（2007 年度受入図書）	116
図 59	2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2007 年度受入図書）	116
図 60	人文科学分野間比較連続貸出率の推移（2008 年度受入図書）	119
図 61	2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2008 年度受入図書）	119
図 62	社会科学分野間比較連続貸出率推移（2006 年度受入図書）	122
図 63	2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2006 年度受入図書）	122
図 64	社会科学分野間比較連続貸出率推移（2007 年度受入図書）	124
図 65	2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2007 年度受入図書）	124
図 66	社会科学分野間比較連続貸出率推移（2008 年度受入図書）	126
図 67	2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2008 年度受入図書）	126
図 68	自然科学分野間比較連続貸出率推移（2006 年度受入図書）	129
図 69	2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2006 年度受入図書）	129
図 70	自然科学分野間比較連続貸出率推移（2007 年度受入図書）	132
図 71	2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2007 年度受入図書）	132
図 72	自然科学分野間比較連続貸出率推移（2008 年度受入図書）	135
図 73	2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2008 年度受入図書）	135
図 74	その他分野間比較連続貸出率推移（2006 年度受入図書）	138
図 75	2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2006 年度受入図書）	138
図 76	その他分野間比較連続貸出率推移（2007 年度受入図書）	140
図 77	2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2007 年度受入図書）	140
図 78	その他分野間比較連続貸出率推移（2008 年度受入図書）	142
図 79	2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2008 年度受入図書）	142

図表目次（表）

表 1	貸出記録の主題別内訳	5
表 2	貸出記録の主題別内訳が増加した主題	5
表 3	貸出記録の主題別内訳が減少した主題	6
表 4	日本十進分類一次区分別安定率（1982 年度受入図書）	7
表 5	日本十進分類一次区分別未貸出図書割合の経年変化（1982 年度受入図書） ...	7
表 6	日本十進分類一次区分別蔵書回転率推移の回帰式および蔵書回転率の半減年数	12
表 7	X 大学の学生数推移	18
表 8	X 大学図書館の開館日数および利用統計	18
表 9	X 大学学部構成と学生数内訳（2013 年度時点）	19
表 10	抽出した蔵書記録件数	20
表 11	抽出した貸出記録件数	21
表 12	複本を合算する前の件数と合算した結果の件数	21
表 13	分析対象から除外したタイトルと分析対象データ件数	22
表 14	受入件数と対応する貸出回数	23
表 15	各館受入件数、および受入から 6 年後時点での累積貸出率と貸出回数	23
表 16	日本十進分類一次区分別各受入年度における受入タイトル数	24
表 17	日本十進分類一次区分別の出版年ごとの受入件数（2006 年度受入図書） ...	25
表 18	日本十進分類一次区分別の出版年ごとの受入件数（2007 年度受入図書） ...	26
表 19	日本十進分類一次区分別の出版年ごとの受入件数（2008 年度受入図書） ...	27
表 20	日本十進分類一次区分別のシリーズもの・セットもの受入件数	29
表 21	日本十進分類一次区分別のシリーズもの・セットもの割合	29
表 22	日本十進分類一次区分別のシリーズもの・セットもの受入件数	30
表 23	日本十進分類一次区分別のシリーズもの・セットもの	30
表 24	日本十進分類一次区分別のシリーズもの・セットもの受入件数	31
表 25	日本十進分類一次区分別のシリーズもの・セットもの	31
表 26	改版のタイトル数（2006 年度受入図書）	32
表 27	改版のタイトルが受入図書全体に占める割合（2006 年度受入図書）	33
表 28	改版のタイトル数（2007 年度受入図書）	34
表 29	改版のタイトルが受入図書全体に占める割合（2007 年度受入図書）	34
表 30	改版のタイトル数（2008 年度受入図書）	35
表 31	改版のタイトルが受入図書全体に占める割合（2008 年度受入図書）	35
表 32	受入年度別受入図書全体の累積貸出図書タイトル数推移	36
表 33	受入図書全体の累積貸出率推移	36
表 34	日本十進分類一次区分別累積貸出図書タイトル数推移（2006 年度受入図書）	

.....	37
表 35 日本十進分類一次区分別累積貸出率推移（2006 年度受入図書）	38
表 36 日本十進分類一次区分別累積貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書）	39
.....	39
表 37 日本十進分類一次区分別累積貸出率推移（2007 年度受入図書）	40
表 38 日本十進分類一次区分別累積貸出図書タイトル数推移（2008 年度受入図書）	41
.....	41
表 39 日本十進分類一次区分別累積貸出率推移（2008 年度受入図書）	42
表 40 細区分主題別累積貸出図書タイトル数推移（2006 年度受入図書）	43
表 41 細区分主題別累積貸出率推移（2006 年度受入図書）	44
表 42 細区分主題別累積貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書）	46
表 43 細区分主題別累積貸出率推移（2007 年度受入図書）	47
表 44 細区分主題別累積貸出図書タイトル数推移（2008 年度受入図書）	49
表 45 細区分主題別累積貸出率推移（2008 年度受入図書）	50
表 46 累積貸出図書タイトル数推移人文科学分野内比較（2006 年度受入図書） ...	52
表 47 累積貸出率推移人文科学分野内比較（2006 年度受入図書）	53
表 48 累積貸出図書タイトル数推移人文科学分野内比較（2007 年度受入図書） ...	54
表 49 累積貸出率推移人文科学分野内比較（2007 年度受入図書）	54
表 50 累積貸出図書タイトル数推移人文科学分野内比較（2008 年度受入図書） ...	55
表 51 累積貸出率推移人文科学分野内比較（2008 年度受入図書）	56
表 52 累積貸出図書タイトル数推移社会科学分野内比較（2006 年度受入図書） ...	58
表 53 累積貸出率推移社会科学分野内比較（2006 年度受入図書）	58
表 54 累積貸出図書タイトル数推移社会科学分野内比較（2007 年度受入図書） ...	59
表 55 累積貸出率推移社会科学分野内比較（2007 年度受入図書）	59
表 56 累積貸出図書タイトル数推移社会科学分野内比較（2008 年度受入図書） ...	60
表 57 累積貸出率推移社会科学分野内比較（2008 年度受入図書）	60
表 58 累積貸出図書タイトル数推移自然科学分野内比較（2006 年度受入図書） ...	61
表 59 累積貸出率推移自然科学分野内比較（2006 年度受入図書）	62
表 60 累積貸出図書タイトル数推移自然科学分野内比較（2007 年度受入図書） ...	63
表 61 累積貸出率推移自然科学分野内比較（2007 年度受入図書）	63
表 62 累積貸出図書タイトル数推移自然科学分野内比較（2008 年度受入図書） ...	64
表 63 累積貸出率推移自然科学分野内比較（2008 年度受入図書）	65
表 64 累積貸出図書タイトル数推移その他分野内比較（2006 年度受入図書）	67
表 65 累積貸出率推移その他分野内比較（2006 年度受入図書）	67
表 66 累積貸出図書タイトル数推移その他分野内比較（2007 年度受入図書）	68
表 67 累積貸出率推移その他分野内比較（2007 年度受入図書）	68

表 68	累積貸出図書タイトル数推移その他分野内比較（2008 年度受入図書）	69
表 69	累積貸出率推移その他分野内比較（2008 年度受入図書）	69
表 70	日本十進分類一次区分別の年度別貸出率の平均変化率	71
表 71	年度別貸出図書タイトル数推移（2006 年度受入図書）	72
表 72	年度別貸出率推移（2006 年度受入図書）	72
表 73	年度別貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書）	74
表 74	年度別貸出率推移（2007 年度受入図書）	74
表 75	年度別貸出図書タイトル数推移（2008 年度受入図書）	76
表 76	年度別貸出率推移（2008 年度受入図書）	76
表 77	細区分主題別年度別貸出図書タイトル数推移（2006 年度受入図書）	78
表 78	細区分主題別年度別貸出率推移（2006 年度受入図書）	79
表 79	細区分主題別年度別貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書）	81
表 80	細区分主題別年度別貸出率推移（2007 年度受入図書）	82
表 81	細区分主題別年度別貸出図書タイトル数推移（2008 年度受入図書）	84
表 82	細区分主題別年度別貸出率推移（2008 年度受入図書）	85
表 83	日本十進分類一次区分別 5 年連続貸出図書タイトル数	87
表 84	日本十進分類一次区分別 5 年連続貸出図書の、受入図書全体に占める割合	88
表 85	日本十進分類一次区分別 5 年連続貸出図書の、貸出された図書全体に占める割合	88
表 86	連続貸出図書タイトル数推移（2006 年度受入図書）	90
表 87	連続貸出率推移（2006 年度受入図書）	91
表 88	2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書割合の推移（2006 年度受入図書）	91
表 89	連続貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書）	93
表 90	連続貸出率推移（2007 年度受入図書）	94
表 91	2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書割合の推移（2007 年度受入図書）	94
表 92	連続貸出図書タイトル数推移（2008 年度受入図書）	96
表 93	連続貸出率推移（2008 年度受入図書）	97
表 94	2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書割合の推移（2008 年度受入図書）	97
表 95	連続貸出図書タイトル数推移（2006 年度受入図書）	99
表 96	連続貸出率推移（2006 年度受入図書）	100
表 97	2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合推移（2006 年度受入図書）	101
表 98	連続貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書）	103

表 99	連続貸出率推移（2007 年度受入図書）	104
表 100	2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2007 年度受入図書）	105
表 101	連続貸出図書タイトル数推移（2008 年度受入図書）	107
表 102	連続貸出率推移（2008 年度受入図書）	108
表 103	2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2008 年度受入図書）	109
表 104	連続貸出図書タイトル数推移（2006 年度受入図書）	111
表 105	人文科学分野間比較連続貸出率推移（2006 年度受入図書）	112
表 106	2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2006 年度受入図書）	112
表 107	人文科学分野館比較連続貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書）	114
表 108	人文科学分野間比較連続貸出率推移（2007 年度受入図書）	115
表 109	2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2007 年度受入図書）	115
表 110	人文科学分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2008 年度受入図書）	117
表 111	人文科学分野間比較連続貸出率の推移（2008 年度受入図書）	118
表 112	2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2008 年度受入図書）	118
表 113	社会科学分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2006 年度受入図書）	121
表 114	社会科学分野間比較連続貸出率推移（2006 年度受入図書）	121
表 115	2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2006 年度受入図書）	121
表 116	社会科学分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書）	123
表 117	社会科学分野間比較連続貸出率推移（2007 年度受入図書）	123
表 118	2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2007 年度受入図書）	123
表 119	社会科学分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2008 年度受入図書）	125
表 120	社会科学分野間比較連続貸出率推移（2008 年度受入図書）	125
表 121	2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2008 年度受入図書）	125
表 122	自然科学分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2006 年度受入図書）	127
表 123	自然科学分野間比較連続貸出率推移（2006 年度受入図書）	128
表 124	2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2006 年度受入図書）	128
表 125	自然科学分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書）	130

表 126	自然科学分野間比較連続貸出率推移（2007 年度受入図書）	131
表 127	2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移(2007 年度受入図書)	131
表 128	自然科学分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2008 年度受入図書）	133
表 129	自然科学分野間比較連続貸出率推移（2008 年度受入図書）	134
表 130	2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移(2008 年度受入図書)	134
表 131	その他分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2006 年度受入図書） ...	137
表 132	その他分野間比較連続貸出率推移（2006 年度受入図書）	137
表 133	2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移(2006 年度受入図書)	137
表 134	その他分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書） ...	139
表 135	その他分野間比較連続貸出率推移（2007 年度受入図書）	139
表 136	2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移(2007 年度受入図書)	139
表 137	その他分野間比較連続貸出図書タイトル数の推移（2008 年度受入図書）	141
表 138	その他分野間比較連続貸出率推移（2008 年度受入図書）	141
表 139	2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移(2008 年度受入図書)	141
表 140	各主題の傾向の類型.....	150
表 141	初貸出図書と連続貸出図書の割合（2006 年度受入図書、200 類歴史） ...	151
表 142	初貸出図書と連続貸出図書の割合（2006 年度受入図書、400 類）	152
表 143	岸田和明, 逸村裕, 高山正也（1994）と本研究における安定率の比較	153

1 章 序論

1.1 研究背景

1.1.1 大学図書館における貸出分析

大学図書館における図書の利用傾向を明らかにする試みはこれまで数多くなされてきた。これは出版物の増大、書庫の狭隘化、予算の逼迫、近年では加えて電子情報源の普及等を要因とする、利用者要求を考慮した蔵書管理の必要性を背景とする。その方法の一つとして貸出分析が用いられた。貸出分析とは図書館において蓄積される貸出手続きの記録を、計量的に集計ないしは解析することで、一定の傾向を明らかにする方法とここでは定義する。貸出手続きの機械化、電算化によってその実施例は大学図書館を中心に増大した。現在でも米国では、複数機関による蔵書の共有を見据えた研究¹⁾や、**Patron-Driven Acquisition (PDA)** と呼ばれる、利用者要求に基づく蔵書構築の一手法の導入を見据えた研究が行われている。例えば後者の **PDA** については、当初は自館にない図書で、他館への相互貸借の依頼が多い図書を購入するという方法だったため、**PDA** で受入された図書の貸出状況の解明や、図書館員が選書・購入した図書との貸出状況の比較のために貸出記録の分析が行われた。そして電子書籍が普及すると、電子書籍の書誌に対する閲覧記録（アクセスログ）が一定数に達した電子書籍を購入する方法がとられ、図書館員の選書した図書や同じ図書の紙媒体の書籍と電子書籍との利用を比較する研究などが行われている。²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾

1.1.2 図書の貸出減少

これまでの貸出分析による研究によって、図書の貸出の傾向に一定の法則があることが明らかになってきた。受入年または出版年からの年数の経過に伴う図書の貸出減少もその一つである。図書に限らず、受入年や出版年から年数が経過した資料は利用が減少する現象は「**obsolescence**」あるいは「**aging**」、「**decay**」と呼ばれる。計量書誌学の応用先として蔵書管理が想定されていたことと、数量的な方法による蔵書管理が目指されていた背景から、学術雑誌の掲載論文の引用分析を中心に数多くの研究がなされてきた。その多くは数学的なモデルの導出やその既出のモデルの当てはまり具合の検証、あるいは各図書館での実証という形で行われた。そしてそこから導き出された結果を蔵書管理に適用する試みがなされてきたのである⁶⁾。

しかし実際には、個々の大学図書館によって蔵書構成や利用者の属性が異なるために、数式を導出したあとの解釈、すなわち蔵書管理上の判断に適用する基準を導くことは困難となっている。むしろこうした使い方は誤用であって、それよりは、導かれた数式やグラフが、蔵書群のもつ特性のどの部分がこういった形で現れたものであるかを解釈し、他の蔵書群との差異を比較検討するために利用されるべきであると考えられるのである。

1.1.3 主題による研究・学習活動における文献利用の違い

そもそも、図書の主題にかかわらず同じ現象がみられるとは考えにくい。まず学問分野によって図書の位置づけすなわち図書という媒体で共有を図っているもの、さらには研究や学習に利用する文献の媒体および量、研究やその成果の発表までにかかる時間等が異なることはこれまでも言及されている。例えば山本（2012）⁷⁾は、人文科学分野の研究においては、研究対象となる文学作品や文書などの原典またはその代替資料（影印本や翻刻など）が利用され、また学術図書は研究成果の公表方法として、他の分野よりも重要視されていることを述べている。そして自然科学では一般に新規性および独創性が求められることから、学術雑誌によって研究成果が公表され、また利用もされている。学術図書はこうして公表された研究成果を体系的にまとめたものが多くを占める。しかし研究成果は次々に生産されるため、図書、雑誌といわず、新しく刊行されたものが利用され、遡及的な文献は他分野に比べて重要視されないことを述べている。また箕輪（1983）⁸⁾も、自然科学分野は、研究成果の公表媒体（一次メディア）としての図書は、人文・社会科学分野よりも少なく、日本においてはその差が顕著にみられるとしている。しかし、緑川（2005）⁹⁾は箕輪の言及を参照したうえで、研究成果を再編集した教科書や専門事典等の二次メディアにおいては、自然科学分野でも出版は多数行われていると考えられると述べている。一方社会科学分野では著者の思想が反映されている場合が多く、一次メディアの要素をもつ。そのため、どの大学でも「教科書」として利用されているようなスタンダードな教科書は自然科学分野に多いが人文・社会科学分野では比較的少ないということも述べている。

主題別のさらに細かい違いについては次のようなことがわかっている。例えば上田（1987）¹⁰⁾が、数学では雑誌の引用が約 59%で、図書の引用が約 24%であるのに対し、物理や化学では、雑誌の引用がそれぞれ 80.8%、84.9%で、図書の引用はそれぞれ 5.9%、7.2%となっていることを明らかにしている。また、研究者への質問紙調査では、常に利用する文献として、数学分野では 78%の回答者が、欧文図書を利用すると答えている。伊藤（2004）¹¹⁾も調査にあたって各分野の学術情報流通の特徴、および研究者の情報利用すなわち利用する媒体について、国内外の先行調査をまとめている。その結果、以下の分野については特徴的な傾向があると述べている。まず心理学は自然科学分野に似た情報利用行動が見られる。また文化人類学は人文科学分野と類似する。言語学や統計学についても同じ十進分類の一次区分の他の主題とは異なる特徴がみられる。一方で伊藤は、社会科学は分野により差異が大きく、参照した文部省の報告書にあるような一般的傾向、すなわちデータ類の利用がみられるとは限らないとした。特に教育学では、人文科学分野でみられる古典・作品・記録類の利用が顕著であったとしている。伊藤は加えて、社会科学については、主題別の差異というより研究手法別の差異が利用資料の差異に影響を与えると述べている。

このように、少なくとも自然科学と人文科学で、図書となるものの性質が異なっていると考えられる。自然科学では、合理的・効率的に標準化された知識を万人に伝達するための「教科書」が多数を占める。一方で人文科学分野では加えて原典やその代替資料などの

「研究対象」や、「研究成果」も図書として多数出版されていると考えられる。

いずれの先行研究においても、調査それ自体が、あるいはそれらが参照した先行調査自体が 1970 年代から 1980 年代と古いものとなっており、現在もこの傾向がみられるかどうかは明らかではない。さらに対象が研究者であり、研究に加えて学習活動目的の大学図書館の利用が想定される学生の利用については明らかになっていない。

1.1.4 文献利用の差異と図書の貸出減少

このように、主題によって図書の役割が「研究対象」なのか、「研究成果」なのか、「教科書（標準化された知識群）」なのかが異なる、あるいはそれぞれが蔵書に占める割合が異なると考えられる。また研究成果の執筆、公表にかかる時間なども異なっていると考えられる。こうした違いが貸出にも少なからず影響を与えると考えられる。例えば、同一分野の学部であればどの大学、どの年度においても利用が推奨される、緑川の研究でいうところの「教科書」は貸出が多くなる一方、「研究対象」は研究者がその研究をしている間だけの利用となり、必然的に貸出が少なくなってしまう。するとこの「教科書」が多数存在する自然科学分野と、「研究対象」となるであろう、古文書の影印本や翻刻本、文学作品集が存在する人文科学分野では少なくとも違いがみられると考えられる。

しかし上記で述べたような言及は、もとにしている調査等が 2000 年よりも古いもののため、現在でもこのような傾向がみられるかは明らかではない。特に近年の情報通信技術の発展による電子情報源の普及の影響により変化していることが考えられる。例えば、人文科学分野では近年、古文書や著作権の切れた古典文学等、研究対象となるものが電子化され、画像やテキストファイルがオンライン上で公開されている。以前はそうしたものは影印本や翻刻本、すなわち図書という形で流通し、貸出を含め利用されてきていたが、今後はそうした利用が減少していくことも考えられるのである。安易に人文科学分野においては図書が重要で、自然科学分野では図書は利用されないといった論理で大学図書館の蔵書およびその利用をとらえ続けることは今後難しくなると考えられる。

1.2 先行研究

1.2.1 通時的観察法と共時的観察法

貸出分析や引用分析を行う方法には大別して通時的観察法（diachronous）と共時的観察法（synchronous）の二つがある。

すなわち、通時的観察法はある文献集合を固定して、その利用の変化を経年的に調べる方法であり、共時的観察法は、ある一時点において利用された図書や文献の、刊行年または受入年からの経過年数の分布を調べる方法である¹²⁾¹³⁾¹⁴⁾。図書の貸出減少に関する研究の多くは共時的観察法を用いて、出版年の分布を受入年からの経年変化とみなしてきた。その理由として岸田（1994）¹⁵⁾は以下の三つを挙げている。まず調査に要する時間や調査時点で蓄積されているデータ量の不足である。二つ目は、通時的観察法では環境の変化を受けやすい点である。最後は、通時的観察法でも共時的観察法でも、貸出の減少率は同じになることが事例報告によって経験的に明らかであるためである。

しかし共時的観察法は、あくまで出版年や受入年における図書の分布を、経年変化として「推定」しているにすぎない。つまり実際にそのような値の推移を辿ってきたとは限らないのである。岸田（1994）¹⁵⁾は共時的観察法と通時的観察法で観測された貸出の減少率が等しくなる場合は、理論的には、特殊な条件が満たされたときに限るとしている。そして実際に二つの大学図書館の貸出記録を、両方の方法で観測して比較した結果、通時的観察法によって観測された貸出の減少率は共時的観察法によって観測されたそれよりも小さいことが明らかとなった。加えて当てはまる数学的モデルについても、通時的観察法による場合は指数回帰モデル、共時的観察法による場合は線形回帰モデルと異なったことから、共時的観察法で通時的観察法を代用することはできないとしている。また、集計する出版年または受入年によって母数となる図書数が異なっている場合、特に現在に近い年ほど図書数が多い場合は、見かけ上貸出減少が生じ、貸出減少を過大に見積もってしまう可能性があることも指摘している。この図書数の増加を加味した補正方法として、各年について貸出回数を蔵書冊数で除した蔵書回転率を算出することが提案されてきたがこれにも問題があるとも述べている。なぜなら貸出回数別のタイトル数すなわち貸出頻度分布が、貸出回数零回すなわち未貸出図書に集中しているため、それらを含んだまま平均値をとったものである蔵書回転率は、やはり貸出減少を過大に見積もる可能性があるためである。

以上のことから、貸出の減少傾向の解明においては通時的観察法を用いた分析が必要であると考えられる。

1.2.2 通時的観察法

通時的観察法を用いて主題間比較を行った主な研究は、以下4つが挙げられる。

(1) Kent, Allen; Cohen, Jacob; Montgomery, K. Leon; Williams, James G.; Bulick, Stephen; Flynn, Roger R; Sabor, William N.; Mansfield, Una. (1979) ¹⁶⁾

Pittsburgh 大学 Hillman 図書館（中央館）の、1969 年に受入された図書（冊数）の、1975 年までの 6 年間の貸出記録を分析している。その結果、1969 年に受入された図書の 39.80%（14,697 冊）は一度も貸出されていないこと、一度以上貸出された 22,172 冊のうち 51.63%は常連による貸出であること、72.76%（16,132 冊）は受入年かそれに近い年に借りられていること、貸出される確率は、当初未貸出図書だった期間が長ければ長いほど低くなること等が明らかにされた。そして貸出がない図書の維持管理にかかる費用や、貸出 1 回にかかる費用を算出し、7 年以上貸出のない図書は除架することを提案している。

主題間比較については、1969 年から 1974 年までの貸出記録と、1975 年から 1976 年の貸出記録の主題別内訳を比較し、割合とその順位変動を調査するにとどまる。その結果を示したものが表 1 から表 3 である。

表 1 貸出記録の主題別内訳 ¹

内訳（割合）	米国議会図書館分類最上位区分（LCC）
25.0%以上	P（言語と文学）
15.0-24.0%	H（社会科学）
6.0-14.0%	B（哲学）、D（世界史）、L（教育学）
3.6-5.9%	米国史 E、J（政治学）、Q（自然科学）
3.5-1.0%	C（考古学）、米国史 F、G（地理学）、N（芸術）、R（医学）、T（技術）
1.0%以下	A（一般教養）、K（法学）、M（音楽）、S（農学）、U および V（軍事）、Z（図書館情報学）

表 2 貸出記録の主題別内訳が増加した主題 ²

米国議会図書館分類	1969－1974 年	1975－1976 年	差分 ³
H（社会科学）	17.0%	18.7%	+1.7%
L（教育学）	6.5%	8.1%	+1.6%
B（哲学）	9.8%	10.7%	+0.9%
R（医学）	1.6%	2.1%	+0.5%

¹ 参考文献 16) p. 45 Table28 より引用

² 参考文献 16) p. 46 Table29 より引用

³ 原文では 0.5%単位に丸められている

表 3 貸出記録の主題別内訳が減少した主題⁴

米国議会図書館分類	1969－1974 年	1975－1976 年	差分 ⁵
P（言語と文学）	27.9%	26.2%	－1.7%
D（世界史）	9.9%	8.6%	－1.3%
T（技術）	2.2%	1.3%	－0.9%
Q（自然科学）	4.4%	3.7%	－0.7%
米国史 F	3.2%	2.7%	－0.5%
C（考古学）	2.3%	1.8%	－0.5%

以上の結果からは、どの年度でも貸出における主題の比率と順位は変わらないことは解明されたものの、各主題の貸出頻度や貸出率の経年変化はわからない。なぜなら、全貸出冊数が異なれば、内訳の比率は同じでも主題ごとの貸出冊数は異なるためである。また、貸出回数による内訳の比率を用いた場合、貸出率、すなわち受入図書全体に占める貸出された図書のタイトル数の変遷を見ることができないから、貸出されるタイトル数が減少したのか、タイトル数は減らないが、一冊あたりの利用が減少したのかを判別できない。

（2）岸田和明，逸村裕，高山正也（1994）¹⁵⁾

貸出記録の分析手法の整理とともに、複数の大学図書館の、複数年次分の貸出記録の分析と比較を試みたものである。その方法として、通時的観察法によって観測したオブソレッセンスと共時的観察法において観測したオブソレッセンスの比較、貸出頻度分布の経年変化、および主題別の未貸出図書の割合の経年変化比較が行われている。このうちのオブソレッセンスの比較については前節 1.2.1 に記述したためここでは省略する。主題別の未貸出図書の割合の経年変化比較は、逆の見方をすると累積貸出率の経年変化比較になる。累積貸出率とは、ある受入年度の図書群において、ある年度までに一度以上貸出された図서가、図書群に占める割合を指す。この研究ではさらに比較のための指標として、分析対象の貸出記録における最後の年度までの未貸出図書の割合と受入直後の未貸出図書の割合との比率を「安定率」と定義し、主題ごとに算出している。分析対象はA大学図書館の 1982 年度受入図書、およびB大学図書館の 1985 年度受入図書のうち指定図書を除いた貸出可能な日本語図書である。A大学図書館の 1982 年度受入図書に対する 1983 年度から 1988 年度までの貸出記録、およびB大学図書館の 1985 年度受入図書に対する 1986 年度から 1989 年度までの貸出記録を用いて安定率を算出した。A大学図書館の 1982 年度受入図書について安定率を算出した結果が表 4、安定率の算出に用いられた、未貸出図書の割合の推移を示したものが表 5 および図 1 である⁶。

⁴ 参考文献 16) p. 46 Table29 より引用

⁵ 原文では 0.5%単位に丸められている

⁶ 実数の公開はされておらず、算出された割合のみ公開されている。

表 4 から 500 類技術工学、800 類言語は安定率が小さいことから、受入図書全体に占める未貸出図書の割合が急速に減少することが明らかとなった。その一方で 000 類総記、200 類歴史、900 類文学は安定率が大きいことから、緩やかに減少することが明らかとなった。しかしこの研究では年度による影響は言及がみられるものの、通時的観察法の本来の考察対象である、受入からの経過年数の影響についての言及がなされていない。

表 4 日本十進分類一次区分別安定率（1982 年度受入図書）⁷

NDC 一次区分	83 年度未貸出	88 年度未貸出	対 83 年度比(安定率)
000 類総記	75.7%	50.8%	67.1%
100 類哲学	60.2%	28.6%	47.5%
200 類歴史	73.7%	38.5%	52.2%
300 類社会	53.2%	22.6%	42.4%
400 類自然	41.7%	17.9%	42.9%
500 類技術	51.5%	18.0%	34.9%
600 類産業	64.6%	31.1%	48.1%
700 類芸術	65.8%	30.0%	45.6%
800 類言語	57.1%	21.6%	37.8%
900 類文学	64.1%	34.9%	54.4%

表 5 日本十進分類一次区分別未貸出図書割合の経年変化（1982 年度受入図書）⁸

	1983 年度	1984 年度	1985 年度	1986 年度	1987 年度	1988 年度
000 類	75.7%	67.8%	60.5%	55.6%	54.0%	50.8%
100 類	60.2%	47.5%	41.0%	36.2%	31.8%	28.6%
200 類	73.7%	58.1%	50.3%	45.5%	41.7%	38.5%
300 類	53.2%	40.8%	34.1%	29.2%	25.4%	22.6%
400 類	41.7%	30.3%	25.2%	22.7%	19.6%	17.9%
500 類	51.5%	40.1%	29.6%	25.1%	21.6%	18.0%
600 類	64.6%	46.4%	40.7%	37.1%	33.6%	31.1%
700 類	65.8%	54.8%	46.8%	41.6%	37.0%	30.0%
800 類	57.1%	43.8%	32.8%	28.9%	26.1%	21.6%
900 類	64.1%	52.1%	45.2%	39.6%	36.9%	34.9%
受入全体	58.6%	46.2%	39.0%	34.3%	30.9%	27.8%

⁷ 参考文献 15) p. 117 表 9 より引用

⁸ 参考文献 15) p. 112 表 7 より引用

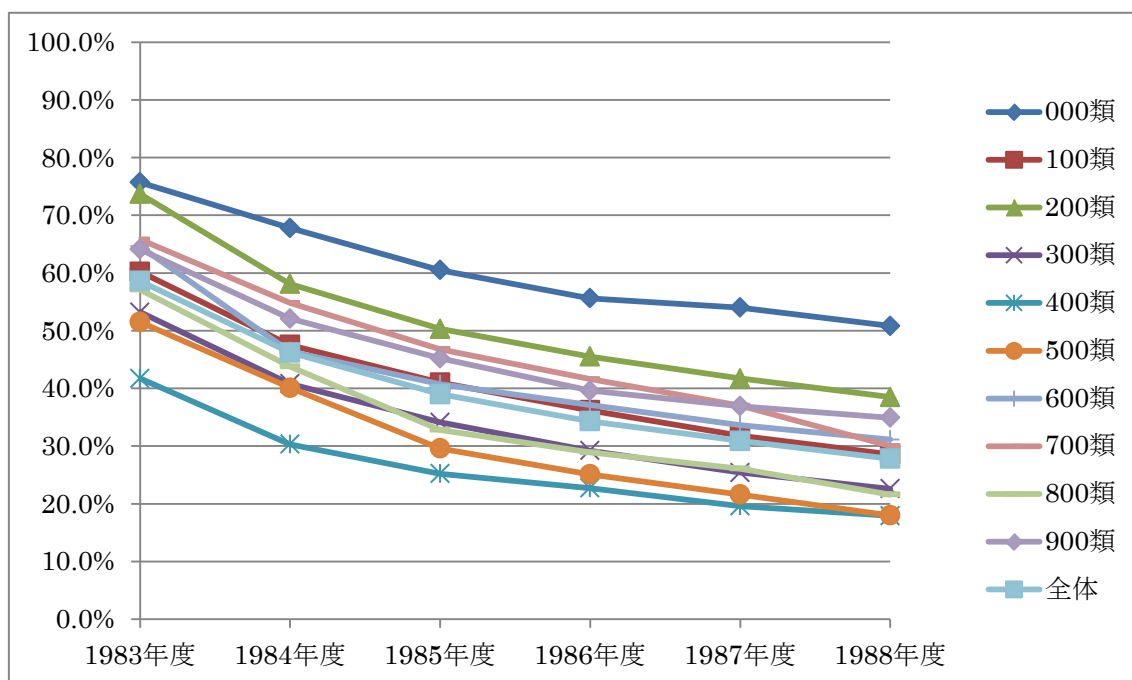


図 1 日本十進分類一次区分別未貸出図書割合の経年変化（1982 年度受入図書）⁹

（3）The Collection Development Executive Committee（2010）¹⁷

蔵書評価や資料の潜在需要の発掘等を目的に、米国 Cornell 大学で行われた調査である。この調査の中で、2001 年度に受入された図書の、その後 8 年間の年度別貸出率の推移を、米国議会図書館一次区分別に集計したものがある。この中には貴重資料は含まれていないが、参考図書や指定図書、特別貸出も含まれている。その結果、E（米国史 E）と R（医学）で貸出が多く、医学は受入直後に受入図書のほとんどが貸出されることが言及されている。

しかし、言及の多くは、受入冊数との関係が中心であり、このほかに主題別の貸出傾向の推移について言及はない。数値は公開されておらず、多くの主題が、受入から 8 年後に、年別貸出率は半減していることがグラフから読み取れるのみである。そもそも、ここで算出されている年度別貸出率は、後述する共時的観察法において分析される年度別貸出率同様、前年度の影響を受けた数字ではないため、通時的な変化を観察したものとはならない。また 2 年ずつの集計になっている点、主題によって母数の数が、18,000 冊から 2 冊まで幅がある点に問題があると考えられる。

⁹ 参考文献 15) p. 112 表 7 より筆者作成 (p. 114 図 9 に同じ)

(4) Ladwig, J. Parker; Miller, Thurston D.. (2013) ¹⁸⁾

この研究は、人文科学分野の図書は古いものでも需要があるが、自然科学分野では雑誌ばかりが利用されるため図書の需要はなく、あっても新しいものに集中するという暗黙の経験則が妥当であるかどうかを検証する目的で行われた。研究方法は、米国Notre Dame大学の分館含む大学図書館の1999年度から2002年度に受入された蔵書について、受入後10年間の累積貸出率の経年変化、およびその年間変化量である初貸出率の経年変化 (first-circulation pattern) を7つの学問領域 (哲学、歴史、芸術、言語と文学、社会科学と商学、STEM分野 ¹⁰⁾、その他) 別に集計、比較した。学問領域は米国議会図書館分類によって判定する。さらにCornell大学からデータの提供を受け、同様の集計を行い、結果を比較している。

以下原文より図を引用する (数値データの公開はない)

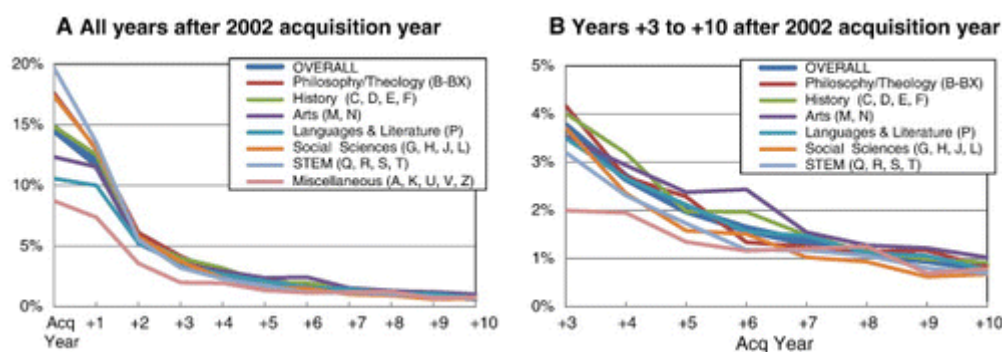


図 2 A-B: First-circulation patterns at Notre Dame (2002) by broad subject area. ¹¹⁾

図 2 の A は初貸出率、すなわち受入図書全体に占める、ある受入からの経過年度時点において、初めて貸出がなされたタイトルの割合の推移を主題別に示したものである。図 2 の B は受入後 3 年以上経過した時点での初貸出率の推移を拡大した図である。受入から 7 年を経過したところではほとんどの主題の曲線が重なっている。しかし、受入年度に貸出されるタイトルが、「言語と文学」や「芸術」は 15%を下回り、「STEM 分野」や「社会科学」、「哲学」は 20%を越えている。しかし受入から 5 年後は、「芸術」、「哲学」、「言語と文学」、「歴史」の順でその割合が高くなっており、「社会科学」と「STEM 分野」がそこからわずかに下方の値を推移している。

¹⁰⁾ S=Science, T=Technology, E=Engeneering, M=Medicine の各分野をまとめたもの。STM 分野とも。日本十進分類では 400 類と 500 類が対応する。

¹¹⁾ 参考文献 18) p. 81 Fig.4 より引用

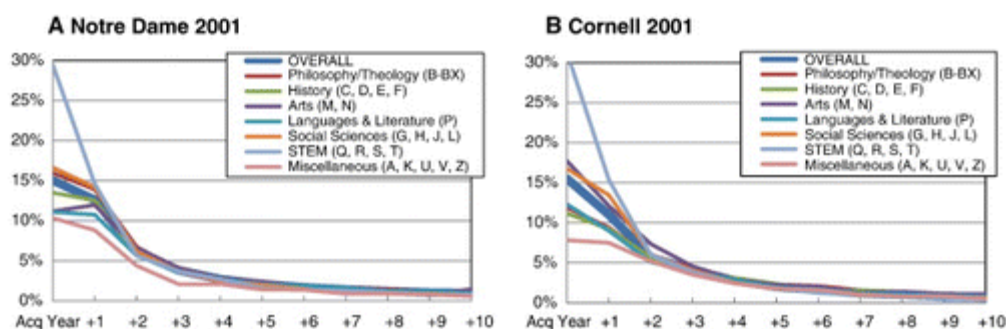


図 3 A-B: First-circulation patterns by broad subject area at Notre Dame and Cornell. ¹²

図 3 は初貸出率を Notre Dame 大学と Cornell 大学で比較したものである。Cornell 大学のものについてはデータの提供をうけて集計している。割合も推移も、特に受入から 3 年以上の部分は両校の図書館とも同じような傾向をたどっている。両校とも「STEM 分野」は、受入年度に初めて貸出されるタイトルの割合が最も高くなっている。このことから、「STEM 分野」については、受入直後にほとんどのタイトルが貸出され、翌年度以降に初めて貸出をされる可能性のある図書自体が少なくなっているため、翌年度以降の初貸出率は大きく減少しているものと考えられる。

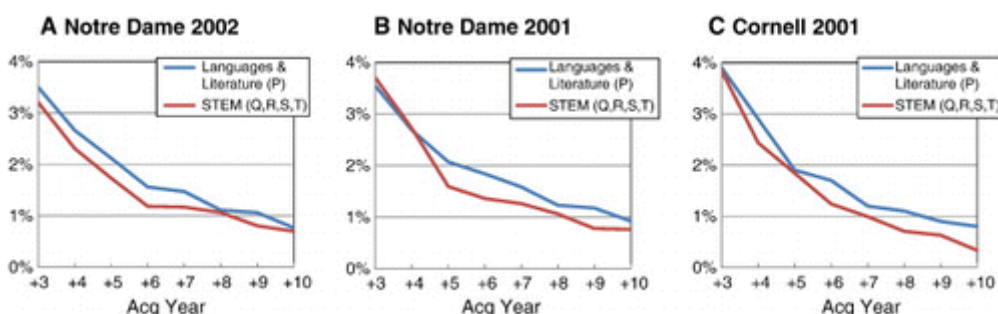


図 4 A-C: First-circulation patterns for humanities vs. STEM, years +3 to +10 following acquisition year. ¹³

図 4 は受入から 3 年後以降の「言語と文学」と「STEM 分野別」の初貸出率を、受入年度別と、図書館別に比較したものである。2002 年度受入図書を分析した図 4 の A と、2001 年度受入図書を分析した図 4 の B を比較すると、「言語と文学」と「STEM 分野」はいずれも減少している点、「STEM 分野」のほうが初貸出率の傾きが大きく、かつ値も「言語と文学」より下回っている点は一致している。また Notre Dame 大学の分析結果である図 4 の B と、同じ年度の Cornell 大学の分析結果である図 4 の C を比較しても上記の傾向は両校とも共通している。

¹² 参考文献 18) p. 82 Fig.5 より引用

¹³ 参考文献 18) p. 83 Fig.7 より引用

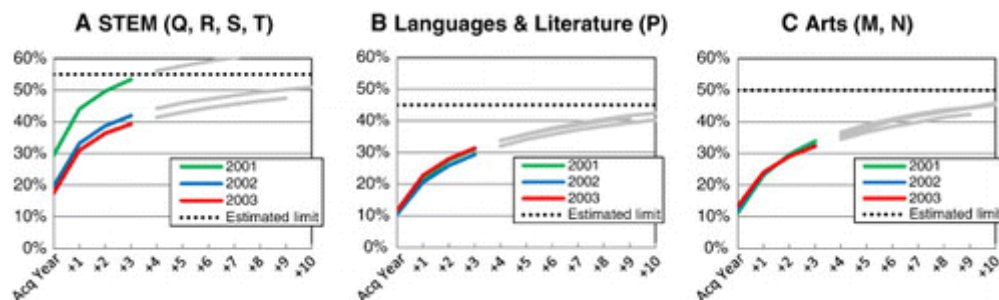


図 5 A-C: Cumulative first-circulation patterns at year +3 following acquisition year.¹⁴

最後の図 5 は「STEM 分野」、「言語と文学」、「芸術」の三主題についてのみ、累積貸出率を受入年度別に比較したものである。各図に示されている点線部分が、推定される累積貸出率の最高値（閾値）となっており、主題によって異なっている。これは「STEM 分野」は上記 3 つの主題のうち最も高く推定されていることから、受入図書全体に占める貸出される図書の割合が高くなりやすいという意味である。なお Ladwig は、この図について、受入から 3 年経過した時点での累積貸出率の推移から、この累積貸出率の最高値は予測できることを示すものであると説明している。また Ladwig は、累積貸出率の最高値に到達するまでに要する期間も主題によって異なる。例えば、芸術では推定される累積貸出率の最高地点の 70% の値に達するのに 7 年以上かかる見込みであるが、生物学は最高地点の 50% の値に 3 年以内で到達するが、その後急速に初貸出率が減少するとも述べている。

以上の結果を踏まえてこの研究では、次の点を明らかにした。まずどの主題でも、そして主題全体でも初貸出率は減少することである。それから、人文科学分野でも、自然科学（STEM）分野でも、受入から 3 年後以降の曲線の形は見た目では同じであり、この傾向は別の受入年度の図書群でも、比較対象とした別の大学図書館の蔵書群からも導かれた。このことから、自然科学分野でも人文・社会科学分野でも受入から 3 年後以降の初貸出率の経年変化は同じであると結論づけている。

主題による累積貸出率の最高値の差異や、その到達にかかる期間の差異についての言及は、未貸出図書の割合はある値に収束すると考えられるという形で岸田も言及していることから、私は、これらがいわば主題による差異を生み出している原因と考える。初貸出率の推移は同じになったが、貸出の傾向そのものまで主題によらず同じであるとはいえないと考えられるのである。また人文科学分野を言語と文学だけで代表して説明している点や参考図書など本来貸出ができないものも母数に含めている点などに留意する必要がある。

¹⁴ 参考文献 18) p. 82 Fig.6 より引用

1.2.3 共時的観察法

共時的観察法による貸出減少の主題間比較はこれまでに多数行われているが、これらの研究は標本調査、あるいは一部の主題のみの分析となっている。加えて近年の情報通信技術の進展による貸出傾向の変化を考慮する必要があると考えられるため、本研究では近年行われた主な調査のみを以下に示す。

(1) 星野雅英, 渡邊真由美, 風巻利夫, 原香寿子 (2008) ¹⁹⁾

東京大学の総合図書館の蔵書の 2007 年度一年間の貸出記録を分析した研究である。東京大学は各学部単位で図書室をもつ大学であるため、この調査では、そうした環境のなかでなお、中央図書館の役割をもつ総合図書館を利用する利用者の属性や、利用される資料の特徴を明らかにすることを目的に行われた。この調査の中で、日本十進分類一次区分別に、貸出回数を各出版年別の蔵書冊数で除したもの（蔵書回転率）の推移を回帰式で算出し、蔵書回転率が当初の半分の値になるまでに要する年数（半減期）を推定し、比較を行っている。その結果を示したものが表 6 である。

表 6 日本十進分類一次区分別蔵書回転率推移の回帰式および蔵書回転率の半減年数 ¹⁵

一次区分	回帰式と半減年数	
000 類	指数	6.6 年（対数回帰では 5.6 年）
100 類	対数	10.8 年
200 類	対数	12.6 年
300 類	対数	5.6 年
400 類	指数	9.7 年（対数回帰では 7.8 年）
500 類	対数	7.1 年
600 類	対数	7.4 年
700 類	指数	10.1 年（対数回帰では 8.1 年）
800 類	線形	14.1 年（対数回帰では 9.9 年）
900 類	線形	16.2 年（対数回帰では 13.0 年）

この研究から主題によって半減期が異なることが明らかにされた。半減期が長い 200 類や 900 類などの主題は、貸出の減少が少ないと考えられる。また、一致する回帰式が主題によって異なるということは、初めに急激に減少をするのか、漸次的に減少するのかという違いもみられることが推察される。指数回帰の 000 類、400 類、700 類は急激な減少と考えられ、線形である 800 類、900 類は一定の割合で漸次的に減少していると考えられる。

同様の調査を、愛媛大学で山田 (2003) ²⁰⁾¹⁶⁾が、奈良大学で松井 (2006) ²¹⁾が行ってい

¹⁵ 参考文献 19) p. 8 表 3-3 より引用（近似曲線の式および決定係数は省略）

る。いずれの調査でも、一年間における貸出記録の分析の結果、主題によって、蔵書回転率の推移が異なっていることが明らかにされた。また米国ではOCLCによるOhioLINK加盟館が共有する全蔵書を対象に行った大規模調査（2008-2014）¹⁾²²⁾²³⁾²⁴⁾¹⁷が行われた。この調査では、各受入年度の図書群の1年間の貸出回数と、その前年度の受入図書群の一年間の貸出回数の比である「obsolescence rate」の推移を主題別（芸術、経済と商学、歴史と地理、言語と文学、自然科学と技術工学、社会科学、医学、法学、その他の9区分）に比較している。その結果は次の通りとなった。経営学と自然科学が最も減少率は大きくなった。医学は受入から3年経過時点で「obsolescence rate」は急激に減少し、経営学と自然科学と推移を同じくした。法学は受入から2年までは最も「obsolescence rate」の減少率が小さくなっているが、その後急激に減少した。山田の調査では、自然科学より社会科学のほうが蔵書回転率は急激に減少した。しかしOCLCのこの調査結果から、同じ社会科学分野であれば全て自然科学分野よりも貸出の減少が急激であるとは限らないことになる。

（2）Cheung, Sheila; Chung, Terry. (2011) ²⁵⁾

未貸出図書の割合はいずれ0になるかどうか、15年間の分析はこれまでの研究のような短い期間の貸出記録を対象としたものより有用であるかどうかの二点を明らかにする目的で行われた研究である。研究方法は、香港の嶺南大学の図書館における1995年から2009年までの受入図書についての、1995年度から2010年度までの累積貸出回数の記録を用いて平均貸出回数と2010年度時点での累積貸出率を算出している。この研究では、調査年である2010年から受入年まで遡った年数を「age」すなわち受入からの経過年数とみなしている。その分析項目の一つに、米国議会図書館分類別の2010年度時点での累積貸出率を用いた主題別比較があり、その結果、累積貸出率の推移は主題によって異なることが明らかにされた。例えば主題「英語」は累積貸出率が上昇し続けるが、多くの主題は受入から7年後に貸出率が最も高くなる。また主題「英語」の図書の半分は受入後3年以内に貸出されていることが言及されている。

共時的観察法において受入図書に着目した研究は少ないため意義がある視点であると考えられる。しかし、2010年度時点での各受入図書の累積貸出回数のみの集計であるため、受入からの経過年数が長い図書は必然的に累積貸出率が高くなりやすい。一方で経年変化ではないため、必ずしも受入から経過年数が高くなるにつれて貸出率が上昇するとは限らない。そのため累積貸出回数を用いているにもかかわらず、その年度の受入図書の特徴や受入件数の影響を受けた貸出率の増減がある。すなわちこの研究でとられた集計方法では貸出減少を観察することはできないと考えられる。

¹⁶ 蔵書回転率が1を下回り始めるまでにかかった年数を主題ごとに比較。3類（7年）と4類（10年）のみ言及がある。

¹⁷ ACRLのFourteenth National Conferenceにおける中間報告（2009）²³⁾では、obsolescence rateが、歴史学では4.5%、計算機科学では13.1%であったとのみ言及がある。

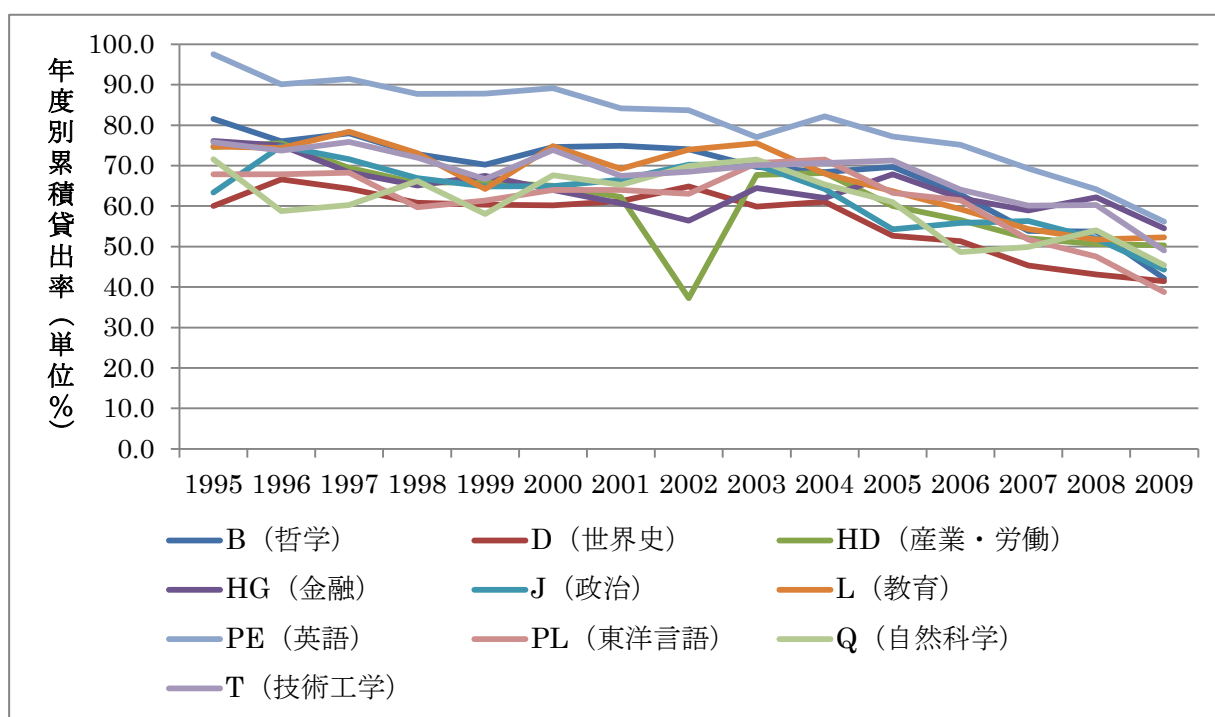


図 6 米国議会図書館分類別各貸出年度時点での累積貸出率¹⁸

(3) 本田咲美 (2012)²⁷⁾

この調査では、電子情報源の普及を背景に、これまで多くの研究から図書館と利用者の間での需要の認識の差異が報告されていることを踏まえて、分析対象館の利用状況を把握し、電子情報源の提供を含めた蔵書構築を再考する目的で行われたものである。この調査では貸出回数のみが集計された。学生の所属別に、貸出の主題別（日本十進分類一次区分）内訳、学部生のみ進級による主題別（日本十進分類一次区分）貸出回数の経年変化が調査された。加えて主題別（日本十進分類二次区分まで）蔵書回転率、出版年の遡及による累積貸出率、調査期間内の貸出を充足する蔵書冊数が全蔵書に占める割合が調査された。学部生のための調査は通時的観察法を用いているが、その他の分析は共時的観察法である。

主題別貸出回数推移および蔵書回転率については、400 類、500 類においては古い図書の貸出が少なく、100 類や 200 類、600 類の中の 610 綱（農業）、650 綱（林業）、700 類のうち芸術分野で古い図書の利用が多くみられることが言及されている。ただし、600 類についてはそもそもの蔵書数が少ないことも言及されており、これによる影響とも考えられる。主題別の分析が細かく行われている点で有用な研究となっている。

しかし、ここでは利用者と貸出回数に焦点が当てられているため、延べ貸出回数のみが集計されている。また利用された蔵書という視点ではないので、タイトル数の集計はなされておらず、未貸出図書の考察も不足している。

¹⁸ 参考文献 25) p. 429 Table VI より筆者作成（受入図書冊数 500 以上の主題のみ抽出）

1.2.4 先行研究より明らかとなった点

以上の先行研究から、少なくとも、以下の点については明らかとなっている。

(1) 通時的観察法による分析結果

- ・ 500 類、800 類は安定率が低く、000 類、200 類、900 類は安定率が高い
- ・ STEM 分野と人文・社会科学分野では **first-circulation pattern**（累積貸出率の変化率）はほとんど同じになる
- ・ 累積貸出率の推定される最高到達点（閾値）は主題によって異なる

(2) 共時的観察法による分析結果

- ・ 300 類社会科学よりも 400 類自然科学の方が蔵書回転率は緩やかに減少する
- ・ 歴史学より計算機科学の方が **obsolescence rate**（年間貸出回数の前年度比）の減少率が大きい
- ・ 法学は **obsolescence rate** の減少が緩やかである
- ・ 経済学や経営学、医学は **obsolescence rate** の減少が急激である

この結果をまとめると主題により貸出の減少に差があることが考えられる。すなわち、歴史や文学は貸出の減少が小さく緩やかであると考えられるが、言語学は加えて貸出率も高い。一方で自然科学、経済学、計算機科学では貸出が急激に減少する。しかし、それは主題による閾値の差が生み出している可能性もある。

1.3 研究目的

しかし、ここで言及した貸出の減少は、あくまで共時的観察法による「推察」の域を出ない。というのも、この言及を確かめるような、受入された図書群のその後の貸出状況を追跡調査した研究はこれまで十分に行われてこなかったためである。その少ない追跡調査である通時的観察法による研究では、貸出が一度以上なされるものの推移は明らかにされているが、この累積貸出率の推移は、貸出の減少を観察したものではない。なぜなら、累積貸出率の推移から明らかとなることは、すなわち、貸出される図書数や貸出回数が経年的に減少しているかどうかについては明らかにすることができないのである。さらに一つの指標では主題による差がないとしても、別の指標では差がみられることは十分に考え得るが、指標を複数用いた多面的な分析検討も十分にされてこなかった。さまざまな要因によって生じる貸出という複雑な現象を理解するには、複数の指標を比較、総合して類型化する必要があると考えられる。そして数字の高低をあたかも善悪のような解釈をするのではなく、その数値が示す貸出の特質を理解することに努めるべきである。

そこで本研究では、通時的観察法により主題別の貸出の経年変化を複数の指標を用いて比較することで、主題によって貸出傾向、特に貸出減少の推移に違いがみられるかどうかを明らかにすることを目的とする。そして、大学図書館における図書の貸出の特質を理解する一助としたい。

2 章 研究方法

2.1 分析対象

本研究では、大学図書館の蔵書を分析対象とする。

X 大学図書館の貸出できる日本語図書のうち、受入年度が 2006 年度から 2008 年度の図書を分析対象とする。そのため、貸出のできない参考図書や貴重図書等、それから図書ではない視聴覚資料は分析から除外している。また、発掘調査資料などの特殊なコレクションも分析から除外した。また本研究では分館も含めた受入図書を分析対象とするが、法科大学院にある分館や、大学の附属研究施設に所蔵されている図書は、一部の該当する利用者のみに利用が制限されていたため分析から除外している。外国語図書は、先行調査²⁷⁾によって貸出されないことが明らかとなっているため分析から除外することとした。

図書に対する貸出の有無および各図書の貸出回数は、その図書に対する、受入後の正規学生の 6 年分の貸出記録を用いて算出する。これは、大学図書館の貸出利用のほとんどは学生が占めていること、正規学生は、学生数推移が安定しており、学生数の変動による貸出の変動の影響が小さくなると考えられることを理由とする。

すなわち、次の 3 種の蔵書、および貸出記録の組を分析する。

1. 2006 年度受入図書：2006 年度-2011 年度分貸出記録
2. 2007 年度受入図書：2007 年度-2012 年度分貸出記録
3. 2008 年度受入図書：2008 年度-2013 年度分貸出記録

図書はタイトルを単位として集計し、一つの著作が複数冊で構成されるセットものについては別々の図書として集計するが、複本は何冊受入されていても一冊の図書とみなして集計している。同一タイトルが異なる受入年度に受入された場合は、本研究では各受入年度の図書群を別々に分析することから、それぞれ別の図書として集計することとし、除外や合算は行わなかった。すなわち中央館と分館で同一タイトルの図書をもっている場合、複本とみなして一つにまとめ、中央館と分館の蔵書をまとめて集計し、貸出回数も合算する。これは、これまでの研究にみられるような、図書一冊単位による貸出率の算定では、複本が多く入っている主題に有利に働くこと、またはたまたま未貸出図書となった複本を誤って未貸出図書となったタイトルとして数えることを防ぐためである。

2.2 分析項目

分析に用いる指標は以下の通りである。

(1) 累積貸出率

累積貸出率は、先行研究でも使われている指標で、貸出が 1 回以上ある図書のタイトル数が経年的にどのような増加をたどるのかを示す。まず受入年後初めての貸出となった貸出年度を各タイトルについて算出し、その貸出年度ごとに図書のタイトル数を集計する。これを累積的に加算した結果の、各主題の受入図書タイトル数に占める割合をとったものが累積貸出率になる。算出式は次の通りとなる。

累積貸出率 = 各年度までに 1 回以上貸出された図書タイトル数 / 受入図書タイトル数

これを用いてまず先行研究の結果との比較を行い、先行研究で示された傾向が分析対象とするデータからも導けるものであるかを検証する。しかし、累積貸出率は貸出の減少を観測できない。そこで本研究では貸出された図書のタイトル数の推移として年度別貸出率を算出したのち、連続貸出図書タイトル数を算出して両者を比較することとした。

(2) 年度別貸出率

年度別貸出率は、受入された図書に占める、各経過年において一年度間に貸出された図書の割合を示している。算出式は以下の通りである。

年度別貸出率 = 各年度間で貸出された図書タイトル数 / 受入図書タイトル数

ただしこの指標の推移が減少しているだけでは、貸出された図書のタイトル数が減少しているかどうかはわからない。途中の年度で再び貸出されるようになった図書や、新たに貸出されるようになった図書も混ざっているためである。先行研究でもこの指標は用いられているが、この点についての考慮が不足していた。そのため、本研究では加えて、受入の翌年度に貸出された図書のうち、翌々年度以降の各年度まで毎年 1 回以上貸出があった図書（以下連続貸出図書）のタイトル数の推移を算出した。そして受入年度の翌年度に貸出された図書に占める連続貸出図書の割合（以下連続貸出率）の推移を主題別に比較した。

主題は日本十進分類¹⁹の一次区分を基準に集計した。二次区分別に受入図書タイトル数を集計し、その平均を上回った主題で、かつ分類記号の綱の末尾が 00 にならない主題である 010 綱図書館情報学、140 綱心理学、310 綱政治学、320 綱法学、330 綱経済学、360 綱社会学、370 綱教育学、380 綱民俗学、410 綱数学、420 綱物理学、430 綱化学、460 綱生物学、490 綱医学薬学、510 綱土木工学、520 綱建築学、720 綱絵画、780 綱体育と、007 目情報科学については、この区分（以下細区分）での集計も行った。ただし 080 綱全集（当該図書館では文庫および新書）はこの分類自体に主題をもたないと考えたため除外した。

¹⁹ 日本十進分類法. 新訂 9 版, 日本図書館協会, 1995 参照

2.3 X 大学図書館概要

分析対象とするX大学の学生数²⁰、および大学図書館の蔵書統計²¹と利用統計²²をそれぞれ表 7 および表 8 に示す。大学は学部生と院生合わせた学生数が 15,000 人規模の総合大学である。表 7 から、2010 年度以降大学院生が減少していることがわかる。

大学図書館は蔵書数約 250 万冊の規模で、中央館と専門に特化した 4 つの分館で構成される。中央館による集中管理方式および原則全面開架方式を採用している。

2011 年および 2012 年は震災の影響で開館日数が短い。また耐震改修工事が次の通り行われていた。中央館は 2008 年度-2010 年度、分館 B は 2013 年度-2014 年度、分館 C は 2009 年度-2011 年度の期間で行われ、各年 1 か月の図書移動に伴う閉館に加え、古い受入年の図書(分析対象の受入図書群は非該当)については利用制限があった。分館 A は 2011 年度-2012 年度で、この館のみ震災で施設が損傷したため、期間内は全面閉館となっていた。

表 7 X 大学の学生数推移

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
学生全体	18,237	17,194	16,593	17,194	17,564	17,423	17,109	16,896
学部生	10,497	10,455	10,465	10,465	10,330	10,202	10,050	10,104
院生	7,740	6,739	6,128	6,729	7,234	7,221	7,059	6,792

表 8 X 大学図書館の開館日数および利用統計

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
開館日数	324	324	319	323	313	331	323	334
延入館者数(千人)	1,090	1,079	1,030	1,016	997	824	936	913
延貸出利用者数	158,469	158,647	146,048	145,908	136,646	119,615	124,642	117,758
貸出冊数	421,471 ²³	409,122	415,604	398,517	362,665	327,580	324,780	309,458
蔵書冊数	2,457	2,475	1,492	2,522	2,548	2,571	2,584	2,596
除却冊数	?	11,321	8,766	0	3,445	5,832	15,913	20,126

²⁰ 非正規学生を含む

²¹ 蔵書冊数、除却冊数はともに洋書を含む

²² 入館者数、貸出利用者数は教職員や大学外の所属の利用も含む延べ数である

²³ 業務貸出含む

学部構成は2013年度時点では表9の通りとなっている。2007年度に学部の大規模な改組があったほか、大学院については随時改組が行われている。理工学系の学生数が人文学系の学生数より多く、理工学系の学生（生物・環境、理工、医学、情報）は学生全体の半数以上となっている。

表 9 X 大学学部構成と学生数内訳（2013 年度時点）

学部名	学部生数	内訳比率	研究科名	大学院生数	内訳比率
人文	1,095	11.2%	教員養成課程	216	3.3%
社会	814	8.3%	人文	613	9.2%
教育	527	5.4%	経営	548	8.3%
生物・環境	1,184	12.1%	理工	865	13.0%
理工	2,383	24.4%	情報工学	1,194	18.0%
情報	1,127	11.5%	生物・環境	1,049	15.8%
医学	1,141	11.7%	人間科学	1,932	29.1%
体育	1,038	10.6%	情報学	185	2.8%
芸術	469	4.8%	学際領域	30	0.5%
合計	9,778	100.0%	合計	6,632	100.0%

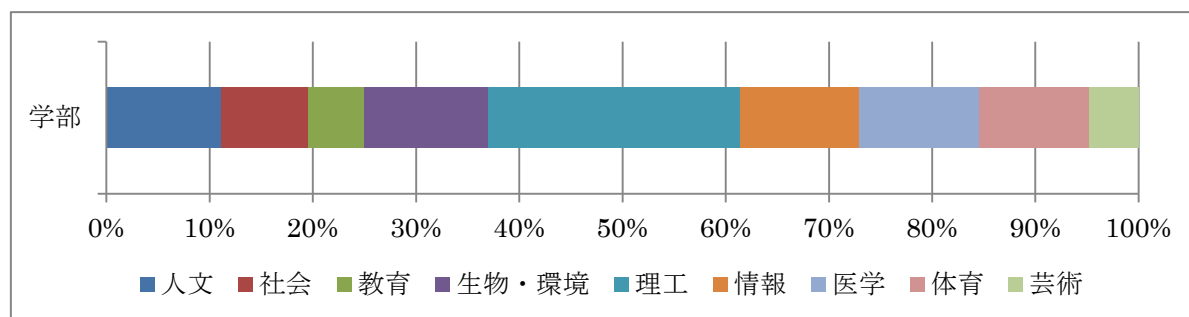


図 7 X 大学学部構成と学生数内訳比率（学部生）

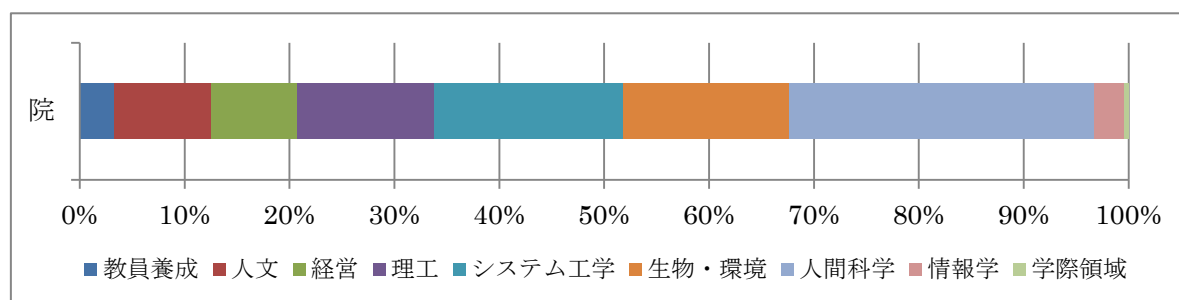


図 8 X 大学学部構成と学生数内訳比率（大学院生）

2.4 分析対象データの記載項目

貸出記録には次のデータが記載されている。

身分（正規学生か教員か、など）、図書名、資料 ID、請求記号、図書の所蔵館、貸出種別、貸出区分、貸出年月日、返却年月日、返却予定日

加えて貸出年月日から貸出年度を算出し、分析に用いる。

蔵書目録は NACSIS-CAT の形式に準じたデータが記載されている。そのうち以下のもののみ抽出する。利用したものは 2010 年度時点での蔵書記録となっている。（）内は NACSIS-CAT における各項目の識別コードであり、抽出の際はこのコードを使用した。

書誌 ID、資料 ID、受入日、受入区分、貸出区分、図書名（TR）、出版年（YEAR）、本文言語（TXTL）、形態（PHYS）、請求記号（CLN）、所在、予算、価格（PRICE）、巻次（VOL）、版表示（ED）、親書誌名（PTBL）、NACSIS-ID（NCID）、出版者（PUB）

加えて受入日から受入年度を、請求記号から日本十進分類を、親書誌名から親書誌 ID と親書誌区分を抽出する。形態からページ数と大きさを分離する。巻次部分に価格がある場合は巻次部分から価格を抽出する。

2.5 データの処理過程

（1）蔵書記録

テキストファイル（タイトル数 1,706,132 件分、冊数 2,127,675 件分）を Ruby プログラムで読み取り、必要なデータのみ CSV 形式で出力し、ローマ数字部分を含めた総ページ数の算出や機械的には除外できなかった分析対象外データの削除などの成型を行う。

蔵書記録として抽出する条件は以下の通りである

- 請求記号が付与されている（付与されていないものは製本雑誌のため除外）
- 受入年度が 2006 年度から 2008 年度である
- 貸出区分が一般図書または指定図書である
- 利用制限つき分館のみ所蔵する図書や独自分類の図書に該当しないもの

表 10 抽出した蔵書記録件数

	2006 年度受入図書	2007 年度受入図書	2008 年度受入図書
受入全体	43,200	36,589	20,282
製本雑誌	986	1,001	675
貸出区分非該当	21,299	15,058	8,406
d に該当するもの	1,741	492	290
除外計	24,026	16,551	9,371
抽出記録件数	19,174	19,038	18,910

貸出記録は、個人情報が予め除外されたものの提供を受け、研究倫理審査委員会の承認を受けたうえで処理を行った。まず分析対象外とする貸出手続きの記録を削除する。分析対象外として削除した貸出手続きの記録は以下の条件に該当したものである。

a. 貸出種別が次のもの（種別非該当）

修理貸出、調査貸出、特別貸出、特例貸出、相互貸借貸出、長期貸出

b. 貸出区分が次以外のもの（区分非該当）

一般図書、指定図書、基本図書、日米（寄贈図書）

※展覧会目録、国際交流図書、埋蔵文化財発掘調査報告書は貸出できるものであるが、特殊コレクションであり、利用より収集に重点が置かれているものであると考えられるため、本研究の趣旨にそぐわないと判断し分析から除外している。

c. 正規学生以外の貸出のもの（例：教職員、科目等履修生、学外者）

全貸出記録と重複該当を除いて除外されたデータ数（除外記録数）は表 11 の通りである。

表 11 抽出した貸出記録件数

	全貸出記録	種別非該当	区分非該当	正規学生以外	除外記録数	分析対象
2006 年度	379,578	16,546	11,196	61,273	89,583	289,995
2007 年度	393,975	21,684	10,605	70,725	76,693	317,282
2008 年度	399,098	31,225	6,796	79,037	87,432	311,666
2009 年度	384,358	12,531	9,308	60,559	72,279	312,079
2010 年度	351,867	12,333	7,789	58,882	73,754	278,113
2011 年度	333,621	33,550	8,423	193,454	198,042	135,579
2012 年度	318,731	306,797	312,909	256,370	66,489	252,242
2013 年度	306,287	294,321	300,781	248,703	61,623	244,664
全体	2,867,515	728,987	667,807	1,029,003	725,895	2,141,620

各資料 ID の貸出手続き記録の出現回数（以下貸出回数）の合計を年度ごとに算出し、資料 ID、貸出年度、貸出回数の組を出力する。そして資料 ID をキーとして上記と蔵書記録を Ruby プログラムで合体する。さらに書誌 ID で複本を一つにまとめる。このとき、貸出回数は合算し、予算コードおよび資料 ID は区切り記号を含めて結合する。これを 2006 年度受入、2007 年度受入、と受入年度別に 3 種類作成する。

表 12 複本を合算する前の件数と合算した結果の件数

	2006 年度受入図書	2007 年度受入図書	2008 年度受入図書
複本を含む	19,174	19,038	18,910
複本を合算した結果	17,743	17,515	17,662

このデータセットをさらに SPSS に取り込み、以下の処理を行う。本来一度でも指定図書となっている場合は、貸出規則が一般図書と異なるため分析から除外する必要がある。しかし今回は、指定図書となった図書の記録が調査対象年分蓄積されておらず、各受入年度時点での指定図書が区別できない。特に指定図書かつ禁帯出となった図書については貸出記録がないため、貸出期間からの機械的な推定も不可能である。以上の事から今回は指定図書を含めて分析を行った。この点は今後の課題としたい。

- ・第一言語が日本語であるもの
- ・ページ数が 49 ページ以上²⁴、またはセットもののためページ数が欠損しているもののみ抽出を行う。この手続きにより除外された件数は以下の表 13 の通りである。() 内は日本語かつ 48 ページ以下のタイトル数である。

表 13 分析対象から除外したタイトルと分析対象データ件数

	2006 年度受入図書	2007 年度受入図書	2008 年度受入図書
日本語以外	4,959	5,817	5,473
48 ページ以下	257 (150)	265 (186)	194 (108)
残り (分析対象データ数)	12,634	11,512	12,052

次いで、必要な変数を作成、算出する。

- ・十進分類の一次区分から三次区分までの抽出
- ・貸出年度ごとの貸出の有無を示すフラグ、およびこれを文字列として結合したもの
- ・貸出の有無を示すフラグが初めて記述される年度を算出する (初貸出年)

以上の手続きの結果作成されたデータセットは次の通りの特性をもつデータとなった。

2.6 分析対象データの特性

2.6.1 受入件数と対応する貸出回数

以下の表は、2006 年度から 2008 年度までに受入された図書のタイトル件数 (以下受入件数)、受入年含めその後の 6 年間の貸出回数、その貸出回数を貸出されたタイトル件数 (以下貸出件数) で除したもの (以下平均貸出回数)、受入から 6 年後の累積貸出率を表 14 に示している。括弧内の数値は貸出回数を受入件数で割ったものである。

貸出回数の増減は受入件数の減少が影響していると考えられる。しかし平均貸出回数をみると、2007 年度と 2008 年度はほとんど変化がない。累積貸出率も同様である。2006 年度受入図書のみやや値が離れているが、これは累積貸出率も同様となっている。そのため、2006 年度のみ他の受入年度の傾向とは異なった傾向が出てしまうことが考えられる。

²⁴ UNESCO. “Recommendation concerning the International Standardization of Statistics Relating to Book Production and Periodicals”. 1964,
http://portal.unesco.org/en/ev.php-URL_ID=13068&URL_DO=DO_TOPIC&URL_SECTION=201.html
 (参照日：2015/1/15)

表 14 受入件数と対応する貸出回数

	受入件数	受入後 6 年間の貸出回数	貸出回数／貸出件数 (貸出回数／受入件数)	受入後 6 年間の累積貸出率
2006 年度受入図書	12,634	85,508	9.26 (6.85)	68.9%
2007 年度受入図書	11,512	77,784	9.77 (6.76)	69.2%
2008 年度受入図書	12,081	81,465	9.76 (6.74)	69.1%

2.6.2 各館受入件数

分析対象となる蔵書群は以下に示す中央館と 4 つの分館に所蔵されている。表 15 は各館各受入年度の蔵書について、受入 6 年後の貸出率と貸出回数、および受入タイトル件数を示したものである。分館 A は 700 類、分館 B は 490 綱（医学）、分館 C は 320 綱（法学）、330 綱（経済学・経営学）、340 綱（財政学）、分館 D は 000 類を中心に所蔵する専門図書館である。分館 B のみ貸出率が減少している。また分館 C は受入タイトル件数が少ないため、他の分館と同列に比較することは難しい。

表 15 各館受入件数、および受入から 6 年後時点での累積貸出率と貸出回数

	2006 年度受入図書			2007 年度受入図書			2008 年度受入図書		
	貸出率	回数	受入	貸出率	回数	受入	貸出率	回数	受入
中央館	74.9%	53,876	7,559	72.0%	50,010	6,948	70.6%	53,211	7,219
分館 A	78.3%	9,337	1,730	60.7%	7,223	1,844	69.9%	8,468	1,970
分館 B	77.5%	11,680	1,482	64.8%	11,318	1,665	60.9%	8,288	1,405
分館 C	55.1%	2,640	673	61.9%	1,421	344	62.5%	1,698	403
分館 D	61.9%	9,100	2,105	72.6%	7,676	1,295	67.2%	9,846	1,532

2.6.3 受入年ごとの主題内訳

表 16 に見る通り、最も受入件数が多い主題は 300 類の社会科学であるが、2007 年度は 1 タイトルの差で 400 類の受入が最も多くなっている。100 類哲学宗教は年度を追うにつれて減少している。400 類と 900 類は全体の受入件数の推移とは逆で、2007 年度が受入件数の最高値となっている。残りの主題は、全体の受入件数と同じ 2007 年が受入件数の最低値となっている。600 類、800 類、900 類は受入件数が 1,000 タイトルに満たない。800 類、900 類については、二次区分で言語ないしは地域による分類が行われることもあり、日本語図書が少ないことが考えられるが、同様の分類がなされる 200 類において受入件数が 1,000 タイトルを越えていることから、800 類、900 類は当初より受入が少ないと考えられる。

表 16 日本十進分類一次区分別各受入年度における受入タイトル数

	2006 年度受入図書	2007 年度受入図書	2008 年度受入図書
000 類	995	879	1,117
100 類	933	651	540
200 類	1,060	1,007	1,265
300 類	3,341	2,820	2,977
400 類	2,669	2,821	2,415
500 類	1,079	997	1,087
600 類	492	408	491
700 類	1,112	981	1,250
800 類	357	340	343
900 類	596	608	567
受入全体	12,634	11,512	12,052

2.6.4 出版年の内訳

全体を俯瞰すると、新しい受入年度ほど 1999 年以前の出版の図書の割合が増加している。受入年度が新しいほど 2000 年以降の出版年の種類が増えるため、本来であれば相対的に 1999 年以前の図書の割合は減少するはずであるが、今回の分析では異なる結果となった。

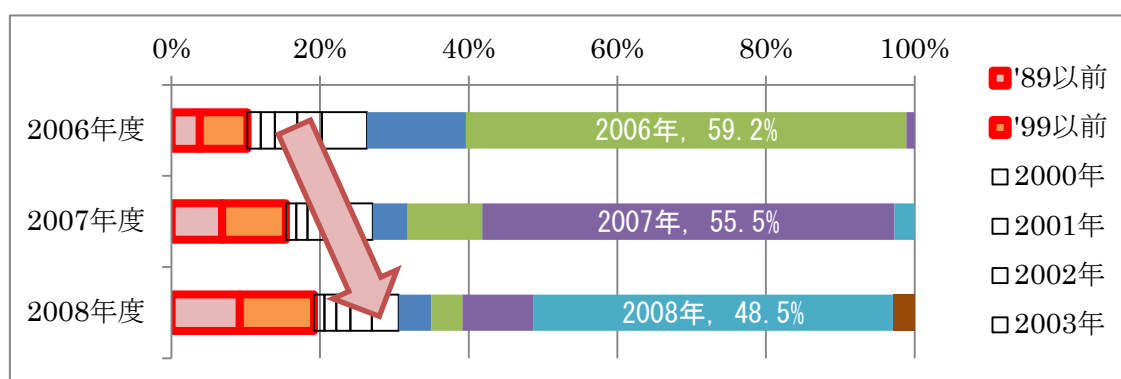


図 9 各受入年度の出版年別内訳の比率

主題別では、概して 200 類は出版年の古い図書の受入もなされる一方、300 類や 600 類は新しい図書の受入が中心であった。200 類の古い図書は、『太田市史』（1987）などの地方史資料、『御堂関白記全註釈』（1985）といった史料集が挙げられる。しかし多くの主題は受入年度によって傾向が異なっている。今回の分析では、出版年が複数年にまたがっている、完結しない場合は、最初の出版年を採用しているため、古くから出版が続くセットものは出版年が全体的に古くなる。そのため、ここでは、出版年の新しいものばかりで構成された図書群ではないことを確認するにとどめる。

以下出版年別の受入図書タイトル件数を主題ごとに集計したものが表 17 である。特定のシリーズもの、セットものの受入が 10 冊以上あるものについてはその影響が考えられるため、これについて併せて記述する。

2006 年度の 000 類については、日本図書館協会の全国図書館大会予稿集 50 年分（2014 年現在も受入継続）の受入があったため、1989 年以前の図書の割合が高い。

表 17 日本十進分類一次区分別の出版年ごとの受入件数（2006 年度受入図書）

分類	000	100	200	300	400	500	600	700	800	900	全体
‘89 以前	110	30	82	62	74	27	23	39	8	24	479
‘99 以前	36	111	116	165	122	39	27	49	37	101	803
2000 年	15	39	16	45	32	16	10	16	5	29	223
2001 年	10	23	21	65	60	12	8	20	8	9	236
2002 年	26	40	31	94	78	30	8	43	9	25	384
2003 年	21	49	22	104	91	26	22	39	12	35	421
2004 年	53	86	64	211	163	49	23	58	34	32	773
2005 年	137	122	138	456	377	116	62	120	55	92	1,675
2006 年	539	424	565	2,082	1,652	751	301	722	187	244	7,467
2007 年	47	9	5	43	13	12	5	2	2	4	142
合計	994	933	1,060	3,327	2,662	1,078	489	1,108	357	595	12,603

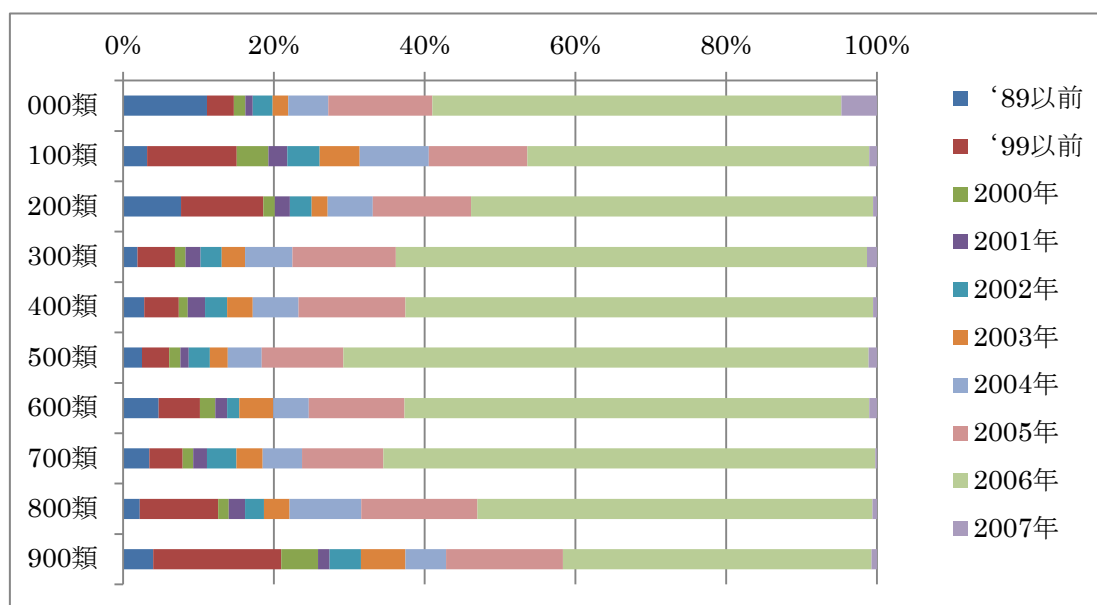


図 10 日本十進分類一次区分別出版年ごとの受入件数（2006 年度受入図書）

2007 年度受入図書の 200 類については、中央公論社が出版する『世界の歴史』30 巻（1997-1999）や、大空社が出版する『盲人たちの自叙伝』20 巻（1997）の受入により、1999 以前の受入の数が多い。900 類で 2008 年出版の図書の割合が高いのは、ゆまに書房の『昭和初期世界名作翻訳全集』（101 巻-200 巻）100 冊の受入によると考えられる。

表 18 日本十進分類一次区分別の出版年ごとの受入件数（2007 年度受入図書）

分類	000	100	200	300	400	500	600	700	800	900	全体
‘89 以前	63	54	130	86	201	78	10	113	9	34	778
‘99 以前	67	35	138	197	312	81	7	78	30	46	991
2000 年	21	6	13	23	52	9	11	10	6	14	165
2001 年	16	8	10	29	61	10	20	7	9	2	172
2002 年	17	15	13	53	86	19	11	22	7	4	247
2003 年	18	18	21	63	108	20	14	17	9	10	298
2004 年	33	19	50	119	152	18	10	18	19	21	459
2005 年	36	28	48	145	145	50	19	29	19	21	540
2006 年	71	77	102	289	274	85	51	85	44	64	1,142
2007 年	496	374	465	1,754	1,355	589	244	583	183	327	6,370
2008 年	39	16	16	51	69	38	7	8	5	63	312
合計	877	650	1,006	2,809	2,815	997	404	970	340	606	11,474

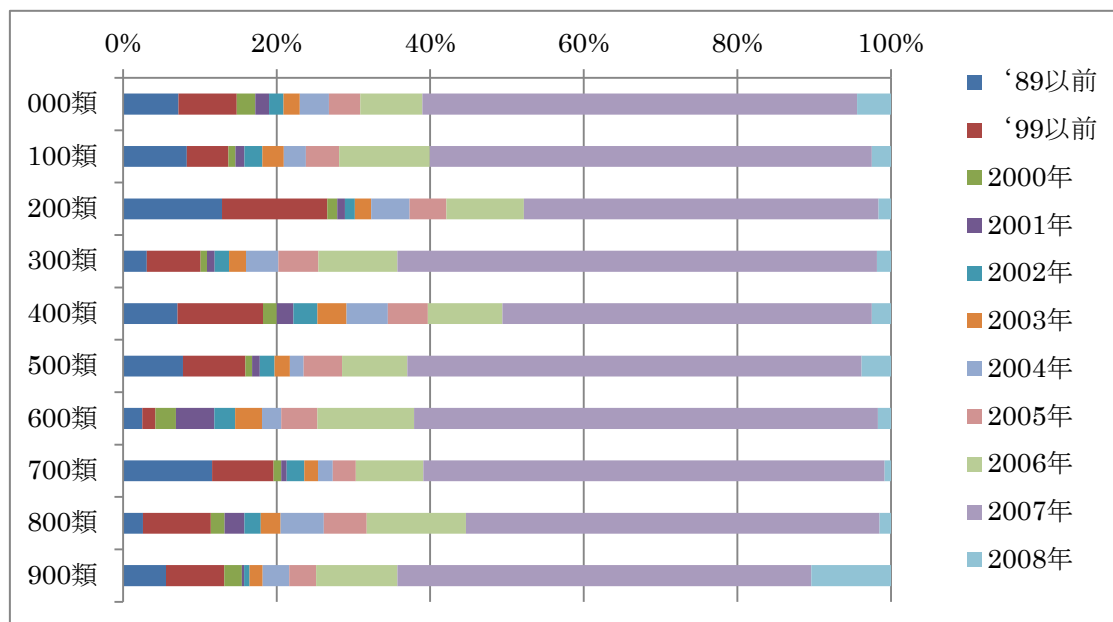


図 11 日本十進分類一次区分別出版年ごとの受入件数（2007 年度受入図書）

2008 年度受入図書は、200 類の図書で 1999 年よりも古い図書の割合が高い。200 類には 1977 年-1989 年間に出版された『教育社歴史新書』149 冊が受入されている。

表 19 日本十進分類一次区分別の出版年ごとの受入件数（2008 年度受入図書）

分類	000	100	200	300	400	500	600	700	800	900	全体
‘89 以前	65	31	268	178	139	95	40	174	31	84	1,105
‘99 以前	147	29	171	272	262	109	37	78	42	62	1,209
2000 年	27	5	13	51	28	12	9	11	9	6	171
2001 年	11	7	21	60	33	22	10	16	5	2	187
2002 年	13	12	33	39	50	18	17	40	7	4	233
2003 年	25	26	35	74	82	39	19	27	2	17	346
2004 年	27	24	48	113	105	38	17	27	8	22	429
2005 年	59	20	36	156	94	62	22	42	27	12	530
2006 年	51	16	32	104	146	48	24	59	9	18	507
2007 年	105	59	130	298	169	95	55	161	32	40	1,144
2008 年	544	294	456	1,553	1,216	508	234	585	166	288	5,844
2009 年	43	17	22	79	91	41	7	30	5	12	347
合計	1,117	540	1,265	2,977	2,415	1,087	491	1,250	343	567	12,052

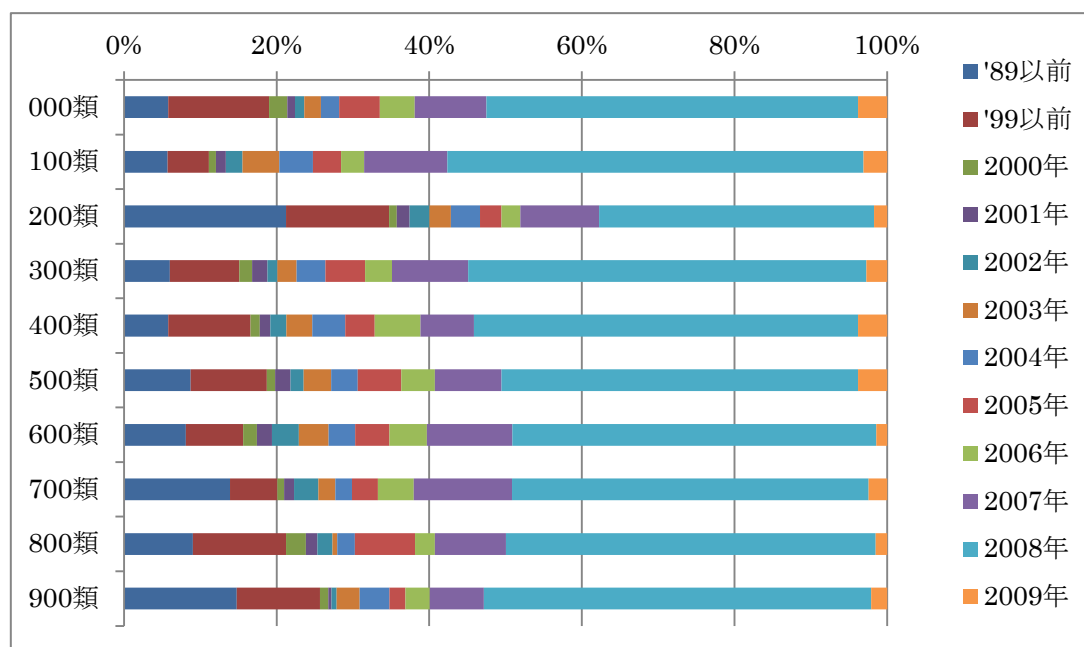


図 12 日本十進分類一次区分別出版年ごとの受入件数（2008 年度受入図書）

2.6.5 主題別受入図書に占めるシリーズもの・セットものの図書の割合

前述の出版年の傾向のように、このシリーズもの・セットもののまとまった受入が、他の図書の属性の傾向を左右する場合があることから、これについても検討を行う。主題別にシリーズタイトルが付されている図書、およびセットタイトルが付されている図書の、受入図書全体に占める割合を示したものが下表である。各受入図書がシリーズであるか、セットであることを示す記号は、NACSIS-CATのコーディング規則²⁵によれば、各受入図書の親書誌を記述するPTBLフィールドの末尾に、親書誌から見た子書誌にあたる各受入図書がシリーズであればa、セットであればbが付与される。階層が3階層以上の場合は、最上位から順に関係を記述している。例えば『大学数学の入門4. 幾何学』は「ab」となる。今回はこれを用いて機械的に集計を行った。

この結果から、主題によってシリーズもののタイトルおよびセットもののタイトルの割合が異なることがわかる。000 類については、080 綱に分類される岩波文庫、岩波新書が含まれているため、シリーズものの割合が高くなっている。200 類、900 類、次いで 100 類のセットものの割合が他の主題に比べて高くなっており、全集や著作集、史料集がセットものとして記録されていることから、これらが受入図書に占める割合の大きさが示される結果となった。これらは重く持ち運びが困難である一方、複数巻をまとめて閲覧する必要があることから、どうしても必要な巻が1、2冊のみ貸出されることはあっても、多くの巻は貸出が敬遠され、その結果未貸出図書となってしまう可能性がある。

同じシリーズものないしはセットものの資料であっても、放送大学教材や医学・自然科学関連の教科書や手引書（『実験化学講座』等）、文庫・新書の貸出率は80%を越えて貸出がされている一方、文学全集や史料集の貸出は半数以下である。また科学研究費補助金研究成果報告書などの報告書類、会議資料の貸出もほとんどない。例えば17巻ある国立大学図書館協会学術情報委員会学術情報流通検討小委員会の報告書は、オンライン上で電子版を入手できることもあり、貸出されたものは1巻もなかった。このことから、シリーズものであるから貸出がなされにくい、というよりは、シリーズものとなっている図書が研究対象か教科書かによって貸出の多寡に差が生まれている可能性がある。

巻数の多いシリーズもののタイトル、セットもののタイトルは刊行が完了するまでに時間がかかるため、当該受入年度で刊行が未了となっているものがある点に留意する必要がある。刊行未了の場合は、最初の巻が刊行された年を出版年とみなして計算しているため、刊行が長く続いているものは古い出版年に分類されている。

また、この符号を付与しないで親書誌を記述した場合は、自動的にaが付与されることになっており、一部書誌は5巻セットになっているものでもシリーズものの扱いとなっている。さらに個々の図書に独立したタイトルがない場合は親書誌が記述されない。そのため、実際にはセットものの割合はもっと高くなっていると考えられる。

²⁵ 国立情報学研究所. “目録システムコーディングマニュアル.” NACSIS-CAT/ILL 関連マニュアル&ニュースレター. <http://catdoc.nii.ac.jp/MAN2/CM/mokuji.html> (参照日: 2015/1/13)

2006 年度は、前述の予稿集 50 年分（貸出なし）に加え、『書誌書目シリーズ』（21 巻分の受入、貸出は 3 巻、回数は 4 回）、『真福寺善本叢刊』、『少年少女世界の名作文学』（25 巻、うち貸出 16 巻）、『新国訳大蔵経』（38 巻、うち貸出 20 巻、55 回）、『天皇皇族実録』（37 巻、うち貸出 17 巻）、『十五年戦争極秘資料集』（10 巻、貸出 0 回）の受入がある。

表 20 日本十進分類一次区分別のシリーズもの・セットものの受入件数
(2006 年度受入図書)

	無し	シリーズ	セット	両方兼備	受入件数
000 類	427	458	99	11	995
100 類	517	270	125	21	933
200 類	539	290	222	9	1,060
300 類	2,161	929	200	51	3,341
400 類	1,871	616	148	34	2,669
500 類	756	270	49	4	1,079
600 類	336	135	17	4	492
700 類	750	304	51	7	1,112
800 類	219	102	35	1	357
900 類	314	166	113	3	596
受入全体	7,890	3,540	1,059	145	12,634

表 21 日本十進分類一次区分別のシリーズもの・セットものの割合
(2006 年度受入図書)

	無し	シリーズ	セット	両方兼備	受入件数
000 類	42.9%	46.0%	9.9%	1.1%	995
100 類	55.4%	28.9%	13.4%	2.3%	933
200 類	50.8%	27.4%	20.9%	0.8%	1,060
300 類	64.7%	27.8%	6.0%	1.5%	3,341
400 類	70.1%	23.1%	5.5%	1.3%	2,669
500 類	70.1%	25.0%	4.5%	0.4%	1,079
600 類	68.3%	27.4%	3.5%	0.8%	492
700 類	67.4%	27.3%	4.6%	0.6%	1,112
800 類	61.3%	28.6%	9.8%	0.3%	357
900 類	52.7%	27.9%	19.0%	0.5%	596
受入全体	62.5%	28.0%	8.4%	1.1%	12,634

2007 年度受入図書について、300 類は、日本図書センターが出版した『戦前期社会事業基本文献集』60 巻分、600 類は、財団法人農林水産奨励会農林水産政策情報センターが出版した『政策研究レポート』（58 巻）や農林水産省農林水産技術会事務局が出版する『研究成果』13 巻、国土技術政策総合研究所が出版する『国土技術政策総合研究所資料』10 巻といった報告書の受入が、シリーズもののタイトル数の割合を大きくしたと考えられる。

表 22 日本十進分類一次区分別のシリーズもの・セットものの受入件数
(2007 年度受入図書)

	無し	シリーズ	セット	両方兼備	受入件数
000 類	458	372	36	13	879
100 類	404	171	63	13	651
200 類	467	288	239	13	1,007
300 類	1734	827	217	42	2,820
400 類	1944	657	183	37	2,821
500 類	646	285	61	5	997
600 類	221	175	12	0	408
700 類	727	222	30	2	981
800 類	230	89	21	0	340
900 類	284	123	193	8	608
受入全体	7115	3209	1055	133	11,512

表 23 日本十進分類一次区分別のシリーズもの・セットものの
受入図書に占める割合 (2007 年度受入図書)

	無し	シリーズ	セット	両方兼備	受入件数
000 類	52.1%	42.3%	4.1%	1.5%	879
100 類	62.1%	26.3%	9.7%	2.0%	651
200 類	46.4%	28.6%	23.7%	1.3%	1,007
300 類	61.5%	29.3%	7.7%	1.5%	2,820
400 類	68.9%	23.3%	6.5%	1.3%	2,821
500 類	64.8%	28.6%	6.1%	0.5%	997
600 類	54.2%	42.9%	2.9%	0.0%	408
700 類	74.1%	22.6%	3.1%	0.2%	981
800 類	67.6%	26.2%	6.2%	0.0%	340
900 類	46.7%	20.2%	31.7%	1.3%	608
受入全体	61.8%	27.8%	9.1%	1.2%	11,512

2008 年度受入図書は、200 類においては『教育者歴史新書』シリーズ 149 巻、『天皇皇族実録』59 巻、『貴重典籍国立歴史民俗博物館蔵』40 巻が受入されている。500 類は『建築設計資料』93 巻の受入があるため、他の年度よりセットものの割合が増加している。

表 24 日本十進分類一次区分別のシリーズもの・セットものの受入件数
(2008 年度受入図書)

	無し	シリーズ	セット	両方兼備	受入件数
000 類	541	490	68	18	1,117
100 類	276	182	77	5	540
200 類	566	457	230	14	1,267
300 類	1,706	1,038	233	14	2,991
400 類	1,565	639	194	22	2,420
500 類	653	298	130	7	1,088
600 類	293	182	14	3	492
700 類	823	327	99	6	1,255
800 類	215	92	37	0	344
900 類	298	146	118	5	567
受入全体	6,936	3,851	1,200	94	12,081

表 25 日本十進分類一次区分別のシリーズもの・セットもの
受入図書に占める割合 (2008 年度受入図書)

	無し	シリーズ	セット	両方兼備	受入件数
000 類	48.4%	43.9%	6.1%	1.6%	1,117
100 類	51.1%	33.7%	14.3%	0.9%	540
200 類	44.7%	36.1%	18.2%	1.1%	1,267
300 類	57.0%	34.7%	7.8%	0.5%	2,991
400 類	64.7%	26.4%	8.0%	0.9%	2,420
500 類	60.0%	27.4%	11.9%	0.6%	1,088
600 類	59.6%	37.0%	2.8%	0.6%	492
700 類	65.6%	26.1%	7.9%	0.5%	1,255
800 類	62.5%	26.7%	10.8%	0.0%	344
900 類	52.6%	25.7%	20.8%	0.9%	567
受入全体	57.4%	31.9%	9.9%	0.8%	12,081

2.6.6 主題別改版の割合

改版の有無は、NACSIS コードの ED フィールドに記述されているものから数字部分のみを参照して集計した。初版の記述や刷次のみの記述、あるいは縮刷版や私家版、新装版、復刻版、POD 版、ダイジェスト版、日本語版など、内容は同じで装丁のみ異なると考えられる記述がなされているものは除外した。

300 類、400 類で受入図書全体に占める、改版されているタイトルの割合が高い。これは、400 類については、490 綱医学の図書に改版の多いタイトルがあるためと考えられる。次いで 300 類が多いが、改版が多いタイトルは 320 綱法律、次いで 330 綱経済学の図書に集中している。これらの分野は、短期間で新しい知見が公表され、更新されている可能性がある。そのため、すぐに貸出が無くなってしまうことはもちろんのこと、受入の時期によっては貸出される機会を失って、未貸出図書のままになってしまう危険性もある。逆に、改訂された最新版の利用ができなかった利用者が旧版を利用することも起こりうる。ただし利用者自身がどのくらい版の違いを気にして利用しているかという問題もあり、これについては今後の課題としたい。

2006 年度受入図書では、『臨床検査法提要』（32 版）が最も版を重ねている。10 版以上重ねているタイトルは、『ヒルガードの心理学』（14 版）、『租税法』（11 版）、『会社法/弥永真生著』（10 版）『会社法入門/前田庸著』（11 版）、『ゼミナール日本経済入門』（21 版）、『松久宗琳の仏像彫刻』（11 版）以外の 9 タイトルはすべて医学の図書である。

表 26 改版のタイトル数（2006 年度受入図書）

	2 版から 4 版	5 版から 9 版	10 版以上	受入件数
000 類	83	1	0	995
100 類	30	1	1	933
200 類	27	0	0	1,060
300 類	388	39	4	3,341
400 類	386	61	13	2,669
500 類	105	6	0	1,079
600 類	21	0	0	492
700 類	45	0	1	1,112
800 類	18	1	0	357
900 類	10	0	0	596
受入全体	1,113	109	19	12,634

表 27 改版のタイトルが受入図書全体に占める割合（2006 年度受入図書）

	2 版から 4 版	5 版から 9 版	10 版以上	受入件数
000 類	8.3%	0.1%	0.0%	995
100 類	3.2%	0.1%	0.1%	933
200 類	2.5%	0.0%	0.0%	1,060
300 類	11.6%	1.2%	0.1%	3,341
400 類	14.5%	2.3%	0.5%	2,669
500 類	9.7%	0.6%	0.0%	1,079
600 類	4.3%	0.0%	0.0%	492
700 類	4.0%	0.0%	0.1%	1,112
800 類	5.0%	0.3%	0.0%	357
900 類	1.7%	0.0%	0.0%	596
受入全体	8.8%	0.9%	0.2%	12,634

2007 年度受入図書のうち、改版 10 回以上のタイトルは、以下のもの以外 22 タイトルは医学の図書である。最も版を重ねているのは 400 類の『戸田新細菌学』（33 版）である。000 類は、『著作権法概説』（13 版）、『コンピュータシステムの基礎』（14 版）である。100 類は『ヒルガードの心理学』（14 版：分館に追加受入）、600 類『広告の理論と戦略』（15 版）である。300 類は『日本経済読本』（17 版）、『知的財産法入門』（10 版）である。なお『中學國文教科書教授備考（前後 2 分冊）』（17 版）は、出版年は 1926 年であるため、後編のみ 1 回の貸出である。ただし、30 版を重ねる『毒物及び劇物取締法解説基礎化学概説』や、『リウマチ入門』（12 版）、『臨床・病理乳癌取扱い規約』（2004 年出版の 15 版が 2007 年度に受入され、翌 2008 年に改訂版である 16 版が出版され、同年に受入がされている）の貸出は一度もない。『生理学』（17 版。1978 年）は 2012 年度まで貸出が一度もない。このタイトルは、1986 年に改訂版が出版されたあと、著者が代わって版が振出に戻ってから、改版が続いている。一方で、2001 年に別の出版社で同一著者（＋改訂者）により改訂版が出版されている。『胃癌取扱い規約』（13 版。1999 年）は 2010 年に改訂版（14 版）が出版されているが、2012 年度に 1 回貸出されている。

表 28 改版のタイトル数 (2007 年度受入図書)

	2 版から 4 版	5 版から 9 版	10 版以上	受入件数
000 類	73	5	2	879
100 類	15	0	1	651
200 類	12	0	0	1,007
300 類	170	39	5	2,820
400 類	331	64	20	2,821
500 類	54	6	1	997
600 類	7	1	1	408
700 類	41	1	0	981
800 類	10	0	0	340
900 類	3	0	0	608
受入全体	716	116	30	11,512

表 29 改版のタイトルが受入図書全体に占める割合 (2007 年度受入図書)

	2 版から 4 版	5 版から 9 版	10 版以上	受入件数
000 類	8.3%	0.6%	0.2%	879
100 類	2.3%	0.0%	0.2%	651
200 類	1.2%	0.0%	0.0%	1,007
300 類	6.0%	1.4%	0.2%	2,820
400 類	11.7%	2.3%	0.7%	2,821
500 類	5.4%	0.6%	0.1%	997
600 類	1.7%	0.2%	0.2%	408
700 類	4.2%	0.1%	0.0%	981
800 類	2.9%	0.0%	0.0%	340
900 類	0.5%	0.0%	0.0%	608
受入全体	6.2%	1.0%	0.3%	11,512

2008 年度受入図書のうち 10 回以上改版されているタイトルは、『コンピュータシステムの基礎』（分館に追加受入）、『大学・短大課題レポート作成の基本発想から提出まで』（11 版）、『図書の目録と分類』（11 版）、『会社法／弥永真生著』（11 版）、『会社法／神田秀樹著』（10 版）、『会社法入門』（11 版）、『ひと目でわかる外国人の入国・在留案内』、『憲法判例集』（10 版）、『最新教育データブック』（12 版）と、医学の図書 26 タイトルである。

表 30 改版のタイトル数（2008 年度受入図書）

	2 版から 4 版	5 版から 9 版	10 版以上	受入件数
000 類	81	6	2	1,117
100 類	31	0	0	540
200 類	22	1	0	1,267
300 類	248	23	7	2,991
400 類	363	56	23	2,420
500 類	64	3	0	1,088
600 類	30	0	1	492
700 類	37	1	0	1,255
800 類	10	0	1	344
900 類	10	0	0	567
受入全体	896	90	34	12,081

表 31 改版のタイトルが受入図書全体に占める割合（2008 年度受入図書）

	2 版から 4 版	5 版から 9 版	10 版以上	受入件数
000 類	7.3%	0.5%	0.2%	1,117
100 類	5.7%	0.0%	0.0%	540
200 類	1.7%	0.1%	0.0%	1,267
300 類	8.3%	0.8%	0.2%	2,991
400 類	15.0%	2.3%	1.0%	2,420
500 類	5.9%	0.3%	0.0%	1,088
600 類	6.1%	0.0%	0.2%	492
700 類	2.9%	0.1%	0.0%	1,255
800 類	2.9%	0.0%	0.3%	344
900 類	1.8%	0.0%	0.0%	567
受入全体	7.4%	0.7%	0.3%	12,081

3 章 分析結果と考察

3.1 累積貸出率推移

累積貸出率とは、その年度までに一度以上貸出をされた図書が、受入図書全体に占める割合を示すものである。累積した値のため必ず増加するが、変化量は受入年度から年数が経過するにつれて小さくなる。

受入図書全体の累積貸出率の推移を各受入年度別に示したものが表 32 および表 33 である。表 33 の平均値は、ある受入からの経過年数における累積貸出率の受入年度間の平均値、標準偏差は、この累積貸出率のばらつきの大きさを示したものであり、数値が小さいほど、似たような値を推移していることを意味する。これを図として表したものが図 13 である。この図から、2007 年度と 2008 年度の累積貸出率の推移を示す曲線はほとんど重なっている一方、2006 年度の曲線とは重ならないことが見てとれる。このように 2006 年度受入図書全体の累積貸出率の値の推移と、2007 年度受入図書、および 2008 年度受入図書の累積貸出率の値の推移が異なっていたため、標準偏差は少し高い値となっている。

表 32 受入年度別受入図書全体の累積貸出図書タイトル数推移

	受入	受入＋1	受入＋2	受入＋3	受入＋4	受入＋5	受入件数
2006 年度受入	2,619	6,884	8,133	8,761	9,169	9,345	12,634
2007 年度受入	3,196	5,994	6,868	7,455	7,665	7,964	11,512
2008 年度受入	3,392	6,426	7,369	7,699	8,074	8,345	12,081

表 33 受入図書全体の累積貸出率推移

	受入	受入＋1	受入＋2	受入＋3	受入＋4	受入＋5
2006 年度受入	20.7%	54.5%	64.4%	69.3%	72.6%	74.0%
2007 年度受入	27.8%	52.1%	59.7%	64.8%	66.6%	69.2%
2008 年度受入	28.1%	53.2%	61.0%	63.7%	66.8%	69.1%
平均値	25.5%	53.2%	61.7%	65.9%	68.7%	70.7%
標準偏差	0.034	0.010	0.020	0.024	0.028	0.023

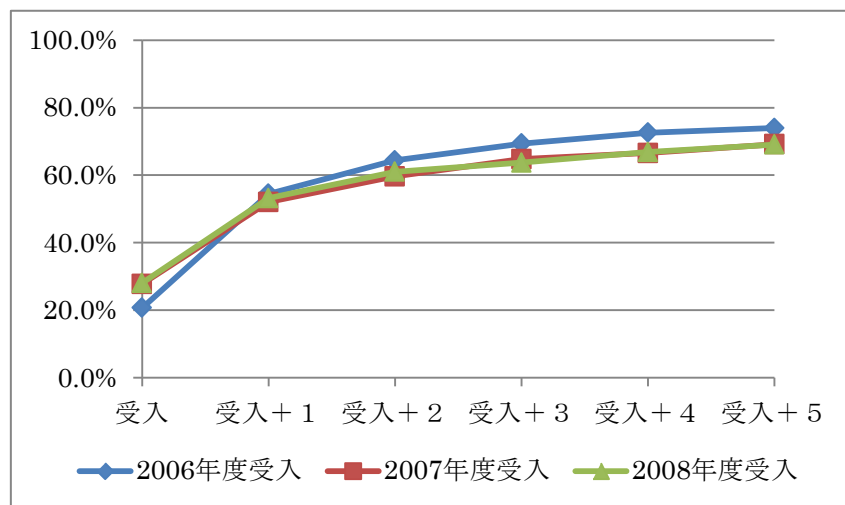


図 13 受入図書全体の累積貸出率推移

3.1.1 日本十進分類一次区分別比較

2006年度受入図書については、400類自然科学を先頭に400類から700類までの集団と、それよりさらに低い値を推移する000類と100類の集団、すなわち、それぞれ007目情報科学、140綱心理学という、自然科学に近い主題を抱えている人文科学系主題の集団と、それよりまたさらに低い値を推移する200類と900類という、研究対象になるような図書の多い主題とに分かれて曲線が描かれている。200類と900類の2006年度から2007年度にかけての変化量は他の主題よりも約10%小さく、受入後3年までは逆に他の主題より約5%大きくなっており、他の主題よりも緩やかに割合が増加していることがわかる。

表 34 日本十進分類一次区分別累積貸出図書タイトル数推移 (2006年度受入図書)

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	受入件数
000 類	176	499	596	651	687	698	995
100 類	142	422	519	579	608	623	933
200 類	157	384	478	542	603	635	1,060
300 類	744	1,855	2,213	2,398	2,503	2,556	3,341
400 類	652	1,743	1,982	2,072	2,131	2,154	2,669
500 類	226	609	722	776	810	825	1,079
600 類	99	272	325	347	362	371	492
700 類	216	674	780	818	852	859	1,112
800 類	102	211	243	262	271	275	357
900 類	105	215	275	316	342	349	596
受入全体	2,619	6,884	8,133	8,761	9,169	9,345	12,634

表 35 日本十進分類一次区分別累積貸出率推移（2006 年度受入図書）

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	受入件数
000 類	17.7%	50.2%	59.9%	65.4%	69.0%	70.2%	995
100 類	15.2%	45.2%	55.6%	62.1%	65.2%	66.8%	933
200 類	14.8%	36.2%	45.1%	51.1%	56.9%	59.9%	1,060
300 類	22.3%	55.5%	66.2%	71.8%	74.9%	76.5%	3,341
400 類	24.4%	65.3%	74.3%	77.6%	79.8%	80.7%	2,669
500 類	20.9%	56.4%	66.9%	71.9%	75.1%	76.5%	1,079
600 類	20.1%	55.3%	66.1%	70.5%	73.6%	75.4%	492
700 類	19.4%	60.6%	70.1%	73.6%	76.6%	77.2%	1,112
800 類	28.6%	59.1%	68.1%	73.4%	75.9%	77.0%	357
900 類	17.6%	36.1%	46.1%	53.0%	57.4%	58.6%	596
受入全体	20.7%	54.5%	64.4%	69.3%	72.6%	74.0%	12,634

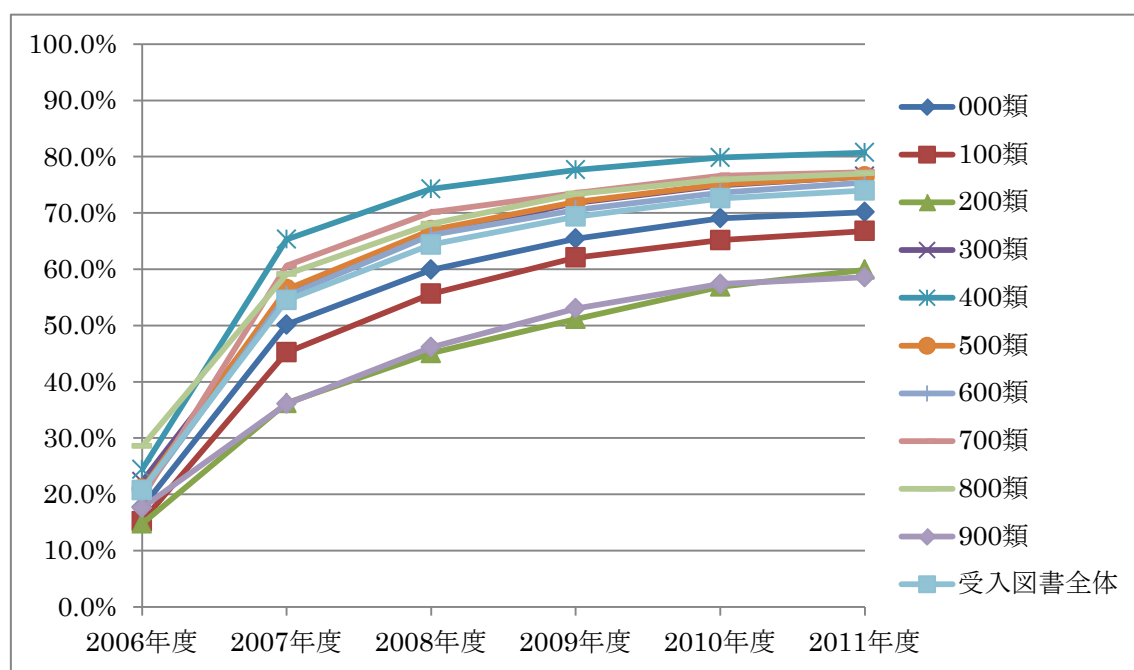


図 14 日本十進分類一次区分別累積貸出率推移（2006 年度受入図書）

2007 年度受入図書では次のような特徴的な傾向が見られた。まず 2006 年度受入図書同様 200 類、900 類の集団は確認できたが、000 類がすべての経過年数において 100 類より約 10%値が高く、曲線が離れて推移しているため、000 類、100 類の集団は確認できなかった。000 類、500 類、300 類および 400 類の順に累積貸出率は高い値で推移している。400 類は 2008 年度にかけて 30.0%累積貸出率が増加しているが、それ以降の年度では 6.2%、4.0%と急激に増加量は減少する。一方 300 類は、25.1%、9.3%、6.5%と 400 類よりも高い増加量で推移しているため、2010 年度以降は曲線が重なっている。このことから、2007 年度受入図書における 400 類は、300 類よりも受入直後に貸出される傾向があると考えられる。800 類は 2009 年度から 2010 年にかけて、前年度の増加量の 6.2%を上回る 13.2%増加し、000 類を抜いて最上位となった。一方 700 類は 2009 年度以降の増加量が小さい。

表 36 日本十進分類一次区分別累積貸出図書タイトル数推移 (2007 年度受入図書)

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012 年度	受入件数
000 類	325	538	604	644	661	680	879
100 類	174	316	363	400	413	441	651
200 類	146	307	389	430	456	474	1,007
300 類	802	1,508	1,771	1,953	2,008	2,068	2,820
400 類	845	1,645	1,820	1,933	1,968	2,061	2,821
500 類	313	593	679	718	732	752	997
600 類	96	202	229	254	260	264	408
700 類	322	553	606	633	645	675	981
800 類	106	189	210	255	264	269	340
900 類	67	143	197	235	258	280	608
受入全体	3,196	5,994	6,868	7,455	7,665	7,964	11,512

表 37 日本十進分類一次区分別累積貸出率推移（2007 年度受入図書）

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012 年度	受入件数
000 類	37.0%	61.2%	68.7%	73.3%	75.2%	77.4%	879
100 類	26.7%	48.5%	55.8%	61.4%	63.4%	67.7%	651
200 類	14.5%	30.5%	38.6%	42.7%	45.3%	47.1%	1,007
300 類	28.4%	53.5%	62.8%	69.3%	71.2%	73.3%	2,820
400 類	30.0%	58.3%	64.5%	68.5%	69.8%	73.1%	2,821
500 類	31.4%	59.5%	68.1%	72.0%	73.4%	75.4%	997
600 類	23.5%	49.5%	56.1%	62.3%	63.7%	64.7%	408
700 類	32.8%	56.4%	61.8%	64.5%	65.7%	68.8%	981
800 類	31.2%	55.6%	61.8%	75.0%	77.6%	79.1%	340
900 類	11.0%	23.5%	32.4%	38.7%	42.4%	46.1%	608
受入全体	27.8%	52.1%	59.7%	64.8%	66.6%	69.2%	11,512

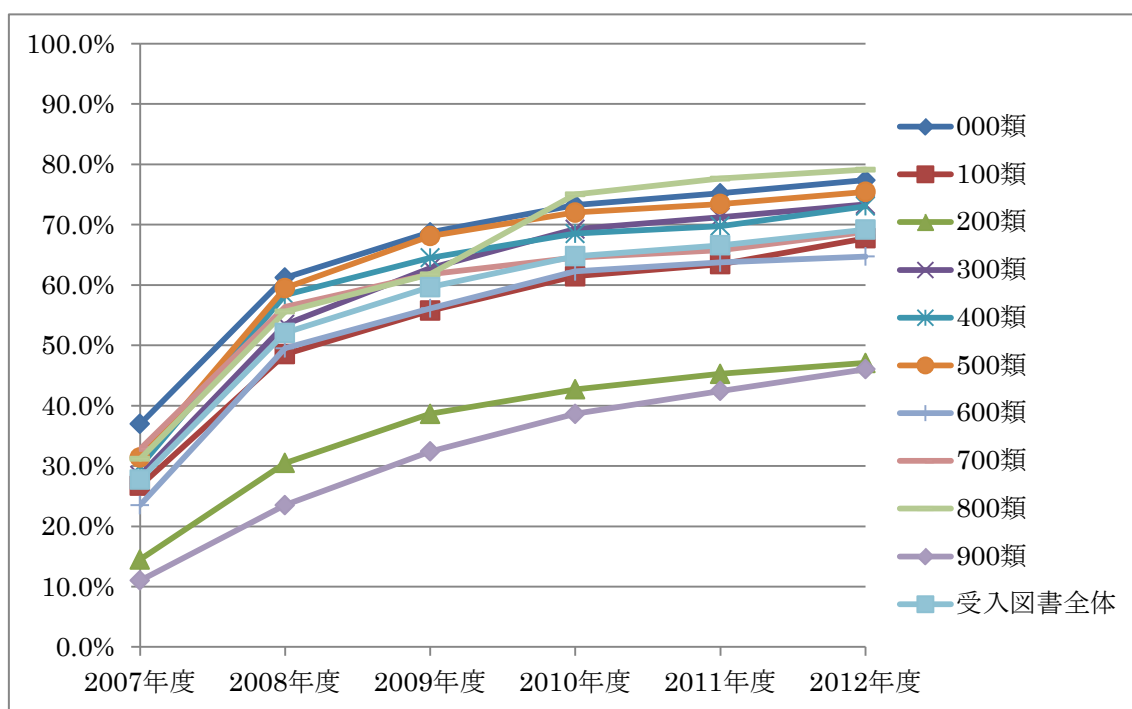


図 15 日本十進分類一次区分別累積貸出率推移（2007 年度受入図書）

2008 年度受入図書は、200 類と 900 類で、そして 000 類、100 類、300 類、500 類、600 類の曲線が、5%区間内に値があるためほとんど重なっている。400 類と 800 類は、2009 年度時点ではほとんど同じ値で推移していた。しかし 800 類は 2009 年度から 2010 年度にかけて 7.9%上昇した後、年度が経つにつれて、次に割合の高い主題との差が大きくなっている。一方 400 類は 6%上昇した後、次に割合の高い主題との差が 1%以内となり、曲線が重なっている。その結果、2009 年度から 2013 年度までの累積貸出率の変化量は、400 類は 12.4%の増加に対して 800 類は 18.1%の増加となった。

表 38 日本十進分類一次区分別累積貸出図書タイトル数推移（2008 年度受入図書）

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012 年度	2013年度	受入件数
000 類	358	634	713	739	770	791	1,117
100 類	152	294	347	358	384	398	540
200 類	158	383	501	569	625	662	1,267
300 類	887	1,710	1,950	2,026	2,091	2,154	2,991
400 類	845	1,469	1,619	1,665	1,710	1,751	2,420
500 類	317	603	723	744	782	796	1,088
600 類	142	281	311	325	338	347	492
700 類	347	662	743	765	827	871	1,255
800 類	114	210	237	248	262	272	344
900 類	72	180	225	260	285	303	567
受入全体	3,392	6,426	7,369	7,699	8,074	8,345	12,081

表 39 日本十進分類一次区分別累積貸出率推移（2008 年度受入図書）

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	受入件数
000 類	32.1%	56.8%	63.8%	66.2%	68.9%	70.8%	1,117
100 類	28.1%	54.4%	64.3%	66.3%	71.1%	73.7%	540
200 類	12.5%	30.2%	39.5%	44.9%	49.3%	52.2%	1,267
300 類	29.7%	57.2%	65.2%	67.7%	69.9%	72.0%	2,991
400 類	34.9%	60.7%	66.9%	68.8%	70.7%	72.4%	2,420
500 類	29.1%	55.4%	66.5%	68.4%	71.9%	73.2%	1,088
600 類	28.9%	57.1%	63.2%	66.1%	68.7%	70.5%	492
700 類	27.6%	52.7%	59.2%	61.0%	65.9%	69.4%	1,255
800 類	33.1%	61.0%	68.9%	72.1%	76.2%	79.1%	344
900 類	12.7%	31.7%	39.7%	45.9%	50.3%	53.4%	567
受入全体	28.1%	53.2%	61.0%	63.7%	66.8%	69.1%	12,081

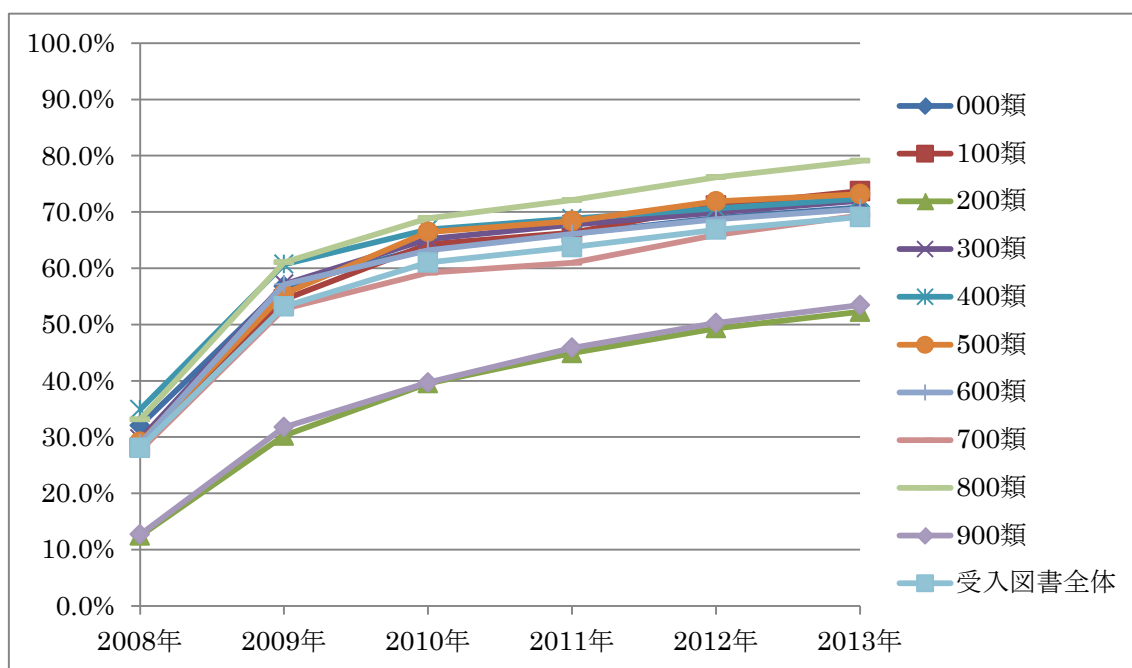


図 16 日本十進分類一次区分別累積貸出率推移（2008 年度受入図書）

3.1.2 細区分主題別比較

次に、細区分された主題同士で累積貸出率の推移を比較した。その結果を以下表 40 から表 45、図 17 から図 19 に示す。

2006 年度受入図書では、最も高い累積貸出率の値を推移しているのは 780 網体育である。40%未満を推移している 010 網図書館情報学、210 網日本史、910 網日本文学の集団と、780 網体育を先頭に、それ以外の集団とでまとまっている。母数が少ない 420 網物理学と 810 網日本語は受入年の翌々年度以降値がほとんど変わっていない。

表 40 細区分主題別累積貸出図書タイトル数推移 (2006 年度受入図書)

	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
007 目	65	208	238	254	263	269	330
010 網	22	92	112	117	119	120	229
140 網	61	154	167	182	187	189	228
210 網	77	188	234	258	281	300	555
310 網	80	177	203	215	221	225	278
320 網	107	220	252	277	284	288	402
330 網	138	334	409	460	479	492	662
360 網	164	432	528	567	591	601	764
370 網	159	459	532	571	594	609	768
380 網	38	114	137	146	165	168	228
410 網	100	255	289	300	307	313	360
420 網	42	131	135	139	144	146	183
460 網	53	118	129	133	136	137	167
490 網	365	979	1,136	1,199	1,236	1,249	1,579
510 網	67	148	168	176	185	188	257
520 網	49	127	155	170	176	179	241
540 網	47	141	164	179	183	188	237
720 網	33	126	163	168	177	178	229
780 網	93	264	286	299	304	305	348
810 網	51	87	96	101	104	106	146
910 網	56	110	140	166	186	190	340

表 41 細区分主題別累積貸出率推移（2006 年度受入図書）

	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
007 目	19.7%	63.0%	72.1%	77.0%	79.7%	81.5%	330
010 綱	9.6%	40.2%	48.9%	51.1%	52.0%	52.4%	229
140 綱	26.8%	67.5%	73.2%	79.8%	82.0%	82.9%	228
210 綱	13.9%	33.9%	42.2%	46.5%	50.6%	54.1%	555
310 綱	28.8%	63.7%	73.0%	77.3%	79.5%	80.9%	278
320 綱	26.6%	54.7%	62.7%	68.9%	70.6%	71.6%	402
330 綱	20.8%	50.5%	61.8%	69.5%	72.4%	74.3%	662
360 綱	21.5%	56.5%	69.1%	74.2%	77.4%	78.7%	764
370 綱	20.7%	59.8%	69.3%	74.3%	77.3%	79.3%	768
380 綱	16.7%	50.0%	60.1%	64.0%	72.4%	73.7%	228
410 綱	27.8%	70.8%	80.3%	83.3%	85.3%	86.9%	360
420 綱	23.0%	71.6%	73.8%	76.0%	78.7%	79.8%	183
460 綱	31.7%	70.7%	77.2%	79.6%	81.4%	82.0%	167
490 綱	23.1%	62.0%	71.9%	75.9%	78.3%	79.1%	1,579
510 綱	26.1%	57.6%	65.4%	68.5%	72.0%	73.2%	257
520 綱	20.3%	52.7%	64.3%	70.5%	73.0%	74.3%	241
540 綱	19.8%	59.5%	69.2%	75.5%	77.2%	79.3%	237
720 綱	14.4%	55.0%	71.2%	73.4%	77.3%	77.7%	229
780 綱	26.7%	75.9%	82.2%	85.9%	87.4%	87.6%	348
810 綱	34.9%	59.6%	65.8%	69.2%	71.2%	72.6%	146
910 綱	16.5%	32.4%	41.2%	48.8%	54.7%	55.9%	340

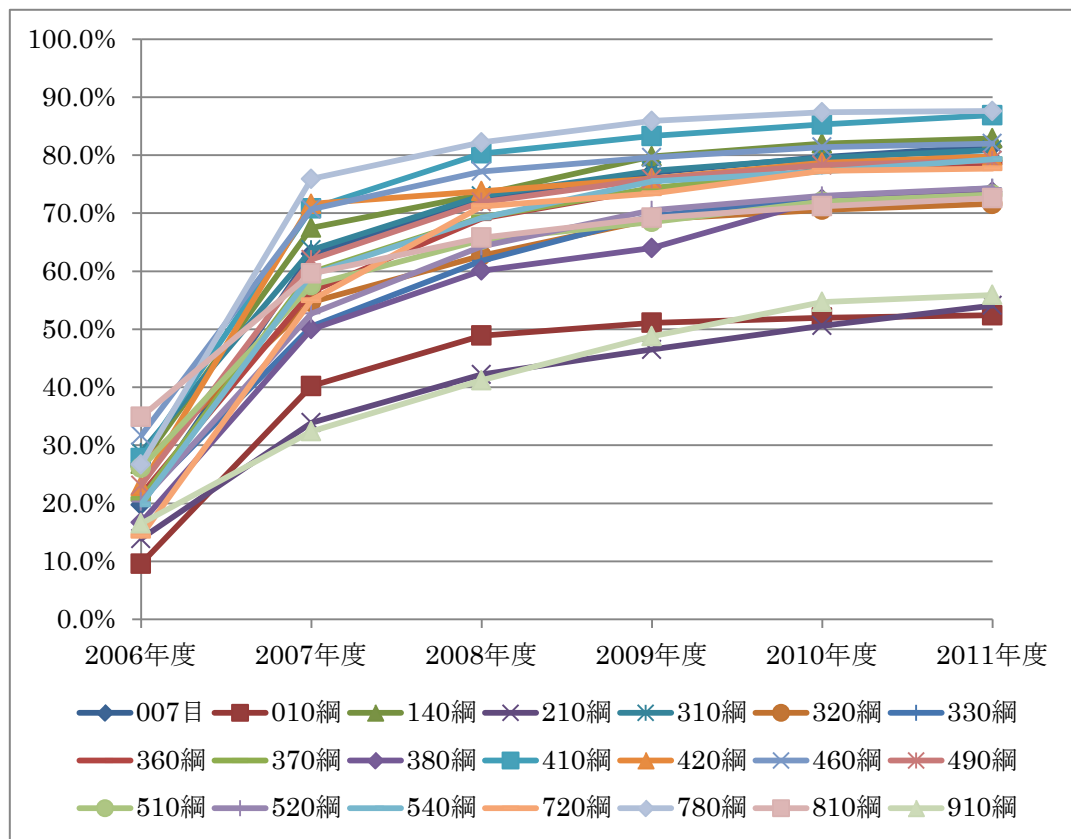


図 17 細区分主題別累積貸出率推移 (2006 年度受入図書)

2007 年度受入図書については以下の通りとなった。420 綱物理学と 780 綱体育、460 綱生物学は、受入の翌々年度以降から 2012 年度まで値の推移が高い順に曲線が平行しており、それらの変化量が 10%未満とほとんど変化がない。これらの主題はいわば受入図書中に占める貸出される限界（閾値）に達している可能性がある。また 007 目情報科学と 140 綱心理学は値の推移が類似している。410 綱数学は 2007 年度から 2008 年度にかけての変化量が 40%と急激な増加をしており、他の主題とは異なる推移であったが、それ以降は 007 目と 140 綱の曲線と似た曲線を描いている。200 類と 900 類の推移は他の主題と異なっていたが、加えて 910 綱日本文学のみ累積貸出率の変化量が毎年 2%弱となり、直線に似た推移となっている。

表 42 細区分主題別累積貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
007 目	131	202	229	244	248	252	284
010 綱	60	119	129	138	143	150	213
140 綱	87	145	153	165	169	176	201
210 綱	61	142	171	191	202	213	471
310 綱	118	199	225	255	266	271	358
320 綱	74	126	157	176	184	186	237
330 綱	133	275	318	350	360	376	501
360 綱	181	340	401	448	460	476	682
370 綱	217	388	456	484	493	509	717
380 綱	32	73	84	93	95	95	122
410 綱	121	318	349	376	388	393	447
420 綱	83	125	129	132	133	135	153
460 綱	76	126	137	140	140	142	200
490 綱	420	848	956	1,021	1,041	1,121	1,686
510 綱	64	129	141	149	152	157	251
520 綱	66	126	144	152	154	162	244
540 綱	89	160	183	196	199	203	227
720 綱	49	99	113	117	118	124	229
780 綱	165	245	260	268	269	274	348
810 綱	50	84	90	108	110	112	145
910 綱	38	72	99	122	140	153	307

表 43 細区分主題別累積貸出率推移（2007 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
007 目	46.1%	71.1%	80.6%	85.9%	87.3%	88.7%	284
010 網	28.2%	55.9%	60.6%	64.8%	67.1%	70.4%	213
140 網	42.2%	72.5%	80.7%	81.2%	84.4%	87.2%	201
210 網	13.0%	30.1%	36.3%	40.6%	42.9%	45.2%	471
310 網	33.0%	55.6%	62.8%	71.2%	74.3%	75.7%	358
320 網	31.2%	53.2%	66.2%	74.3%	77.6%	78.5%	237
330 網	26.5%	54.9%	63.5%	69.9%	71.9%	75.0%	501
360 網	26.5%	49.9%	58.8%	65.7%	67.4%	69.8%	682
370 網	30.3%	54.1%	63.6%	67.5%	68.8%	71.0%	717
380 網	26.2%	59.8%	68.9%	76.2%	77.9%	77.9%	122
410 網	27.1%	71.1%	78.1%	84.1%	86.8%	87.9%	447
420 網	54.2%	81.7%	84.3%	86.3%	86.9%	88.2%	153
460 網	38.0%	63.0%	68.5%	70.0%	70.0%	71.0%	200
490 網	24.9%	50.3%	56.7%	60.6%	61.7%	66.5%	1,686
510 網	25.5%	51.4%	56.2%	59.4%	60.6%	62.5%	251
520 網	27.0%	51.6%	59.0%	62.3%	63.1%	66.4%	244
540 網	39.2%	70.5%	80.6%	86.3%	87.7%	89.4%	227
720 網	25.3%	51.0%	58.2%	60.3%	60.8%	63.9%	229
780 網	48.2%	71.6%	76.0%	78.4%	78.7%	80.1%	348
810 網	34.5%	57.9%	62.1%	74.5%	75.9%	77.2%	145
910 網	12.4%	23.5%	32.2%	39.7%	45.6%	49.8%	307

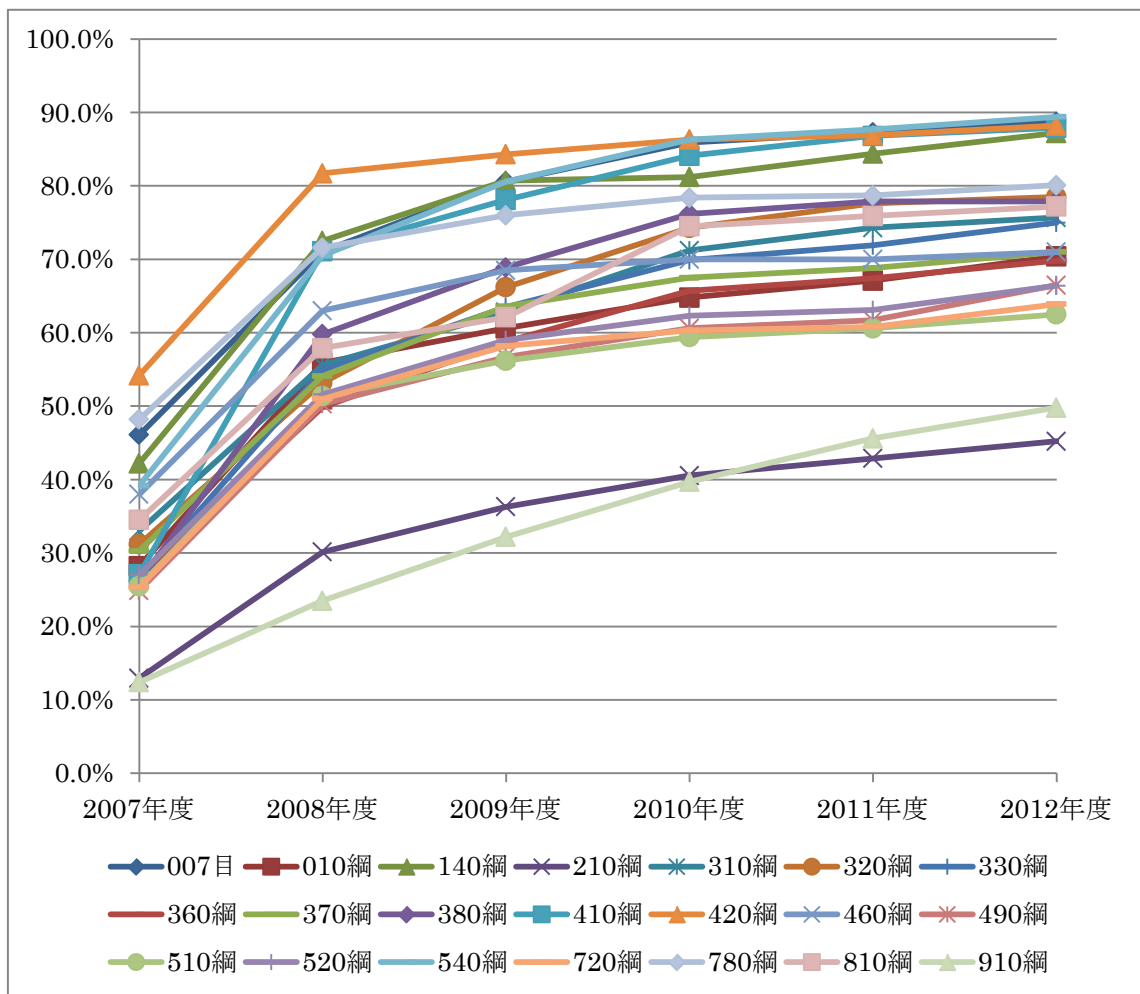


図 18 細区分主題別累積貸出率推移 (2007 年度受入図書)

2008 年度受入図書では、他の受入年度よりも各主題の値の推移の曲線が離れている。420 綱物理学のみ、受入の翌年度に受入図書タイトル数の 89.3%が貸出されている。一方、210 綱日本史および 910 綱日本文学のみ受入の翌年度の累積貸出率は 40%に満たない。520 綱建築学の受入の翌年度に 26.8%増加、翌々年度に 20.8%増加し、その影響で順位変動が起きている。残りの主題はほぼ平行に値が推移している。

表 44 細区分主題別累積貸出図書タイトル数推移 (2008 年度受入図書)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
007 目	142	248	272	287	298	305	393
010 綱	60	115	129	130	136	142	220
140 綱	92	158	176	177	184	190	218
210 綱	66	149	197	231	254	274	669
310 綱	128	237	280	290	297	304	391
320 綱	67	147	173	183	188	194	300
330 綱	187	348	385	402	418	427	576
360 綱	182	340	395	412	429	437	559
370 綱	222	428	487	498	512	532	765
380 綱	31	89	97	102	104	113	188
410 綱	113	203	222	227	231	235	302
420 綱	141	183	186	186	189	190	205
460 綱	77	119	129	131	134	137	160
490 綱	364	716	812	845	877	907	1,417
510 綱	70	131	148	150	156	158	220
520 綱	61	141	203	212	222	227	298
540 綱	101	189	210	213	223	226	292
720 綱	66	132	146	149	159	163	207
780 綱	157	293	326	329	347	362	495
810 綱	56	86	99	103	109	112	139
910 綱	44	100	123	148	157	166	310

表 45 細区分主題別累積貸出率推移（2008 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
007 目	36.1%	63.1%	69.2%	73.0%	75.8%	77.6%	393
010 網	27.3%	52.3%	58.6%	59.1%	61.8%	64.5%	220
140 網	42.2%	72.5%	80.7%	81.2%	84.4%	87.2%	218
210 網	9.9%	22.3%	29.4%	34.5%	38.0%	41.0%	669
310 網	32.7%	60.6%	71.6%	74.2%	76.0%	77.7%	391
320 網	22.3%	49.0%	57.7%	61.0%	62.7%	64.7%	300
330 網	32.5%	60.4%	66.8%	69.8%	72.6%	74.1%	576
360 網	32.6%	60.8%	70.7%	73.7%	76.7%	78.2%	559
370 網	29.0%	55.9%	63.7%	65.1%	66.9%	69.5%	765
380 網	16.5%	47.3%	51.6%	54.3%	55.3%	60.1%	188
410 網	37.4%	67.2%	73.5%	75.2%	76.5%	77.8%	302
420 網	68.8%	89.3%	90.7%	90.7%	92.2%	92.7%	205
460 網	48.1%	74.4%	80.6%	81.9%	83.8%	85.6%	160
490 網	25.7%	50.5%	57.3%	59.6%	61.9%	64.0%	1,417
510 網	31.8%	59.5%	67.3%	68.2%	70.9%	71.8%	220
520 網	20.5%	47.3%	68.1%	71.1%	74.5%	76.2%	298
540 網	34.6%	64.7%	71.9%	72.9%	76.4%	77.4%	292
720 網	31.9%	63.8%	70.5%	72.0%	76.8%	78.7%	207
780 網	31.7%	59.2%	65.9%	66.5%	70.1%	73.1%	495
810 網	40.3%	61.9%	71.2%	74.1%	78.4%	80.6%	139
910 網	14.2%	32.3%	39.7%	47.7%	50.6%	53.5%	310

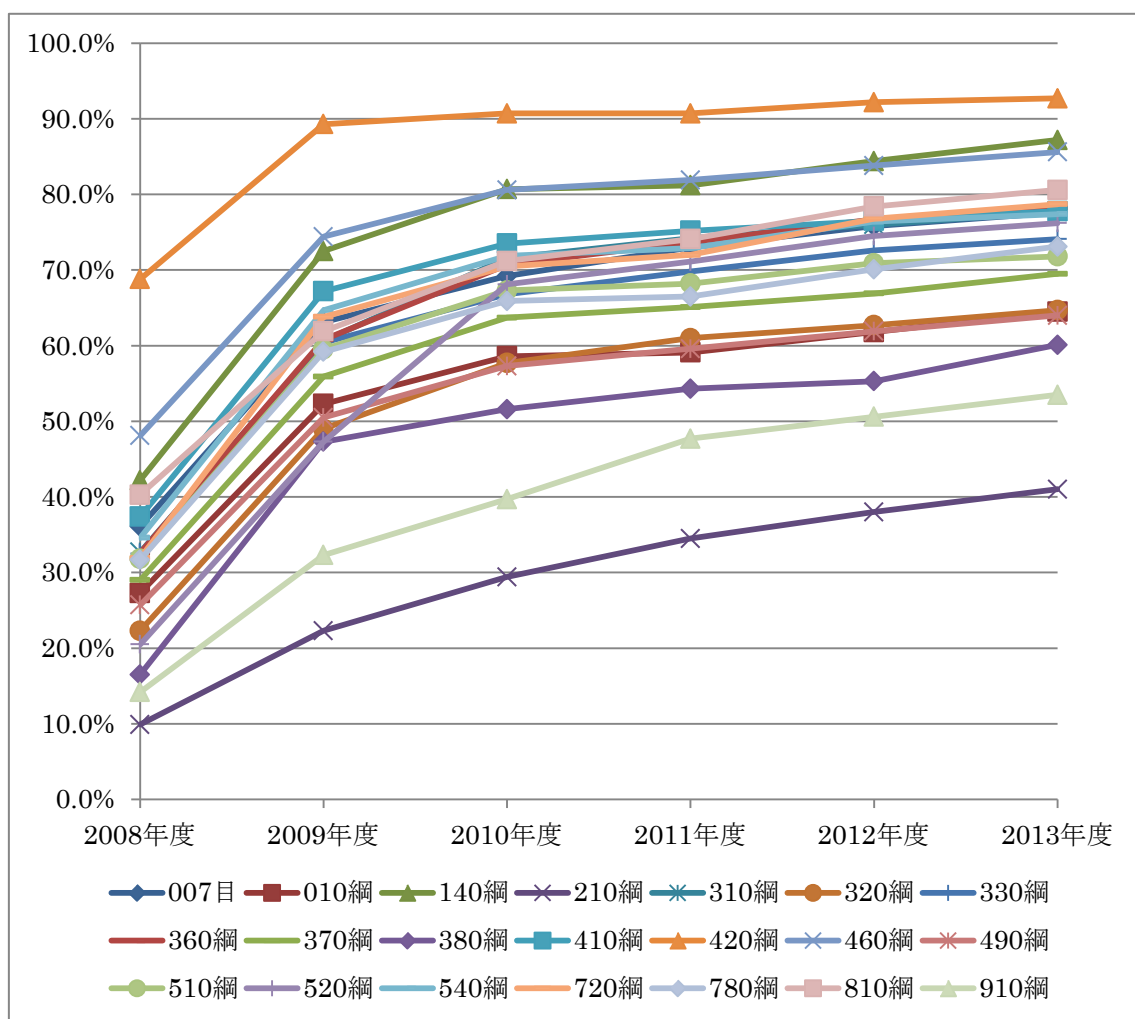


図 19 細区分主題別累積貸出率推移 (2008 年度受入図書)

3.1.3 細区分主題の推移の、同じ一次区分に所属する主題との差異の検討

次いで、細区分した主題が、同じ一次区分に所属する他の主題、あるいは一次区分全体と推移の傾向に違いがみられるかどうかを検討する。これにより、一次区分によって傾向をまとめることができるか否かを検討する。そのために、本研究では細区分した主題と、それぞれ主題の属する一次区分全体、この一次区分全体から細区分主題を除いたもの（表中では「○○類他」と表記）の比較を試みた。その結果を以下に示す。

（１）人文科学分野

二次区分に地域や言語が指定されていることもあり細区分した主題が一つのみであった、人文科学同士をまとめて比較したものを以下表 46 から表 51、図 20 から図 22 に示す。140 綱心理学と、それ以外の 100 類、100 類全体は異なった曲線の形を描き、140 綱の方が高い値を推移している。このことから、同じ 100 類のなかでも 140 綱心理学は他の主題とは異なる貸出傾向であると考えられる。一方 210 綱日本史は、他の 200 類の図書群および 200 類全体の累積貸出率の推移より離れて低い値を推移している。これは日本史以外の主題においては、史料集などが非日本語図書であり分析対象から外れ、教科書ないしは入門書類のみが分析対象となっているため、累積貸出率が高くなりやすかったと考えられる。800 類同士と 900 類同士は曲線が重なるように値が推移している。このことから、800 類内各主題群および 900 類各主題群は、日本語図書であれば類似の貸出傾向をもつと考えられる。

表 46 累積貸出図書タイトル数推移人文科学分野内比較（2006 年度受入図書）

	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
140 綱	61	154	167	182	187	189	228
210 綱	77	188	234	258	281	300	555
810 綱	51	87	96	101	104	106	146
910 綱	56	110	140	166	186	190	340
100 類他	81	268	352	397	421	434	705
200 類他	80	196	244	284	322	335	505
800 類他	51	124	147	161	167	169	211
900 類他	49	105	135	150	156	159	256
100 類全体	142	422	519	579	608	623	933
200 類全体	157	384	478	542	603	635	1,060
800 類全体	102	211	243	262	271	275	357
900 類全体	105	215	275	316	342	349	596

表 47 累積貸出率推移人文科学分野内比較（2006 年度受入図書）

	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
140 網	26.8%	67.5%	73.2%	79.8%	82.0%	82.9%	228
210 網	13.9%	33.9%	42.2%	46.5%	50.6%	54.1%	555
810 網	34.9%	59.6%	65.8%	69.2%	71.2%	72.6%	146
910 網	16.5%	32.4%	41.2%	48.8%	54.7%	55.9%	340
100 類他	11.5%	38.0%	49.9%	56.3%	59.7%	61.6%	705
200 類他	15.8%	38.8%	48.3%	56.2%	63.8%	66.3%	505
800 類他	24.2%	58.8%	69.7%	76.3%	79.1%	80.1%	211
900 類他	19.1%	41.0%	52.7%	58.6%	60.9%	62.1%	256
100 類全体	15.2%	45.2%	55.6%	62.1%	65.2%	66.8%	933
200 類全体	14.8%	36.2%	45.1%	51.1%	56.9%	59.9%	1,060
800 類全体	28.6%	59.1%	68.1%	73.4%	75.9%	77.0%	357
900 類全体	17.6%	36.1%	46.1%	53.0%	57.4%	58.6%	596

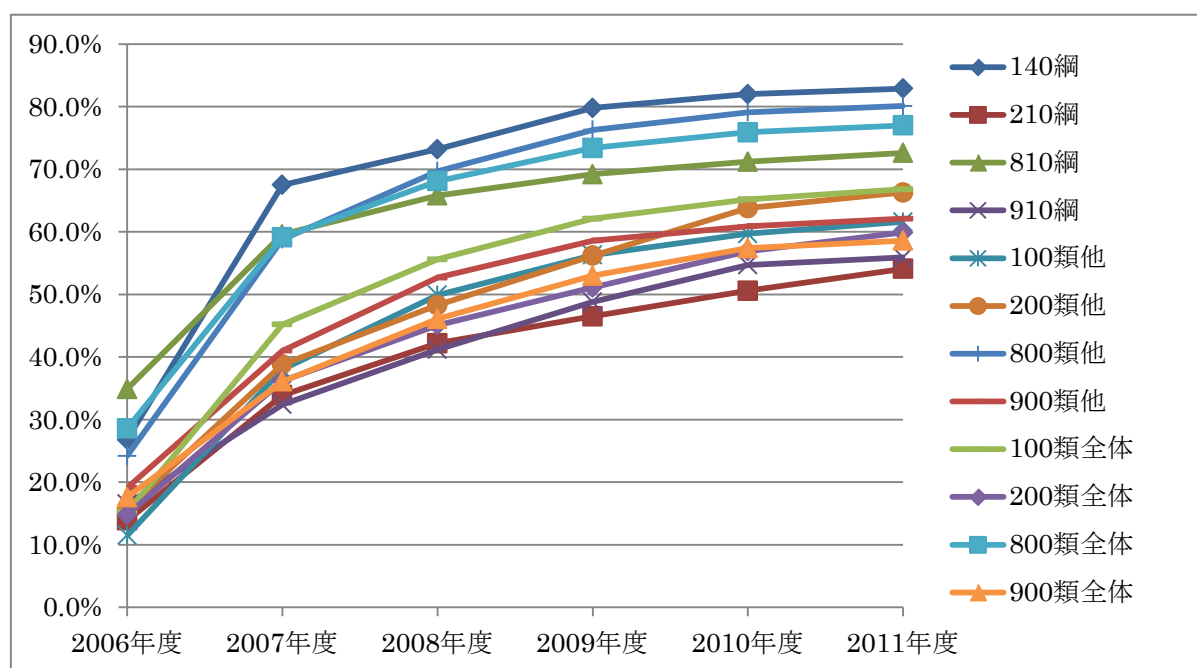


図 20 累積貸出率推移人文科学分野内比較（2006 年度受入図書）

表 48 累積貸出図書タイトル数推移人文科学分野内比較（2007 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
140 綱	87	145	153	165	169	176	201
210 綱	61	142	171	191	202	213	471
810 綱	50	84	90	108	110	112	145
910 綱	38	72	99	122	140	153	307
100 類他	87	171	210	235	244	265	450
200 類他	85	165	218	239	254	261	536
800 類他	56	105	120	147	154	157	195
900 類他	29	71	98	113	118	127	301
100 類全体	174	316	363	400	413	441	651
200 類全体	146	307	389	430	456	474	1,007
800 類全体	106	189	210	255	264	269	340
900 類全体	67	143	197	235	258	280	608

表 49 累積貸出率推移人文科学分野内比較（2007 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
140 綱	46.1%	71.1%	80.6%	85.9%	87.3%	88.7%	201
210 綱	13.0%	30.1%	36.3%	40.6%	42.9%	45.2%	471
810 綱	34.5%	57.9%	62.1%	74.5%	75.9%	77.2%	145
910 綱	12.4%	23.5%	32.2%	39.7%	45.6%	49.8%	307
100 類他	19.3%	38.0%	46.7%	52.2%	54.2%	58.9%	450
200 類他	15.9%	30.8%	40.7%	44.6%	47.4%	48.7%	536
800 類他	28.7%	53.8%	61.5%	75.4%	79.0%	80.5%	195
900 類他	9.6%	23.6%	32.6%	37.5%	39.2%	42.2%	301
100 類全体	26.7%	48.5%	55.8%	61.4%	63.4%	67.7%	651
200 類全体	14.5%	30.5%	38.6%	42.7%	45.3%	47.1%	1,007
800 類全体	31.2%	55.6%	61.8%	75.0%	77.6%	79.1%	340
900 類全体	11.0%	23.5%	32.4%	38.7%	42.4%	46.1%	608

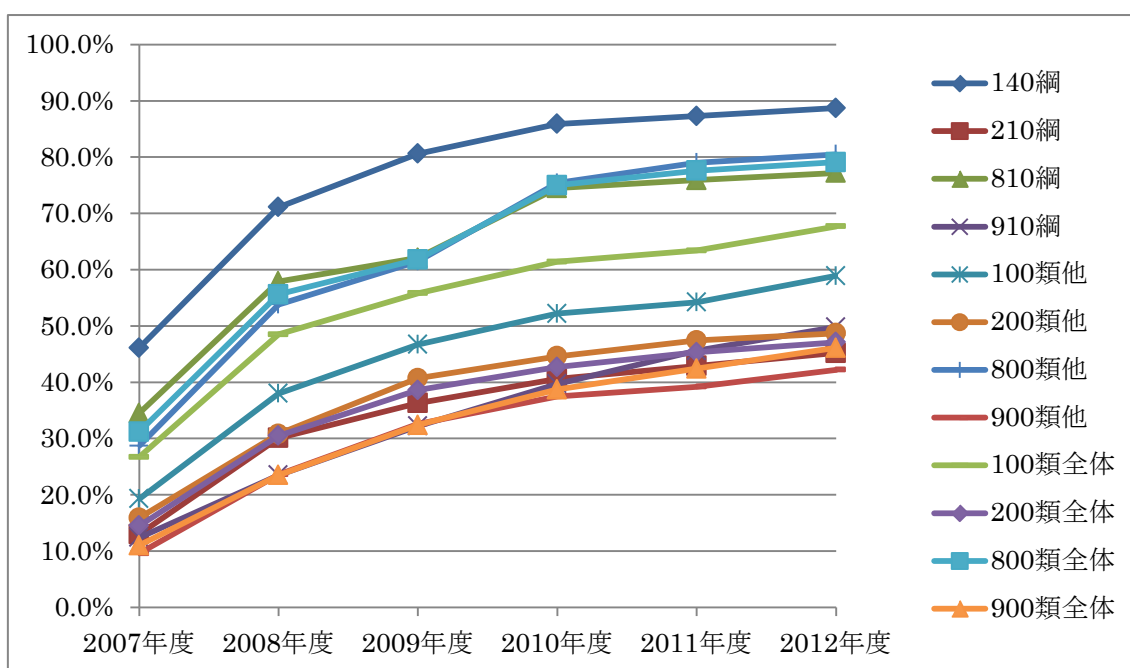


図 21 累積貸出率推移人文科学分野内比較（2007 年度受入図書）

表 50 累積貸出図書タイトル数推移人文科学分野内比較（2008 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
140 網	92	158	176	177	184	190	218
210 網	66	149	197	231	254	274	669
810 網	56	86	99	103	109	112	139
910 網	44	100	123	148	157	166	310
100 類他	60	136	171	181	200	208	322
200 類他	66	149	197	231	254	274	669
800 類他	58	124	138	145	153	160	205
900 類他	28	80	102	112	128	137	257
100 類全体	152	294	347	358	384	398	540
200 類全体	158	383	501	569	625	662	1,267
800 類全体	114	210	237	248	262	272	344
900 類全体	72	180	225	260	285	303	567

表 51 累積貸出率推移人文科学分野内比較（2008 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
140 綱	42.2%	72.5%	80.7%	81.2%	84.4%	87.2%	218
210 綱	9.9%	22.3%	29.4%	34.5%	38.0%	41.0%	669
810 綱	40.3%	61.9%	71.2%	74.1%	78.4%	80.6%	139
910 綱	14.2%	32.3%	39.7%	47.7%	50.6%	53.5%	310
100 類他	18.6%	42.2%	53.1%	56.2%	62.1%	64.6%	322
200 類他	15.4%	39.1%	50.8%	56.5%	62.0%	64.9%	669
800 類他	28.3%	60.5%	67.3%	70.7%	74.6%	78.0%	205
900 類他	10.9%	31.1%	39.7%	43.6%	49.8%	53.3%	257
100 類全体	28.1%	54.4%	64.3%	66.3%	71.1%	73.7%	540
200 類全体	12.5%	30.2%	39.5%	44.9%	49.3%	52.2%	1,267
800 類全体	33.1%	61.0%	68.9%	72.1%	76.2%	79.1%	567
900 類全体	12.7%	31.7%	39.7%	45.9%	50.3%	53.4%	344

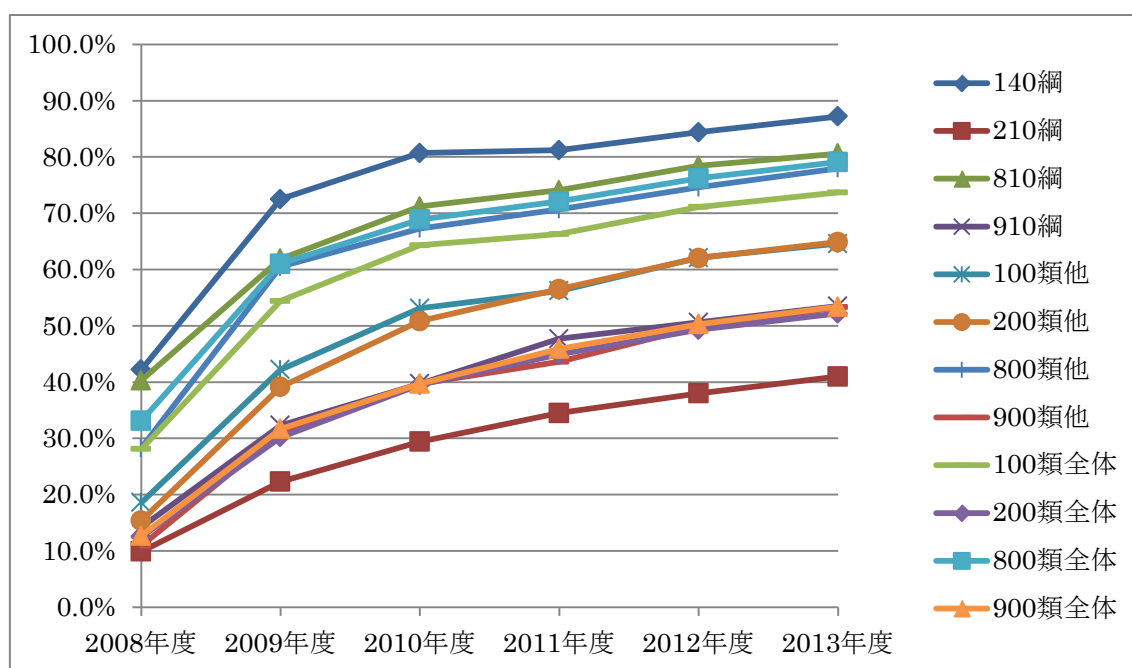


図 22 累積貸出率推移人文科学分野内比較（2008 年度受入図書）

（２）社会科学分野

次に、300 類社会科学の二次区分の集計結果を表 52 から表 57 および図 23 から図 25 に示す。どの受入年度においても、どの主題も曲線が重なっているか、300 類全体の値の推移からそれぞれ 10%前後の値を平行して推移している。このことから、300 類内の主題は、累積貸出率においては同様の傾向を示すと考えられる。

2006 年度受入図書は 310 綱政治学および 360 綱社会学、370 綱教育学の値が最も高い。

2007 年度受入図書は 380 綱民俗学、320 綱法学の値が最も高く、360 綱が最も低い値となっていた。

2008 年度受入図書は 2006 年度受入図書と同じ 310 綱、360 綱、次いで 2006 年度受入図書と異なり 330 綱が最も高い値となっていた。320 綱と 380 綱は 2007 年度と逆に最も低い値となっていて、他の 300 類の主題群および 300 類の全体よりも低い値を推移している。

表 52 累積貸出図書タイトル数推移社会科学分野内比較（2006 年度受入図書）

	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
310 網	80	177	203	215	221	225	278
320 網	107	220	252	277	284	288	402
330 網	138	334	409	460	479	492	662
360 網	164	432	528	567	591	601	764
370 網	159	459	532	571	594	609	768
380 網	38	114	137	146	165	168	228
300 類他	58	119	152	162	169	173	239
300 類全体	744	1,855	2,213	2,398	2,503	2,556	3,341

表 53 累積貸出率推移社会科学分野内比較（2006 年度受入図書）

	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
310 網	28.8%	63.7%	73.0%	77.3%	79.5%	80.9%	278
320 網	26.6%	54.7%	62.7%	68.9%	70.6%	71.6%	402
330 網	20.8%	50.5%	61.8%	69.5%	72.4%	74.3%	662
360 網	21.5%	56.5%	69.1%	74.2%	77.4%	78.7%	764
370 網	20.7%	59.8%	69.3%	74.3%	77.3%	79.3%	768
380 網	16.7%	50.0%	60.1%	64.0%	72.4%	73.7%	228
300 類他	24.3%	49.8%	63.6%	67.8%	70.7%	72.4%	239
300 類全体	22.3%	55.5%	66.2%	71.8%	74.9%	76.5%	3,341

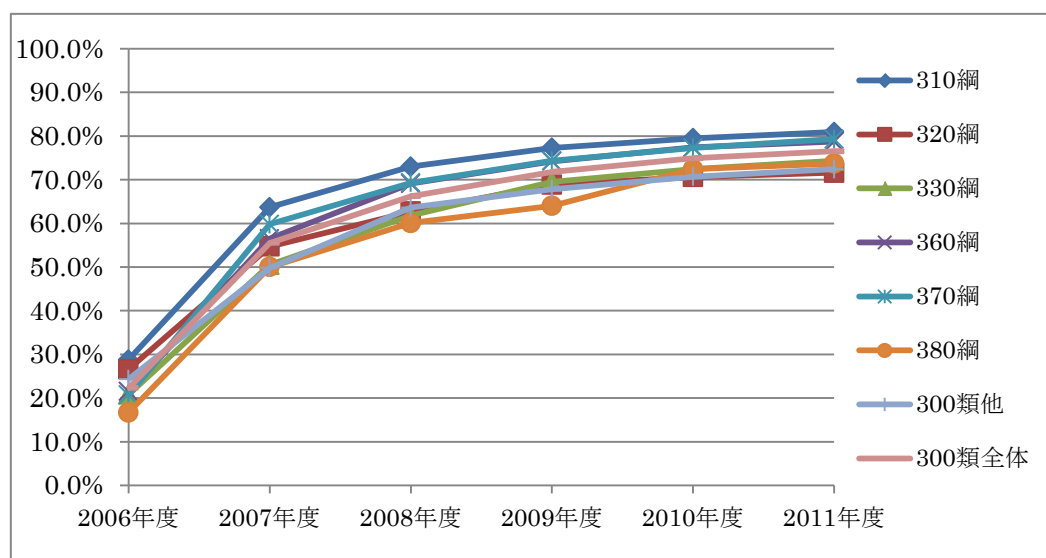


図 23 累積貸出率推移社会科学分野内比較（2006 年度受入図書）

表 54 累積貸出図書タイトル数推移社会科学分野内比較（2007 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
310 網	118	199	225	255	266	271	358
320 網	74	126	157	176	184	186	237
330 網	133	275	318	350	360	376	501
360 網	181	340	401	448	460	476	682
370 網	217	388	456	484	493	509	717
380 網	32	73	84	93	95	95	122
300 類他	47	107	130	147	150	155	203
300 類全体	802	1,508	1,771	1,953	2,008	2,068	2,820

表 55 累積貸出率推移社会科学分野内比較（2007 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
310 網	33.0%	55.6%	62.8%	71.2%	74.3%	75.7%	358
320 網	31.2%	53.2%	66.2%	74.3%	77.6%	78.5%	237
330 網	26.5%	54.9%	63.5%	69.9%	71.9%	75.0%	501
360 網	26.5%	49.9%	58.8%	65.7%	67.4%	69.8%	682
370 網	30.3%	54.1%	63.6%	67.5%	68.8%	71.0%	717
380 網	26.2%	59.8%	68.9%	76.2%	77.9%	77.9%	122
300 類他	23.2%	52.7%	64.0%	72.4%	73.9%	76.4%	203
300 類全体	28.4%	53.5%	62.8%	69.3%	71.2%	73.3%	2,820

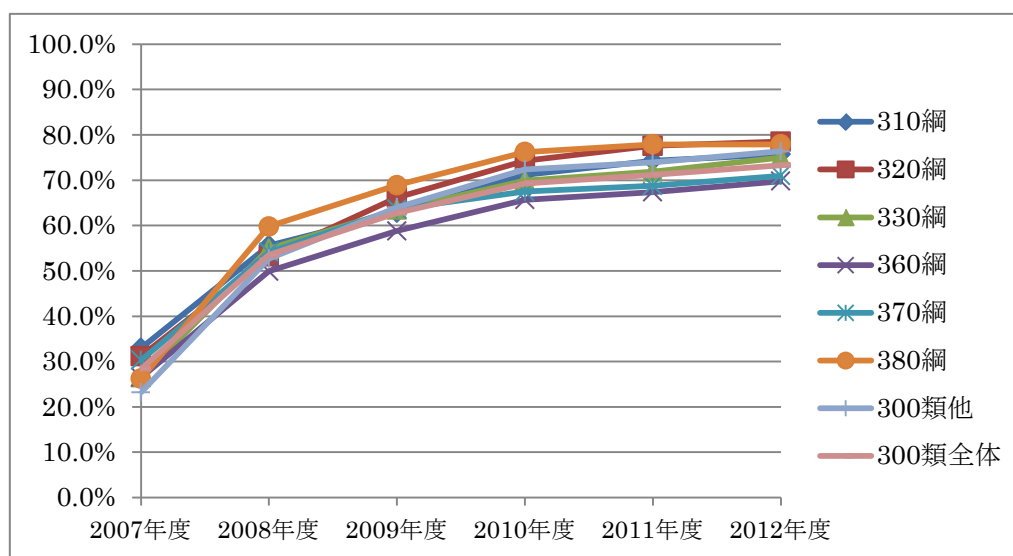


図 24 累積貸出率推移社会科学分野内比較（2007 年度受入図書）

表 56 累積貸出図書タイトル数推移社会科学分野内比較（2008 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
310 網	128	237	280	290	297	304	391
320 網	67	147	173	183	188	194	300
330 網	187	348	385	402	418	427	576
360 網	182	340	395	412	429	437	559
370 網	222	428	487	498	512	532	765
380 網	31	89	97	102	104	113	188
300 類他	107	130	147	150	155	159	203
300 類全体	1,508	1,771	1,953	2,008	2,068	2,113	2,820

表 57 累積貸出率推移社会科学分野内比較（2008 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
310 網	32.7%	60.6%	71.6%	74.2%	76.0%	77.7%	391
320 網	22.3%	49.0%	57.7%	61.0%	62.7%	64.7%	300
330 網	32.5%	60.4%	66.8%	69.8%	72.6%	74.1%	576
360 網	32.6%	60.8%	70.7%	73.7%	76.7%	78.2%	559
370 網	29.0%	55.9%	63.7%	65.1%	66.9%	69.5%	765
380 網	16.5%	47.3%	51.6%	54.3%	55.3%	60.1%	188
300 類他	33.0%	57.1%	62.7%	65.6%	67.5%	69.3%	203
300 類全体	29.7%	57.2%	65.2%	67.7%	69.9%	72.0%	2,820

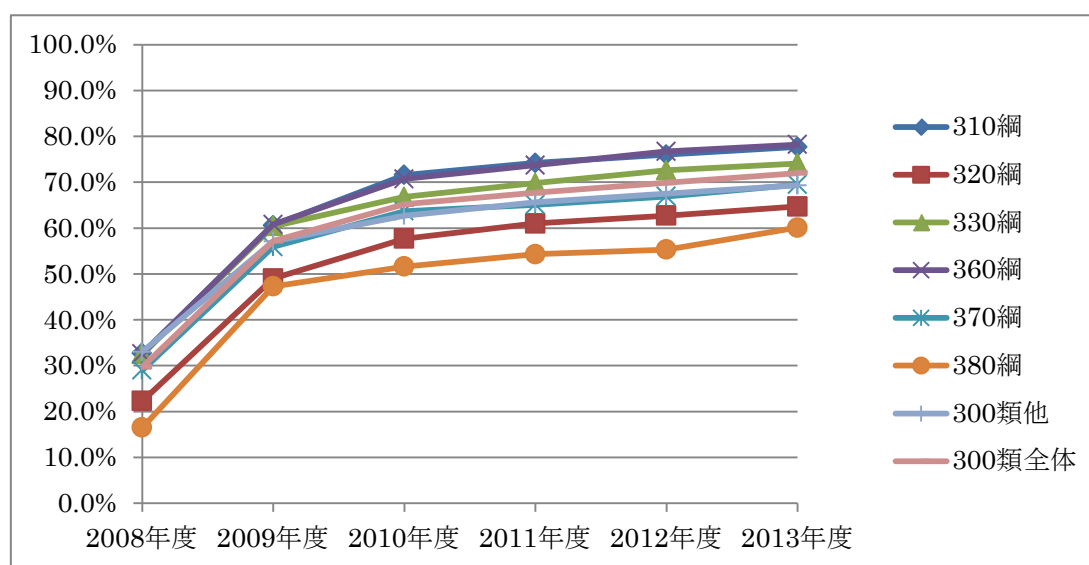


図 25 累積貸出率推移社会科学分野内比較（2008 年度受入図書）

(3) 自然科学分野

自然科学について集計したものが以下表 58 から表 63、図 26 から図 28 である。全体を概況すると、400 類の主題より 500 類の主題が低い値を推移しているものの、ほとんどの主題の値の推移を示す曲線が「400 類全体」および「400 類他」の曲線に重なっている。410 綱数学が 400 類全体より高い値を推移していることと、420 綱物理学が受入の翌々年度に累積貸出率がほとんど増加しないことが特徴的である。460 綱生物学、420 綱建築学の推移は年度によりばらつきがある。2006 年度受入図書以外の図書群では、510 綱土木工学、490 綱医学は低い値を推移していた。

受入年度別には次のような特徴が見られた。

2006 年度受入図書では、ほとんどの主題の曲線が重なって推移している。410 綱数学のみ受入の 2 年後に 80.3%のタイトルが貸出され、その後 2%ずつ累積貸出率が増加している。受入の翌年度に約 70%以上のタイトルが貸出されていた 420 綱物理学と 460 綱生物学は、受入図書タイトル数が少ないこともあり受入から 2 年後以降の累積貸出率の変化量は 410 綱よりも小さくなっている。

2007 年度受入図書においては、410 綱数学と 540 綱電気・電子工学の曲線がほとんど重なって推移している。また 420 綱物理学が受入の翌年度には 81.7%のタイトルが貸出される一方、490 綱医学や 510 綱土木工学は同時期に約 56%にとどまり、全体の中でも最も低い数値を推移している。

2008 年度受入図書についても、410 綱数学と 540 綱電気・電子工学の曲線の重なり等、2007 年度受入図書に見られた特徴が観測された。420 綱物理学の推移は 2007 年度受入図書に比較して他の主題との差が顕著となり、受入の翌年度には 89.3%のタイトルが貸出された。一方、490 綱医学は 50.5%にとどまった。

表 58 累積貸出図書タイトル数推移自然科学分野内比較（2006 年度受入図書）

	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
410 綱	100	255	289	300	307	313	360
420 綱	42	131	135	139	144	146	183
460 綱	53	118	129	133	136	137	167
490 綱	365	979	1,136	1,199	1,236	1,249	1,579
400 類全体	652	1,743	1,982	2,072	2,131	2,154	2,669
400 類他	59	148	180	186	191	192	254
510 綱	67	148	168	176	185	188	257
520 綱	49	127	155	170	176	179	241
540 綱	47	141	164	179	183	188	237
500 類全体	226	609	722	776	810	825	1,079
500 類他	63	193	235	251	266	270	344

表 59 累積貸出率推移自然科学分野内比較（2006 年度受入図書）

	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
410 網	27.8%	70.8%	80.3%	83.3%	85.3%	86.9%	360
420 網	23.0%	71.6%	73.8%	76.0%	78.7%	79.8%	183
460 網	31.7%	70.7%	77.2%	79.6%	81.4%	82.0%	167
490 網	23.1%	62.0%	71.9%	75.9%	78.3%	79.1%	1,579
400 類全体	24.4%	65.3%	74.3%	77.6%	79.8%	80.7%	2,669
400 類他	23.2%	58.3%	70.9%	73.2%	75.2%	75.6%	254
510 網	26.1%	57.6%	65.4%	68.5%	72.0%	73.2%	257
520 網	20.3%	52.7%	64.3%	70.5%	73.0%	74.3%	241
540 網	19.8%	59.5%	69.2%	75.5%	77.2%	79.3%	237
500 類全体	20.9%	56.4%	66.9%	71.9%	75.1%	76.5%	1,079
500 類他	18.3%	56.1%	68.3%	73.0%	77.3%	78.5%	344

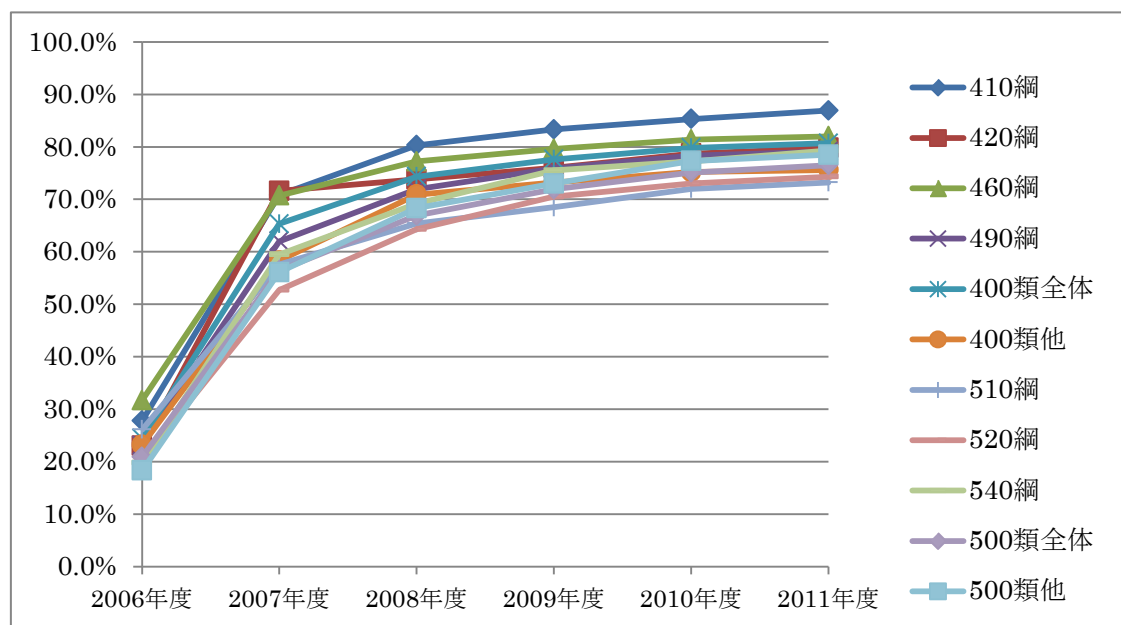


図 26 累積貸出率推移自然科学分野内比較（2006 年度受入図書）

表 60 累積貸出図書タイトル数推移自然科学分野内比較（2007 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
410 綱	121	318	349	376	388	393	447
420 綱	83	125	129	132	133	135	153
460 綱	76	126	137	140	140	142	200
490 綱	420	848	956	1,021	1,041	1,121	1,686
400 類全体	845	1,645	1,820	1,933	1,968	2,061	2,821
400 類他	145	228	249	264	266	270	335
510 綱	64	129	141	149	152	157	251
520 綱	66	126	144	152	154	162	244
540 綱	89	160	183	196	199	203	227
500 類全体	313	593	679	718	732	752	997
500 類他	94	178	211	221	227	230	275

表 61 累積貸出率推移自然科学分野内比較（2007 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
410 綱	27.1%	71.1%	78.1%	84.1%	86.8%	87.9%	447
420 綱	54.2%	81.7%	84.3%	86.3%	86.9%	88.2%	153
460 綱	38.0%	63.0%	68.5%	70.0%	70.0%	71.0%	200
490 綱	24.9%	50.3%	56.7%	60.6%	61.7%	66.5%	1,686
400 類全体	30.0%	58.3%	64.5%	68.5%	69.8%	73.1%	2,821
400 類他	43.3%	68.1%	74.3%	78.8%	79.4%	80.6%	335
510 綱	25.5%	51.4%	56.2%	59.4%	60.6%	62.5%	251
520 綱	27.0%	51.6%	59.0%	62.3%	63.1%	66.4%	244
540 綱	39.2%	70.5%	80.6%	86.3%	87.7%	89.4%	227
500 類全体	31.4%	59.5%	68.1%	72.0%	73.4%	75.4%	997
500 類他	34.2%	64.7%	76.7%	80.4%	82.5%	83.6%	275

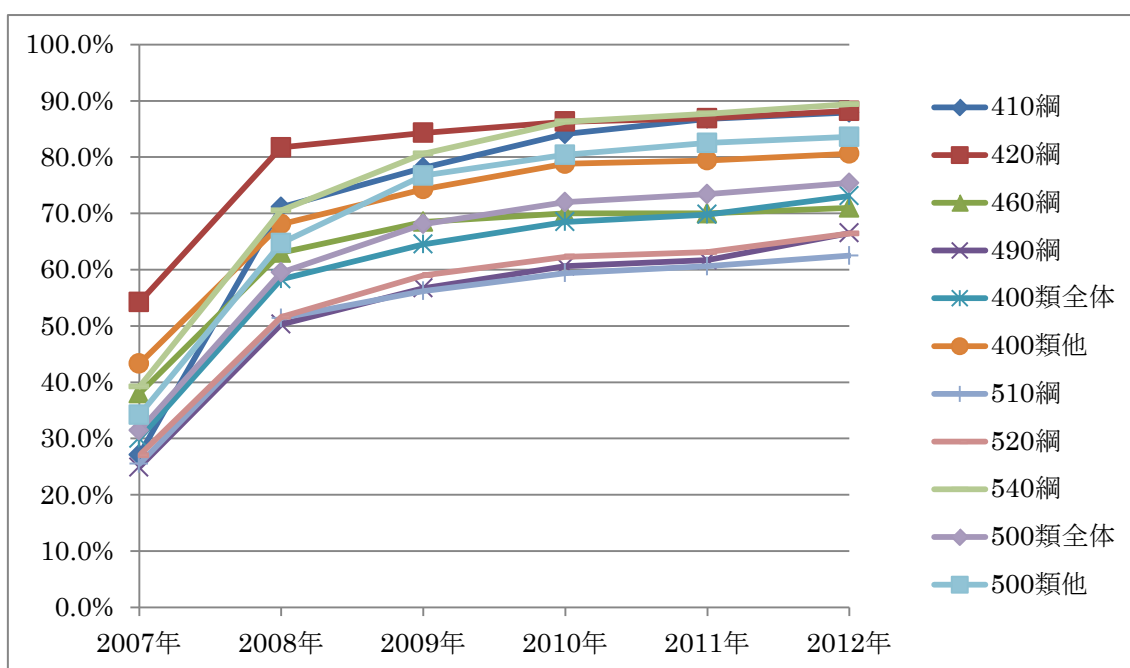


図 27 累積貸出率推移自然科学分野内比較（2007 年度受入図書）

表 62 累積貸出図書タイトル数推移自然科学分野内比較（2008 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
410 網	113	203	222	227	231	235	302
420 網	141	183	186	186	189	190	205
460 網	77	119	129	131	134	137	160
490 網	364	716	812	845	877	907	1,417
400 類全体	845	1,469	1,619	1,665	1,710	1,751	2,420
400 類他	150	248	270	276	279	282	336
510 網	70	131	148	150	156	158	220
520 網	61	141	203	212	222	227	298
540 網	101	189	210	213	223	226	292
500 類全体	317	603	723	744	782	796	1,088
500 類他	85	142	162	169	181	185	278

表 63 累積貸出率推移自然科学分野内比較（2008 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
410 網	37.4%	67.2%	73.5%	75.2%	76.5%	77.8%	302
420 網	68.8%	89.3%	90.7%	90.7%	92.2%	92.7%	205
460 網	48.1%	74.4%	80.6%	81.9%	83.8%	85.6%	160
490 網	25.7%	50.5%	57.3%	59.6%	61.9%	64.0%	1,417
400 類全体	34.9%	60.7%	66.9%	68.8%	70.7%	72.4%	2,420
400 類他	44.6%	73.8%	80.4%	82.1%	83.0%	83.9%	336
510 網	31.8%	59.5%	67.3%	68.2%	70.9%	71.8%	220
520 網	20.5%	47.3%	68.1%	71.1%	74.5%	76.2%	298
540 網	34.6%	64.7%	71.9%	72.9%	76.4%	77.4%	292
500 類全体	29.1%	55.4%	66.5%	68.4%	71.9%	73.2%	1,088
500 類他	30.6%	51.1%	58.3%	60.8%	65.1%	66.5%	278

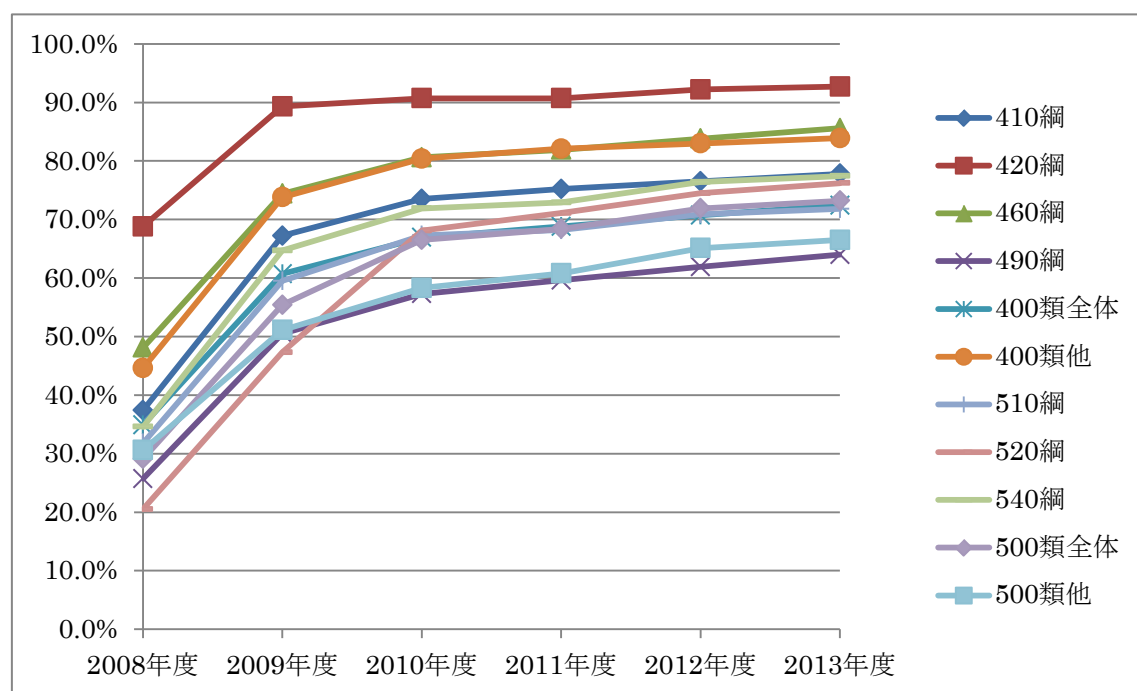


図 28 累積貸出率推移自然科学分野内比較（2008 年度受入図書）

（４）その他の分野

残りの、細区分された主題が２種類であった 000 類と 700 類の結果を表 64 から表 69、図 29 から図 31 に示す。全体の概況は、007 目情報科学および 780 綱体育は他の 000 類、700 類、および 000 類全体や 700 類全体の曲線と 20% 近く高い値を推移している。このことから、007 目と 780 綱は他の 000 類、700 類とは異なった推移をたどることが考えられる。すなわち、貸出の傾向が異なっていると考えられる。010 綱図書館情報学と 720 綱絵画は受入年度によって傾向が異なった。

次に受入年度別に検討を行う。

2006 年度受入図書については、まず 700 類は 780 綱体育が 000 類および他の 700 類の主題より高い値を推移しているものの、どの主題もおおむね近い数値を推移している。一方 000 類は、007 目情報科学が 63.0% から 81.5% と、000 類の中で最も高い値を推移しているが、010 綱図書館情報学が 50% 台を推移し、その他の 000 類はさらに低い値を推移しており、両者が他の主題とかけ離れて推移していることがわかる。010 綱の多くを所蔵する分館そのものにおいても受入後 6 年間の累積貸出率が 60% 台と低い数値となっている。

2007 年度受入図書においても、007 目情報科学と 780 綱体育が他の主題に比べて高い値を推移している傾向が見られる。780 綱は受入翌年度以降の 4 年間の累積貸出率の増加が 71.6% から 80.1% まで 8.5% の増加にとどまっていた、同時期に 71.1% から 88.7% まで 17.6% 累積貸出率が増加した 007 目と曲線が分かれている。2006 年度受入図書に見られた極端に低い値を推移する主題はなかったため、010 綱が他の主題と離れて低い数値を推移する現象は、2006 年度受入図書のみの特性と考えられる。

2008 年度受入図書については、007 目と 720 綱の曲線が重なるように推移し、その下方を、780 綱を先頭に他の主題が推移している。残りの図書群の曲線もそれとほとんど重なるか平行するように推移しており、全体を 20% 以上上回るまたは下回る極端な値の推移は見られなかった。010 綱と 000 類全体、007 目と 010 綱を除いた図書群の 3 種類の曲線はほとんど重なっている。

表 64 累積貸出図書タイトル数推移その他分野内比較（2006 年度受入図書）

	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
007 目	65	208	238	254	263	269	330
010 網	22	92	112	117	119	120	229
000 類他	89	199	246	280	305	309	436
000 類全体	176	499	596	651	687	698	995
720 網	33	126	163	168	177	178	229
780 網	93	264	286	299	304	305	348
700 類全体	216	674	780	818	852	859	1,112
700 類他	90	284	331	351	371	376	535

表 65 累積貸出率推移その他分野内比較（2006 年度受入図書）

	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
007 目	19.7%	63.0%	72.1%	77.0%	79.7%	81.5%	330
010 網	9.6%	40.2%	48.9%	51.1%	52.0%	52.4%	229
000 類他	8.9%	20.0%	24.7%	28.1%	30.7%	31.1%	436
000 類全体	17.7%	50.2%	59.9%	65.4%	69.0%	70.2%	995
720 網	14.4%	55.0%	71.2%	73.4%	77.3%	77.7%	229
780 網	26.7%	75.9%	82.2%	85.9%	87.4%	87.6%	348
700 類全体	19.4%	60.6%	70.1%	73.6%	76.6%	77.2%	1,112
700 類他	16.8%	53.1%	61.9%	65.6%	69.3%	70.3%	535

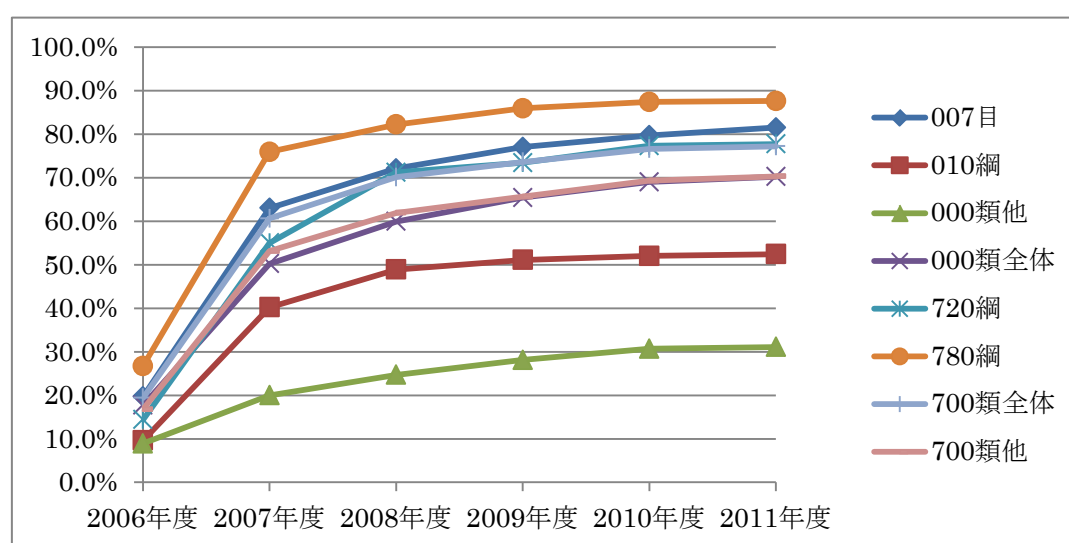


図 29 累積貸出率推移その他分野内比較（2006 年度受入図書）

表 66 累積貸出図書タイトル数推移その他分野内比較（2007 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
007 目	131	202	229	244	248	252	284
010 綱	60	119	129	138	143	150	213
000 類他	134	217	246	262	270	278	382
000 類全体	325	538	604	644	661	680	879
720 綱	49	99	113	117	118	124	194
780 綱	165	245	260	268	269	274	342
700 類全体	322	553	606	633	645	675	981
700 類他	108	209	233	248	258	277	445

表 67 累積貸出率推移その他分野内比較（2007 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
007 目	46.1%	71.1%	80.6%	85.9%	87.3%	88.7%	284
010 綱	28.2%	55.9%	60.6%	64.8%	67.1%	70.4%	213
000 類他	35.1%	56.8%	64.4%	68.6%	70.7%	72.8%	382
000 類全体	37.0%	61.2%	68.7%	73.3%	75.2%	77.4%	879
720 綱	25.3%	51.0%	58.2%	60.3%	60.8%	63.9%	194
780 綱	48.2%	71.6%	76.0%	78.4%	78.7%	80.1%	342
700 類全体	32.8%	56.4%	61.8%	64.5%	65.7%	68.8%	981
700 類他	24.3%	47.0%	52.4%	55.7%	58.0%	62.2%	445

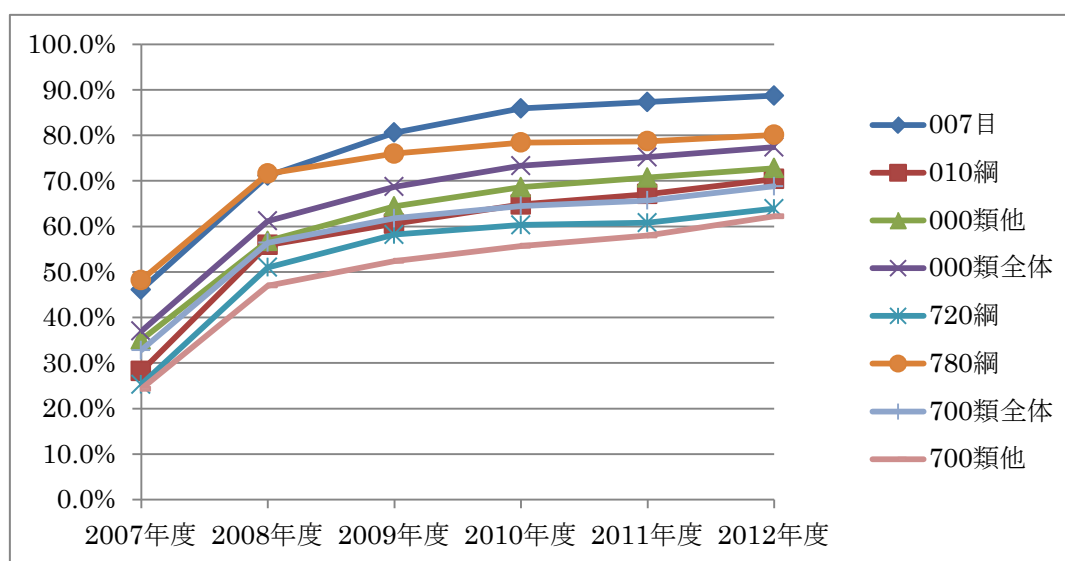


図 30 累積貸出率推移その他分野内比較（2007 年度受入図書）

表 68 累積貸出図書タイトル数推移その他分野内比較（2008 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
007 目	142	248	272	287	298	305	393
010 綱	60	115	129	130	136	142	220
000 類他	156	271	312	322	336	344	504
000 類全体	358	634	713	739	770	791	1,117
720 綱	66	132	146	149	159	163	207
780 綱	157	293	326	329	347	362	495
700 類全体	347	662	743	765	827	871	1,255
700 類他	124	237	271	287	321	346	553

表 69 累積貸出率推移その他分野内比較（2008 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
007 目	36.1%	63.1%	69.2%	73.0%	75.8%	77.6%	393
010 綱	27.3%	52.3%	58.6%	59.1%	61.8%	64.5%	220
000 類他	31.0%	53.8%	61.9%	63.9%	66.7%	68.3%	504
000 類全体	32.1%	56.8%	63.8%	66.2%	68.9%	70.8%	1,117
720 綱	31.9%	63.8%	70.5%	72.0%	76.8%	78.7%	207
780 綱	31.7%	59.2%	65.9%	66.5%	70.1%	73.1%	495
700 類全体	27.6%	52.7%	59.2%	61.0%	65.9%	69.4%	1,255
700 類他	22.4%	42.9%	49.0%	51.9%	58.0%	62.6%	553

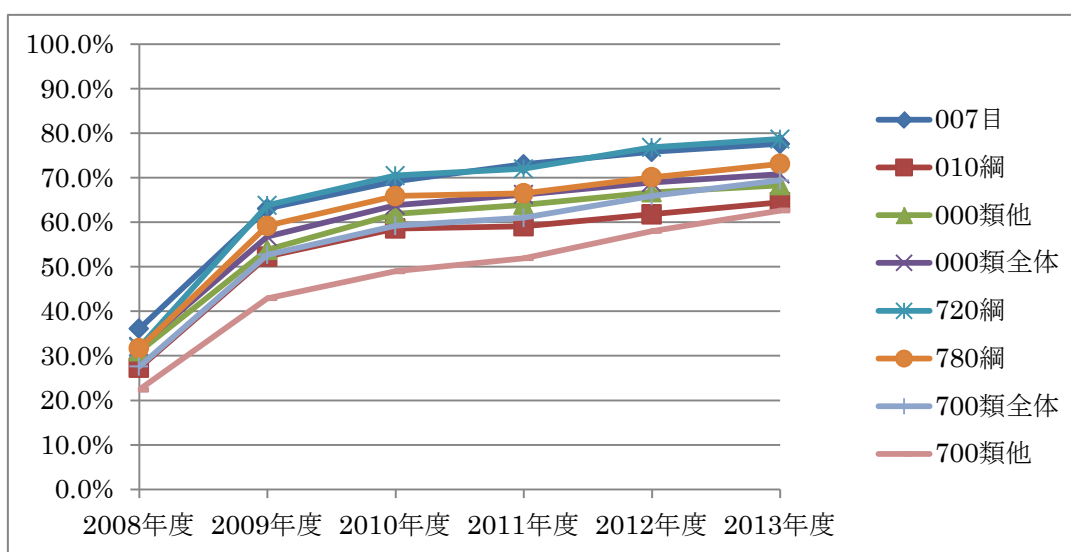


図 31 累積貸出率推移その他分野内比較（2008 年度受入図書）

3.1.4 累積貸出率まとめ

以上の結果をまとめると次のことが考えられる。

一次区分別では 400 類、800 類が最も高い値を推移し、200 類と 900 類が最も低い値を推移し、他の主題とは異なった曲線を描いていた。400 類など累積貸出率の高い主題ほど急激に増加し、受入年度やその翌年度には半数近くの受入図書が貸出される。しかし、200 類や 900 類は早く受入から 3 年で半数近くの受入図書が貸出される一方、その後の変化量は急激には減少せず、他の主題よりも大きい傾向をもっていた。

細区分別では、各受入年度を平均すると、受入の翌年度に約 70%の受入図書が貸出されていた。累積貸出率の値の変化が急激な主題は 007 目情報科学、140 綱心理学、410 綱数学、420 綱物理学、540 綱電気・電子工学、780 綱体育であった。一方受入の翌年に受入図書の 40%未満の図書のみが貸出された主題は 210 綱日本史、910 綱日本文学であった。

次いで同じ一次区分内の主題群と細区分した主題の推移を比較した。

000 類では 007 目情報科学と 010 綱図書館情報学、その他の 000 類の主題群で異なった推移となった。曲線の形状こそ似ているものの、007 目情報科学のほうが、010 綱図書館情報学よりも、受入の翌年度に初めて貸出される図書の割合が高いため、累積貸出率が高い値を推移していた。140 綱も同様に他の 100 類の主題群より高い値を推移し、受入の翌年度までにほとんどの受入図書が貸出されている。210 綱日本史は、200 類全体、および 200 類から 210 綱を抜いた図書群の、いずれの図書群よりも低い数値をたどっていた。これは、史料集や地方史資料が閾値を低くしていることが考えられる。200 類の他の主題では、東洋史や西洋史といった地域区分が主題となっており、こうした主題では史料集等は非日本語で記述されている。これらは今回の研究では分析対象外となっており、母数に史料集等貸出されにくい図書が少なかったため、閾値が高くなっていたと考えられる。490 綱医学は、400 類全体および 400 類から細区分した主題を除いた図書群よりも低い数値をたどっていた。これについては、改版の影響や教科書への利用の偏りが理由として考えられる。その他の 400 類の主題も細区分された主題同士で異なる傾向があるとみられる。500 類についても、540 綱電気・電子工学と 510 綱土木工学では、540 綱の方が高い値を推移している。700 類も、780 綱体育が、受入の翌年度の累積貸出率の増加量がそれ以外の主題群よりも大きかった、すなわち受入の翌年度にほとんどの受入図書が貸出される傾向があることから、全体を通して高い値を推移している。300 類、800 類と 900 類は、全体および細区分した主題を除いた残りの図書群とで、曲線が大きく離れることなく重なるようにして値が推移していた。そのため、日本語図書に限れば、800 類、900 類内での細区分同士の傾向の差は小さいと考えられる。

以上のことから、主題によって累積貸出率の推移には受入年度とその翌年度で受入図書の貸出される割合の高低と、その後の累積貸出率の増加の有無による違いがみられると考えられる。007 目、010 綱、140 綱、780 綱は一次区分とは異なる傾向をもつと考えられる。

3.2 年度別貸出率推移

累積貸出率の推移から、受入の翌年度には受入図書のほとんどが貸出される主題とそうでない主題があることがわかった。しかしこれでは、序論で触れたとおり、当初貸出された図書が貸出されなくなる、すなわち貸出の減少を観察することはできない。そこで以下からは貸出の減少の観察を試みる。まずは年度別貸出率を算出した。これは、ある一年度間における、受入図書のうち貸出された図書の割合を示したものである。ただし各年度における年度別貸出率に含まれる図書群同士は必ずしも一致しない。ここでは、あくまで、今まで貸出がなかった図書が貸出された場合や、前年度貸出がなくこの年度に貸出された図書といったものを含めても、貸出される図書のタイトル数自体が減少していることを示すものである。減少量の大きい主題は、こうした図書が少ない、すなわちある年度に貸出がなくなってしまう図書が多いことが予想される。

受入年度における年度別貸出率はすべての受入図書群が揃っていないため低い数値となっている。また、2011 年度は東日本大震災により図書館の開館日数が通常より短いため低い数値となっている。そのため図ではこの 2 つを含めたものと除外したものの双方を示す。

3.2.1 日本十進分類一次区分別比較

まず各受入年度における年度別貸出率の平均変化率を、線形回帰直線の傾きで表したものが表 70 である。3 年度分受入年度を比較した平均値が「年度間平均」、3 年度分受入年度を比較した標準偏差が「標準偏差」である。受入年度にかかわらず、年度別貸出率は、おおむねどの主題も減少傾向である。標準偏差の小さい 500 類は、この傾きが年度を問わず観測されることから、減少量が大きい主題であることがいえる。

表 70 日本十進分類一次区分別の年度別貸出率の平均変化率

	2006 年度	2007 年度	2008 年度	年度間平均	標準偏差
000 類	-0.038	-0.038	-0.046	-0.041	0.004
100 類	-0.031	-0.023	-0.017	-0.024	0.006
200 類	-0.024	-0.019	-0.014	-0.019	0.004
300 類	-0.041	-0.034	-0.044	-0.040	0.004
400 類	-0.063	-0.038	-0.044	-0.048	0.011
500 類	-0.049	-0.050	-0.048	-0.049	0.001
600 類	-0.056	-0.051	-0.048	-0.052	0.003
700 類	-0.083	-0.042	-0.025	-0.050	0.024
800 類	-0.021	-0.005	-0.015	-0.014	0.007
900 類	-0.016	-0.012	-0.019	-0.016	0.003
受入全体	-0.046	-0.034	-0.037	-0.039	0.005

次に、受入年度別の集計結果を以下表 71 から表 76、図 32 から図 37 に示していく。

2006 年度受入図書については、2010 年度までは、700 類の年度別貸出率の減少量が最も大きく、56.3%から 32.2%と 24.1%減少している。しかし 2007 年度から 2013 年度全体で見ると 400 類が 32.9%と最も減少している。200 類と 900 類は他の主題と離れて低い数値を推移している。

表 71 年度別貸出図書タイトル数推移（2006 年度受入図書）

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	210年度	2011年度	受入件数
000 類	176	459	420	389	343	246	995
100 類	142	383	365	352	291	201	933
200 類	157	318	288	250	246	132	1,060
300 類	744	1,693	1,555	1,441	1,278	863	3,341
400 類	652	1,637	1,521	1,329	1,140	766	2,669
500 類	226	549	526	449	398	218	1,079
600 類	99	245	237	193	168	102	492
700 類	216	626	541	425	358	134	1,112
800 類	102	201	182	196	171	116	357
900 類	105	177	161	162	144	90	596
受入全体	2,619	6,288	5,796	5,186	4,537	2,868	12,634

表 72 年度別貸出率推移（2006 年度受入図書）

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	受入件数
000 類	17.7%	46.1%	42.2%	39.1%	34.5%	24.7%	995
100 類	15.2%	41.1%	39.1%	37.7%	31.2%	21.5%	933
200 類	14.8%	30.0%	27.2%	23.6%	23.2%	12.5%	1,060
300 類	22.3%	50.7%	46.5%	43.1%	38.3%	25.8%	3,341
400 類	24.4%	61.3%	57.0%	49.8%	42.7%	28.7%	2,669
500 類	20.9%	50.9%	48.7%	41.6%	36.9%	20.2%	1,079
600 類	20.1%	49.8%	48.2%	39.2%	34.1%	20.7%	492
700 類	19.4%	56.3%	48.7%	38.2%	32.2%	12.1%	1,112
800 類	28.6%	56.3%	51.0%	54.9%	47.9%	32.5%	357
900 類	17.6%	29.7%	27.0%	27.2%	24.2%	15.1%	596
受入全体	20.7%	49.8%	45.9%	41.0%	35.9%	22.7%	12,634

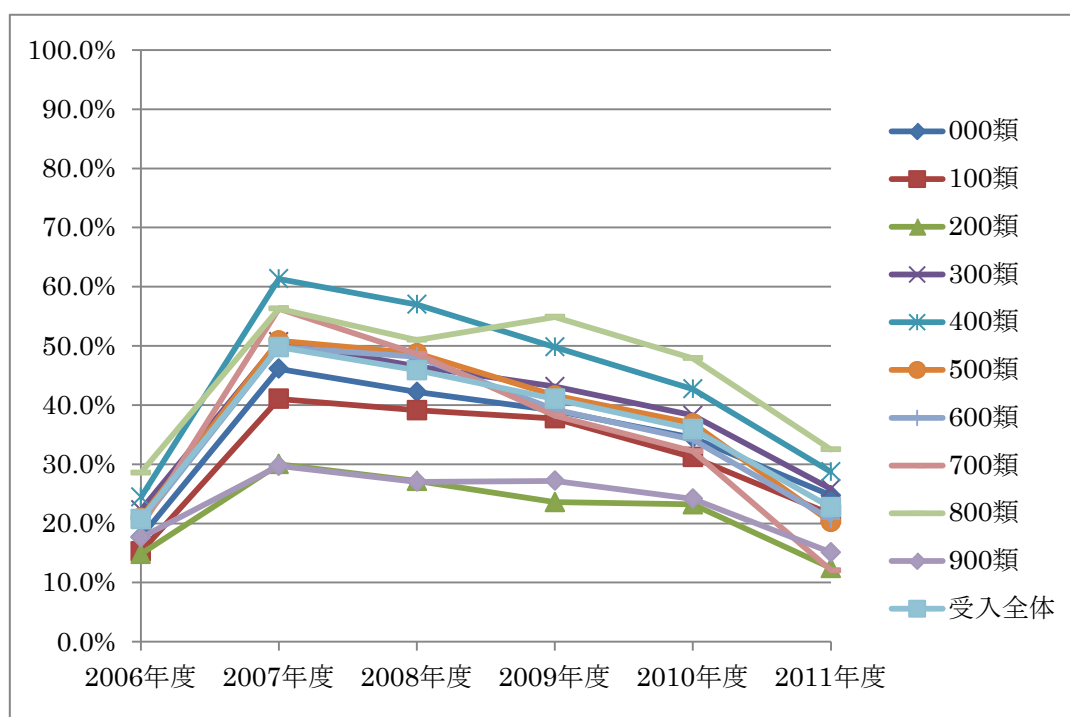


図 32 年度別貸出率推移 (2006 年度受入図書)

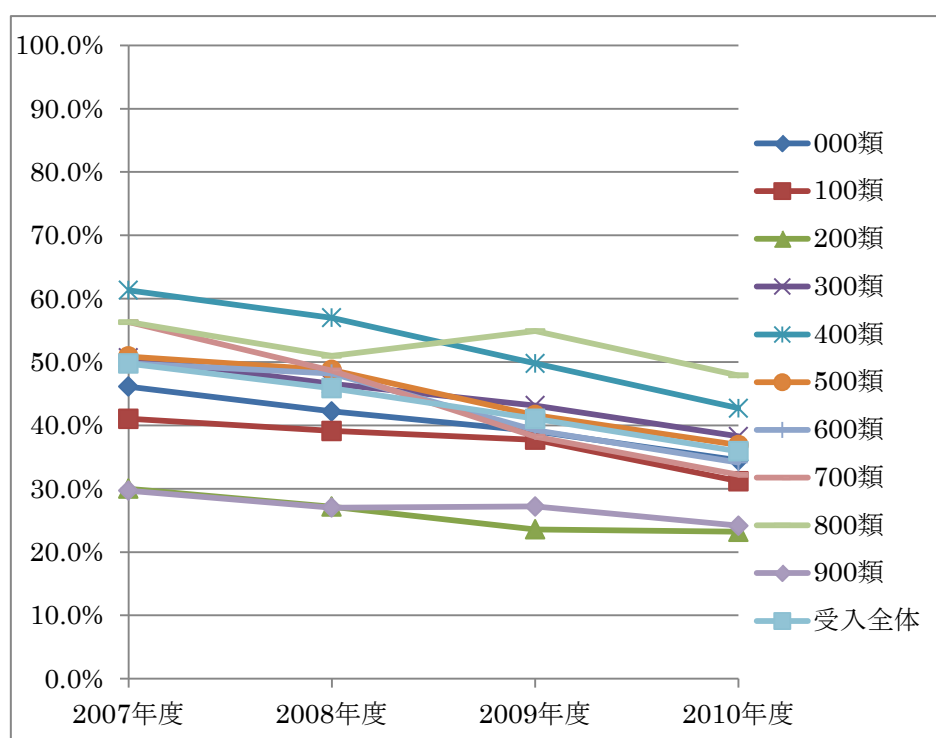


図 33 年度別貸出率推移 (2006 年度受入図書、受入年度と 2011 年度を除外)

2007 年度受入図書では、2006 年度受入図書と異なり、400 類の突出した減少はみられない。200 類と 900 類以外の主題が重なるように値は推移している。200 類と 900 類の低い値の推移は 2006 年度受入図書同様の傾向であるが、減少量は 2006 年度より小さい。

表 73 年度別貸出図書タイトル数推移 (2007 年度受入図書)

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012 年度	受入件数
000 類	325	439	408	360	242	308	879
100 類	174	268	239	227	160	204	651
200 類	146	241	230	211	146	167	1,007
300 類	802	1,290	1,225	1,140	768	914	2,820
400 類	845	1,501	1,336	1,211	834	1,060	2,821
500 類	313	521	481	409	237	327	997
600 類	96	181	160	139	71	97	408
700 類	322	458	392	296	98	294	981
800 類	106	172	161	195	153	159	340
900 類	67	123	131	109	82	100	608
受入全体	3,196	5,194	4,763	4,297	2,791	3,630	11,512

表 74 年度別貸出率推移 (2007 年度受入図書)

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012 年度	受入件数
000 類	37.0%	49.9%	46.4%	41.0%	27.5%	35.0%	879
100 類	26.7%	41.2%	36.7%	34.9%	24.6%	31.3%	651
200 類	14.5%	23.9%	22.8%	21.0%	14.5%	16.6%	1,007
300 類	28.4%	45.7%	43.4%	40.4%	27.2%	32.4%	2,820
400 類	30.0%	53.2%	47.4%	42.9%	29.6%	37.6%	2,821
500 類	31.4%	52.3%	48.2%	41.0%	23.8%	32.8%	997
600 類	23.5%	44.4%	39.2%	34.1%	17.4%	23.8%	408
700 類	32.8%	46.7%	40.0%	30.2%	10.0%	30.0%	981
800 類	31.2%	50.6%	47.4%	57.4%	45.0%	46.8%	340
900 類	11.0%	20.2%	21.5%	17.9%	13.5%	16.4%	608
受入全体	27.8%	45.1%	41.4%	37.3%	24.2%	31.5%	11,512

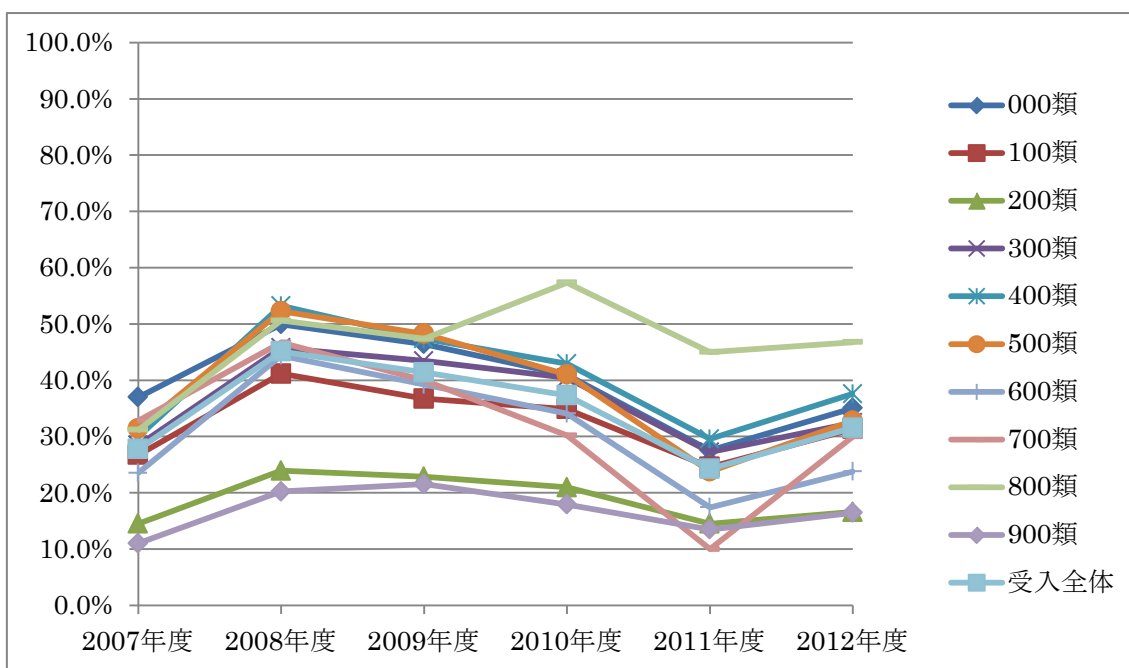


図 34 年度別貸出率推移 (2007 年度受入図書)

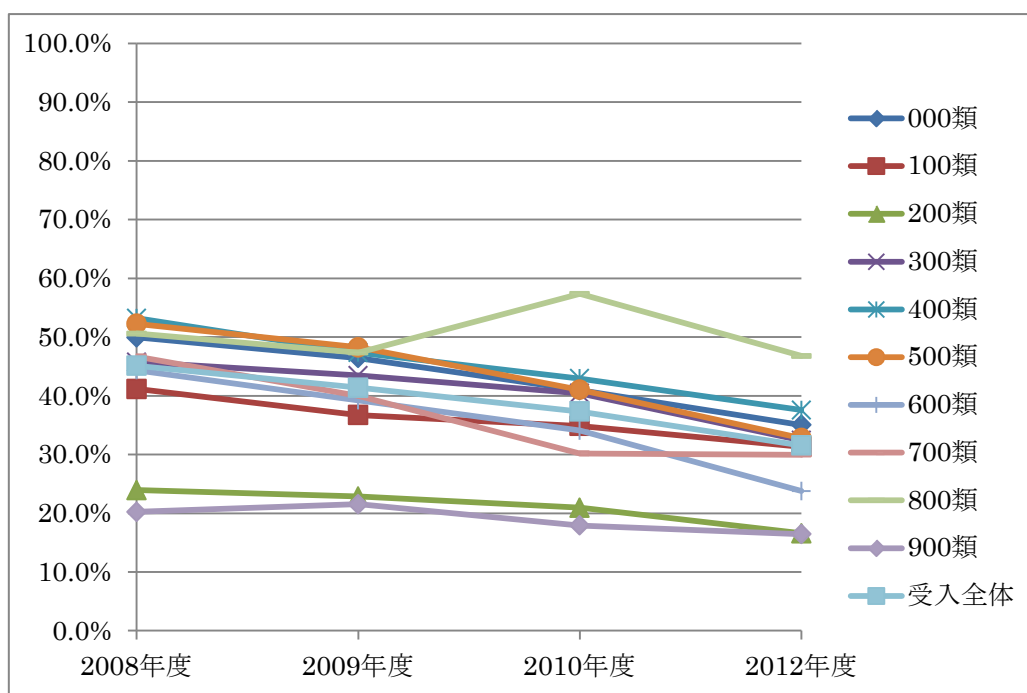


図 35 年度別貸出率推移 (2007 年度受入図書、受入年度と 2011 年度を除く)

2008 年度受入図書においては、100 類、200 類、800 類、900 類の 2009 年度から 2013 年度にかけての減少幅が、それぞれ 8.0%、6.0%、6.4%、8.1%と他の主題が 10%を越える減少量に対して小さくなっている。

表 75 年度別貸出図書タイトル数推移 (2008 年度受入図書)

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
000 類	358	530	452	286	344	326	1,117
100 類	152	251	236	154	231	208	540
200 類	158	320	316	208	285	244	1,267
300 類	887	1,509	1,303	867	1,086	953	2,991
400 類	845	1,332	1,219	854	987	914	2,420
500 類	317	529	522	260	355	354	1,088
600 類	142	259	211	133	177	159	492
700 類	347	550	417	134	381	410	1,255
800 類	114	180	164	130	158	157	344
900 類	72	149	121	98	105	103	567
受入全体	3,392	5,609	4,961	3,124	4,109	3,828	12,081

表 76 年度別貸出率推移 (2008 年度受入図書)

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
000 類	32.1%	47.4%	40.5%	25.6%	30.8%	29.2%	1,117
100 類	28.1%	46.5%	43.7%	28.5%	42.8%	38.5%	540
200 類	12.5%	25.3%	24.9%	16.4%	22.5%	19.3%	1,267
300 類	29.7%	50.5%	43.6%	29.0%	36.3%	31.9%	2,991
400 類	34.9%	55.0%	50.4%	35.3%	40.8%	37.8%	2,420
500 類	29.1%	48.6%	48.0%	23.9%	32.6%	32.5%	1,088
600 類	28.9%	52.6%	42.9%	27.0%	36.0%	32.3%	492
700 類	27.6%	43.8%	33.2%	10.7%	30.4%	32.7%	1,255
800 類	33.1%	52.3%	47.7%	37.8%	45.9%	45.6%	344
900 類	12.7%	26.3%	21.3%	17.3%	18.5%	18.2%	567
受入全体	28.1%	46.4%	41.1%	25.9%	34.0%	31.7%	12,081

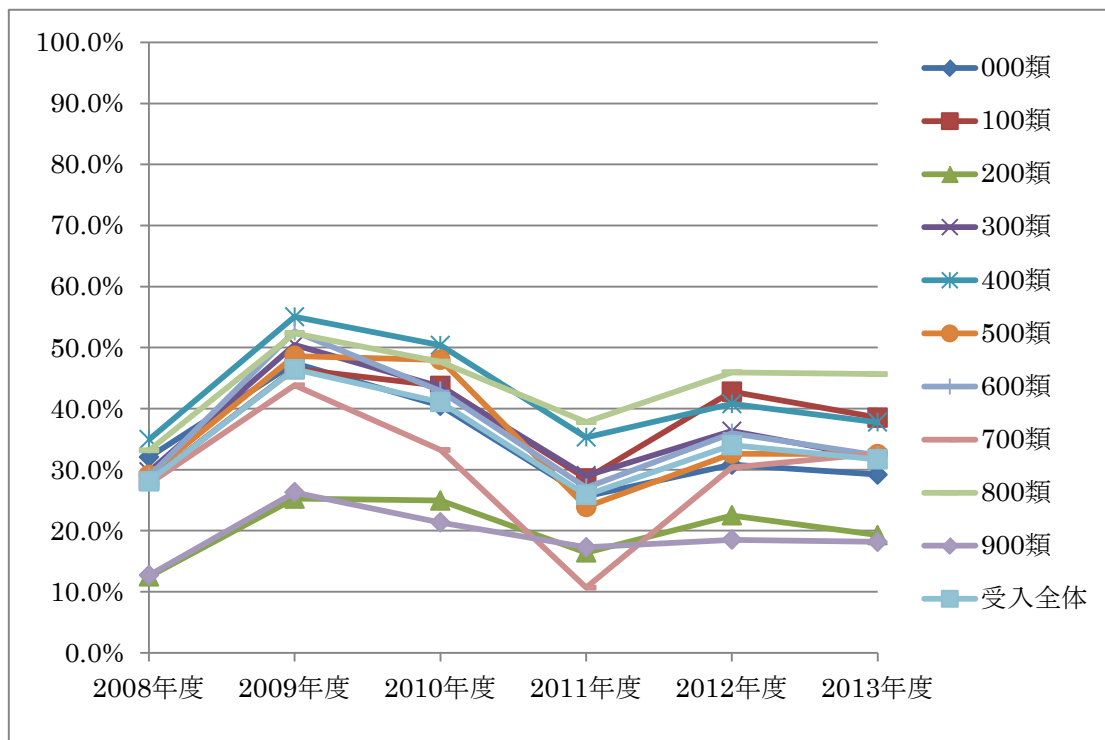


図 36 年度別貸出率推移 (2008 年度受入図書)

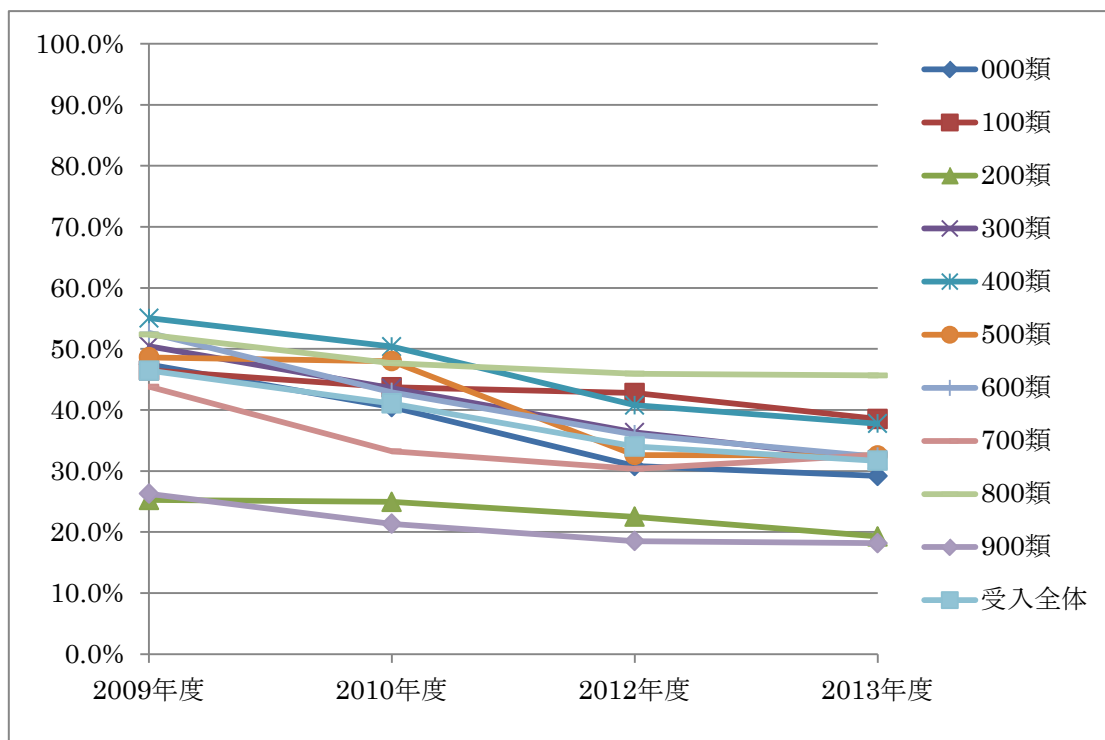


図 37 年度別貸出率推移 (2008 年度受入図書、受入年度と 2011 年度を除く)

3.2.2 細区分主題別比較

次いで、細区分した主題についても集計を行った。その結果を表 77 から表 82、図 38 図 43 に示す。ほとんどの主題は、どの受入年度においても年度を経るごとに値が減少傾向にあるか、ほとんど増減がない。累積貸出率で示されたような値の推移である、遞減的な増加をたどる主題はない。これは、一度は貸出されても、その後は貸出されない図書が存在することを示す。

表 77 細区分主題別年度別貸出図書タイトル数推移（2006 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
007 目	198	167	164	138	114	330
010 綱	87	91	70	55	44	229
140 綱	142	129	135	113	71	228
210 綱	156	136	111	111	66	555
310 綱	164	150	136	112	79	278
320 綱	194	150	142	121	72	402
330 綱	301	288	256	230	142	662
360 綱	384	386	362	327	231	764
370 綱	435	378	369	323	234	768
380 綱	109	99	94	94	52	228
410 綱	242	228	206	194	149	360
420 綱	127	104	98	82	63	183
460 綱	108	101	94	90	69	167
490 綱	909	862	724	578	349	1,579
510 綱	135	132	112	101	44	257
520 綱	105	103	74	60	23	241
540 綱	131	121	117	102	69	237
720 綱	120	110	76	68	22	229
780 綱	245	219	174	141	37	348
810 綱	82	78	86	74	55	146
910 綱	89	87	89	76	40	340

表 78 細区分主題別年度別貸出率推移 (2006 年度受入図書)

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
007 目	60.0%	50.6%	49.7%	41.8%	34.5%	330
010 綱	38.0%	39.7%	30.6%	24.0%	19.2%	229
140 綱	62.3%	56.6%	59.2%	49.6%	31.1%	228
210 綱	28.1%	24.5%	20.0%	20.0%	11.9%	555
310 綱	59.0%	54.0%	48.9%	40.3%	28.4%	278
320 綱	48.3%	37.3%	35.3%	30.1%	17.9%	402
330 綱	45.5%	43.5%	38.7%	34.7%	21.5%	662
360 綱	50.3%	50.5%	47.4%	42.8%	30.2%	764
370 綱	56.6%	49.2%	48.0%	42.1%	30.5%	768
380 綱	47.8%	43.4%	41.2%	41.2%	22.8%	228
410 綱	67.2%	63.3%	57.2%	53.9%	41.4%	360
420 綱	69.4%	56.8%	53.6%	44.8%	34.4%	183
460 綱	64.7%	60.5%	56.3%	53.9%	41.3%	167
490 綱	57.6%	54.6%	45.9%	36.6%	22.1%	1,579
510 綱	52.5%	51.4%	43.6%	39.3%	17.1%	257
520 綱	43.6%	42.7%	30.7%	24.9%	9.5%	241
540 綱	55.3%	51.1%	49.4%	43.0%	29.1%	237
720 綱	52.4%	48.0%	33.2%	29.7%	9.6%	229
780 綱	70.4%	62.9%	50.0%	40.5%	10.6%	348
810 綱	56.2%	53.4%	58.9%	50.7%	37.7%	146
910 綱	26.2%	25.6%	26.2%	22.4%	11.8%	340

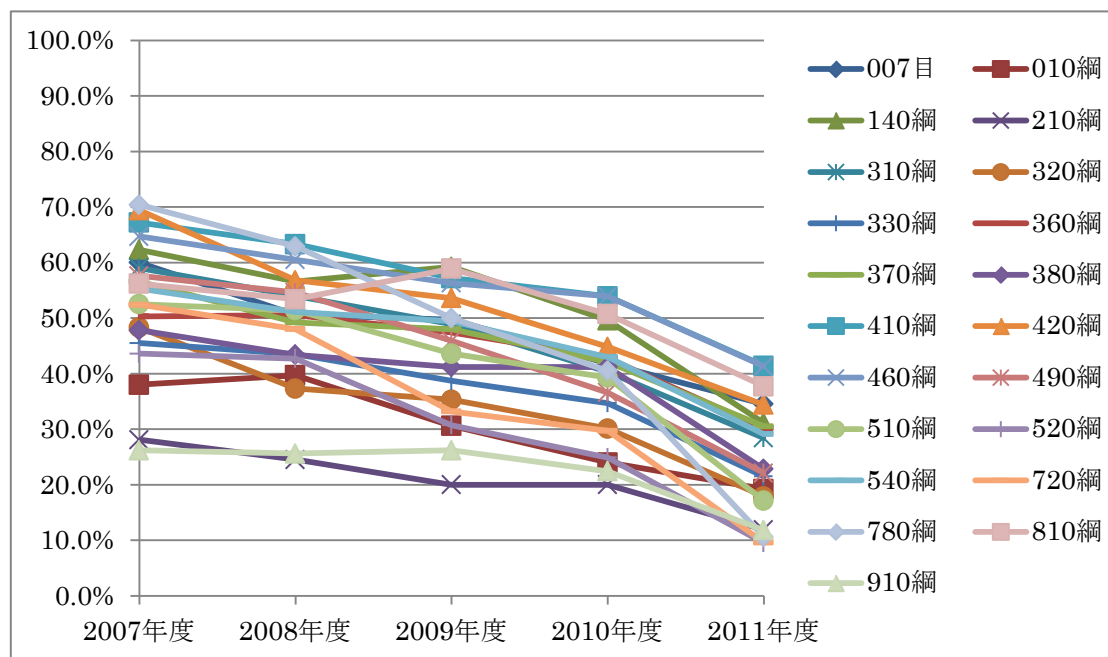


図 38 細区分主題別年度別貸出率推移 (2006 年度受入図書)

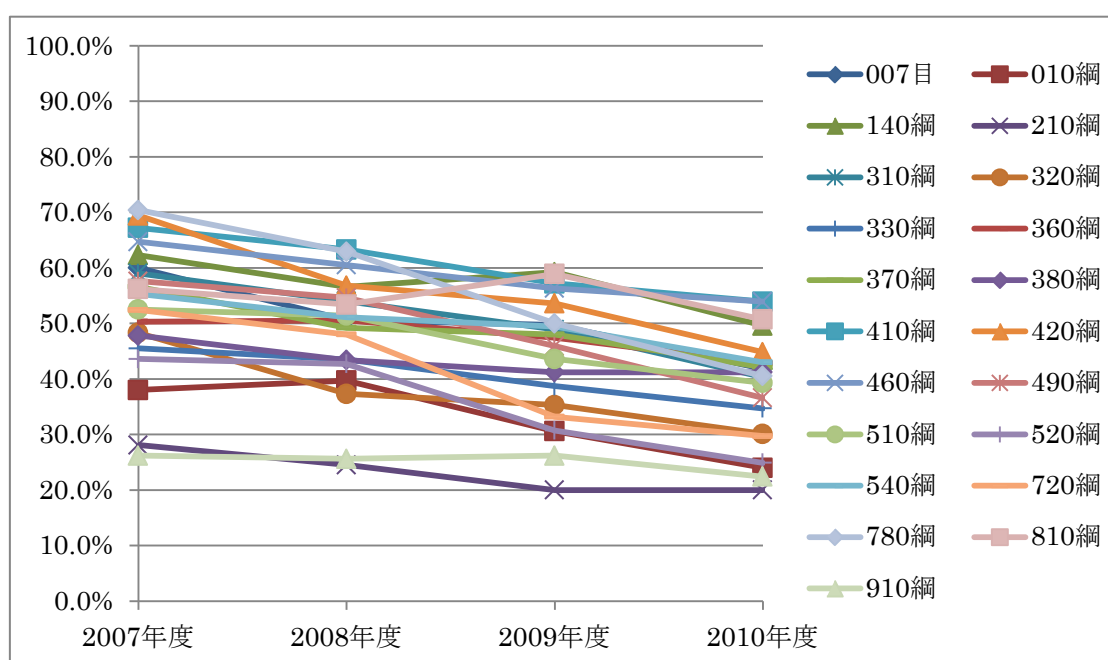


図 39 細区分主題別年度別貸出率推移 (2006 年度受入図書、受入年度と 2011 年度除く)

表 79 細区分主題別年度別貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
007 目	167	160	144	101	114	284
010 綱	106	86	67	46	65	213
140 綱	134	119	110	85	103	201
210 綱	112	88	94	62	73	471
310 綱	173	158	156	92	123	358
320 綱	107	103	101	60	72	237
330 綱	232	210	187	137	153	501
360 綱	291	283	282	208	245	682
370 綱	332	324	274	173	217	717
380 綱	62	62	62	37	46	122
410 綱	303	278	275	214	235	447
420 綱	111	106	97	79	85	153
460 綱	116	111	94	58	76	200
490 綱	766	654	562	355	497	1,686
510 綱	117	107	92	62	79	251
520 綱	113	86	70	21	47	244
540 綱	141	142	122	80	100	227
720 綱	84	67	54	12	53	194
780 綱	204	185	132	38	122	342
810 綱	79	75	89	68	78	145
910 綱	62	64	60	48	53	307

表 80 細区分主題別年度別貸出率推移（2007 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
007 目	58.8%	56.3%	50.7%	35.6%	40.1%	284
010 綱	49.8%	40.4%	31.5%	21.6%	30.5%	213
140 綱	66.7%	59.2%	54.7%	42.3%	51.2%	201
210 綱	23.8%	18.7%	20.0%	13.2%	15.5%	471
310 綱	48.3%	44.1%	43.6%	25.7%	34.4%	358
320 綱	45.1%	43.5%	42.6%	25.3%	30.4%	237
330 綱	46.3%	41.9%	37.3%	27.3%	30.5%	501
360 綱	42.7%	41.5%	41.3%	30.5%	35.9%	682
370 綱	46.3%	45.2%	38.2%	24.1%	30.3%	717
380 綱	50.8%	50.8%	50.8%	30.3%	37.7%	122
410 綱	67.8%	62.2%	61.5%	47.9%	52.6%	447
420 綱	72.5%	69.3%	63.4%	51.6%	55.6%	153
460 綱	58.0%	55.5%	47.0%	29.0%	38.0%	200
490 綱	45.4%	38.8%	33.3%	21.1%	29.5%	1,686
510 綱	46.6%	42.6%	36.7%	24.7%	31.5%	251
520 綱	46.3%	35.2%	28.7%	8.6%	19.3%	244
540 綱	62.1%	62.6%	53.7%	35.2%	44.1%	227
720 綱	43.3%	34.5%	27.8%	6.2%	27.3%	194
780 綱	59.6%	54.1%	38.6%	11.1%	35.7%	342
810 綱	54.5%	51.7%	61.4%	46.9%	53.8%	145
910 綱	20.2%	20.8%	19.5%	15.6%	17.3%	307

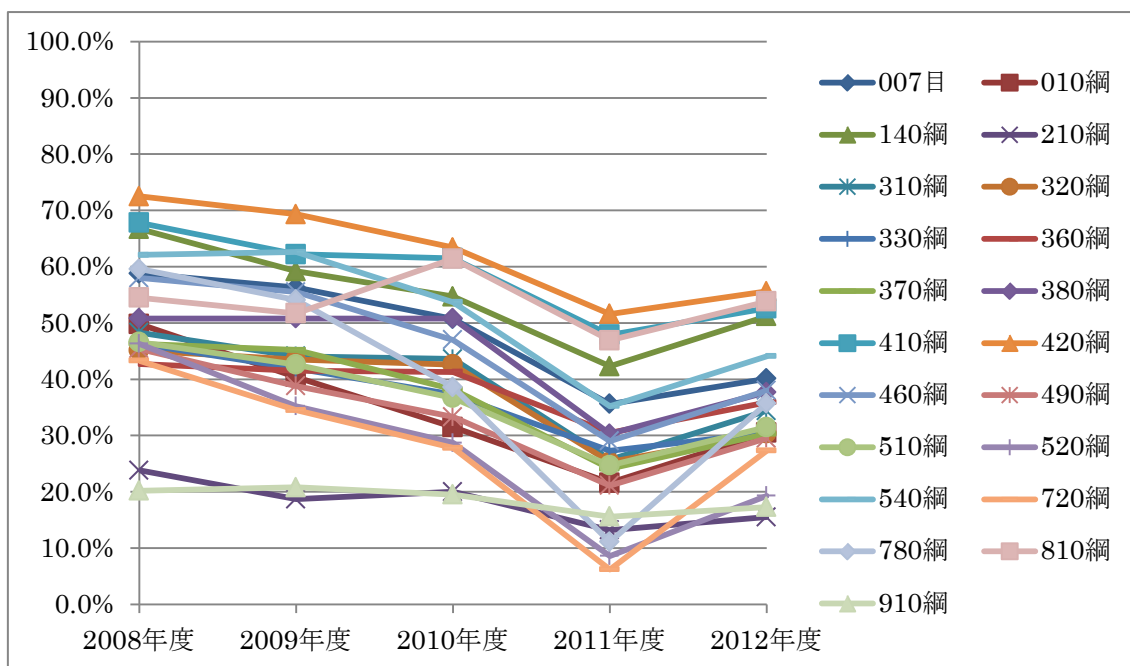


図 40 細区分主題別年度別貸出率推移 (2007 年度受入図書)

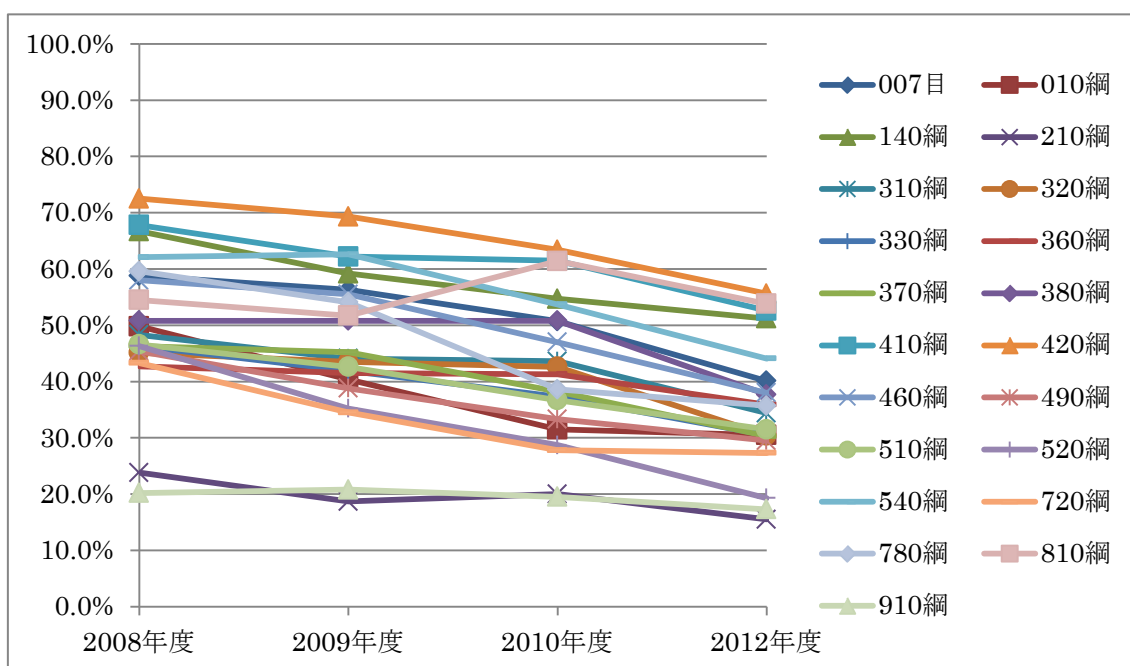


図 41 細区分主題別年度別貸出率推移 (2007 年度受入図書、受入年度と 2011 年度除く)

表 81 細区分主題別年度別貸出図書タイトル数推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
007 目	219	197	131	149	144	393
010 綱	90	56	39	43	45	220
140 綱	140	128	93	125	110	218
210 綱	120	120	85	118	79	669
310 綱	212	198	117	166	123	391
320 綱	127	95	76	79	65	300
330 綱	301	251	161	203	167	576
360 綱	296	274	197	238	209	559
370 綱	382	326	203	275	256	765
380 綱	85	71	55	63	73	188
410 綱	187	172	124	151	132	302
420 綱	178	171	134	151	134	205
460 綱	106	88	61	68	61	160
490 綱	627	556	359	438	406	1,417
510 綱	116	104	50	83	71	220
520 綱	119	141	38	65	68	298
540 綱	175	170	103	114	122	292
720 綱	114	75	21	79	74	207
780 綱	248	184	43	158	176	495
810 綱	73	74	57	70	73	139
910 綱	82	70	64	63	59	310

表 82 細区分主題別年度別貸出率推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
007 目	55.7%	50.1%	33.3%	37.9%	36.6%	393
010 綱	40.9%	25.5%	17.7%	19.5%	20.5%	220
140 綱	64.2%	58.7%	42.7%	57.3%	50.5%	218
210 綱	17.9%	17.9%	12.7%	17.6%	11.8%	669
310 綱	54.2%	50.6%	29.9%	42.5%	31.5%	391
320 綱	42.3%	31.7%	25.3%	26.3%	21.7%	300
330 綱	52.3%	43.6%	28.0%	35.2%	29.0%	576
360 綱	53.0%	49.0%	35.2%	42.6%	37.4%	559
370 綱	49.9%	42.6%	26.5%	35.9%	33.5%	765
380 綱	45.2%	37.8%	29.3%	33.5%	38.8%	188
410 綱	61.9%	57.0%	41.1%	50.0%	43.7%	302
420 綱	86.8%	83.4%	65.4%	73.7%	65.4%	205
460 綱	66.3%	55.0%	38.1%	42.5%	38.1%	160
490 綱	44.2%	39.2%	25.3%	30.9%	28.7%	1,417
510 綱	52.7%	47.3%	22.7%	37.7%	32.3%	220
520 綱	39.9%	47.3%	12.8%	21.8%	22.8%	298
540 綱	59.9%	58.2%	35.3%	39.0%	41.8%	292
720 綱	55.1%	36.2%	10.1%	38.2%	35.7%	207
780 綱	50.1%	37.2%	8.7%	31.9%	35.6%	495
810 綱	52.5%	53.2%	41.0%	50.4%	52.5%	139
910 綱	26.5%	22.6%	20.6%	20.3%	19.0%	310

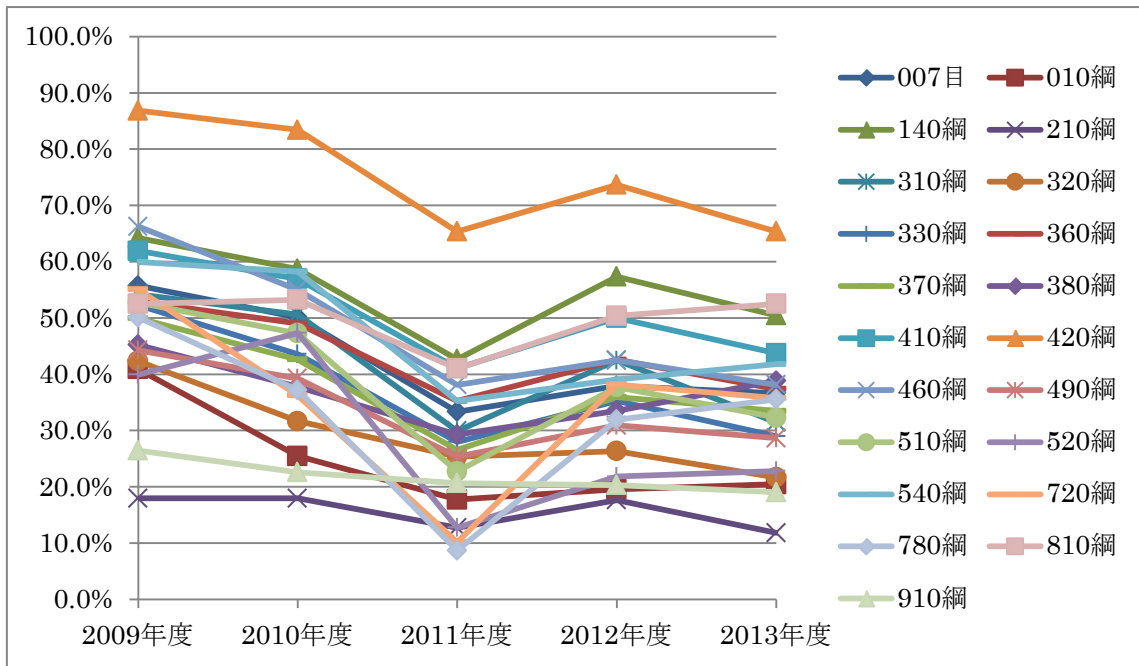


図 42 細区分主題別年度別貸出率推移 (2008 年度受入図書)

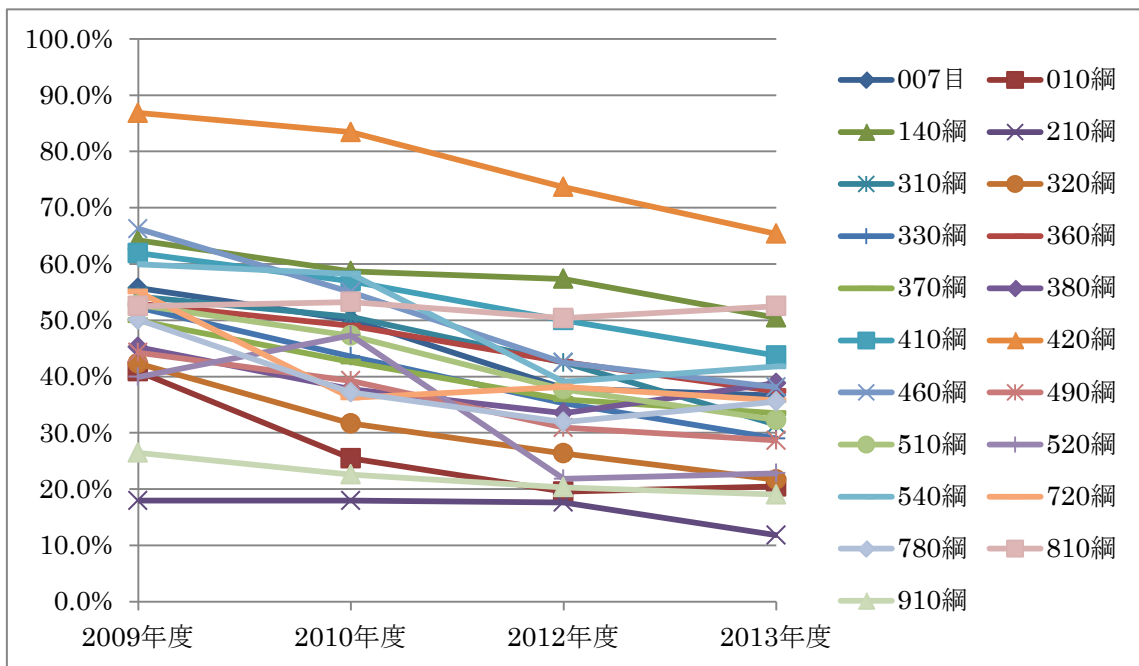


図 43 細区分主題別年度別貸出率推移 (2008 年度受入図書、受入年度と 2011 年度除く)

3.3 受入後 5 年間貸出があった図書

年度別貸出率の推移が累積貸出率の推移と同じ値をとらない、すなわち経年的に上昇しないということは、貸出される図書のタイトル数は年々増加することなく、むしろ一時的であれ恒久的であれ、貸出されなくなる図書のタイトル数が、新たにないしは再び貸出される図書のタイトル数よりも多くなることが考えられる。しかし、年度別貸出率の推移では、各年度の貸出された図書群がそれぞれ同じ図書で構成されているとは限らないため、同じ図書が貸出をされ続けているのか、各年度から新たに、または再び貸出された図書と、一時的に貸出されなかった図書、または恒久的に貸出が途絶えてしまった図書、の 2 種類のタイトル数が等しくて変化が小さいのかが判別できない。そのため、ここでは、各主題において、同じ図書が貸出され続けているかどうかの検証を試みる。

まず、受入の翌年度から 5 年間、毎年一度以上貸出があった図書（以下 5 年連続貸出図書）のタイトル数の主題別の内訳および割合を表 83 に示す。表 83 の（）内が連続貸出図書全体に占める各主題別内訳の比率である。

表 83 日本十進分類一次区分別 5 年連続貸出図書タイトル数

	2006 年度受入図書	2007 年度受入図書	2008 年度受入図書
000 類総記	108(8.6%)	96(8.3%)	109(8.9%)
100 類哲学	79(6.3%)	78(6.8%)	58(4.7%)
200 類歴史	25(2.0%)	31(2.7%)	34(2.8%)
300 類社会	368(29.2%)	277(24.0%)	315(25.7%)
400 類自然	418(33.2%)	427(37.0%)	444(36.2%)
500 類技術	91(7.2%)	101(8.8%)	97(7.9%)
600 類産業	42(3.3%)	24(2.1%)	42(3.4%)
700 類芸術	45(3.6%)	33(2.9%)	47(3.8%)
800 類言語	68(5.4%)	69(6.0%)	64(5.2%)
900 類文学	15(1.2%)	18(1.6%)	17(1.4%)
受入全体	1,259(100.0%)	1,154(100.0%)	1,227(100.0%)

受入図書タイトル数は 300 類が最も多いが、5 年連続貸出図書タイトル数は 400 類が最も多い。しかも 400 類は 5 年連続貸出率も連続貸出図書タイトル数も受入年度が新しくなるにつれて増加している。一方 200 類、900 類といった、もともと累積貸出率も年度別貸出率も低い値で推移していた主題では、5 年間貸出される図書のタイトル数も少ない。加えてそれらが受入図書全体に占める割合を表 84 に、貸出された図書全体に占める割合を表 85 に示す。表 84（）内は受入図書タイトル数、表 85（）内は貸出図書タイトル数である。

表 84 日本十進分類一次区分別 5 年連続貸出図書の、受入図書全体に占める割合

	2006 年度受入図書	2007 年度受入図書	2008 年度受入図書
000 類	10.9% (n = 995)	10.9% (n = 879)	9.8% (n = 1,117)
100 類	12.0% (n = 933)	8.5% (n = 651)	10.7% (n = 540)
200 類	3.1% (n = 1,060)	2.4% (n = 1,007)	2.7% (n = 1,267)
300 類	9.8% (n = 3,341)	11.0% (n = 2,820)	10.5% (n = 2,991)
400 類	15.1% (n = 2,669)	15.7% (n = 2,821)	18.3% (n = 2,420)
500 類	10.1% (n = 1,079)	8.4% (n = 997)	8.9% (n = 1,088)
600 類	5.9% (n = 492)	8.5% (n = 408)	8.5% (n = 492)
700 類	3.4% (n = 1,112)	4.0% (n = 981)	3.7% (n = 1,255)
800 類	20.3% (n = 357)	19.0% (n = 340)	18.6% (n = 344)
900 類	3.0% (n = 596)	2.5% (n = 608)	3.0% (n = 567)
受入全体	10.0% (n = 12,634)	10.0% (n = 11,512)	10.2% (n = 12,081)

表 85 日本十進分類一次区分別 5 年連続貸出図書の、貸出された図書全体に占める割合

	2006 年度受入図書	2007 年度受入図書	2008 年度受入図書
000 類	15.5%(n = 698)	14.1%(n = 680)	13.8%(n = 791)
100 類	12.7%(n = 623)	17.7%(n = 441)	14.6%(n = 398)
200 類	3.9%(n = 635)	6.5%(n = 474)	5.1%(n = 662)
300 類	14.4%(n = 2,556)	13.4%(n = 2,068)	14.6%(n = 2,154)
400 類	19.4%(n = 2,154)	20.7%(n = 2,061)	25.4%(n = 1,751)
500 類	11.0%(n = 825)	13.4%(n = 752)	12.2%(n = 796)
600 類	11.3%(n = 371)	9.1%(n = 264)	12.1%(n = 347)
700 類	5.2%(n = 859)	4.9%(n = 675)	5.4%(n = 871)
800 類	24.7%(n = 275)	25.7%(n = 269)	23.5%(n = 272)
900 類	4.3%(n = 349)	6.4%(n = 280)	5.6%(n = 303)
受入全体	13.5%(n = 9,345)	14.5%(n = 7,964)	14.7%(n = 8,345)

受入図書全体に占める割合を比較しても傾向は同じである。年度別貸出率の推移の推移に大きな減少が見られなかった理由は、同じ図書だけが貸出されているためではないと考えられる。すなわち、どの主題においても、貸出が一時的にないしは恒久的に途絶える図書が多くを占め、新たにないしは再び貸出される図書のタイトル数を上回るためと考えられるのである。なお 400 類の貸出された図書に占める割合の増加は、貸出された図書のタイトル数の減少によると考えられる。

3.4 連続貸出率の推移

どの主題においても累積貸出率が増加し続けるのに対し、年度別貸出率は増加しないことから、どの主題においても、当初貸出があったものでも、一時的ないしは恒久的に貸出されなくなる図書が多数を占めることが明らかとなった。なぜなら、もし貸出が減少せず一度貸出されたものがずっと貸出されていれば、年度別貸出率は累積貸出率と同じ値を推移するからである。逆に年度別貸出率の減少は、初貸出図書よりも貸出が途中の年度から一度もなくなる図書や、貸出が一時的になくなる図書が多いことを意味するからである。これまでの累積貸出率および年度別貸出率の推移、そして 5 年連続貸出率の主題による差異から、どの主題においても経年的な貸出減少が見られ、それは主題によって異なることが予想される。

そこで経年的な貸出減少を観察する方法として、受入の翌年度に貸出された図書のうち、翌々年度以降も継続して貸出される図書（以下連続貸出図書）のタイトル数の算出を試みた。その推移を示したものを以下に示す。受入の翌年度に貸出された図書のうち、各受入からの経過年数時点まで連続して貸出された図書のタイトル数、およびそれらが受入全体に占める割合（以下連続貸出率）、それらが受入の翌年度の貸出された図書全体に占める割合を示している。例えば、2006 年度に受入された 000 類の図書で、2007 年度に貸出があったタイトル（表の左端「2007 年度貸出あり」）459 件のうち、2009 年度まで貸出され続けた図書のタイトル数は 222 件である。受入図書全体のタイトル数 995 件に占める割合は 22.3%、2007 年度貸出された図書のタイトル数 459 件に占める割合は 48.4%である。ただし 222 件の中には、翌年度以降に貸出が一度もない図書と、一時的に貸出がなかった図書の双方を含んでいる。また、459 件から 222 件を除いた 237 件には、2007 年度以降貸出が一度もない図書と、一時的に貸出がなかった時期がある図書の両方を含んでいる。

3.4.1 日本十進分類一次区分別主題比較

以下受入図書群ごとに、日本十進分類一次区分別に主題を比較する。

2006年度受入図書にみられる特徴は以下の通りとなった。まず400類自然科学のみ「2008年度まで」以降、10%、9%、11%と一定の比率で、直線的に値が減少している。800類は逆に2008年度まで、2009年度までの変化量が、それまでの15%から5%、5%と急に小さくなり、特異な曲線を描いている。700類は200類、900類と並んで減少量が最も大きくなった。200類、900類は受入から2年後に、受入から1年後の2007年度に貸出された図書の約50%まで値が急激に減少し、その後の減少量は逡減しているのに対し、700類は400類同様19%減、14%減、10%減、10%減の順で直線状に値が減少している。

表 86 連続貸出図書タイトル数推移 (2006年度受入図書)

	2007 年度 貸出あり	2008 年度 まで	2009 年度 まで	2010 年度 まで	2011 年度 まで	受入件数
000 類	459	303	222	161	108	995
100 類	383	252	184	126	79	933
200 類	318	175	102	57	25	1,060
300 類	1,693	1,137	817	616	368	3,341
400 類	1,637	1,236	956	715	418	2,669
500 類	549	384	267	184	91	1,079
600 類	245	174	120	79	42	492
700 類	626	414	258	155	45	1,112
800 類	201	146	130	107	68	357
900 類	177	88	51	31	15	596
受入全体	6,288	4,309	3,107	2,231	1,259	12,634

表 87 連続貸出率推移 (2006 年度受入図書)

	2007 年度 貸出あり	2008 年度 まで	2009 年度 まで	2010 年度 まで	2011 年度 まで	受入件数
000 類	46.1%	30.5%	22.3%	16.2%	10.9%	995
100 類	41.1%	27.0%	19.7%	13.5%	8.5%	933
200 類	30.0%	16.5%	9.6%	5.4%	2.4%	1,060
300 類	50.7%	34.0%	24.5%	18.4%	11.0%	3,341
400 類	61.3%	46.3%	35.8%	26.8%	15.7%	2,669
500 類	50.9%	35.6%	24.7%	17.1%	8.4%	1,079
600 類	49.8%	35.4%	24.4%	16.1%	8.5%	492
700 類	56.3%	37.2%	23.2%	13.9%	4.0%	1,112
800 類	56.3%	40.9%	36.4%	30.0%	19.0%	357
900 類	29.7%	14.8%	8.6%	5.2%	2.5%	596
受入全体	49.8%	34.1%	24.6%	17.7%	10.0%	12,634

表 88 2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書割合の推移 (2006 年度受入図書)

	2007 年度 貸出あり	2008 年度 まで	2009 年度 まで	2010 年度 まで	2011 年度 まで	受入件数
000 類	100.0%	66.0%	48.4%	35.1%	23.5%	995
100 類	100.0%	65.8%	48.0%	32.9%	20.6%	933
200 類	100.0%	55.0%	32.1%	17.9%	7.9%	1,060
300 類	100.0%	67.2%	48.3%	36.4%	21.7%	3,341
400 類	100.0%	75.5%	58.4%	43.7%	25.5%	2,669
500 類	100.0%	69.9%	48.6%	33.5%	16.6%	1,079
600 類	100.0%	71.0%	49.0%	32.2%	17.1%	492
700 類	100.0%	66.1%	41.2%	24.8%	7.2%	1,112
800 類	100.0%	72.6%	64.7%	53.2%	33.8%	357
900 類	100.0%	49.7%	28.8%	17.5%	8.5%	596
受入全体	100.0%	68.5%	49.4%	35.5%	20.0%	12,634

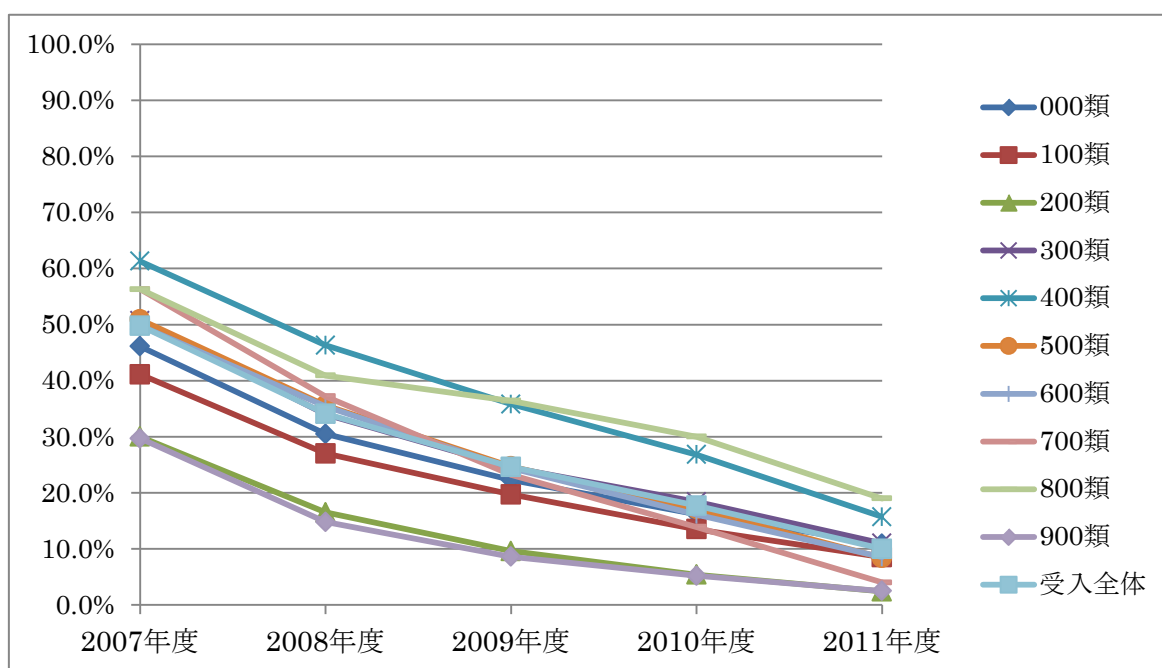


図 44 連続貸出率推移 (2006 年度受入図書)

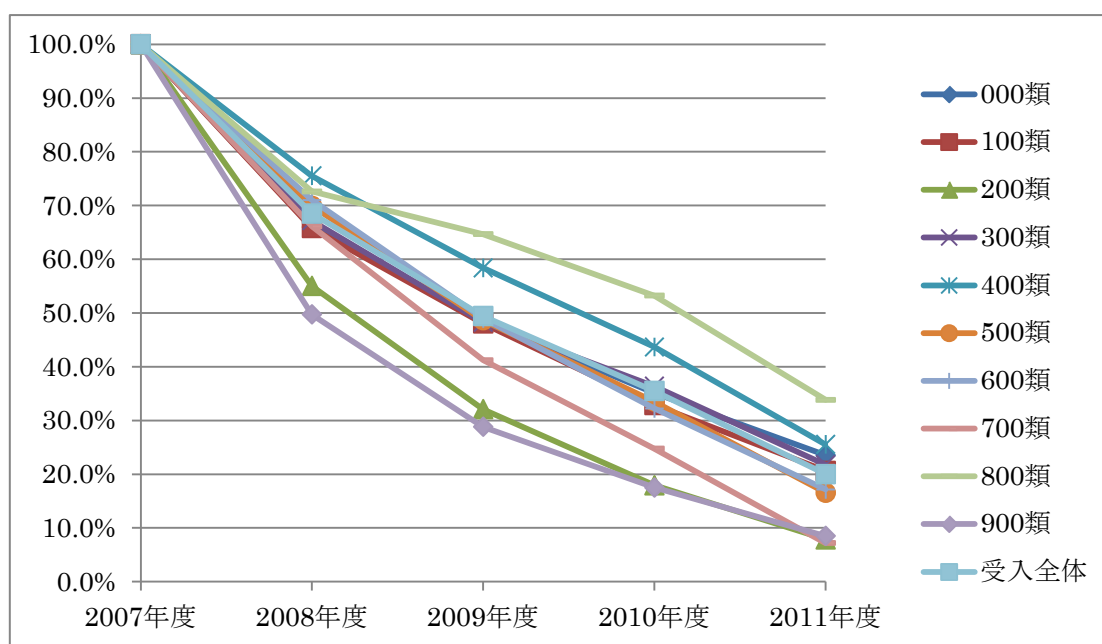


図 45 2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書割合の推移 (2006 年度受入図書)

2007 年度受入図書については以下の特徴が見られた。まず 400 類、800 類が 2006 年度受入図書同様、最も高い値を推移し、200 類、900 類が最も低い値を推移している。800 類はもっとも傾きが小さくなった。400 類を先頭に 300 類、500 類、200 類の順に平行して値が推移している。600 類と 700 類は 2011 年度の震災の影響で 2010 年度から 2011 年度にかけて値が 15%以上減少しており、曲線の形状が類似している。一方、100 類、900 類については 2011 年度にかけても値の極端な減少はなく、震災の影響は小さかったとみられる。

表 89 連続貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書）

	2008 年度 貸出あり	2009 年度 まで	2010 年度 まで	2011 年度 まで	2012 年度 まで	受入件数
000 類	439	268	207	124	96	879
100 類	268	157	124	89	78	651
200 類	241	111	86	41	31	1,007
300 類	1,290	811	632	371	277	2,820
400 類	1,501	1,031	848	533	427	2,821
500 類	521	323	256	135	101	997
600 類	181	106	77	32	24	408
700 類	458	262	177	40	33	981
800 類	172	129	112	83	69	340
900 類	123	59	39	26	18	608
受入全体	5,194	3,257	2,558	1,474	1,154	11,512

表 90 連続貸出率推移 (2007 年度受入図書)

	2008 年度 貸出あり	2009 年度 まで	2010 年度 まで	2011 年度 まで	2012 年度 まで	受入件数
000 類	49.9%	30.5%	23.5%	14.1%	10.9%	879
100 類	41.2%	24.1%	19.0%	13.7%	12.0%	651
200 類	23.9%	11.0%	8.5%	4.1%	3.1%	1,007
300 類	45.7%	28.8%	22.4%	13.2%	9.8%	2,820
400 類	53.2%	36.5%	30.1%	18.9%	15.1%	2,821
500 類	52.3%	32.4%	25.7%	13.5%	10.1%	997
600 類	44.4%	26.0%	18.9%	7.8%	5.9%	408
700 類	46.7%	26.7%	18.0%	4.1%	3.4%	981
800 類	50.6%	37.9%	32.9%	24.4%	20.3%	340
900 類	20.2%	9.7%	6.4%	4.3%	3.0%	608
受入全体	45.1%	28.3%	22.2%	12.8%	10.0%	11,512

表 91 2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書割合の推移 (2007 年度受入図書)

	2008 年度 貸出あり	2009 年度 まで	2010 年度 まで	2011 年度 まで	2012 年度 まで	受入件数
000 類	100.0%	61.0%	47.2%	28.2%	21.9%	879
100 類	100.0%	58.6%	46.3%	33.2%	29.1%	651
200 類	100.0%	46.1%	35.7%	17.0%	12.9%	1,007
300 類	100.0%	62.9%	49.0%	28.8%	21.5%	2,820
400 類	100.0%	68.7%	56.5%	35.5%	28.4%	2,821
500 類	100.0%	62.0%	49.1%	25.9%	19.4%	997
600 類	100.0%	58.6%	42.5%	17.7%	13.3%	408
700 類	100.0%	57.2%	38.6%	8.7%	7.2%	981
800 類	100.0%	75.0%	65.1%	48.3%	40.1%	340
900 類	100.0%	48.0%	31.7%	21.1%	14.6%	608
受入全体	100.0%	62.7%	49.2%	28.4%	22.2%	11,512

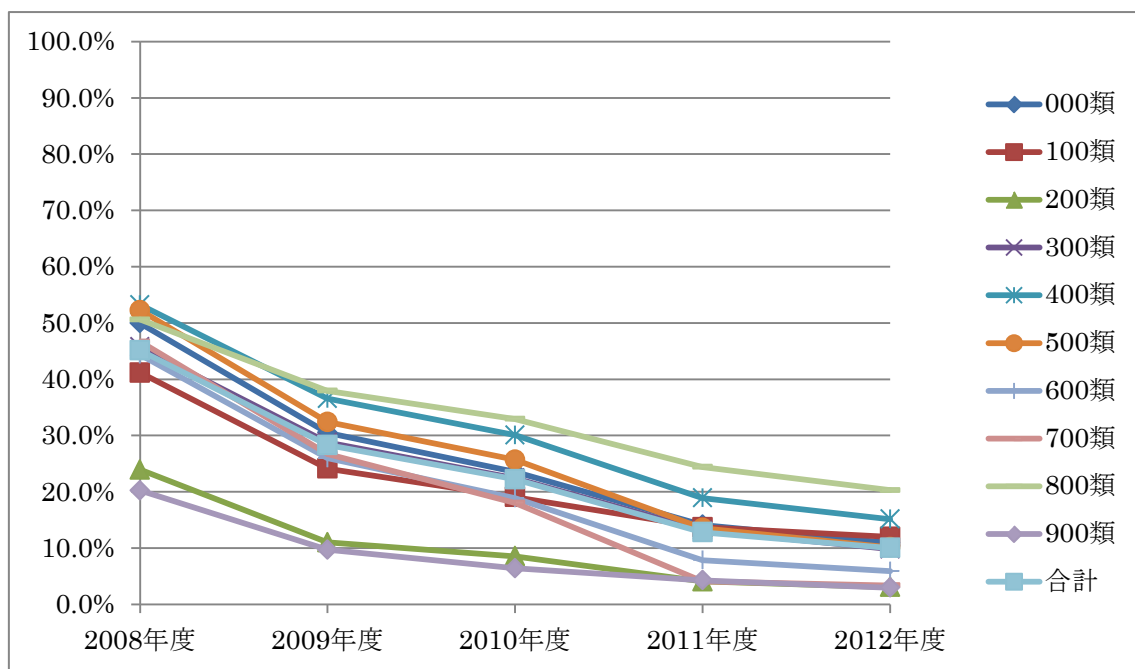


図 46 連続貸出率推移 (2007 年度受入図書)

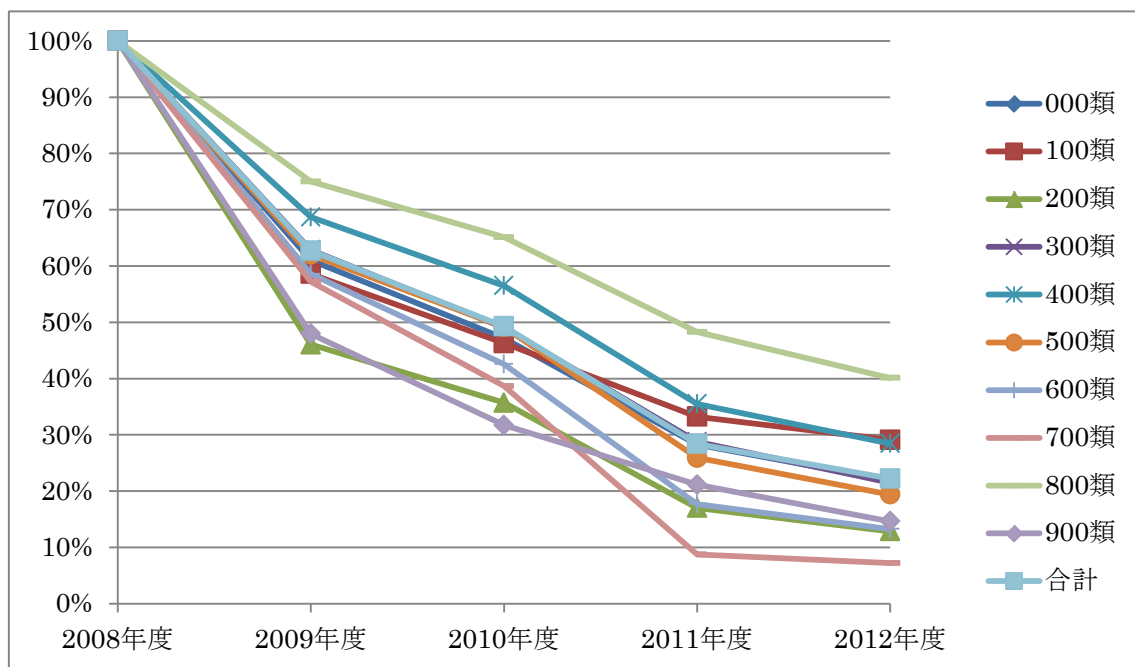


図 47 2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書割合の推移 (2007 年度受入図書)

2008 年度受入図書については、傾きの最も小さい 400 類と 800 類の集団、最も低い値を推移する 200 類、900 類の集団、700 類、それ以外の主題に分かれて曲線が重なっている。

表 92 連続貸出図書タイトル数推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度 貸出あり	2010 年度 まで	2011 年度 まで	2012 年度 まで	2013 年度 まで	受入件数
000 類	530	336	177	139	109	1,117
100 類	251	169	91	75	58	540
200 類	320	174	65	48	34	1,267
300 類	1,509	989	542	421	315	2,991
400 類	1,332	1,001	634	524	444	2,420
500 類	529	370	165	116	97	1,088
600 類	259	172	84	61	42	492
700 類	550	311	70	51	47	1,255
800 類	180	125	81	73	64	344
900 類	149	69	31	22	17	567
受入全体	5,609	3,716	1,940	1,530	1,227	12,081

表 93 連続貸出率推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度 貸出あり	2010 年度 まで	2011 年度 まで	2012 年度 まで	2013 年度 まで	受入件数
000 類	47.4%	30.1%	15.8%	12.4%	9.8%	1,117
100 類	46.5%	31.3%	16.9%	13.9%	10.7%	540
200 類	25.3%	13.7%	5.1%	3.8%	2.7%	1,267
300 類	50.5%	33.1%	18.1%	14.1%	10.5%	2,991
400 類	55.0%	41.4%	26.2%	21.7%	18.3%	2,420
500 類	48.6%	34.0%	15.2%	10.7%	8.9%	1,088
600 類	52.6%	35.0%	17.1%	12.4%	8.5%	492
700 類	43.8%	24.8%	5.6%	4.1%	3.7%	1,255
800 類	52.3%	36.3%	23.5%	21.2%	18.6%	344
900 類	26.3%	12.2%	5.5%	3.9%	3.0%	567
受入全体	46.4%	30.8%	16.1%	12.7%	10.2%	12,081

表 94 2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書割合の推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度 貸出あり	2010 年度 まで	2011 年度 まで	2012 年度 まで	2013 年度 まで	受入件数
000 類	100.0%	63.4%	33.4%	26.2%	20.6%	1,117
100 類	100.0%	67.3%	36.3%	29.9%	23.1%	540
200 類	100.0%	54.4%	20.3%	15.0%	10.6%	1,267
300 類	100.0%	65.5%	35.9%	27.9%	20.9%	2,991
400 類	100.0%	75.2%	47.6%	39.3%	33.3%	2,420
500 類	100.0%	69.9%	31.2%	21.9%	18.3%	1,088
600 類	100.0%	66.4%	32.4%	23.6%	16.2%	492
700 類	100.0%	56.5%	12.7%	9.3%	8.5%	1,255
800 類	100.0%	69.4%	45.0%	40.6%	35.6%	344
900 類	100.0%	46.3%	20.8%	14.8%	11.4%	567
受入全体	100.0%	66.3%	34.6%	27.3%	21.9%	12,081

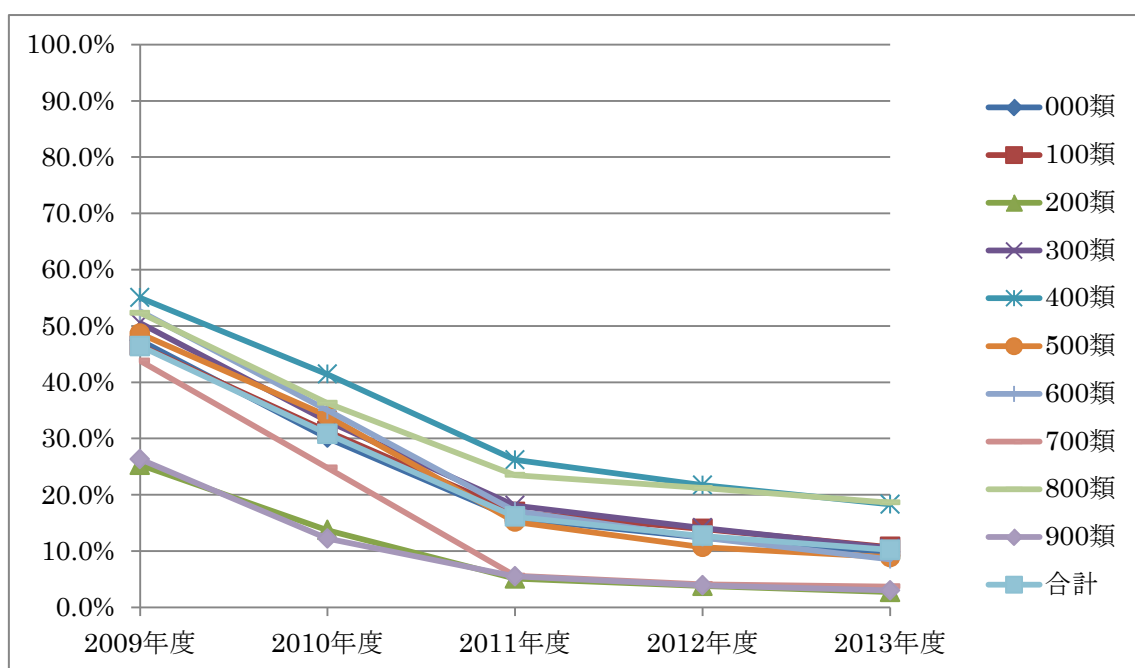


図 48 連続貸出率推移 (2008 年度受入図書)

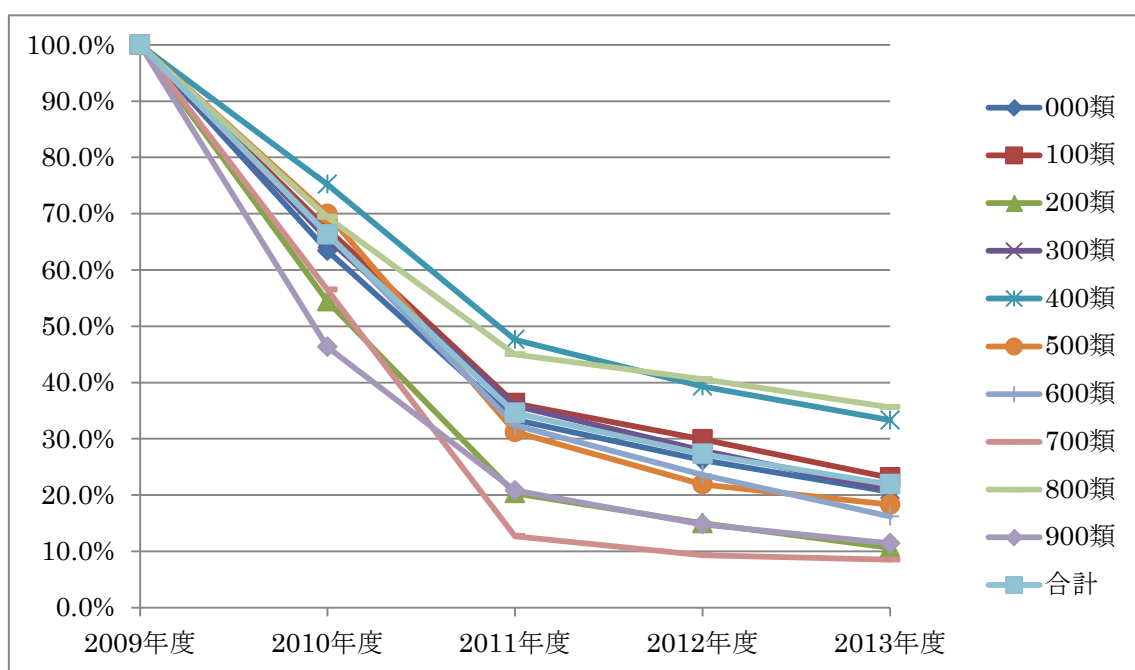


図 49 2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書割合の推移 (2008 年度受入図書)

3.4.2 細区分主題別比較

主題をさらに細区分して集計した結果を以下に示す。

2006 年度は、780 綱体育が直線的な減少となる点が特徴的である。460 綱、810 綱、410 綱、420 綱、140 綱が傾きの小さい集団としてまとまっている。320 綱、910 綱、210 綱、720 綱、520 綱が傾きの大きい集団としてまとまっている。

表 95 連続貸出図書タイトル数推移（2006 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
007 目	198	132	102	75	51	330
010 綱	87	68	51	34	20	229
140 綱	142	112	93	74	50	228
210 綱	156	82	49	27	11	555
310 綱	164	120	93	64	34	278
320 綱	194	107	61	40	20	402
330 綱	301	200	131	98	53	662
360 綱	384	275	209	165	105	764
370 綱	435	296	223	177	118	768
380 綱	109	73	56	40	23	228
410 綱	242	188	164	137	93	360
420 綱	127	98	82	67	45	183
460 綱	108	85	73	65	50	167
490 綱	909	677	481	318	150	1,579
510 綱	135	101	80	57	23	257
520 綱	105	67	37	16	3	241
540 綱	131	95	70	56	32	237
720 綱	120	70	36	19	5	229
780 綱	245	188	122	74	17	348
810 綱	82	66	60	51	33	146
910 綱	89	49	29	17	9	340

表 96 連続貸出率推移（2006 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
007 目	60.0%	40.0%	30.9%	22.7%	15.5%	330
010 網	38.0%	29.7%	22.3%	14.8%	8.7%	229
140 網	62.3%	49.1%	40.8%	32.5%	21.9%	228
210 網	28.1%	14.8%	8.8%	4.9%	2.0%	555
310 網	59.0%	43.2%	33.5%	23.0%	12.2%	278
320 網	48.3%	26.6%	15.2%	10.0%	5.0%	402
330 網	45.5%	30.2%	19.8%	14.8%	8.0%	662
360 網	50.3%	36.0%	27.4%	21.6%	13.7%	764
370 網	56.6%	38.5%	29.0%	23.0%	15.4%	768
380 網	47.8%	32.0%	24.6%	17.5%	10.1%	228
410 網	67.2%	52.2%	45.6%	38.1%	25.8%	360
420 網	69.4%	53.6%	44.8%	36.6%	24.6%	183
460 網	64.7%	50.9%	43.7%	38.9%	29.9%	167
490 網	57.6%	42.9%	30.5%	20.1%	9.5%	1,579
510 網	52.5%	39.3%	31.1%	22.2%	8.9%	257
520 網	43.6%	27.8%	15.4%	6.6%	1.2%	241
540 網	55.3%	40.1%	29.5%	23.6%	13.5%	237
720 網	52.4%	30.6%	15.7%	8.3%	2.2%	229
780 網	70.4%	54.0%	35.1%	21.3%	4.9%	348
810 網	56.2%	45.2%	41.1%	34.9%	22.6%	146
910 網	26.2%	14.4%	8.5%	5.0%	2.6%	340

表 97 2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合推移 (2006 年度受入図書)

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
007 目	100.0%	66.7%	51.5%	37.9%	25.8%	330
010 綱	100.0%	78.2%	58.6%	39.1%	23.0%	229
140 綱	100.0%	78.9%	65.5%	52.1%	35.2%	228
210 綱	100.0%	52.6%	31.4%	17.3%	7.1%	555
310 綱	100.0%	73.2%	56.7%	39.0%	20.7%	278
320 綱	100.0%	55.2%	31.4%	20.6%	10.3%	402
330 綱	100.0%	66.4%	43.5%	32.6%	17.6%	662
360 綱	100.0%	71.6%	54.4%	43.0%	27.3%	764
370 綱	100.0%	68.0%	51.3%	40.7%	27.1%	768
380 綱	100.0%	67.0%	51.4%	36.7%	21.1%	228
410 綱	100.0%	77.7%	67.8%	56.6%	38.4%	360
420 綱	100.0%	77.2%	64.6%	52.8%	35.4%	183
460 綱	100.0%	78.7%	67.6%	60.2%	46.3%	167
490 綱	100.0%	74.5%	52.9%	35.0%	16.5%	1,579
510 綱	100.0%	74.8%	59.3%	42.2%	17.0%	257
520 綱	100.0%	63.8%	35.2%	15.2%	2.9%	241
540 綱	100.0%	72.5%	53.4%	42.7%	24.4%	237
720 綱	100.0%	58.3%	30.0%	15.8%	4.2%	229
780 綱	100.0%	76.7%	49.8%	30.2%	6.9%	348
810 綱	100.0%	80.5%	73.2%	62.2%	40.2%	146
910 綱	100.0%	55.1%	32.6%	19.1%	10.1%	340

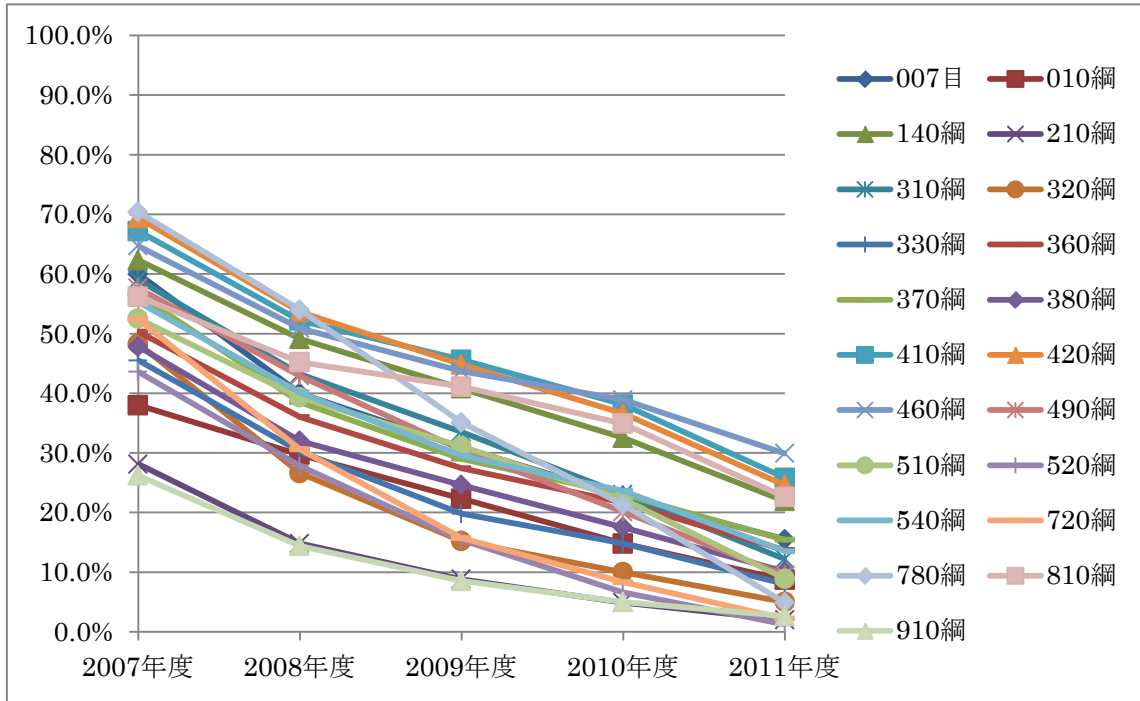


図 50 連続貸出率推移 (2006 年度受入図書)

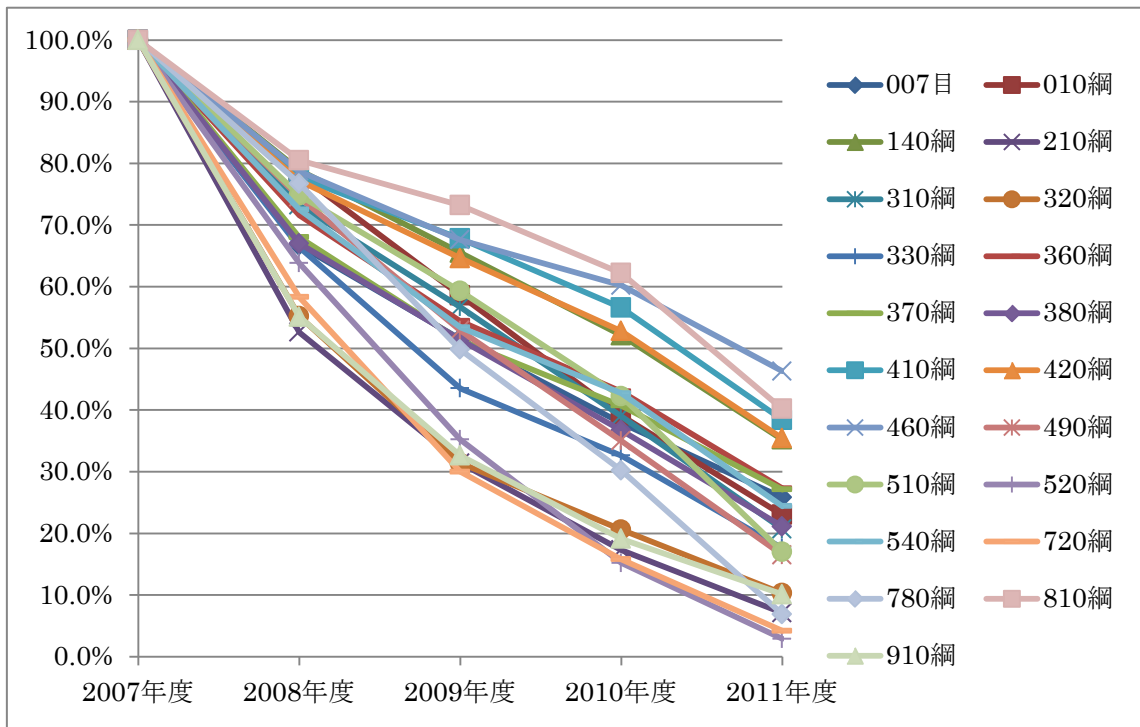


図 51 2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合推移 (2006 年度受入図書)

2007 年度受入図書では、810 綱日本語と 420 綱物理学が最も傾きが小さく、210 綱日本史と 720 綱絵画および 520 綱建築学が最も傾きが大きい。また 460 綱生物学は直線状に減少している点が特徴的である。2011 年の震災の影響で分館 A に所蔵の多い 700 類芸術および 520 綱建築学は 2010 年度および 2011 年度に連続貸出率が大きく減少している。しかし、それ以前の年度では、780 綱体育が 70%以上の図書が連続して貸出されているのに対し、残り 2 つの主題で連続して貸出されている図書の割合は約 50%にとどまる。このことから、700 類の中でも 780 綱は特異な傾向をもつことが考えられる。

表 98 連続貸出図書タイトル数推移 (2007 年度受入図書)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
007 目	167	119	92	55	44	300
010 綱	106	69	39	22	17	213
140 綱	134	106	81	60	55	201
210 綱	112	50	28	7	4	471
310 綱	173	122	89	47	31	358
320 綱	107	63	41	21	14	237
330 綱	232	152	104	62	45	501
360 綱	291	199	154	92	72	682
370 綱	332	238	172	102	77	717
380 綱	62	44	33	21	17	122
410 綱	303	242	201	144	118	447
420 綱	111	95	80	56	48	153
460 綱	116	97	74	42	33	200
490 綱	766	513	360	202	147	1,686
510 綱	117	87	67	37	26	251
520 綱	113	62	36	5	4	244
540 綱	141	109	81	52	34	227
720 綱	84	47	29	4	3	194
780 綱	204	149	95	20	16	342
810 綱	79	66	59	41	38	145
910 綱	62	33	21	14	11	307

表 99 連続貸出率推移 (2007 年度受入図書)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
007 目	55.7%	39.7%	30.7%	18.3%	14.7%	300
010 綱	49.8%	32.4%	18.3%	10.3%	8.0%	213
140 綱	66.7%	52.7%	40.3%	29.9%	27.4%	201
210 綱	23.8%	10.6%	5.9%	1.5%	0.8%	471
310 綱	48.3%	34.1%	24.9%	13.1%	8.7%	358
320 綱	45.1%	26.6%	17.3%	8.9%	5.9%	237
330 綱	46.3%	30.3%	20.8%	12.4%	9.0%	501
360 綱	42.7%	29.2%	22.6%	13.5%	10.6%	682
370 綱	46.3%	33.2%	24.0%	14.2%	10.7%	717
380 綱	50.8%	36.1%	27.0%	17.2%	13.9%	122
410 綱	67.8%	54.1%	45.0%	32.2%	26.4%	447
420 綱	72.5%	62.1%	52.3%	36.6%	31.4%	153
460 綱	58.0%	48.5%	37.0%	21.0%	16.5%	200
490 綱	45.4%	30.4%	21.4%	12.0%	8.7%	1,686
510 綱	46.6%	34.7%	26.7%	14.7%	10.4%	251
520 綱	46.3%	25.4%	14.8%	2.0%	1.6%	244
540 綱	62.1%	48.0%	35.7%	22.9%	15.0%	227
720 綱	43.3%	24.2%	14.9%	2.1%	1.5%	194
780 綱	59.6%	43.6%	27.8%	5.8%	4.7%	342
810 綱	54.5%	45.5%	40.7%	28.3%	26.2%	145
910 綱	20.2%	10.7%	6.8%	4.6%	3.6%	307

表 100 2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2007 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
007 目	100.0%	71.3%	55.1%	32.9%	26.3%	300
010 綱	100.0%	65.1%	36.8%	20.8%	16.0%	213
140 綱	100.0%	79.1%	60.4%	44.8%	41.0%	201
210 綱	100.0%	44.6%	25.0%	6.3%	3.6%	471
310 綱	100.0%	70.5%	51.4%	27.2%	17.9%	358
320 綱	100.0%	58.9%	38.3%	19.6%	13.1%	237
330 綱	100.0%	65.5%	44.8%	26.7%	19.4%	501
360 綱	100.0%	68.4%	52.9%	31.6%	24.7%	682
370 綱	100.0%	71.7%	51.8%	30.7%	23.2%	717
380 綱	100.0%	71.0%	53.2%	33.9%	27.4%	122
410 綱	100.0%	79.9%	66.3%	47.5%	38.9%	447
420 綱	100.0%	85.6%	72.1%	50.5%	43.2%	153
460 綱	100.0%	83.6%	63.8%	36.2%	28.4%	200
490 綱	100.0%	67.0%	47.0%	26.4%	19.2%	1,686
510 綱	100.0%	74.4%	57.3%	31.6%	22.2%	251
520 綱	100.0%	54.9%	31.9%	4.4%	3.5%	244
540 綱	100.0%	77.3%	57.4%	36.9%	24.1%	227
720 綱	100.0%	56.0%	34.5%	4.8%	3.6%	194
780 綱	100.0%	73.0%	46.6%	9.8%	7.8%	342
810 綱	100.0%	83.5%	74.7%	51.9%	48.1%	145
910 綱	100.0%	53.2%	33.9%	22.6%	17.7%	307

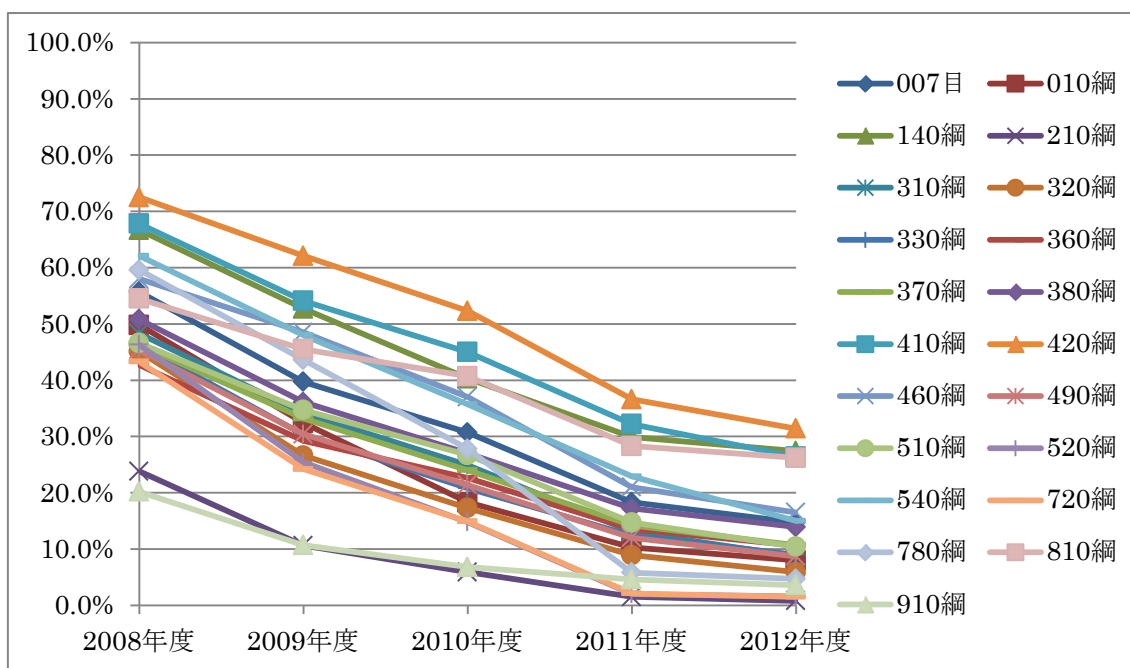


図 52 連続貸出率推移 (2007 年度受入図書)

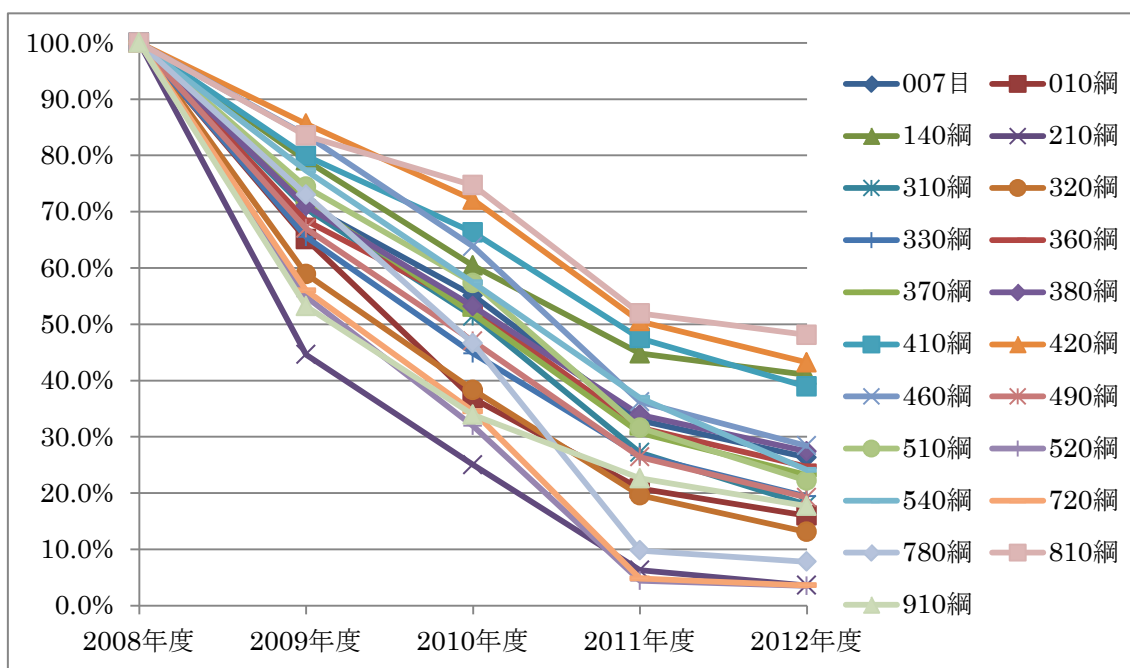


図 53 2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移 (2007 年度受入図書)

2008 年度受入図書では、420 綱物理学の傾きが最も小さく、2009 年度に貸出された図書の約 60%の図書が、受入から 5 年後まで貸出され続けた。次いで 810 綱日本語、410 綱数学と続く。逆に最も傾きが大きかったのは、分館 A に多くが所蔵される 700 類芸術および 520 綱建築学を除けば、010 綱図書館情報学、210 綱日本史、910 綱日本文学となった。010 綱は受入の 2 年後には 2009 年度に貸出された図書の 60.0%は貸出が連続しなかった。210 綱、910 綱、320 綱法学は約 50%の図書の貸出が連続しなかった。420 綱を含めほとんどの主題は 2011 年度かけてに最も連続貸出率が減少しているのに対し、010 綱、210 綱、320 綱、910 綱は 2010 年度にかけて最も連続貸出率が減少している。700 類等を除けば、もともと 5 年連続貸出図書割合が小さい主題は、受入の翌年度でほとんどの図書が一時的ないしは恒久的に貸出がなくなってしまっている。

表 101 連続貸出図書タイトル数推移 (2008 年度受入図書)

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
007 目	219	159	92	74	58	342
010 綱	90	36	16	9	7	229
140 綱	140	104	63	53	39	218
210 綱	120	60	20	16	11	669
310 綱	212	146	67	56	33	358
320 綱	127	62	40	30	21	237
330 綱	301	196	103	79	57	501
360 綱	296	198	119	84	68	682
370 綱	382	251	142	120	92	717
380 綱	85	61	35	31	28	122
410 綱	187	147	98	83	68	302
420 綱	178	165	128	118	107	205
460 綱	106	70	40	34	25	160
490 綱	627	418	228	171	135	1,417
510 綱	116	82	33	26	22	220
520 綱	119	69	10	2	1	298
540 綱	175	140	79	57	51	292
720 綱	114	60	11	7	7	207
780 綱	248	140	28	25	21	495
810 綱	73	53	38	36	34	139
910 綱	82	41	20	15	11	310

表 102 連続貸出率推移 (2008 年度受入図書)

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
007 目	64.0%	46.5%	26.9%	21.6%	17.0%	342
010 綱	39.3%	15.7%	7.0%	3.9%	3.1%	229
140 綱	61.4%	45.6%	27.6%	23.2%	17.1%	218
210 綱	21.6%	10.8%	3.6%	2.9%	2.0%	669
310 綱	76.3%	52.5%	24.1%	20.1%	11.9%	358
320 綱	31.6%	15.4%	10.0%	7.5%	5.2%	237
330 綱	45.5%	29.6%	15.6%	11.9%	8.6%	501
360 綱	38.7%	25.9%	15.6%	11.0%	8.9%	682
370 綱	49.7%	32.7%	18.5%	15.6%	12.0%	717
380 綱	37.3%	26.8%	15.4%	13.6%	12.3%	122
410 綱	51.9%	40.8%	27.2%	23.1%	18.9%	302
420 綱	97.3%	90.2%	69.9%	64.5%	58.5%	205
460 綱	63.5%	41.9%	24.0%	20.4%	15.0%	160
490 綱	39.7%	26.5%	14.4%	10.8%	8.5%	1,417
510 綱	45.1%	31.9%	12.8%	10.1%	8.6%	220
520 綱	49.4%	28.6%	4.1%	0.8%	0.4%	298
540 綱	73.8%	59.1%	33.3%	24.1%	21.5%	292
720 綱	49.8%	26.2%	4.8%	3.1%	3.1%	207
780 綱	71.3%	40.2%	8.0%	7.2%	6.0%	495
810 綱	50.0%	36.3%	26.0%	24.7%	23.3%	139
910 綱	24.1%	12.1%	5.9%	4.4%	3.2%	310

表 103 2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
007 目	100.0%	72.6%	42.0%	33.8%	26.5%	342
010 綱	100.0%	40.0%	17.8%	10.0%	7.8%	229
140 綱	100.0%	74.3%	45.0%	37.9%	27.9%	218
210 綱	100.0%	50.0%	16.7%	13.3%	9.2%	669
310 綱	100.0%	68.9%	31.6%	26.4%	15.6%	358
320 綱	100.0%	48.8%	31.5%	23.6%	16.5%	237
330 綱	100.0%	65.1%	34.2%	26.2%	18.9%	501
360 綱	100.0%	66.9%	40.2%	28.4%	23.0%	682
370 綱	100.0%	65.7%	37.2%	31.4%	24.1%	717
380 綱	100.0%	71.8%	41.2%	36.5%	32.9%	122
410 綱	100.0%	78.6%	52.4%	44.4%	36.4%	302
420 綱	100.0%	92.7%	71.9%	66.3%	60.1%	205
460 綱	100.0%	66.0%	37.7%	32.1%	23.6%	160
490 綱	100.0%	66.7%	36.4%	27.3%	21.5%	1,417
510 綱	100.0%	70.7%	28.4%	22.4%	19.0%	220
520 綱	100.0%	58.0%	8.4%	1.7%	0.8%	298
540 綱	100.0%	80.0%	45.1%	32.6%	29.1%	292
720 綱	100.0%	52.6%	9.6%	6.1%	6.1%	207
780 綱	100.0%	56.5%	11.3%	10.1%	8.5%	495
810 綱	100.0%	72.6%	52.1%	49.3%	46.6%	139
910 綱	100.0%	50.0%	24.4%	18.3%	13.4%	310

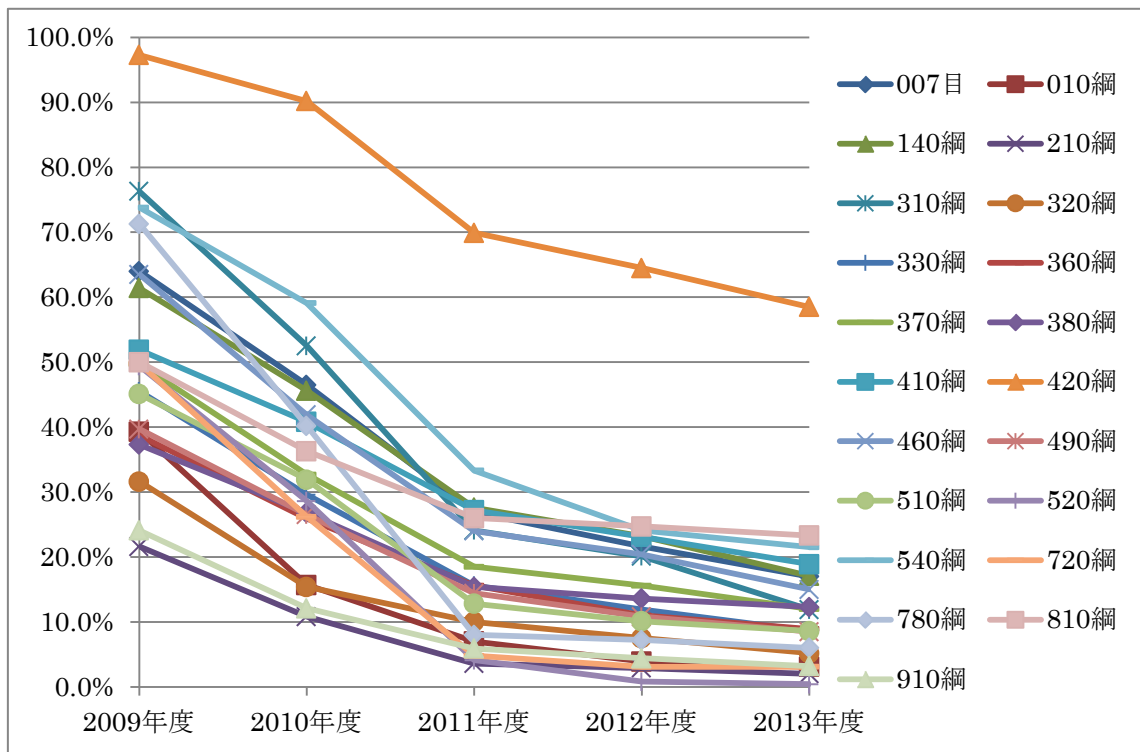


図 54 連続貸出率推移 (2008 年度受入図書)

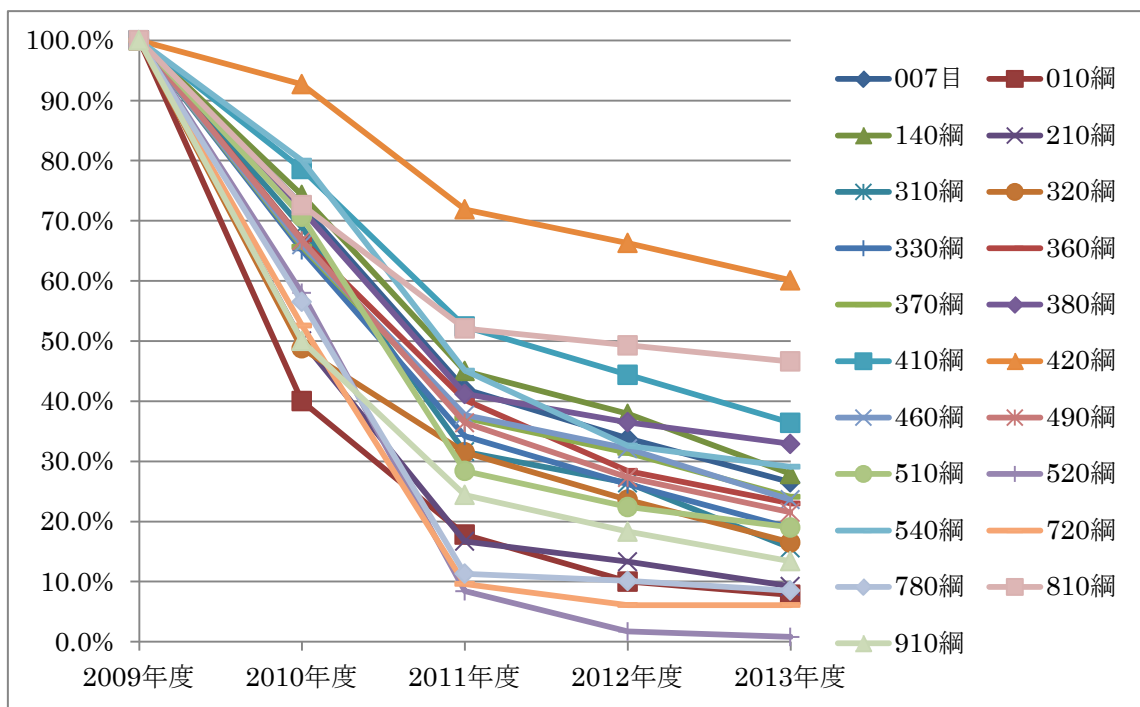


図 55 2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移 (2008 年度受入図書)

3.4.3 細区分主題の推移の、同じ一次区分に所属する主題との差異の検討

次いで、累積貸出率の分析と同様に、細区分された主題とそれ以外の主題での差異の有無を検討するため、主題を人文科学（100 類、200 類、800 類、900 類）、社会科学（300 類）、自然科学（400 類、500 類）、その他（000 類総記、700 類芸術）にわけて、各受入図書群それぞれにおいて各主題を集計した結果を以下に示す。例えば人文科学の場合は、140 綱心理学、210 綱日本史、810 綱日本語、910 綱日本文学と、それらをそれぞれが所属する一次区分の総数から除いた残りの図書集合の結果、両者が属する一次区分別の集計結果を一つにまとめた表を 3 種の受入図書群について作成した。

（1）人文科学分野

人文科学の主題の集計結果は以下の通りとなった。140 綱心理学の曲線は他の主題よりも高い値を推移し、減少率も小さくなっている。同じ 100 類集合である他の主題群とは差が約 20%と大きく開いている。このことから 140 綱心理学は、100 類のなかでも特異な傾向をもつと考えられる。800 類は 810 綱日本語を除いた図書群と曲線が互いに重なるように値が推移している。一方 210 綱日本史は他の 200 類の主題群よりも低い値を推移しているが、これについては累積貸出率同様母数に史料集が含まれることによるものと考えられる。

受入年度別の特徴としては、2006 年度受入図書では 100 類その他、200 類、900 類の曲線が重なっていることが挙げられる。これらは同じ貸出傾向を持っている可能性がある。また 800 類の 3 種は同じ曲線の形をとり、140 綱心理学は直線的な減少をしている。

表 104 連続貸出図書タイトル数推移（2006 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
140 綱	142	112	93	74	50	228
210 綱	156	82	49	27	11	555
810 綱	82	66	60	51	33	146
910 綱	89	49	29	17	9	340
100 類他	241	140	91	52	29	705
200 類他	162	93	53	30	14	505
800 類他	119	80	70	56	35	211
900 類他	88	39	22	14	6	256
100 類全体	383	252	184	126	79	933
200 類全体	318	175	102	57	25	1,060
800 類全体	201	146	130	107	68	357
900 類全体	177	88	51	31	15	596

表 105 人文科学分野間比較連続貸出率推移（2006 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
140 綱	62.3%	49.1%	40.8%	32.5%	21.9%	228
210 綱	28.1%	14.8%	8.8%	4.9%	2.0%	555
810 綱	56.2%	45.2%	41.1%	34.9%	22.6%	146
910 綱	26.2%	14.4%	8.5%	5.0%	2.6%	340
100 類他	34.2%	19.9%	12.9%	7.4%	4.1%	705
200 類他	32.1%	18.4%	10.5%	5.9%	2.8%	505
800 類他	56.4%	37.9%	33.2%	26.5%	16.6%	211
900 類他	34.4%	15.2%	8.6%	5.5%	2.3%	256
100 類全体	41.1%	27.0%	19.7%	13.5%	8.5%	933
200 類全体	30.0%	16.5%	9.6%	5.4%	2.4%	1,060
800 類全体	56.3%	40.9%	36.4%	30.0%	19.0%	357
900 類全体	29.7%	14.8%	8.6%	5.2%	2.5%	596

表 106 2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2006 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
140 綱	100.0%	78.9%	65.5%	52.1%	35.2%	228
210 綱	100.0%	52.6%	31.4%	17.3%	7.1%	555
810 綱	100.0%	80.5%	73.2%	62.2%	40.2%	146
910 綱	100.0%	55.1%	32.6%	19.1%	10.1%	340
100 類他	100.0%	58.1%	37.8%	21.6%	12.0%	705
200 類他	100.0%	57.4%	32.7%	18.5%	8.6%	505
800 類他	100.0%	67.2%	58.8%	47.1%	29.4%	211
900 類他	100.0%	44.3%	25.0%	15.9%	6.8%	256
100 類全体	100.0%	65.8%	48.0%	32.9%	20.6%	933
200 類全体	100.0%	55.0%	32.1%	17.9%	7.9%	1,060
800 類全体	100.0%	72.6%	64.7%	53.2%	33.8%	357
900 類全体	100.0%	49.7%	28.8%	17.5%	8.5%	596

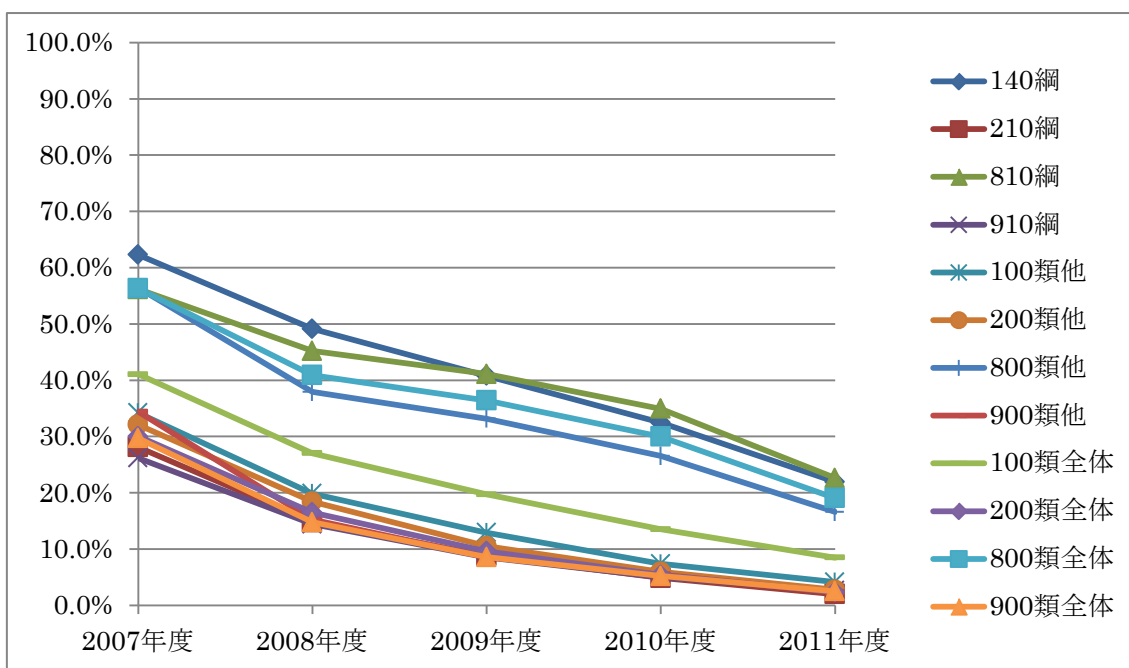


図 56 人文科学分野館比較連続貸出率推移 (2006 年度受入図書)

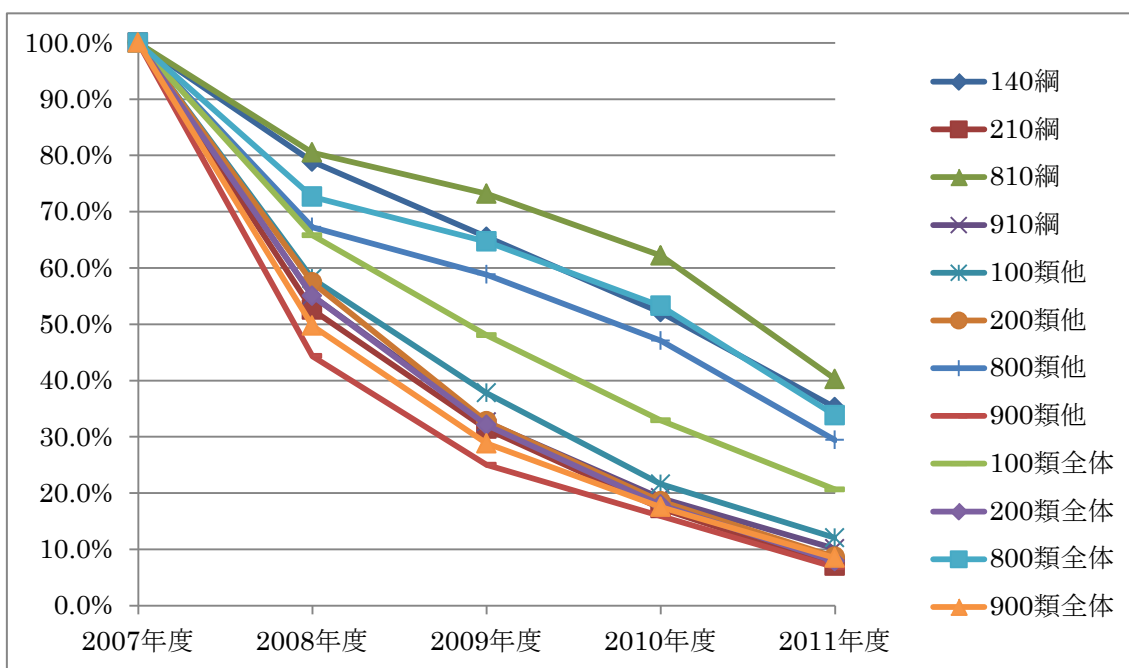


図 57 2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移 (2006 年度受入図書)

2007 年度受入図書では、800 類言語では 810 綱とそれ以外の 2 種類の主題群とで曲線の形状が異なっていること、900 類の 3 種の主題群の曲線が重なっていること、210 綱と「100 類その他」の曲線が類似していることなどが特徴として挙げられる。

表 107 人文科学分野館比較連続貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
140 綱	134	106	81	60	55	201
210 綱	112	50	28	7	4	471
810 綱	79	66	59	41	38	145
910 綱	62	33	21	14	11	307
100 類他	305	190	126	64	41	678
200 類他	156	129	96	82	74	180
800 類他	93	66	53	42	31	195
900 類他	61	35	18	12	7	301
100 類全体	439	296	207	124	96	879
200 類全体	268	179	124	89	78	651
800 類全体	172	132	112	83	69	340
900 類全体	123	68	39	26	18	608

表 108 人文科学分野間比較連続貸出率推移（2007 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
140 綱	62.3%	49.1%	40.8%	32.5%	21.9%	201
210 綱	28.1%	14.8%	8.8%	4.9%	2.0%	471
810 綱	56.2%	45.2%	41.1%	34.9%	22.6%	145
910 綱	26.2%	14.4%	8.5%	5.0%	2.6%	307
100 類他	34.2%	19.9%	12.9%	7.4%	4.1%	678
200 類他	32.1%	18.4%	10.5%	5.9%	2.8%	180
800 類他	56.4%	37.9%	33.2%	26.5%	16.6%	195
900 類他	34.4%	15.2%	8.6%	5.5%	2.3%	301
100 類全体	41.1%	27.0%	19.7%	13.5%	8.5%	879
200 類全体	30.0%	16.5%	9.6%	5.4%	2.4%	651
800 類全体	56.3%	40.9%	36.4%	30.0%	19.0%	340
900 類全体	29.7%	14.8%	8.6%	5.2%	2.5%	608

表 109 2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2007 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
140 綱	100.0%	79.1%	60.4%	44.8%	41.0%	201
210 綱	100.0%	44.6%	25.0%	6.3%	3.6%	471
810 綱	100.0%	83.5%	74.7%	51.9%	48.1%	145
910 綱	100.0%	53.2%	33.9%	22.6%	17.7%	307
100 類他	100.0%	62.3%	41.3%	21.0%	13.4%	678
200 類他	100.0%	82.7%	61.5%	52.6%	47.4%	180
800 類他	100.0%	71.0%	57.0%	45.2%	33.3%	195
900 類他	100.0%	57.4%	29.5%	19.7%	11.5%	301
100 類全体	100.0%	67.4%	47.2%	28.2%	21.9%	879
200 類全体	100.0%	66.8%	46.3%	33.2%	29.1%	651
800 類全体	100.0%	76.7%	65.1%	48.3%	40.1%	340
900 類全体	100.0%	55.3%	31.7%	21.1%	14.6%	608

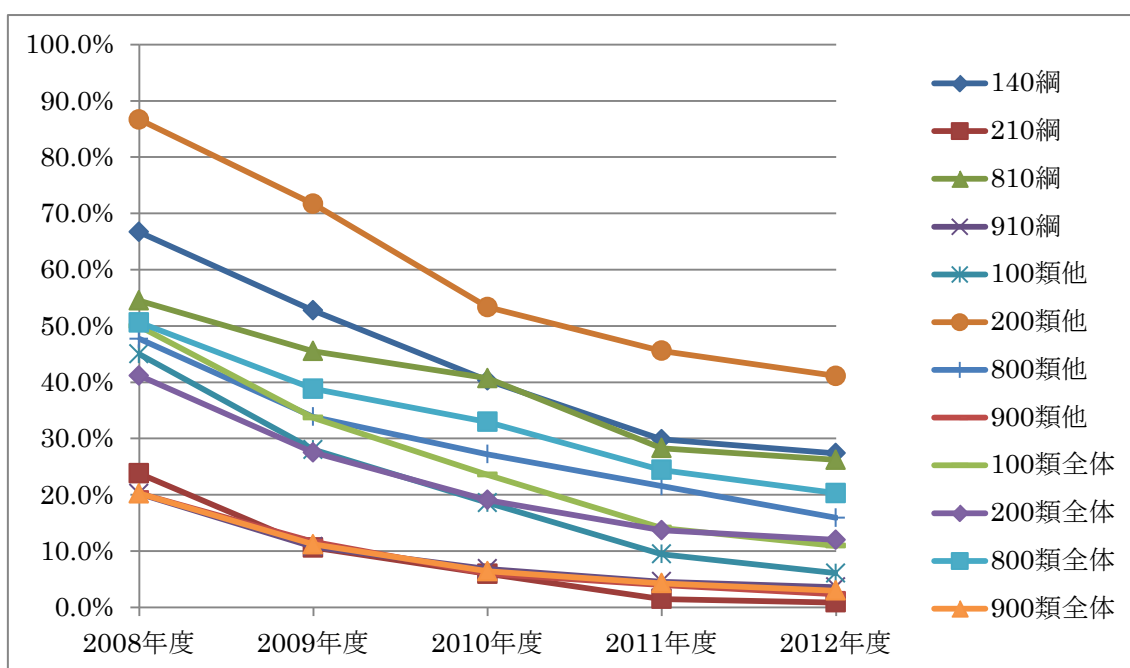


図 58 人文科学分野間比較連続貸出率推移 (2007 年度受入図書)

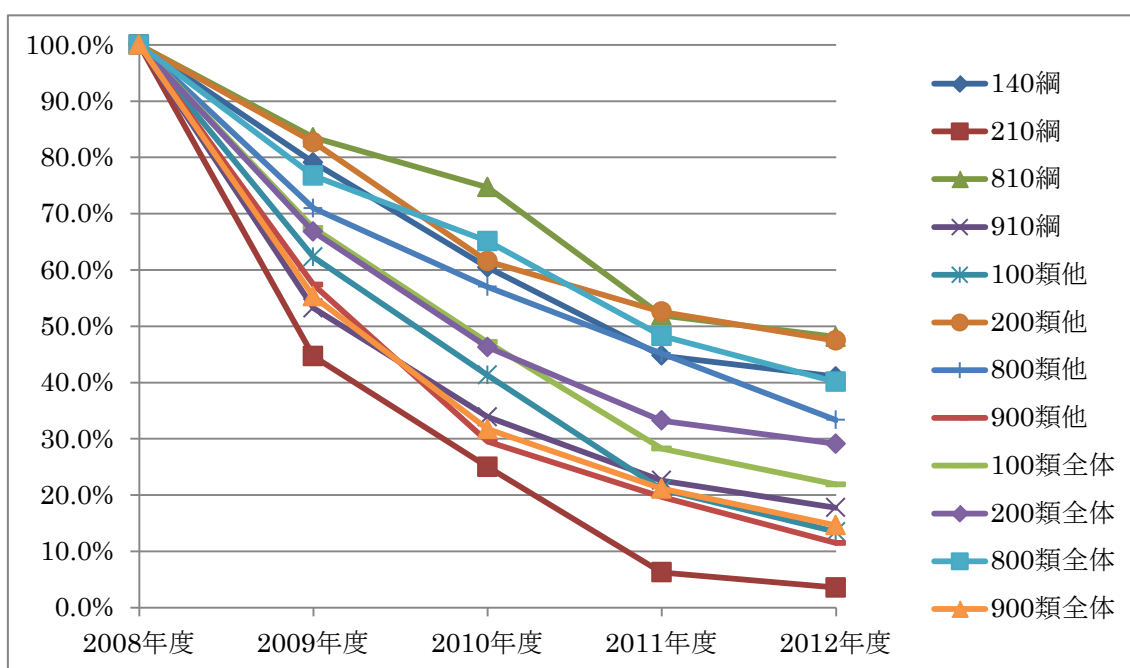


図 59 2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移 (2007 年度受入図書)

2008 年度受入図書にみられた特徴には次のものが挙げられる。800 類の 3 種の主題群と 140 綱心理学、100 類全体と、それ以外の人文科学の主題群で曲線の推移が分かれている。前者は後者より傾きが小さく、5 年連続貸出図書の割合も高い。受入から 2 年間の傾きの大きさがそのまま全体の傾きの大きさの順位を決定づけており、途中での順位変動は微弱であった。

表 110 人文科学分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
140 綱	140	104	63	53	39	218
210 綱	120	60	20	16	11	669
810 綱	73	53	38	36	34	139
910 綱	82	41	20	15	11	310
100 類他	111	65	28	22	19	322
200 類他	200	114	45	32	23	598
800 類他	107	72	43	37	30	205
900 類他	67	28	11	7	6	257
100 類全体	251	169	91	75	58	540
200 類全体	320	174	65	48	34	1,267
800 類全体	180	125	81	73	64	344
900 類全体	149	69	31	22	17	567

表 111 人文科学分野間比較連続貸出率の推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
140 綱	61.4%	45.6%	27.6%	23.2%	17.1%	218
210 綱	21.6%	10.8%	3.6%	2.9%	2.0%	669
810 綱	50.0%	36.3%	26.0%	24.7%	23.3%	139
910 綱	24.1%	12.1%	5.9%	4.4%	3.2%	310
100 類他	34.5%	20.2%	8.7%	6.8%	5.9%	322
200 類他	33.4%	19.1%	7.5%	5.4%	3.8%	598
800 類他	52.2%	35.1%	21.0%	18.0%	14.6%	205
900 類他	26.1%	10.9%	4.3%	2.7%	2.3%	257
100 類全体	46.5%	31.3%	16.9%	13.9%	10.7%	540
200 類全体	25.3%	13.7%	5.1%	3.8%	2.7%	1,267
800 類全体	52.3%	36.3%	23.5%	21.2%	18.6%	344
900 類全体	26.3%	12.2%	5.5%	3.9%	3.0%	567

表 112 2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
140 綱	100.0%	74.3%	45.0%	37.9%	27.9%	218
210 綱	100.0%	50.0%	16.7%	13.3%	9.2%	669
810 綱	100.0%	72.6%	52.1%	49.3%	46.6%	139
910 綱	100.0%	50.0%	24.4%	18.3%	13.4%	310
100 類他	100.0%	58.6%	25.2%	19.8%	17.1%	322
200 類他	100.0%	57.0%	22.5%	16.0%	11.5%	598
800 類他	100.0%	67.3%	40.2%	34.6%	28.0%	205
900 類他	100.0%	41.8%	16.4%	10.4%	9.0%	257
100 類全体	100.0%	67.3%	36.3%	29.9%	23.1%	540
200 類全体	100.0%	54.4%	20.3%	15.0%	10.6%	1,267
800 類全体	100.0%	69.4%	45.0%	40.6%	35.6%	344
900 類全体	100.0%	46.3%	20.8%	14.8%	11.4%	567

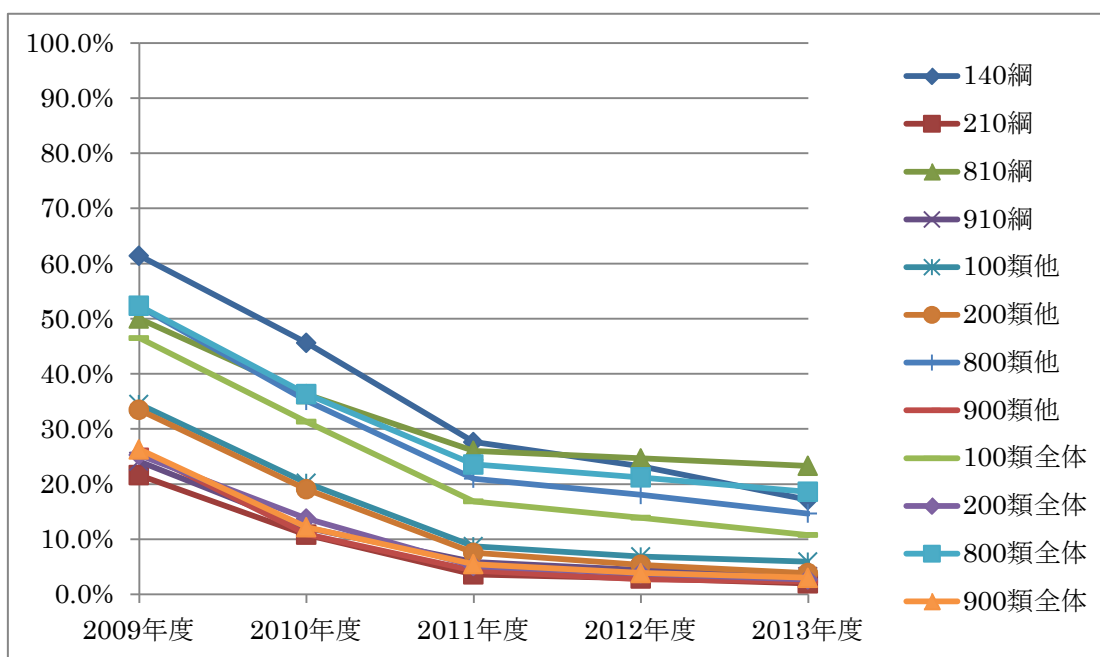


図 60 人文科学分野間比較連続貸出率の推移（2008 年度受入図書）

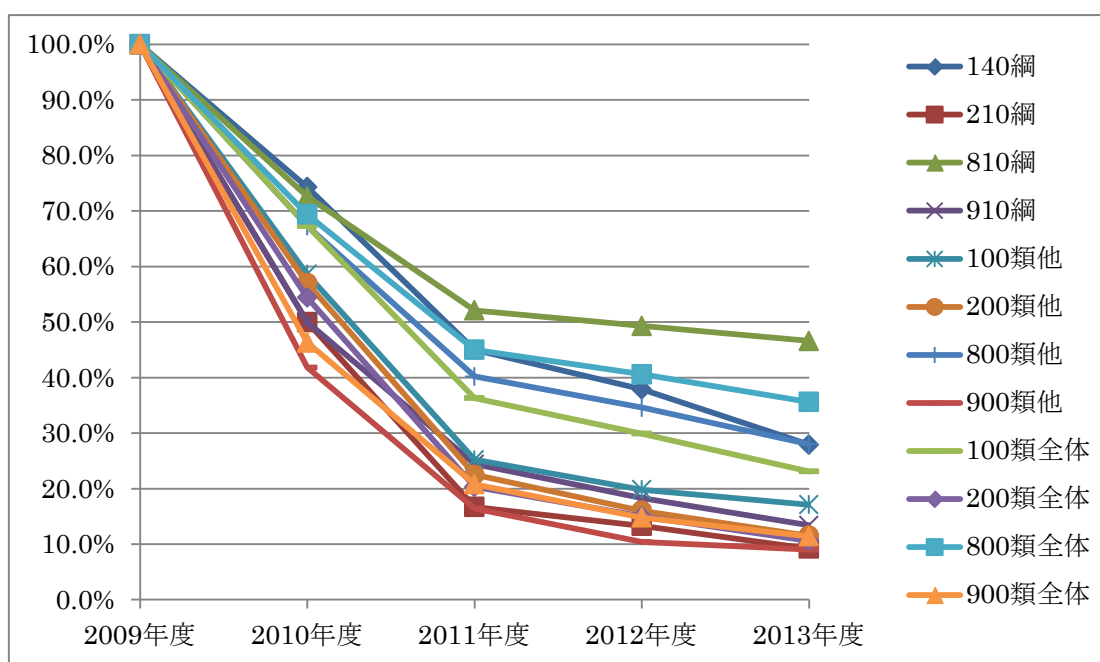


図 61 2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2008 年度受入図書）

（２）社会科学分野

次に 300 類社会科学の細区分別集計結果を以下に示す。どの主題の曲線もほとんど重なっていることから、連続貸出率の推移については、社会科学内の主題間の傾向の差異は小さいと考えられる。

受入年度別には次のような特徴がみられた。

まず 2006 年度受入図書では、310 綱政治学の減少が直線状となっており、他の主題の曲線と異なっていることが挙げられる。このことからこの主題は、一定量の割合で貸出がなされなくなる図書が存在していることが考えられる。また最も傾きが小さい主題は 360 綱社会学、最も大きい主題は 320 綱法学となり、320 綱は 5 年連続で貸出のある図書は、2007 年度に貸出があった図書の 10.3%にとどまる。370 綱教育学と 380 綱民俗学は、2009 年度まで曲線が重なっていたが、翌年度以降は 370 綱の方が傾きは小さくなっている。

2007 年度受入図書では、先行研究でも指摘がある 320 綱法学の連続貸出図書タイトル数が、受入後 5 年で 2008 年度貸出図書タイトル数の 20%以下にまで減少するなど、他の主題よりもやや大きいことが見て取れる。次いで 2006 年度受入図書でも指摘した 310 綱政治学に加えて、330 綱経済学も傾きが大きくなっている。しかし全体としては 310 綱を除いて曲線はほぼ平行になっている。

2008 年度受入図書でも、他の受入年度同様の傾向がある。320 綱は受入 2 年後の 2010 年には、2009 年度貸出された図書のうち半数は貸出がされなくなっており、約 30%から 40%の減少にとどまった他の 300 類の各主題の曲線とは異なった形状の曲線を描いている。2008 年度受入図書の連続貸出率の推移における、最も傾きの小さい主題は 380 綱であった。

表 113 社会科学分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2006 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
310 網	164	120	93	64	34	278
320 網	194	107	61	40	20	402
330 網	301	200	131	98	53	662
360 網	384	275	209	165	105	764
370 網	435	296	223	177	118	768
380 網	109	73	56	40	23	228
300 類他	106	66	44	32	15	239
300 類全体	1,693	1,137	817	616	368	3,341

表 114 社会科学分野間比較連続貸出率推移（2006 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
310 網	59.0%	43.2%	33.5%	23.0%	12.2%	278
320 網	48.3%	26.6%	15.2%	10.0%	5.0%	402
330 網	45.5%	30.2%	19.8%	14.8%	8.0%	662
360 網	50.3%	36.0%	27.4%	21.6%	13.7%	764
370 網	56.6%	38.5%	29.0%	23.0%	15.4%	768
380 網	47.8%	32.0%	24.6%	17.5%	10.1%	228
300 類他	44.4%	27.6%	18.4%	13.4%	6.3%	239
300 類全体	50.7%	34.0%	24.5%	18.4%	11.0%	3,341

表 115 2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2006 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
310 網	100.0%	73.2%	56.7%	39.0%	20.7%	278
320 網	100.0%	55.2%	31.4%	20.6%	10.3%	402
330 網	100.0%	66.4%	43.5%	32.6%	17.6%	662
360 網	100.0%	71.6%	54.4%	43.0%	27.3%	764
370 網	100.0%	68.0%	51.3%	40.7%	27.1%	768
380 網	100.0%	67.0%	51.4%	36.7%	21.1%	228
300 類他	100.0%	62.3%	41.5%	30.2%	14.2%	239
300 類全体	100.0%	67.2%	48.3%	36.4%	21.7%	3,341

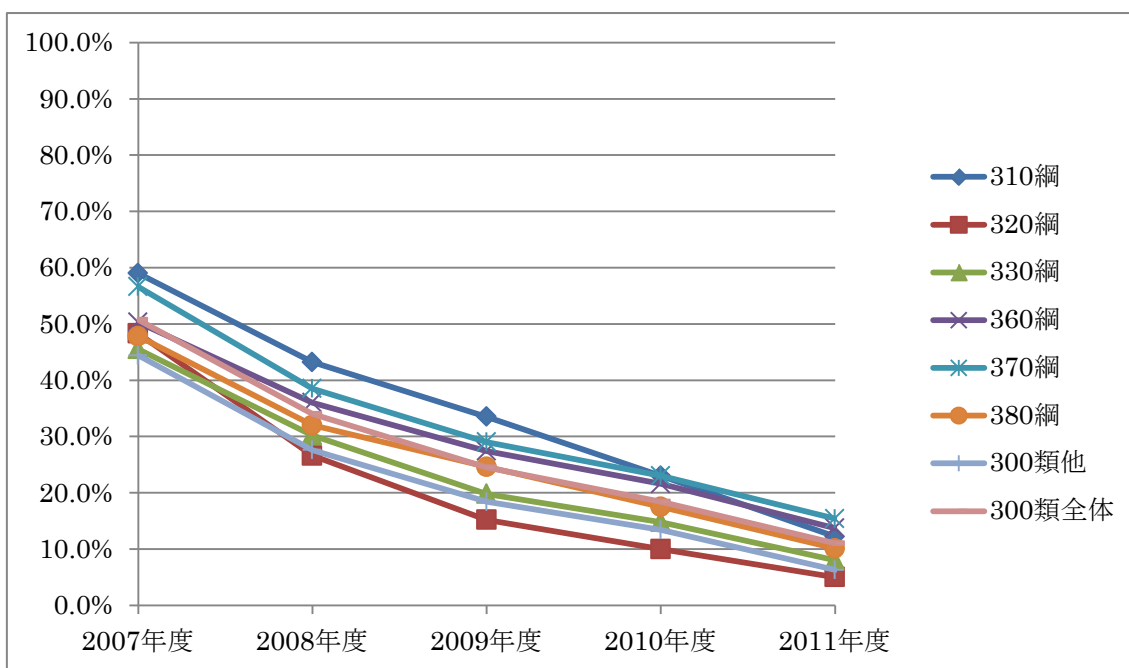


図 62 社会科学分野間比較連続貸出率推移（2006 年度受入図書）

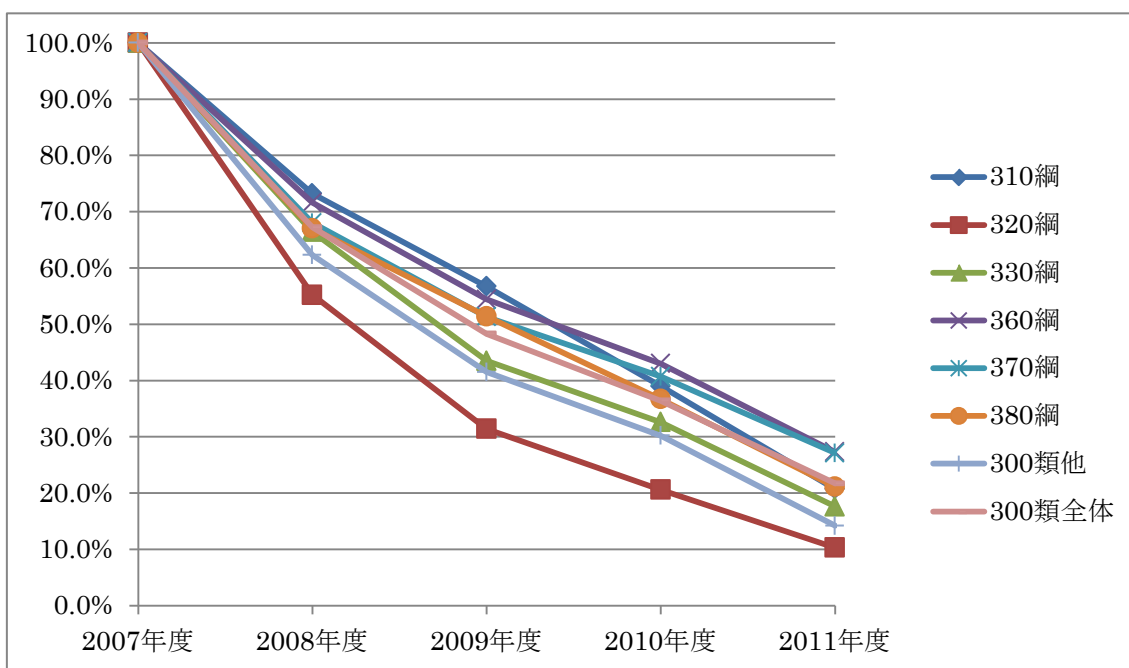


図 63 2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2006 年度受入図書）

表 116 社会科学分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
310 綱	173	122	89	47	31	358
320 綱	107	63	41	21	14	237
330 綱	232	152	104	62	45	501
360 綱	291	199	154	92	72	682
370 綱	332	238	172	102	77	717
380 綱	62	44	33	21	17	122
300 類他	93	57	39	26	21	203
300 類全体	1,290	875	632	371	277	2,820

表 117 社会科学分野間比較連続貸出率推移（2007 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
310 綱	48.3%	34.1%	24.9%	13.1%	8.7%	358
320 綱	45.1%	26.6%	17.3%	8.9%	5.9%	237
330 綱	46.3%	30.3%	20.8%	12.4%	9.0%	501
360 綱	42.7%	29.2%	22.6%	13.5%	10.6%	682
370 綱	46.3%	33.2%	24.0%	14.2%	10.7%	717
380 綱	50.8%	36.1%	27.0%	17.2%	13.9%	122
300 類他	45.8%	28.1%	19.2%	12.8%	10.3%	203
300 類全体	45.7%	31.0%	22.4%	13.2%	9.8%	2,820

表 118 2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2007 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
310 綱	100.0%	70.5%	51.4%	27.2%	17.9%	358
320 綱	100.0%	58.9%	38.3%	19.6%	13.1%	237
330 綱	100.0%	65.5%	44.8%	26.7%	19.4%	501
360 綱	100.0%	68.4%	52.9%	31.6%	24.7%	682
370 綱	100.0%	71.7%	51.8%	30.7%	23.2%	717
380 綱	100.0%	71.0%	53.2%	33.9%	27.4%	122
300 類他	100.0%	61.3%	41.9%	28.0%	22.6%	203
300 類全体	100.0%	67.8%	49.0%	28.8%	21.5%	2,820

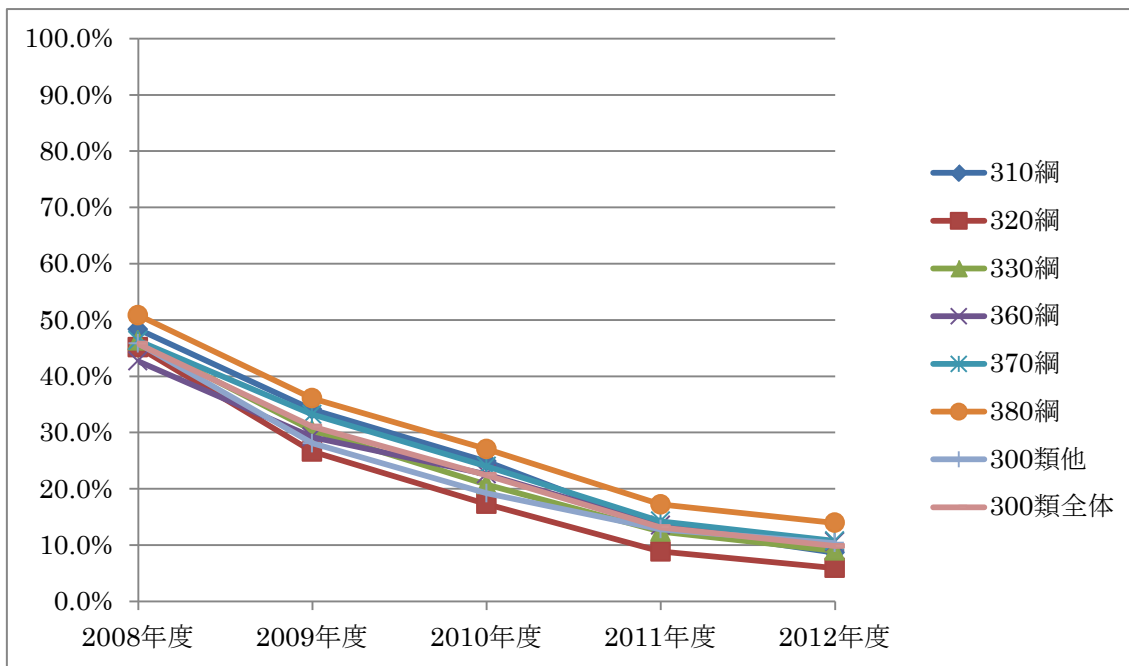


図 64 社会科学分野間比較連続貸出率推移 (2007 年度受入図書)

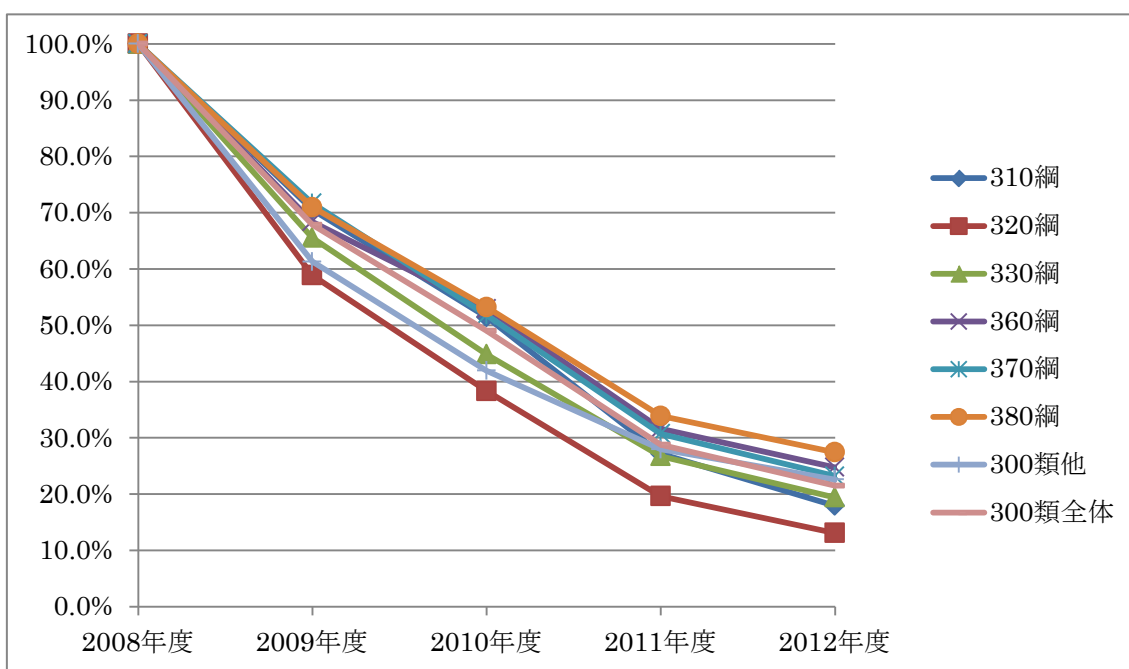


図 65 2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移 (2007 年度受入図書)

表 119 社会科学分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
310 綱	212	146	67	56	33	134
320 綱	127	62	40	30	21	391
330 綱	301	196	103	79	57	300
360 綱	296	198	119	84	68	559
370 綱	382	251	142	120	92	765
380 綱	85	61	35	31	28	188
300 類他	106	75	36	21	16	654
300 類全体	1,509	989	542	421	315	2,991

表 120 社会科学分野間比較連続貸出率推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
310 綱	76.3%	52.5%	24.1%	20.1%	11.9%	134
320 綱	31.6%	15.4%	10.0%	7.5%	5.2%	391
330 綱	45.5%	29.6%	15.6%	11.9%	8.6%	300
360 綱	38.7%	25.9%	15.6%	11.0%	8.9%	559
370 綱	49.7%	32.7%	18.5%	15.6%	12.0%	765
380 綱	37.3%	26.8%	15.4%	13.6%	12.3%	188
300 類他	16.2%	11.5%	5.5%	3.2%	2.4%	654
300 類全体	50.5%	33.1%	18.1%	14.1%	10.5%	2,991

表 121 2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
310 綱	100.0%	68.9%	31.6%	26.4%	15.6%	134
320 綱	100.0%	48.8%	31.5%	23.6%	16.5%	391
330 綱	100.0%	65.1%	34.2%	26.2%	18.9%	300
360 綱	100.0%	66.9%	40.2%	28.4%	23.0%	559
370 綱	100.0%	65.7%	37.2%	31.4%	24.1%	765
380 綱	100.0%	71.8%	41.2%	36.5%	32.9%	188
300 類他	100.0%	70.8%	34.0%	19.8%	15.1%	654
300 類全体	100.0%	65.5%	35.9%	27.9%	20.9%	2,991

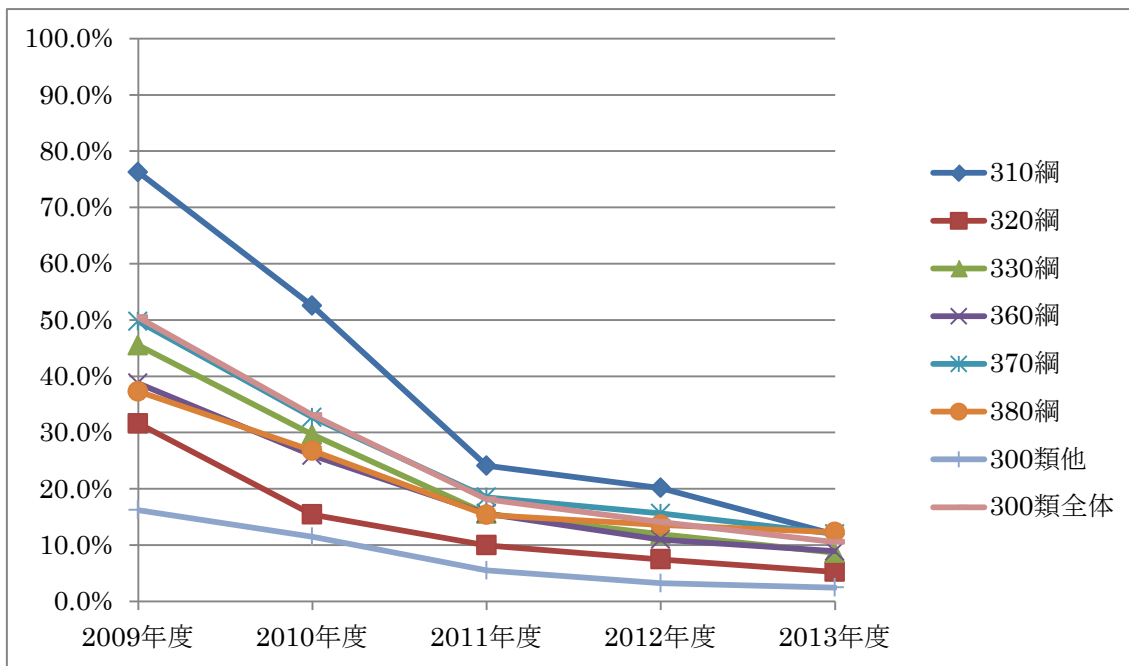


図 66 社会科学分野間比較連続貸出率推移 (2008 年度受入図書)

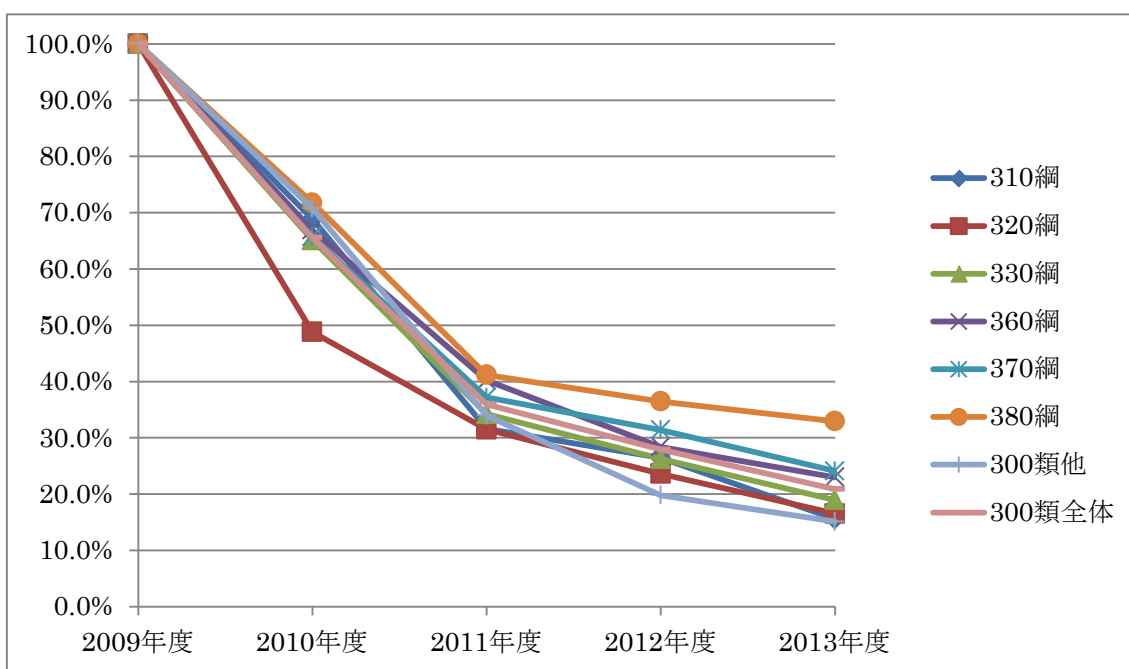


図 67 2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移 (2008 年度受入図書)

(3) 自然科学分野

自然科学分野の細区分での集計結果は次の通りとなった。410 綱数学および 420 綱物理学は、どの受入図書群においても、受入の翌年度に貸出された図書に占める割合が、受入から 3 年後では 60%以上、4 年後でも 50%以上で、他の主題よりも高い値を推移している。このことから、連続して貸出されるタイトル数の減少は少ないと考えられる。一方 490 綱医学は他の 400 類の区分と離れて受入から 3 年後で 50%台、4 年後で 40%以下と低い数値を推移している。460 綱生物学は受入年度によって 410 綱や 420 綱よりも高い値を推移する年度とそうでない年度がある。540 綱電気・電子工学は、500 類の各種細区分の中で、どの受入年度においても最も高い値を推移している。ただし 520 綱建築学は分館 A に大半の資料があり、それらが 2011 年に罹災した関係で傾きが最も大きくなっている。

各受入年度別の特徴は以下の通りとなった。

2006 年度受入図書の特徴は、400 類のその他の主題が最も値が高くなった。それぞれ受入図書タイトル数が、細区分別主題すべての受入図書タイトル数の平均である 128 件に満たない主題であり、430 綱化学がこれに含まれている。430 綱化学は 90%以上の受入図書が受入から 1 年以内に貸出されていた。このことが影響していると考えられる。また 450 綱地学など他の主題においても少ない受入図書タイトル数ながら、頻繁に貸出されている図書もあると考えられる。傾きが最も大きかったのは 520 綱建築学で 500 類の他の主題群の曲線とも形状が異なった。震災の影響がある 2011 年度以前の方が傾きは大きくなっていることから、本来的に連続して貸出がされる図書は少ないと考えられる。490 綱医学のみ直線的な減少をしており、他の 400 類とは形状が異なっている。

表 122 自然科学分野間比較連続貸出図書タイトル数推移 (2006 年度受入図書)

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
410 綱	242	188	164	137	93	360
420 綱	127	98	82	67	45	183
460 綱	108	85	73	65	50	167
490 綱	909	677	481	318	150	1,579
400 類他	251	188	156	128	80	254
400 類全体	1,637	1,236	956	715	418	2,669
510 綱	135	101	80	57	23	257
520 綱	105	67	37	16	3	241
540 綱	131	95	70	56	32	237
500 類他	178	121	80	55	33	344
500 類全体	549	384	267	184	91	1,079

表 123 自然科学分野間比較連続貸出率推移 (2006 年度受入図書)

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
410 綱	67.2%	52.2%	45.6%	38.1%	25.8%	360
420 綱	69.4%	53.6%	44.8%	36.6%	24.6%	183
460 綱	64.7%	50.9%	43.7%	38.9%	29.9%	167
490 綱	57.6%	42.9%	30.5%	20.1%	9.5%	1,579
400 類他	98.8%	74.0%	61.4%	50.4%	31.5%	254
400 類全体	61.3%	46.3%	35.8%	26.8%	15.7%	2,669
510 綱	52.5%	39.3%	31.1%	22.2%	8.9%	257
520 綱	43.6%	27.8%	15.4%	6.6%	1.2%	241
540 綱	55.3%	40.1%	29.5%	23.6%	13.5%	237
500 類他	51.7%	35.2%	23.3%	16.0%	9.6%	344
500 類全体	50.9%	35.6%	24.7%	17.1%	8.4%	1,079

表 124 2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移 (2006 年度受入図書)

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
410 綱	100.0%	77.7%	67.8%	56.6%	38.4%	360
420 綱	100.0%	77.2%	64.6%	52.8%	35.4%	183
460 綱	100.0%	78.7%	67.6%	60.2%	46.3%	167
490 綱	100.0%	74.5%	52.9%	35.0%	16.5%	1,579
400 類他	100.0%	74.9%	62.2%	51.0%	31.9%	254
400 類全体	100.0%	75.5%	58.4%	43.7%	25.5%	2,669
510 綱	100.0%	74.8%	59.3%	42.2%	17.0%	257
520 綱	100.0%	63.8%	35.2%	15.2%	2.9%	241
540 綱	100.0%	72.5%	53.4%	42.7%	24.4%	237
500 類他	100.0%	68.0%	44.9%	30.9%	18.5%	344
500 類全体	100.0%	69.9%	48.6%	33.5%	16.6%	1,079

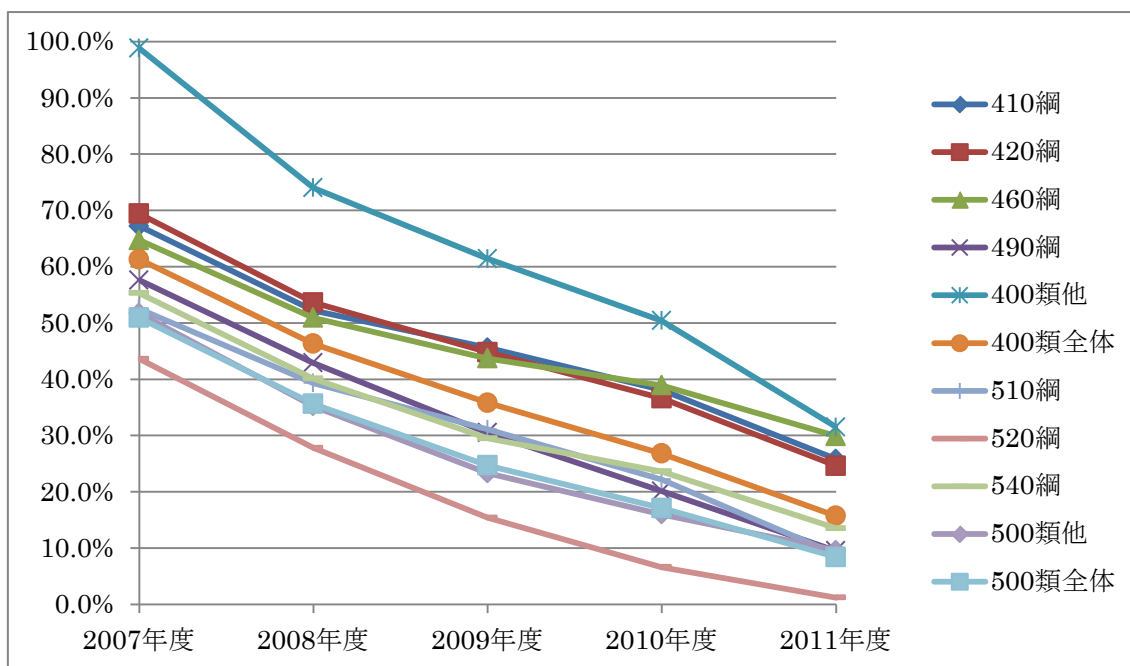


図 68 自然科学分野間比較連続貸出率推移 (2006 年度受入図書)

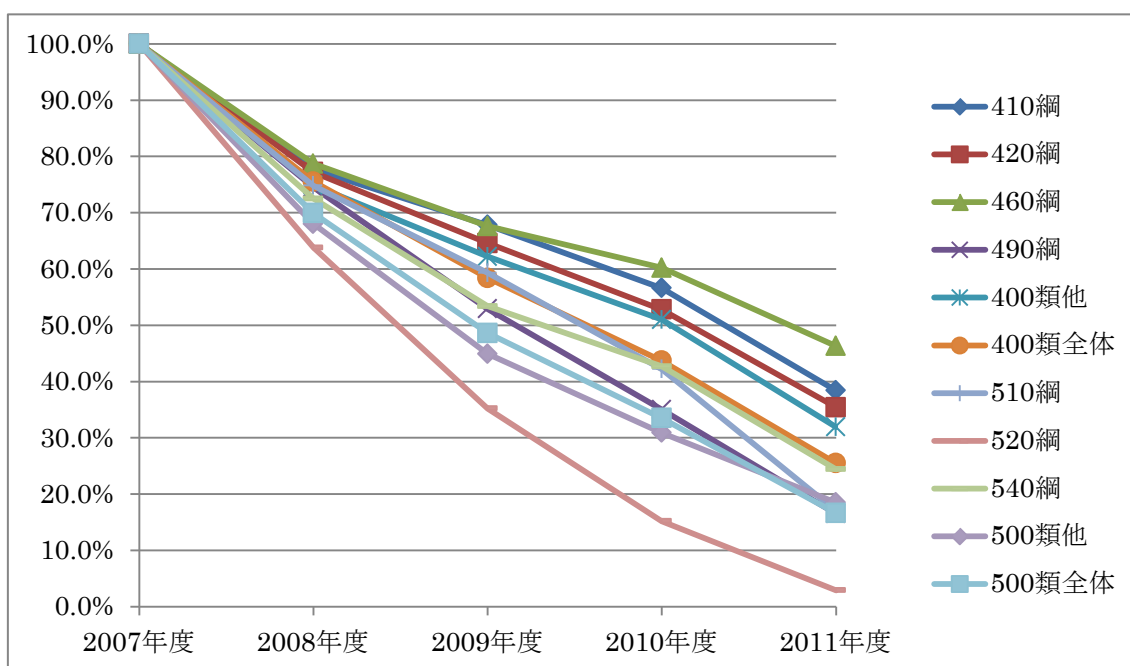


図 69 2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移 (2006 年度受入図書)

2007 年度受入図書でも、520 網の傾きの大きさと他の 500 類との曲線の形状の差異が確認できた。490 網については、500 類と異なり 400 類全体の曲線の傾きが 410 網数学、420 網物理学、400 類その他の集団と、震災の影響も考えられる 460 網、400 類全体と 490 網の 3 つの集団に分かれているため、2006 年度ほどその独自性は観察されなかった。また、540 網電気・電子工学のみ直線的な減少をしている。

表 125 自然科学分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
410 網	303	242	201	144	118	447
420 網	111	95	80	56	48	153
460 網	116	97	74	42	33	200
490 網	766	513	360	202	147	1,686
400 類他	205	160	133	89	81	335
400 類全体	1,501	1,107	848	533	427	2,821
510 網	117	87	67	37	26	251
520 網	113	62	36	5	4	244
540 網	141	109	81	52	34	227
500 類他	150	96	72	41	37	275
500 類全体	521	354	256	135	101	997

表 126 自然科学分野間比較連続貸出率推移 (2007 年度受入図書)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
410 綱	67.8%	54.1%	45.0%	32.2%	26.4%	447
420 綱	72.5%	62.1%	52.3%	36.6%	31.4%	153
460 綱	58.0%	48.5%	37.0%	21.0%	16.5%	200
490 綱	45.4%	30.4%	21.4%	12.0%	8.7%	1,686
400 類他	61.2%	47.8%	39.7%	26.6%	24.2%	335
400 類全体	53.2%	39.2%	30.1%	18.9%	15.1%	2,821
510 綱	46.6%	34.7%	26.7%	14.7%	10.4%	251
520 綱	46.3%	25.4%	14.8%	2.0%	1.6%	244
540 綱	62.1%	48.0%	35.7%	22.9%	15.0%	227
500 類他	54.5%	34.9%	26.2%	14.9%	13.5%	275
500 類全体	52.3%	35.5%	25.7%	13.5%	10.1%	997

表 127 2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移 (2007 年度受入図書)

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
410 綱	100.0%	79.9%	66.3%	47.5%	38.9%	447
420 綱	100.0%	85.6%	72.1%	50.5%	43.2%	153
460 綱	100.0%	83.6%	63.8%	36.2%	28.4%	200
490 綱	100.0%	67.0%	47.0%	26.4%	19.2%	1,686
400 類他	100.0%	78.0%	64.9%	43.4%	39.5%	335
400 類全体	100.0%	73.8%	56.5%	35.5%	28.4%	2,821
510 綱	100.0%	74.4%	57.3%	31.6%	22.2%	251
520 綱	100.0%	54.9%	31.9%	4.4%	3.5%	244
540 綱	100.0%	77.3%	57.4%	36.9%	24.1%	227
500 類他	100.0%	64.0%	48.0%	27.3%	24.7%	275
500 類全体	100.0%	67.9%	49.1%	25.9%	19.4%	997

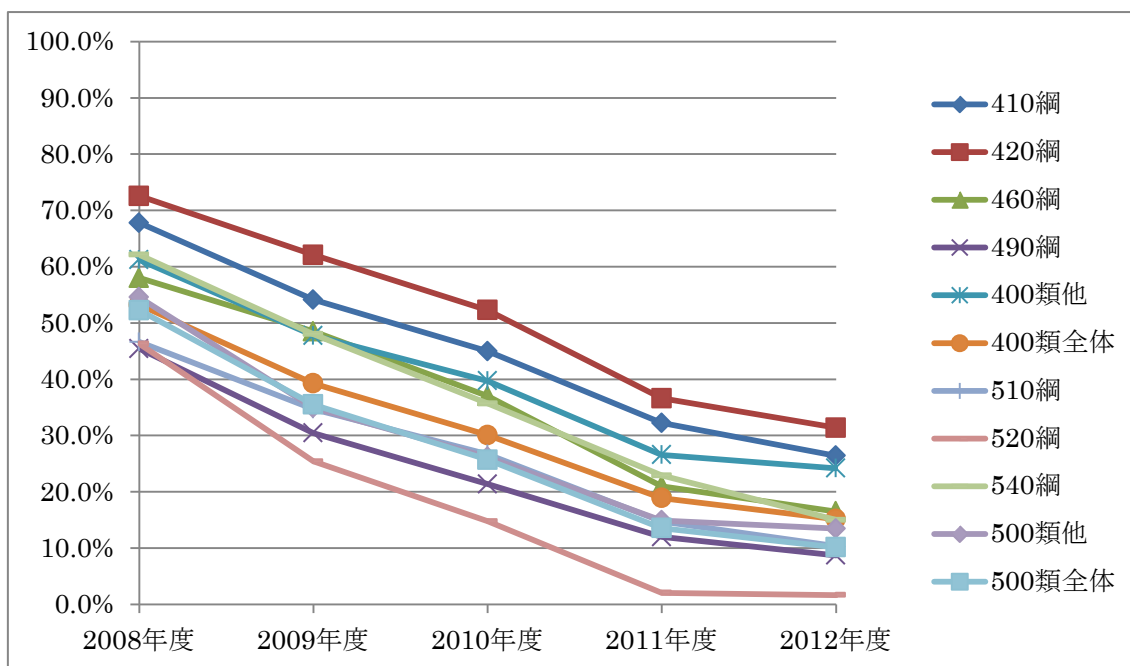


図 70 自然科学分野間比較連続貸出率推移 (2007 年度受入図書)

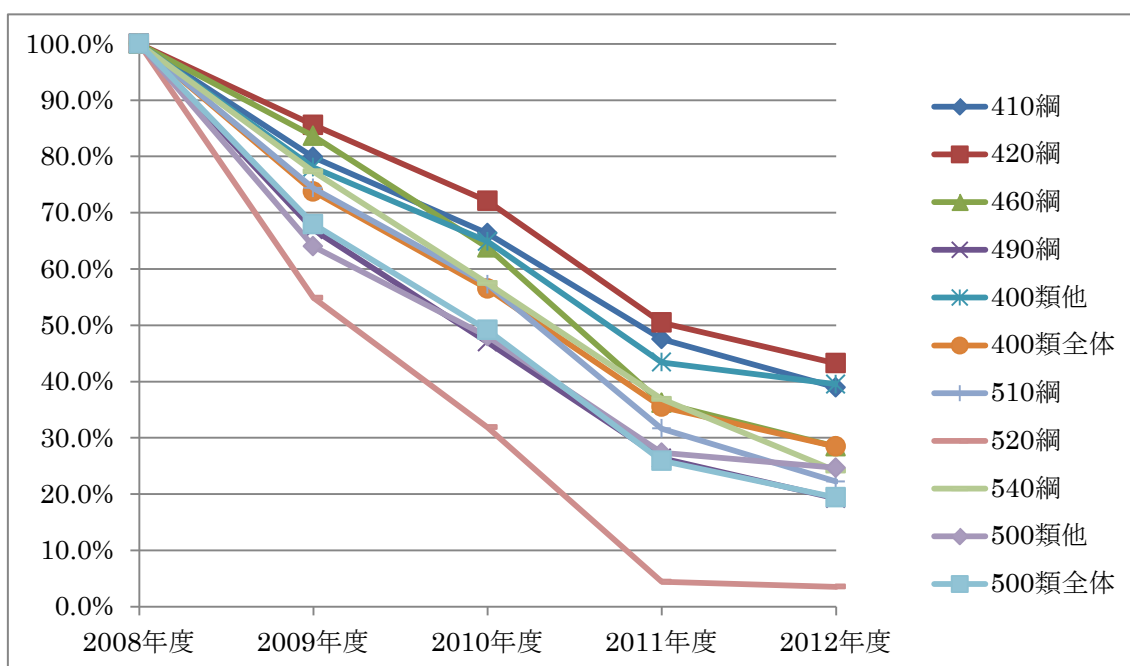


図 71 2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移 (2007 年度受入図書)

2008 年度受入図書では、420 綱物理学が最も高い値をとり、傾きも最も小さい。次いで値が高いのは「400 類その他」、540 綱電気・電子工学となっている。次いで傾きの小さい主題は、「400 類その他」、410 綱数学である。この点は 2007 年度受入図書と似た傾向にある。反対に最も傾きが大きい主題は 520 綱建築学であった。460 綱生物学と 490 綱医学がこの受入年度では傾きがほとんど同じになり、曲線も重なった。400 類同士の曲線はこれを除いてほとんど重なることがなかった。一方 500 類は 520 綱以外ほとんど曲線が重なっている。そのため、400 類は、その細区分された主題同士が異なった貸出傾向をもつ可能性があると考えられる。

表 128 自然科学分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
410 綱	187	147	98	83	68	302
420 綱	178	165	128	118	107	205
460 綱	106	70	40	34	25	160
490 綱	627	418	228	171	135	1,417
400 類他	234	201	140	118	109	336
400 類全体	1,332	1,001	634	524	444	2,420
510 綱	116	82	33	26	22	220
520 綱	119	69	10	2	1	298
540 綱	175	140	79	57	51	292
500 類他	119	79	43	31	23	278
500 類全体	529	370	165	116	97	1,088

表 129 自然科学分野間比較連続貸出率推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
410 綱	51.9%	40.8%	27.2%	23.1%	18.9%	302
420 綱	97.3%	90.2%	69.9%	64.5%	58.5%	205
460 綱	63.5%	41.9%	24.0%	20.4%	15.0%	160
490 綱	39.7%	26.5%	14.4%	10.8%	8.5%	1,417
400 類他	69.6%	59.8%	41.7%	35.1%	32.4%	336
400 類全体	55.0%	41.4%	26.2%	21.7%	18.3%	2,420
510 綱	45.1%	31.9%	12.8%	10.1%	8.6%	220
520 綱	49.4%	28.6%	4.1%	0.8%	0.4%	298
540 綱	73.8%	59.1%	33.3%	24.1%	21.5%	292
500 類他	42.8%	28.4%	15.5%	11.2%	8.3%	278
500 類全体	48.6%	34.0%	15.2%	10.7%	8.9%	1,088

表 130 2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
410 綱	100.0%	78.6%	52.4%	44.4%	36.4%	302
420 綱	100.0%	92.7%	71.9%	66.3%	60.1%	205
460 綱	100.0%	66.0%	37.7%	32.1%	23.6%	160
490 綱	100.0%	66.7%	36.4%	27.3%	21.5%	1,417
400 類他	100.0%	85.9%	59.8%	50.4%	46.6%	336
400 類全体	100.0%	75.2%	47.6%	39.3%	33.3%	2,420
510 綱	100.0%	70.7%	28.4%	22.4%	19.0%	220
520 綱	100.0%	58.0%	8.4%	1.7%	0.8%	298
540 綱	100.0%	80.0%	45.1%	32.6%	29.1%	292
500 類他	100.0%	66.4%	36.1%	26.1%	19.3%	278
500 類全体	100.0%	69.9%	31.2%	21.9%	18.3%	1,088

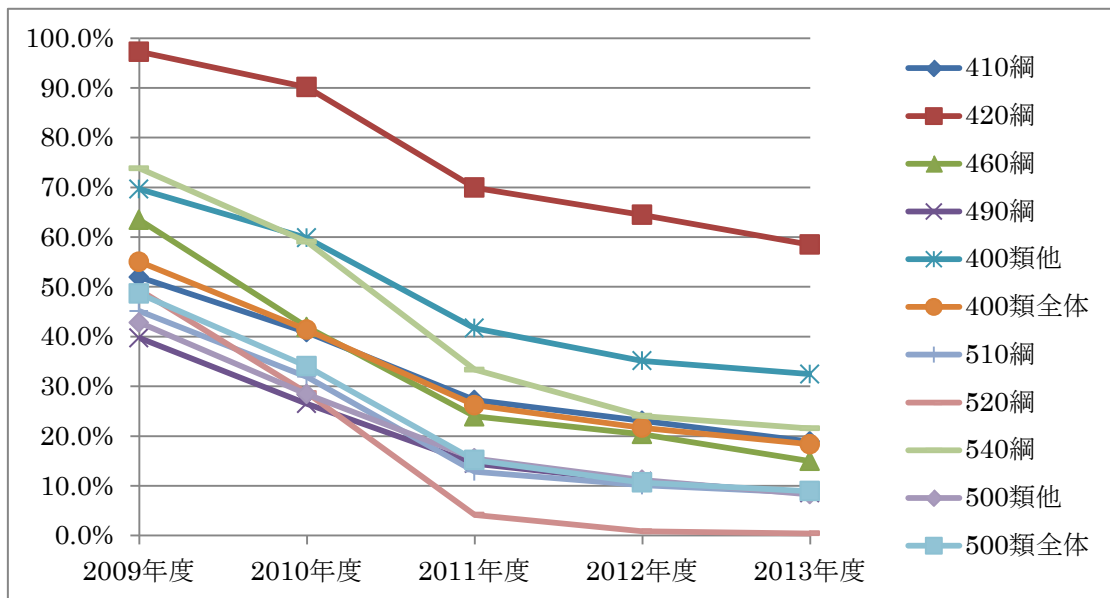


図 72 自然科学分野間比較連続貸出率推移 (2008 年度受入図書)

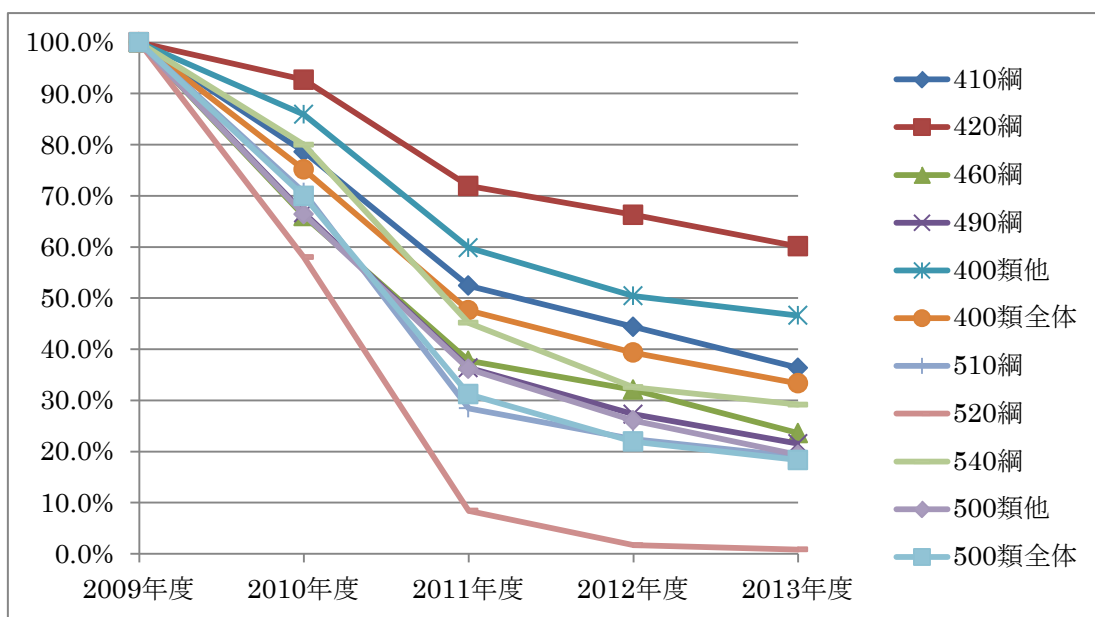


図 73 2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移 (2008 年度受入図書)

(4) その他

最後に、000 類と 700 類を細区分したものについての集計結果を示す。700 類についてはそのほとんどを所蔵する分館 A が罹災した関係で 2011 年にかけて大きく減少している。この点については 700 類同士で共通した傾向である。しかし 780 綱体育のみ、受入後 1 年間の傾きが他の主題より小さくなっており、曲線の形状も異なっていることから、780 綱は特異な貸出傾向をもっている可能性がある。

000 類は 010 綱図書館情報学と 007 目情報科学で傾向が異なっている。どの年度においても傾きが最も小さかった 007 目に対して、700 類を除けば最も傾きが大きかった 010 綱図書館情報学は人文科学と似て、連続して何年も貸出される図書が少ないと考えられる。

受入年度別の特徴は次の通りとなった。

2006 年度受入図書では、010 綱図書館情報学と 780 綱綱体育において直線的な減少がみられた。すなわち一定の割合で連続して貸出される図書の割合が減少しているということである。他の主題は 2008 年度にかけて最も減少し、その後減少量は逡減している。また、傾きの大きさが 000 類と 700 類で分かれて収束した。

2007 年度受入図書でも 000 類と 700 類の収束は観察されたが、2006 年度受入図書ほどまとまっておらず、007 目と 010 綱は 20%弱離れている。

2008 年度受入図書は、010 綱の傾きが、2009 年度から 2010 年度にかけて、700 類を除いて最も大きくなった。残りの 000 類の曲線は平行に推移していることから、ここでも 010 綱は特異な動きとなっている。また 780 綱体育は、2009 年度時点での連続貸出率が 71.3%と、他の 700 類の主題に比べて 30%ほど高くなっている。

表 131 その他分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2006 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
007 目	198	132	102	75	51	330
010 綱	87	68	51	34	20	229
000 類他	174	103	69	52	37	436
000 類全体	459	303	222	161	108	995
720 綱	120	70	36	19	5	229
780 綱	245	188	122	74	17	348
700 類他	261	156	100	62	23	535
700 類全体	626	414	258	155	45	1,112

表 132 その他分野間比較連続貸出率推移（2006 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
007 目	60.0%	40.0%	30.9%	22.7%	15.5%	330
010 綱	38.0%	29.7%	22.3%	14.8%	8.7%	229
000 類他	39.9%	23.6%	15.8%	11.9%	8.5%	436
000 類全体	46.1%	30.5%	22.3%	16.2%	10.9%	995
720 綱	52.4%	30.6%	15.7%	8.3%	2.2%	229
780 綱	70.4%	54.0%	35.1%	21.3%	4.9%	348
700 類他	48.8%	29.2%	18.7%	11.6%	4.3%	535
700 類全体	56.3%	37.2%	23.2%	13.9%	4.0%	1,112

表 133 2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2006 年度受入図書）

	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	受入件数
007 目	100.0%	66.7%	51.5%	37.9%	25.8%	330
010 綱	100.0%	78.2%	58.6%	39.1%	23.0%	229
000 類他	100.0%	59.2%	39.7%	29.9%	21.3%	436
000 類全体	100.0%	66.0%	48.4%	35.1%	23.5%	995
720 綱	100.0%	58.3%	30.0%	15.8%	4.2%	229
780 綱	100.0%	76.7%	49.8%	30.2%	6.9%	348
700 類他	100.0%	59.8%	38.3%	23.8%	8.8%	535
700 類全体	100.0%	66.1%	41.2%	24.8%	7.2%	1,112

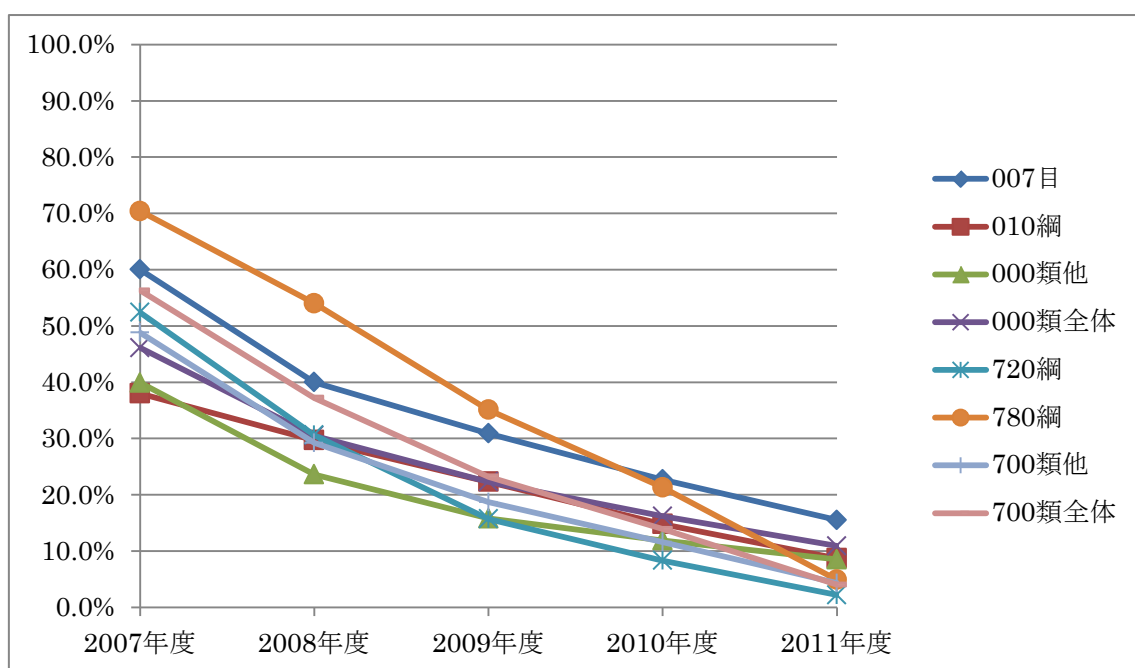


図 74 その他分野間比較連続貸出率推移 (2006 年度受入図書)

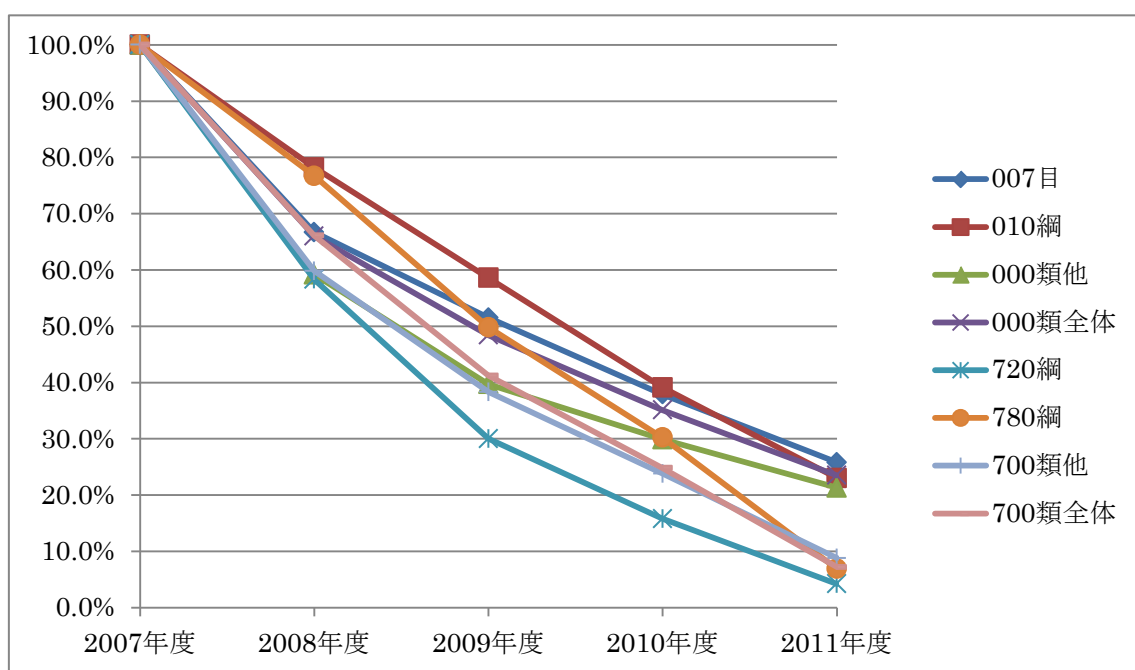


図 75 2007 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移 (2006 年度受入図書)

表 134 その他分野間比較連続貸出図書タイトル数推移（2007 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
007 目	167	119	92	55	44	300
010 綱	106	69	39	22	17	213
000 類他	166	108	76	47	35	366
000 類全体	439	296	207	124	96	879
720 綱	84	47	29	4	3	194
780 綱	204	149	95	20	16	342
700 類他	170	102	53	16	14	445
700 類全体	458	298	177	40	33	981

表 135 その他分野間比較連続貸出率推移（2007 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
007 目	55.7%	39.7%	30.7%	18.3%	14.7%	300
010 綱	49.8%	32.4%	18.3%	10.3%	8.0%	213
000 類他	45.4%	29.5%	20.8%	12.8%	9.6%	366
000 類全体	49.9%	33.7%	23.5%	14.1%	10.9%	879
720 綱	43.3%	24.2%	14.9%	2.1%	1.5%	194
780 綱	59.6%	43.6%	27.8%	5.8%	4.7%	342
700 類他	38.2%	22.9%	11.9%	3.6%	3.1%	445
700 類全体	46.7%	30.4%	18.0%	4.1%	3.4%	981

表 136 2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2007 年度受入図書）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	受入件数
007 目	100.0%	71.3%	55.1%	32.9%	26.3%	300
010 綱	100.0%	65.1%	36.8%	20.8%	16.0%	213
000 類他	100.0%	65.1%	45.8%	28.3%	21.1%	366
000 類全体	100.0%	67.4%	47.2%	28.2%	21.9%	879
720 綱	100.0%	56.0%	34.5%	4.8%	3.6%	194
780 綱	100.0%	73.0%	46.6%	9.8%	7.8%	342
700 類他	100.0%	60.0%	31.2%	9.4%	8.2%	445
700 類全体	100.0%	65.1%	38.6%	8.7%	7.2%	981

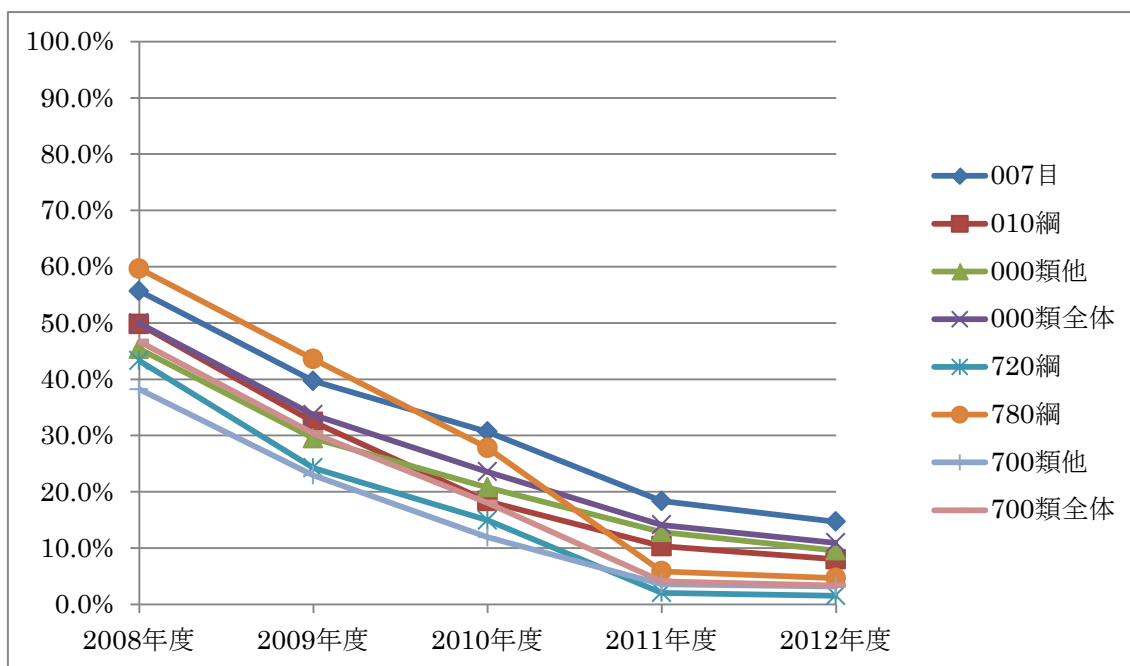


図 76 その他分野間比較連続貸出率推移 (2007 年度受入図書)

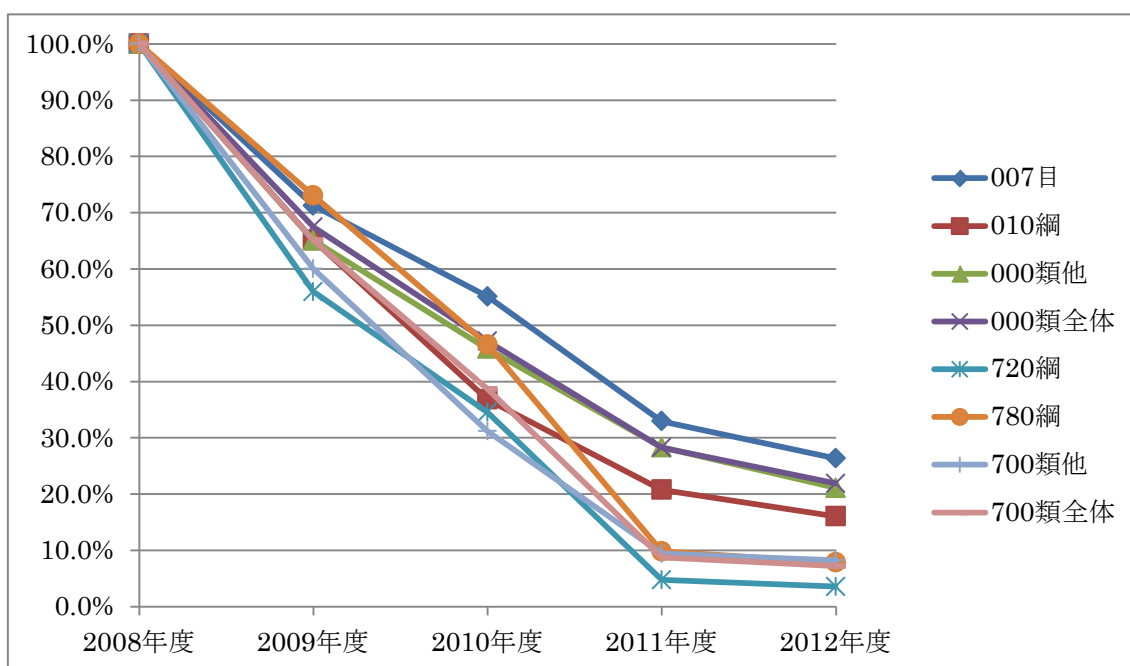


図 77 2008 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移 (2007 年度受入図書)

表 137 その他分野間比較連続貸出図書タイトル数の推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
007 目	219	159	92	74	58	342
010 綱	90	36	16	9	7	229
000 類他	221	141	69	56	44	546
000 類全体	530	336	177	139	109	1,117
720 綱	114	60	11	7	7	207
780 綱	248	140	28	25	21	495
700 類他	188	111	31	19	19	553
700 類全体	550	311	70	51	47	1,255

表 138 その他分野間比較連続貸出率推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
007 目	64.0%	46.5%	26.9%	21.6%	17.0%	342
010 綱	39.3%	15.7%	7.0%	3.9%	3.1%	229
000 類他	40.5%	25.8%	12.6%	10.3%	8.1%	546
000 類全体	47.4%	30.1%	15.8%	12.4%	9.8%	1,117
720 綱	49.8%	26.2%	4.8%	3.1%	3.1%	207
780 綱	71.3%	40.2%	8.0%	7.2%	6.0%	495
700 類他	34.0%	20.1%	5.6%	3.4%	3.4%	553
700 類全体	43.8%	24.8%	5.6%	4.1%	3.7%	1,255

表 139 2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移（2008 年度受入図書）

	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	受入件数
007 目	100.0%	72.6%	42.0%	33.8%	26.5%	342
010 綱	100.0%	40.0%	17.8%	10.0%	7.8%	229
000 類他	100.0%	63.8%	31.2%	25.3%	19.9%	546
000 類全体	100.0%	63.4%	33.4%	26.2%	20.6%	1,117
720 綱	100.0%	52.6%	9.6%	6.1%	6.1%	207
780 綱	100.0%	56.5%	11.3%	10.1%	8.5%	495
700 類他	100.0%	59.0%	16.5%	10.1%	10.1%	553
700 類全体	100.0%	56.5%	12.7%	9.3%	8.5%	1,255

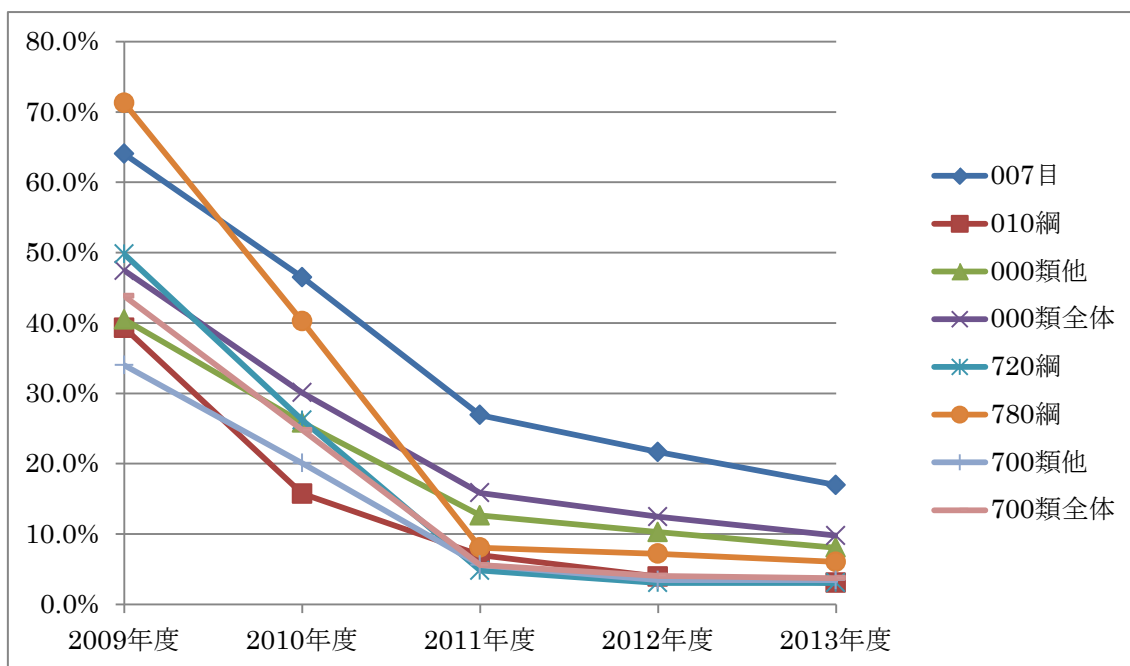


図 78 その他分野間比較連続貸出率推移 (2008 年度受入図書)

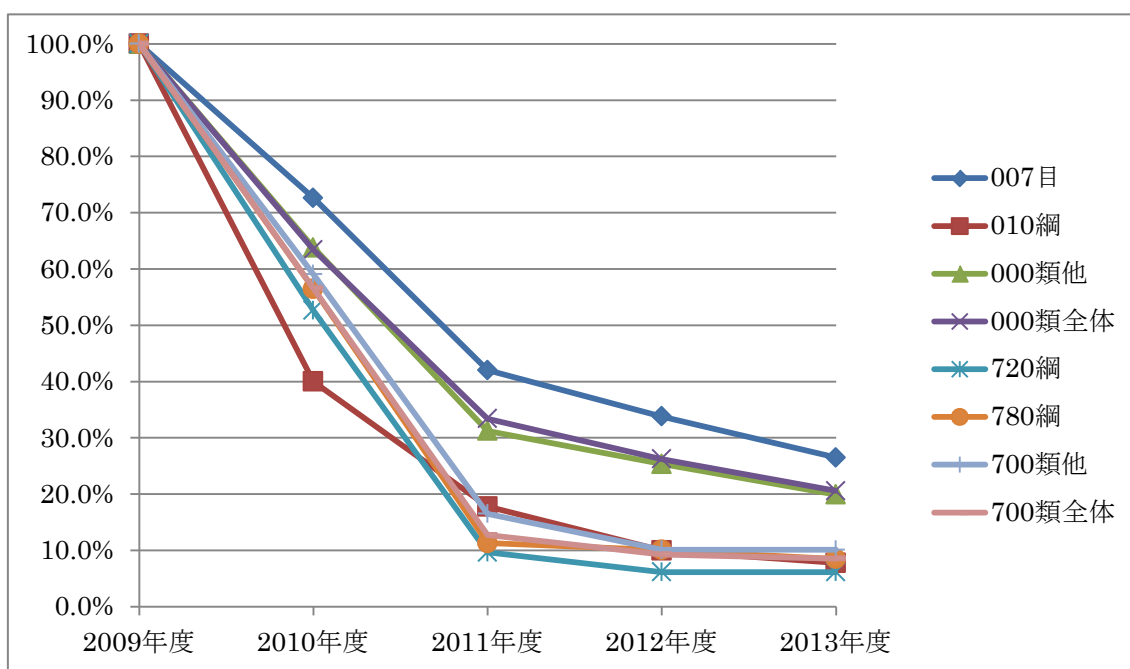


図 79 2009 年度貸出図書に占める連続貸出図書の割合の推移 (2008 年度受入図書)

3.4.4 連続貸出率まとめ

以上の結果をまとめると次のようになる。

全体としては、累積貸出率が高い値で推移している主題は傾きが小さく、低い値で推移している主題は傾きが大きくなっている。一次区分別には、400 類、800 類の傾きが最も小さく、200 類、900 類の傾きが最も大きくなった。そして傾きの大きな主題は、受入から 2 年後では、受入の翌年に貸出された図書の半数近くは貸出がなくなるほど急激な減少となることがわかった。細区分した主題別では、420 綱物理学を筆頭に、410 綱数学、810 綱日本語、140 綱心理学において傾きが小さくなっている。この 410 綱、420 綱、140 綱一方、010 綱図書館情報学、210 綱日本史、320 綱法学、910 綱日本文学は受入後 3 年までに約 70%の図書が一時的、ないしは恒久的に貸出がなくなっている。

また、同じ一次区分内で比較すると、300 類の中での 320 綱法学や、400 類の中での 490 綱医学は、同一の一次区分の他の主題よりも傾きが大きい傾向がある。000 類内の 007 目情報科学と 010 綱図書館情報学については、007 目のほうが傾きは小さく、初めの減少量も 010 綱に比べて小さい。100 類は 140 綱心理学のほうが傾きは小さく、初めの減少量も他の 100 類に比べて小さい。他の 100 類の主題群は 900 類に近い推移となる。200 類については、210 綱日本史が 2007 年度のみ他の 200 類と比較して低い数値を推移し、かつ急激な減少を伴っているが、これについては 2007 年度受入図書の特性と考えられ、全体としては 200 類の主題間の差異は小さいと考えられる。500 類については、540 綱電気・電子工学の傾きが他の 500 類の主題群よりも小さく、520 綱建築学の傾きは大きくかつ急激な減少を伴っていたことから、これらの間には貸出傾向に差異があると考えられる。700 類については、震災の影響により貸出が減少していることもある一方で、800 類、900 類については、その中の主題群内での差異は認められなかった。

なお分館 A に蔵書の多くがある 520 綱建築学、720 綱絵画、780 綱体育は震災の影響で 2011 年度に大幅な減少が見られる。しかし、700 類および 520 綱建築学は、2010 年度および 2011 年度に連続貸出率が大きく減少しているが、それ以前の年度では、780 綱体育が 70%以上の図書が連続して貸出されているのに対し、残り 2 つの主題は 50%強まで減少している。2006 年度受入図書においては特に、780 綱の直線状の減少、および 720 綱の急激な減少を観測したことから、もともと何年も連続して貸出される図書が少ないこと、また 780 綱と 720 綱では貸出傾向が異なっていることが考えられる。このことから、700 類の中でも 780 綱は独特の傾向をもつことが考えられる。

4 章 考察

4.1 各指標推移

700 類芸術（720 網絵画、780 網体育）と 520 網建築学が震災の影響を大きく受けている点、600 類および 800 類の受入図書タイトル数が平均より少ない点に留意する必要があるものの、次のような結果がみられた。

4.1.1 累積貸出率の推移

先行研究に倣い算出した累積貸出率の結果は次の通りとなった。一次区分別では 400 類、800 類が最も高い値を推移する一方、200 類と 900 類が最も低い値を推移し、他の主題とは異なった曲線を描いていた。これは一つには学部構成上理工学系の学部には所属する学生が多いことが考えられる。加えて教育課程ないしは分野そのものの特質として、数学など理工系学部であれば学部を問わず学習する主題があることが考えられる。あるいは、古くから出版され続けてきた、大学を問わず標準的に利用される教科書のような図書、または学習課程上読む必要のある図書が、受入図書の多くを占めることが考えられる。数学については加えて統計数学など、自然科学に限らず心理学など他の分野においても利用される主題があることも考えられる。また 800 類については受入図書タイトル数の少なさに加えて、語学テキストや論文の書き方の手引書のような図書の存在の影響もあると考えられる。以上の要因はすなわち、想定される利用者が多い図書が受入図書の多数を占めていることにつながる。一方研究対象となる全集類の受入がある 200 類や 900 類は、こうした学習課程上読む必要のある図書の割合が相対的に少ないために、400 類や 800 類の図書よりも累積貸出率の値の推移が低くなると考えられる。

細区分した主題別に比較すると、000 類では 007 目情報科学と 010 網図書館情報学、その他の 000 類の主題群で異なった推移となった。140 網心理学も、それ以外の 100 類の主題よりも高い値を推移し、200 類は、210 網日本史が他の 200 類の図書群および 200 類全体の累積貸出率の推移より離れて低い値を推移している。これは日本史以外の主題においては、史料集などが非日本語図書であり分析対象から外れたためと考えられる。400 類の中の各主題は、曲線の形状は似ているものの、推移している値の範囲が異なり、このことからそれぞれが異なった傾向をもっていると考えられる。特に 460 網生物学や 490 網医学については、指定図書が存在するにもかかわらず、410 網数学や 420 網物理学よりも低い値を推移している。これは、そうした指定図書に貸出が集中する一方で、医師や看護師向けの専門書の貸出や医学史のような研究向けの図書の貸出が少ないことが考えられる。もっとも受入図書タイトル数が 1,000 件以上となっており、学生だけは貸出しきれないという要因も考えられる。500 類についても、540 網電気・電子工学と 510 網土木工学では、540 網の方が高い値を推移している。700 類も、780 網体育が、受入の翌年度の累積貸出率の増加量がそれ以外の主題群よりも大きかった、すなわち受入の翌年度にほとんどのタイトルが貸出される傾向があることから、全体を通して高い値を推移している。なお 300 類、800

類、900 類については主題群間の差異は小さかった。

以上のことから、主題によって累積貸出率の推移には受入年度とその翌年度で受入図書の貸出される割合の高低と、その後の累積貸出率の増加の有無による違いがみられると考えられる。特に、累積貸出率が受入の翌年度にかけて最も増加し、これ以降増加がほとんどない主題は、受入の翌年度には受入図書のほとんどが貸出され、これ以降新しく貸出されるタイトルはほとんどないということであるから、一度貸出された図書がその後も貸出され続けているか、貸出される図書のタイトル数が経年的に減少し続けるかのどちらかの傾向をたどっていると考えられる。

4.1.2 年度別貸出率推移

累積貸出率の増加が、貸出される図書のタイトル数が今後も減少しないということまで示しているものであるか、その傾向はどの主題でも当てはまる現象であるかを検証するために、年度別貸出率を算出した。その結果、年度別貸出率の傾きは主題によって異なっており、受入年度間比較をした平均値では、600 類、700 類、500 類、400 類、100 類、300 類の順に 0.04 を超え、残りの 100 類、200 類、800 類、900 類は、100 類が 0.24 であった以外は、すべて 0.02 を下回った。詳しい推移を見ても、200 類、900 類が他の主題よりも 10%以上離れて低い数値を推移していることが確認できる。

細区分した主題でも同様に分析すると 210 綱、910 綱が低い値を推移すること、累積貸出率が高い値を推移する主題は年度別貸出率も高い値を推移することが明らかとなった。途中で 210 綱や 910 綱の年度別貸出率を下回る主題はなかった。全体的には 700 類を除くほとんどの主題が平行な直線として分布しているような推移となった。年度別貸出率がどの受入年度の図書群においても、分析期間を通して減少し続ける主題は、007 目情報科学、310 綱政治学、320 綱法学、330 綱経済学、370 綱教育学、410 綱数学、420 綱物理学、460 綱生物学、490 綱医学、510 綱土木工学となり、人文科学系の主題は含まれなかった。800 類は 2010 年度に増加しているほか、200 類および 900 類はそもそも値の推移が低いうえ、値の変化が小さいことが要因となっている。受入年度およびその翌年度に累積貸出率が急激に増加する主題と、そうでない主題とで傾きが異なるかどうかまでは、本研究では明らかにできなかった。

しかし、累積貸出率が増加しているにもかかわらず、年度別貸出率が減少しているということは、もともと貸出がされていたものが、徐々に貸出されなくなっている可能性が考えられる。年度別貸出率は新たに貸出されたタイトルも一時的に貸出されなかった年度をもつタイトルも含んだ値であるが、これですらも減少傾向にあるということは、新たに貸出されるタイトルよりも貸出が途絶えるタイトルが多い、あるいは、貸出が再開された図書よりも、一時的に貸出がなくなるタイトルが多いと考えられる。

4.1.3 連続貸出率推移

年度別貸出率では明らかにすることが出来なかった、一度貸出されていたものが、その後貸出されているのかを明らかにするため、連続貸出率を算出した。

一次区分別には、400 類、800 類の傾きが最も小さく、200 類、900 類の傾きが最も大きくなった。そして傾きの大きな主題は、受入から 2 年後では、受入の翌年に貸出された図書の半数近くは貸出がないほど急激な減少となることがわかった。しかしこの減少がそのまま連続して貸出がないということではなく、その後また貸出がされる図書も存在する。また 200 類や 900 類については累積貸出率の値の推移が低いことから、受入図書の中でまだ貸出を受けたことのない図書が多く、それらが新たに貸出される可能性もある。

細区分した主題別では、420 網物理学を筆頭に、410 網数学、810 網日本語、140 網心理学において傾きが小さくなっている。一方、010 網図書館情報学、210 網日本史、320 網法学、520 網建築学、910 網日本文学、720 網絵画、780 網体育は受入後 3 年までに 70% 近くの図書が一時的、ないしは恒久的に貸出がなくなってしまう。一次区分と同様、累積貸出率が高い値で推移している主題は傾きが小さく、低い値で推移している主題は傾きが大きくなっている。

また、同じ一次区分内で比較すると、300 類の中での 320 網法学や、400 類の中での 490 網医学は、同一の一次区分の他の主題よりも傾きが大きい傾向がある。これはいずれの主題も改版が頻繁に行われている主題であり、また新しい版の受入があると貸出が減少ないしはなくなることから、本研究の分析対象期間中に新しい版の受入がなされている可能性がある。そのため同一の一次区分の他の主題群に比べて連続して何年も同じ図書が貸出されにくいと考えられる。000 類内の 007 目情報科学と 010 網図書館情報学については、007 目のほうが傾きは小さく、初めの減少量も 010 網に比べて小さい。100 類は 140 網心理学のほうが傾きは小さく、初めの減少量も他の 100 類に比べて小さい。他の 100 類の主題群は 900 類に近い推移をたどる。200 類については、全体としては 200 類の主題間の差異は小さいと考えられる。500 類については、540 網電気・電子工学の傾きが他の 500 類の主題群よりも小さく、520 網建築学の傾きは大きくかつ急激な減少を伴っていたことから、これらの間には貸出傾向に差異があると考えられる。700 類については、震災の影響により貸出が減少していることもある一方で、2006 年度受入図書においては、780 網の直線状の減少、および 720 網の急激な減少を観測したことから、もともと何年も連続して貸出される図書が少ないこと、また 780 網と 720 網では貸出傾向が異なっていると考えられる。800 類、900 類については、その中の主題群内での差異は認められなかった。

以上のことから、連続貸出率の推移についても主題別の差異があることが明らかとなった。780 網体育を除いて累積貸出率の推移が緩やかな主題は急激な減少となる傾向がある。

4.1.4 主題ごとの類型化

以上の考察をもとに、主題別の貸出傾向およびその要因の考察を試みる。

(1) 007 目、400 類、500 類 (520 綱建築学を除く)

400 類自然科学は、学習過程上読まなければならない図書(教科書、概説書、入門書など)が存在し、そうした主題や図書は想定される利用者も多いので、貸出が受入後すぐ発生し、累積貸出率は急激に上昇する。さらに同じ主題で複数のタイトルが出版されているため、教科書として指定されたタイトルが貸出中であると、代替図書としてそうした図書が貸出されていく。改訂も頻繁に行われ、史学や文学の図書よりも自然科学のそうした図書は分析対象に含まれる機会が多くなっている。以上の理由から、こうした図書が受入図書中に多数含まれていれば、受入図書に占める貸出された図書の割合は高くなる。またそうした利用者はまた毎年想定されるため連続して何年も貸出が発生するため、連続貸出率の減少は緩やかとなる。累積貸出率の受入から 3 年以降の推移に 10%以上の変化がみられないこと、年度別貸出率および連続貸出率の減少はみられることから、貸出が途絶えたあと、再び貸出される可能性は低いと考えられる。

410 綱数学は加えて研究手法として用いるための統計数学の図書があることが影響している。2007 年度受入図書の数学の貸出上位 10 タイトル中 9 タイトルは統計処理の手引書であった。420 綱物理学、460 綱生物学、そして平均よりも受入件数が下回った 430 綱化学については受入件数がやや少ないことも影響していると考えられる。その少ない受入件数の多くが『固体物理学入門/ Kittel, Charles』(8 版, 2005 年, 2008 年度受入, 貸出回数 145 回)などの教科書や教科書と同じ主題の別タイトルが占めているために累積貸出率の値がより高くなっている。年度により累積貸出率の値に違いがみられるのは、こうした教科書となるタイトルの受入が偶然少なかったためと考えられる。

教科書の影響が最も強い主題として 490 綱医学があり、指定図書制度もとられているが、累積貸出率の推移は他の 400 類の主題よりも概して低い数値を推移していた。これはこうした指定図書に貸出が集中する一方、受入図書件数が年 1,000 件以上あり学生が読み切れないほどの量となっていること、あるいは医師や看護師向けの図書は学生から敬遠されていることが考えられる。また連続貸出率も他の 400 類の主題よりも急激に減少している。これは改版が多い主題であることが要因として考えられる。つまり、改版であるタイトルが新たに受入されると、それ以前のものは、しばらくは改版を貸出できなかった学生の受け皿となることはあるものの、それ以降は貸出がなくなってしまうということである。

500 類のうち 540 綱電気・電子工学と 007 目情報科学も 400 類自然科学と類似した特徴がみられた。510 綱土木工学はやや 400 類自然科学の累積貸出率の値の推移より低い値を推移している。この理由については本研究でははっきりしたことはわからなかった。

(2) 100 類哲学 (140 綱心理学を除く)、200 類歴史、900 類文学

史学や文学においては、学習過程上読まなければならない図書は、教員の教科書指定や課題として読むように指定した図書となり、自然科学よりも限定的となる。またそうした図書は毎年同じものが指定される一方で、自然科学に比べると改版や改訂、同じ主題の別のタイトルの出現が少ないため、本研究のように受入年度や出版年で限定した通時的観察法では分析から漏れてしまうことが考えられる。また日本語図書に分析を限定したため、文献解釈の演習での利用が想定される外国語の原典代替資料も分析から外れているが、一方で外国語図書の貸出は少ないことから、その影響は限定的と考えられる。そのため、累積貸出率は緩やかで 50%以下と低い値を推移していると考えられる。

加えて年度別貸出率も 50%以下と低い値を推移することから、学生が研究に使うかどうかかわからない蔵書が多いことも考えられる。教員については、松林 (2010) ²⁸⁾の調査によれば、史学分野の研究者の多くは、研究対象となるものは購入するか、所蔵する機関へ直接出向いて閲覧するなど、自分の所属する機関の図書館の蔵書を使って研究を進めるわけではないことも明らかとなっている。このことから、教員もまた分析対象とした図書群を研究に使うとは限らないことが考えられる。これが教員に限らず学生の研究においても、教員の所有する図書を用いることや所蔵機関へ出向くといったかたちではまる可能性もある。現実には、『天皇皇族実録』(2006 年度受入, 37 巻分のみ) のうち貸出があったのはその約半数である 17 巻分にとどまっている。

逆を返せば、学外に所属する研究者にとっては利用がなされていることは十分に考えられる。史学や文学の研究に必要な「研究対象」を一つの図書館で賄っているわけではなく、いわば個々の大学図書館が分担して「研究対象」を保存している状態なのである。

連続貸出率の減少が自然科学より急激であるため、貸出の減少も急激ではあると考えられるが、累積貸出率の増加もみられることから、長期的にみれば、再び貸出される可能性をもっていると考えられ、こうした可能性まで「減少」したとは考えにくいといえる。もっといえば、こうした主題の図書は、もともと研究用として貸出される期間よりも、貸出されない期間のほうが圧倒的に長く、研究用として、課題の参考資料として、異なるタイトルが連続して突発的な貸出を発生させている可能性があると考えられる。その意味でも史学や文学の貸出傾向をより理解するためには、より長期間の分析が必要であるといえる。

100 類哲学については、史学や文学よりは累積貸出率の推移は高い値となっている。哲学においても哲学者の著作集の受入があり、それにより累積貸出率が低い値を推移していると考えられるが、その影響は史学における史料集や文学全集ほどは大きくないために、累積貸出率の推移は高い値となっていると考えられる。しかしながら、300 類社会科学や 400 類自然科学等の主題よりは低い値を推移している。一方の連続貸出率の推移は史学と文学とほぼ同じ値を推移していることから、同様の貸出傾向と考えられる。これについても、史学や文学と同様の理由が考えられる。

（３）300 類社会科学、600 類

300 類も 600 類も自然科学分野と人文科学分野の中間に位置するような特質がみられた。300 類のなかでの傾向のばらつきは小さい。310 綱政治学、370 綱教育学は、累積貸出率が受入の翌年度に急激に上昇したのち、平均より高い値を推移し、連続貸出率の傾きは緩やかで小さい。一方 320 綱法学は連続貸出率の値の推移は緩やかである。330 綱経済学、360 綱社会学や 380 綱民俗学は年度による傾向にばらつきがみられる。320 綱法学は改版の頻度が多いために同じタイトルが連続して貸出されにくく、連続貸出率が他の 300 類の主題に比べて急激に減少したと考えられる。380 綱民俗学は、受入図書に『読みがたり〇〇のむかし話』のような民話の作品集が含まれるなど、学問の特質として史学や文学と類似した傾向を持っていることが要因として考えられる。

（４）010 綱図書館情報学

図書館情報学および司書資格の維持に必要な知識の標準化が意識されている主題であるため、『図書館情報学シリーズ』などの入門書、教科書のような図書が多数出版されている。しかし、累積貸出率の値の推移は 400 類自然科学ほど高くはならなかった。加えて、400 類自然科学と異なり、連続貸出率の推移は急激に減少し、史学や文学と類似した傾向がみられた。この理由については、教科書に相当するタイトル同士の淘汰の結果、あるいは、そうした教科書が分析対象大学の授業において利用されていない可能性も考えられるがこの研究では断定できない。また、会議資料など古い出版年の図書がまとめて受入され、それらの貸出がなかったことも要因として考えられる。

（５）140 綱心理学

累積貸出率の急激な増加と高い値での推移、連続貸出率の緩やかな減少は自然科学同様であった。貸出の上位タイトルは『ヒルガードの心理学』（14 版, 2005 年, 2006 年度受入, 142 回）のような教科書と『臨床実践のための質的研究法入門』（2007 年, 2007 年度受入, 72 回）など研究や実験等の手引書である点が他の 100 類哲学の諸主題と異なる。

（６）700 類芸術、520 綱建築学

累積貸出率は史学や文学よりも高い値を推移し、連続貸出率は急激に減少する。言語学のように新しいタイトルの出版がなされやすい一方で、史学や文学のように突発的な貸出や教科書等指定による貸出という形で限定されてしまうために、受入件数が少ないために必要とされる図書の割合が相対的に高い言語学ほど累積貸出率は高くならなかったと考えられる。特に 780 綱体育は自然科学に似た累積貸出率の推移をもっているが、連続貸出率は自然科学と異なり急激に減少している。累積貸出率がその後ほとんど増加していないことから、図書同士の淘汰が年単位で起きるほど激しいことが考えられる。

(7) 800 類言語学

先行研究のなかでは人文科学分野として分類されるが、語学テキストや『これからレポート・卒論を書く若者のために』（2007, 2008 年度受入, 54 回）などの論文の書き方の手引きなど、学部を問わず学生の需要が発生しやすい図書がある点が異なっている。また教科書も、史学や文学に比べて出版年の新しい図書が指定され、分析対象となっていた。これにより連続貸出率の推移が緩やかになったと考えられる。加えて受入件数が少なく、相対的に上記の性質をもつ図書の割合が高まり、累積貸出率が高い値を推移したと考えられる。

以上の考察から、各主題を以下のような指標で類型化を試みたものが表 140 である。年度によるばらつきなどで厳密な区分は困難であるものの、おおむねこのように傾向がわかることを示したものである。

(1) 累積貸出率

- a. 受入翌年度までの累積貸出率の増加量 > 受入翌年度以降の累積貸出率の増加量
- b. 受入翌年度までの累積貸出率の増加量 < 受入翌年度以降の累積貸出率の増加量
推移する値が 50%を越えているかそうでないか

(2) 年度別貸出率

全ての年度において前年度と比較して減少しているかそうでないか
減少している主題は以下の通りである。

007 目情報科学、310 網政治学、320 網法学、330 網経済学、370 網教育学、410 網数学、420 網物理学、460 網生物学、490 網医学、510 網土木工学

(3) 連続貸出率（受入の翌年度の貸出タイトル数に占める割合の推移）

- A. 2010 年度から 2011 年度にかけての減少量が最も大きい
- B. 2010 年度から 2011 年度にかけての減少量以外の時点が最も大きい

表 140 各主題の傾向の類型

	値の推移	B に該当する	A に該当する
a に該当する	50%以上	780 網	007 目、140 網、310 網、370 網、410 網、420 網、540 網、800 類
	50%以下	010 網、320 網	
b に該当する	50%以上	520 網、700 類（780 網除く）	
	50%以下	100 類（140 網除く）、200 類、900 類	

※360 網、380 網、460 網は年度による傾向の差異が大きかったためここには掲載しない。

4.2 各指標の複合分析

年度によるばらつきがある主題や、780 網体育など、すべての主題が明瞭に区分できるとは限らないが、全体の傾向としておおむね次のようになる。

まず累積貸出率が高い値で推移する主題は連続貸出率の傾きが小さく、低い値であった主題は連続貸出率の傾きが大きくなる。累積貸出率が高い値で推移する主題は、累積貸出率が受入直後に急激に増加した後ほとんど増加しない。つまり、受入の直後に貸出がされなかった図書が、その後ほとんど貸出されていないということの意味する。この二つから、累積貸出率が高い値で推移する主題では同じようなタイトルが何年も貸出されていると考えられる。逆に累積貸出率が低い値で推移していた主題は、同じようなタイトルの貸出が何年も続くとは限らないと考えられる。

ただし、同じようなタイトルの貸出が何年も続かない主題を、図書の陳腐化が早く古い図書が利用されない主題であると解釈するのは早計である。というのも仮にそうであれば、受入から相当年数経過した図書が後になって貸出されることはないということになり、累積貸出率は増加しないためである。加えて連続貸出図書が急激に減少し、かつ新たに貸出される図書（初貸出図書）もほとんどない場合は、年度別貸出率も急激に減少する。

しかし実際は、累積貸出率の変化量が、累積貸出率が高い値で推移していた 400 類や 800 類の図書群は 15%未満であるのに対し、累積貸出率が低い値で推移していた 200 類や 900 類の図書群は 20%以上となった。このことから、200 類や 900 類の図書群の、受入年度から 3 年経過以降の初貸出図書の割合は、400 類や 800 類のそれよりも高いことが推測される。また 200 類や 900 類の年度別貸出率は 400 類や 800 類よりも低い値で推移し、かつ値の変化が小さいことから、相対的に、貸出される図書に占める、初貸出図書の割合は高くなると考えられる。

一方で 200 類や 900 類は、連続貸出率の推移が急激に減少していることから、同じようなタイトルが何年も続けて貸出されることは少ないと考えられる。このことから、こうした主題は、そのタイトルを学習や研究する利用者が現れ、その突発的な貸出が連続していることが考えられる。そのため、年度別貸出率がほとんど減少しないと考えられる。

実際に 200 類と 400 類では貸出される図書に占める初貸出図書の割合、および連続貸出図書の割合が異なるか検証を試みた。下表は各年度の貸出された図書に占める、初貸出図書と連続貸出図書の割合を、200 類と 400 類について示したものとなっている。

表 141 初貸出図書と連続貸出図書の割合（2006 年度受入図書、200 類）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度
年度別貸出	288 (100.0%)	250 (100.0%)	246 (100.0%)	132 (100.0%)
初貸出	94 (32.6%)	64 (25.6%)	61 (24.8%)	32 (24.2%)
連続貸出	175 (60.8%)	102 (40.8%)	57 (23.2%)	25 (18.9%)

表 142 初貸出図書と連続貸出図書の割合（2006 年度受入図書、400 類）

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度
年度別貸出	1,521 (100.0%)	1,329 (100.0%)	1,140 (100.0%)	766 (100.0%)
初貸出	239 (15.7%)	90 (6.8%)	59 (5.2%)	23 (3.0%)
連続貸出	1,236 (81.3%)	956 (71.9%)	715 (62.7%)	418 (54.6%)

表 141 および表 142 から、200 類のほうが一年度分の貸出された図書に占める、初貸出図書の割合が高くなっていることがわかる。

4.3 先行研究との比較

(1) 岸田和明, 逸村裕, 高山正也 (1994)

この研究では、A 大学図書館の 1982 年度受入図書では、500 類技術と 800 類言語の安定率が低い、すなわち急激に未貸出図書の割合が減少する一方、000 類総記、200 類歴史の安定率が高く、未貸出図書の割合は緩やかに減少することが明らかにされた。この結果と比較するために、本研究では、受入から 7 年後の未貸出図書割合が算出できる 2006 年度受入図書と、2007 年度受入図書を対象に、受入年度の貸出状況を除外して新たに受入年度の翌年度の未貸出図書割合と、受入から 7 年後の未貸出図書割合を用いて安定率を算出した。

その結果、500 類技術については、2006 年度受入図書においては 2 番目に低い値であるから、傾向は一致していると考えられる。また 800 類言語については 2007 年度受入図書においても最低値となったため傾向は一致していると考えられる。3 番目に高い安定率であった 200 類歴史については、2006 年度受入図書、2007 年度受入図書ともに安定率が最高値であったことから、傾向は一致していると考えられる。2 番目に安定率が高かった 900 類文学についても、2006 年度受入図書、2007 年度受入図書とも安定率は 2 番目に高かったため、傾向は一致していると考えられる。しかし 000 類については一致しなかった。これは、情報学や計算機科学の進展に伴う 007 目情報科学の出版や受入の増加によると考えられる。加えて X 大学の学部構成上、情報学系の主題を学ぶ学生が A 大学よりも多いことも考えられる。

表 143 岸田和明, 逸村裕, 高山正也 (1994) と本研究における安定率の比較

NDC 一次区分	1982 年度受入図書 ²⁶	2006 年度受入図書	2007 年度受入図書
000 類総記	67.1%	53.4% (n = 995)	48.0% (n = 879)
100 類哲学	47.5%	51.5% (n = 933)	54.6% (n = 651)
200 類歴史	52.2%	58.4% (n = 1,060)	68.5% (n = 1,007)
300 類社会	42.4%	45.9% (n = 3,341)	49.8% (n = 2,820)
400 類自然	42.9%	49.4% (n = 2,669)	58.6% (n = 2,821)
500 類技術	34.9%	47.5% (n = 1,079)	53.2% (n = 997)
600 類産業	48.1%	51.4% (n = 492)	63.4% (n = 408)
700 類芸術	45.6%	50.6% (n = 1,112)	57.6% (n = 981)
800 類言語	37.8%	51.9% (n = 357)	42.3% (n = 340)
900 類文学	54.4%	56.8% (n = 596)	64.7% (n = 608)

²⁶ 主題別の受入冊数の公開はされていない。1982 年度受入冊数は 9,748 冊である。

(2) Ladwig, J. Parker; Miller, Thurston D. (2013)

この研究では、初貸出図書タイトル（その年度になって初めて貸出があった図書）の、受入図書全体に占める割合（初貸出率）は、どの主題でも受入から年数が経過するにつれて減少すること、受入から3年後以降の曲線の形状は主題によって大きな違いがみられなかったこと、主題によって累積貸出率の最高値、およびそこまでに到達する期間が異なることを明らかにした。このことから、人文科学分野であれ、自然科学分野であれ、初貸出率の推移は同じになると結論づけた。

本研究でも2007年度、2008年度受入図書に見られる800類の例外はあるものの、おおむね累積貸出率の変化量は確かに受入年度が経過するにつれて減少傾向にある点は一致した。しかし短期的には、Ladwigの研究においても受入年度から3年以内の初貸出率の推移は主題によって異なり、本研究でも同様であった。このことから、累積貸出率の変化量の推移は主題によって差はないとする結論には飛躍があると考ええる。すなわち、400類自然科学、とりわけ410網数学や420網物理学などの自然科学分野を中心に、800類言語や140網心理学といった主題は、受入年度やその翌年度には、受入図書の半数以上が貸出されてしまう。一方人文科学分野においては、受入年度やその翌年度には40%未満のタイトルの図書の貸出に留まる。さらに人文科学分野は閾値に到達する期間も長くなるとLadwig自身が指摘していることから、閾値に近づくまでは人文科学分野と自然科学分野で異なった推移となっていることになる。

Ladwigは主題による差異を認めなかった理由として曲線の形状の一致を挙げていた。しかし本研究では曲線の形状も主題によって差異が見られた。これは分析に際して行った主題の区分が、Ladwig研究では7区分（哲学、歴史、社会科学、芸術、言語と文学、STEM、その他）に対し、本研究では日本十進分類10区分（総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、技術工学、産業、芸術、言語、文学）と異なったためと考えられる。この研究ではSTEM分野として一つにまとめられていた490網医学が、他の自然科学分野よりも累積貸出率は低い値を推移していた。さらに米国議会図書館分類では同じPに分類される800言語と900類文学も、800類は受入直後に受入図書の半数以上が貸出される一方、900類は受入後3年以上経過するまで、貸出された図書のタイトル数が半数を超えないという違いがある。推移が緩やかな主題と急激な主題を一つの区分としてまとめて分析したために平均化・同質化される、あるいは、片方の主題の変化の度合いが大きければ片方の主題の結果に引っ張られるような形で推移してしまい、主題別の差異がみられなくなってしまったと考えられる。

（３）共時的分析を行った先行研究との比較

共時的分析において貸出が急激に減少するものとして、計算機科学、経済学、自然科学、医学、そして貸出が緩やかに減少するものとして歴史、文学、芸術が挙げられ、日本十進分類では 300 類のほうが 400 類よりも貸出減少が急激であることが明らかにされている。年度別貸出率の推移からはこれらの言及と一致した傾向がみられた。しかし、連続貸出率は歴史や文学で急激に減少し、計算機科学や自然科学で緩やかに減少した。このことから、蔵書回転率の推移が緩やかであることが、そのまま同じような図書が長く貸出されていることにはつながらないことが明らかとなった。

すなわち、歴史、文学、芸術等の主題の図書では受入年や出版年の古い図書でも貸出されるが、過去そして未来において継続して貸出があるとは限らないということである。

一方で計算機科学や自然科学では同じような図書が貸出されていることが考えられる。しかし、共時的分析においてその傾きが小さいということは、古い図書は貸出されにくいということであるので、もっと長い期間で分析を行うと、途中で改版や研究動向の変化等が訪れ、貸出が全くなってしまうことが考えられる。つまりある期間までは特定の図書が連続して何年も貸出され、その後は全く貸出されなくなる、という推移をたどると考えられる。

5 章 結論

5.1 貸出の減少

経年による貸出の減少はどの主題でも見られる一方、その減少の速度や大きさ、性質は主題によって異なることが示された。同じ人文科学分野、社会科学分野、自然科学分野、ないしは日本十進分類一次区分が同じ主題同士であっても、007 目情報科学と 010 網図書館情報学や、140 網心理学とそれ以外の 100 類哲学、300 類社会科学と 320 網法学、400 類自然科学と 490 網医学、800 類言語学と 900 類文学など、主題によって推移は異なった。すなわち、単純な人文科学分野、社会科学分野という区分で貸出の傾向を類型化するのは困難であると考えられる。

概して、累積貸出率が高い値を推移する主題は、受入の翌年度に累積貸出率が急激に増加することに加え、連続貸出率の値は緩やかに減少することが示された。一方で累積貸出率が低い値を推移する主題は、受入の翌年度までの累積貸出率の増加量よりもそれ以降の累積貸出率の増加量が大きくなる傾向がみられた。

こうした主題による差異は、少ない受入件数に教科書のような図書や研究や実験等の手引書が多数含まれている主題と、研究対象となるような史料集の受入があるために、そうした図書の割合が相対的に低くなる主題との違いであると考えられる。これがまた、貸出が想定される割合、Ladwig の研究でいえば閾値が主題によって異なる要因となっていると考えられるのである。

ただし、同じような図書の貸出が何年も続かない主題を、図書の陳腐化が早く古い図書が利用されない主題であると解釈するのは早計であることも併せて附言する。

5.2 今後の課題

本研究では、主題の特性として、受入される図書の出版年の内訳が異なること（人文科学系は古く、自然科学系は新しいなど）や、改版、シリーズものの割合、教科書指定の有無が異なることがあるとして、あえてこれらについてまで統一した条件としなかったが、より厳密に主題間の差異を明らかにするためには、今後は出版年等の条件も全て揃えた上で行う必要もあると考えられる。貸出回数も揃えた分析も考えられるところではあるが、主題によって貸出回数の上限が異なっていたことから、これについては困難と考えられる。あるいは、個々の図書の各年度における貸出の有無、ないしは貸出回数の推移を一つのパターンとして認識させ、機械学習によってクラスタリングをする必要もあると考えられる。

しかし、そもそも図書の内容として、研究対象となる全集か、学習課程上同じ分野の学部であればどの大学でも使われるような教科書のような図書で貸出傾向が異なるとすれば、こうした図書群同士での比較が必要である。

学生の実際に研究や学習に必要な図書の有無や入手先、そして学生の研究・学習行動上に図書館や図書館の所蔵資料が位置しているかも解明されておらず、またそうした資料を利用するうえで版や出版年を意識しているかも不明瞭である。学問上の図書の位置づけに変化が起きているか否かも調査が不足している。今後は研究者や学生への聞き取り調査や教育課程、学問分野における出版動向との比較を行い、学問上の特質や、教育課程、ないしは学生の情報行動と関連性についての研究も進めば、よりはっきりしたことがわかれると考えられる。

また、日本十進分類を用いて主題を区分し、その傾向を分析する点にも限界がある。例えば経済史や科学史、日本語史など、歴史要素のある分野であっても、別々の分野として集計している。そのため、例えば科学史と自然科学全体では傾向が異なり、史学と傾向が類似するといったようなことまでは本研究では明らかにすることができなかった。これについても手法の検討が必要であると考えられる。

謝辞

本研究に際し、ご指導いただきました逸村裕先生、池内淳先生、そして、データの提供にご協力いただきました図書館関係者の皆様に深く感謝申し上げます。また、校正や助言をくださった研究室の皆様にも感謝申し上げます。

参考文献一覧

- 1) O'Neill, Edward T.; Gammon, Julia A.. "OhioLink-OCLC collection and circulation analysis project 2011" OCLC Reserch. 2011, 73p.
<http://www.oclc.org/research/publications/library/2011/2011-06.pdf> (参照日: 2015/1/10)
- 2) Anderson, Kristine J; Freeman, Robert S; Jean-Pierre V. M. Hérubel; Mykytiuk, Lawrence J. Nixon, Judith M; Ward, Suzanne M.. "Buy, Don't Borrow: Bibliographers Analysis of Academic Library Collection Development through Interlibrary Loan Request". Collection Management. 2002, Vol. 27, No. 3/4, p. 1-10, DOI: 10.1300/J105v27n03_01.
- 3) Anderson, Kristine J; Freeman, Robert S; Jean-Pierre V. M. Hérubel; Mykytiuk, Lawrence J. Nixon, Judith M; Ward, Suzanne M.. "Liberal Arts Books on Demand: A Decade of Patron-Driven Collection Development, Part 1". Collection Management. 2010, Vol. 35, No. 3/4, p. 125-141, DOI:10.1080/01462679.2010.486959
- 4) Bracke, Marianne Stowell. "Science and Technology Books on Demand: A Decade of Patron-Driven Collection Development, Part 2". Vol. 35, No. 3/4, p. 142-150, DOI: 10.1080/01462679.2010486742.
- 5) 小山憲司. "利用者の要求にもとづくコレクション構築: 大学図書館における電子書籍を対象とした PDA を中心に". カレントアウェアネス. 2012, No. 313, p.18-21.
- 6) 岸田和明. "蔵書管理のための数値的アプローチ: 文献レビュー". Library and Information Science. 1995, No. 33, p. 39-69.
- 7) 山本順一, 沖田克夫, 山中秀夫, 相良佳弘. 情報の特性と利用: 図書館情報資源論. 創成社, 2012, 213p.
- 8) 箕輪成男. 情報としての出版. 弓立社, 1982, 309p.
- 9) 緑川信之, 棚橋佳子, 曾根由紀子, 町田民世子, 尾城孝一. 学術情報流通の総合的研究. つくば: 筑波大学図書館情報メディア研究科, 2005, 131p.
- 10) 上田修一, 緑川信之, 吉川智江, 逸村裕, 金子昌嗣, 原田隆史. 理工学文献の特色と利用法. 勁草書房, 1987, 221p, (図書館・情報学シリーズ; 8).
- 11) 伊藤幸江. "人文・社会科学分野における主題に即した利用教育の検討: 利用者研究と主題別情報探索法指導". 図書館界. 2004, Vol. 56, No. 4, p. 236-254. (入手先: KGUR 関西学院大学リポジトリ, <http://hdl.handle.net/10236/10083>)
- 12) Line, Maurice B.; Sandison A.. "Obsolescence' and changes in the use of literature with time". Journal of Documentation. 1974, Vol. 30, No. 3, p. 283-350.
- 13) Buckland, Michael K.. Book availability and the library user. New York: Pergamon Press, 1975, 196p.
- 14) 原田隆史. "大学図書館貸出データの計量的分析: 上智大学図書館貸出データの分析を中心に". 彦根論叢. 1989, No. 260/261, p.83-99.

- 15) 岸田和明, 逸村裕, 高山正也. “大学図書館における館外貸出データの分析手法-オブジェクトレセプションと貸出頻度の分析を中心として”. 図書館研究シリーズ. 1994, No. 31, p. 79-127.
- 16) Kent, Allen; Cohen, Jacob; Montgomery, K. Leon; Williams, James G.; Bulick, Stephen; Flynn, Roger R; Sabor, William N.; Mansfield, Una. Use of library materials : The University of Pittsburgh study. New York: M. Dekker, 1979, 272 p, (Books in library and information science ; v. 26).
- 17) The Collection Development Executive Committee. “Report of the Collection Development Executive Committee Task Force on Print Collection Usage, Cornell University Library”. Cornell University Library Staff Web. 2010, 36p,
http://staffweb.library.cornell.edu/system/files/CollectionUsageTF_ReportFinal11-22-10.pdf
(参照日 : 2015/1/10)
- 18) Ladwig, J. Parker; Miller, Thurston D. “Are first-circulation patterns for monographs in the humanities different from the sciences?”. Library collections, acquisitions, & technical services. 2013, Vol. 37, No. 3/4, p. 77 -84,
DOI: 10.1016/j.lcats.2013.09.004
- 19) 星野雅英, 渡邊真由美, 風巻利夫, 原香寿子. “東京大学総合図書館における入館・貸出統計データ分析の試み: 中央図書館としての役割を考えるために”. 大学図書館研究. 2008, No. 82, p.1-11.
- 20) 山田周治. “館外貸出データにみる利用傾向: 蔵書回転率の分析”. 大学図書館研究. 2003, No. 69, p.27-33.
- 21) 松井朗, 磯野肇. “「蔵書回転率」と「蔵書貸出率」を指標とする貸出データの分析調査: 奈良大学における図書館資料利用の傾向について”. 奈良大学紀要. 2006, No. 34, p. 177-190.
- 22) Gilliland, Anne T. “The OhioLINK OCLC Collection Analysis Project: A Preliminary Report”. Collection Management. 2008, Vol. 33, No. 1, p. 161-172.
DOI: 10.1080/01462670802158104
- 23) Gammon, Julia A.; O'Neill, Edward T.. “Building collections cooperatively: Analysis of collection use in the OhioLINK library consortium”. ACRL 14th National Conference in Seattle, Washington, March 12-15, 2009.
<http://www.ala.org/acrl/files/conferences/confsandpreconfs/national/seattle/papers/36.pdf>
- 24) O'Neill, Edward T.; Gammon, Julia A.. “Consortal book circulation patterns: The OCLC-OhioLINK study”. College and research libraries. 2014, Vol. 75, No. 6, p. 791-807, DOI: 19.5860/crl75.6.791.

- 25) Cheung, Sheila; Chung, Terry; Nesta, Frederick. "Monograph circulation over a 15-year period in a liberal arts university". *Library Management*. 2011, Vol. 32, No. 6/7, p. 419-434. DOI: 10.1108/01435121111158565
- 26) 本田咲美. 大学図書館における貸出履歴の分析. 筑波大学, 2012, 222p, 卒業論文.
- 27) 西野祐子. 大学図書館における未貸出図書の実態調査. 筑波大学, 29p, 2013, 卒業論文.
- 28) 松林麻実子, 岡野裕行. 歴史学および日本文学研究者に対する実態調査からみる人文科学系研究者の情報行動. つくば: 筑波大学知的コミュニティ基盤研究センター, 2010, 43p, (知的コミュニティ基盤研究センター・モノグラフシリーズ; 4)